

学勢調査 2010 提言書

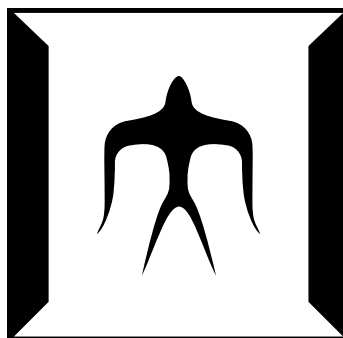
2011 年 3 月

学勢調査スタッフ一同

学勢調査 2010 提言書

2011 年 3 月

東京工業大学
学勢調査スタッフ一同



ごあいさつ

学勢調査 2010 学生スタッフ

代表 水谷友保

スタッフ一同

今回で学勢調査は 3 回目を迎えます。回数を重ねるごとに回答者数は増加しています。第 1 回学勢調査 2005 では 1081 名、学勢調査 2008 では 1947 名、今回の学勢調査 2010 では全体の 2 割強である 2343 名の方々に回答して頂きました。本学勢調査は、新たなシステムの導入や、学生の不満を解消するなど、これまで重要な実績をもたらしました。東工大において、学勢調査は、回答率の向上だけでなく、実際に大学側が提言案を採用して下さりました。今後、学生にとって、大学にとって、重要な役割を担うものとして期待されています。

本提言書を作成するに当たり、我々学生スタッフは、回答して下さった学生一人一人の意見を、尊重し、提言書に反映するよう努めました。当提言書の作成過程において、我々学生スタッフは、協議を重ね、キャンパスミーティングを行い、また、教職員の方々から多くのご助言を頂きました。このように、多くの方々と議論した上で、当提言書をまとめました。そのような背景、趣旨をお汲み取り頂き、本提言書を読んで頂ければ幸いです。

当学勢調査 2010 では、学勢調査 2008 と同様に「大学側が学生のニーズを把握できていないこと」に起因する問題が、数多く見受けられました。そして前回学勢調査の結果も踏まえ、この問題を解決するには『“学生と大学との協議の場”を設けること』が極めて有効であるとの結論に至りました。また、我々学生スタッフは、“協議の場”を設けることで、『東工大の学生が社会への関心をより高め、行動できるように』という願いも込めました。

最後に、当学勢調査 2010 の提言書を作成するに当たり、協力して頂いた教職員皆様、そして、回答して下さった学生皆様に、本学勢調査を担当したスタッフ一同、心より深く感謝申し上げます。

目次

1. 学勢調査概要.....	1
1.1 概要	1
2. 全学的に共通・重要性の大変高い提言	5
2.1 学生と大学のコミュニケーション.....	5
3. サービス関連.....	13
3.1 事務手続き・情報伝達の一元化	13
3.1.1 事務手続き・情報の一元化について.....	13
3.1.2 遺失物の窓口一元化.....	16
3.2 教務 Web・OCW 関連.....	17
3.2.1 教務 Web 関連.....	17
3.2.2 OCW-i 関連.....	18
3.3 就職関連.....	19
3.3.1 就職支援全般について	19
3.3.2 セミナーの曜日分散について	21
3.3.3 OB・OG との交流について	22
3.4 留学・留学生関連.....	24
3.4.1 留学関連.....	24
3.4.2 留学生との交流.....	28
3.4.3 留学生への経済的支援	29
3.5 経済的支援関連	31
3.5.1 奨学金・授業料関係.....	31
3.5.2 TA・RA 関連	32
3.6 サークル関連	33
3.6.1 サークル支援体制の向上.....	33
3.6.2 サークル使用設備の開放について	34
3.6.3 サークル棟について.....	35
3.7 事務職員の対応に関して	36
3.7.1 事務職員の対応に関して.....	36
3.8 その他意見.....	38
4. 施設関連.....	41
4.1 レストスペース（安心して仮眠が取れる場）	41
4.1.1 レストスペース（安心して仮眠が取れる場）新設	41
4.1.2 シャワールームの改善	45
4.2 リフレッシュルームについて	48
4.2.1 リフレッシュルーム利用時間の延長.....	48
4.2.2 リフレッシュルームの管理の見直し.....	48
4.2.3 オープンスペースの増設.....	49
4.3 学生寮について	51
4.3.1 学生寮を改善して欲しい.....	51
4.4 喫煙について	53
4.4.1 喫煙場所の位置が不適切.....	53
4.4.2 喫煙マナーが悪い	54
4.5 駐輪場について	56
4.5.1 自転車利用のルール徹底.....	56
4.6 校内のゴミ箱について.....	58



4.6.1	土日のゴミ回収に関して	58
4.7	大岡山スポーツ施設	59
4.7.1	体育館トレーニングルーム	59
4.7.2	体育館アリーナ	61
4.7.3	テニスコート	62
4.8	すずかけ台スポーツ施設	63
4.8.1	グラウンド	63
4.8.2	フットサルコート	64
4.8.3	体育館・プール	65
4.8.4	トレーニングセンター	65
4.9	ムショラについて	67
4.9.1	ムショラの改善について	67
4.10	無線 LAN について	68
4.10.1	無線 LAN の改善について	68
4.11	防犯・安全管理について	70
4.11.1	防犯・安全管理について	70
4.12	南 5 号館について	71
4.12.1	南 5 号館の建て替え問題について	71
4.13	個人用ロッカーについて	72
4.13.1	個人用ロッカーについて	72
4.14	セブンイレブンについて	75
4.14.1	セブンイレブンについて	75
4.15	講義室について	76
4.15.1	授業を受けにくい講義室について	76
5.	学習関連	78
5.1	大学の指針	79
5.1.1	大学の指針についての話し合い	79
5.1.2	学生の学習に取り組む姿勢・意識、および視野の広さ・多様性の受容の向上	80
5.1.3	学部生の目標意識向上のための授業の工夫	83
5.2	国際的教育	85
5.2.1	学生の語学力	85
5.2.2	教員の英語力強化	87
5.2.3	すずかけ台キャンパスにおける語学授業の充実	87
5.3	研究および研究室に関して	89
5.3.1	学生への研究支援	89
5.3.2	研究室の拘束時間について	91
5.3.3	大学院における研究と教育の両立について	93
5.3.4	研究室同士の交流	95
5.4	授業の実態	97
5.4.1	授業評価アンケート	97
5.4.2	教員に対する意見の現状報告	98
5.4.3	授業の出席状況・出席点についての現状報告	100
5.4.4	社会人学生への配慮	102
5.5	大学制度	104
5.5.1	他大との交流の活発化について	104
5.6	カリキュラム	105
5.6.1	時間割・授業内容に関して	105
5.6.2	文系科目への要望	107



5.7 単位・成績.....	108
5.8 その他.....	110
5.8.1 研究および研究室に関して	110
5.8.2 授業の実態	110
5.8.3 カリキュラム	110
6. ハラスメント.....	111
6.1 ハラスメントの実態	111
6.2 ハラスメントの防止策	114
7. 図書館関連	118
7.1 開館時間について	118
7.1.1 開館時間について	118
7.2 すずかけ台図書館について.....	119
7.2.1 すずかけ台図書館について	119
7.3 OPAC 及び Web に関して	120
7.3.1 OPAC(Online Public Access Catalog)の精度, 機能性の向上について.....	120
7.3.2 web ページのデザイン改善について	122
7.4 蔵書の拡充に関して	124
7.4.1 文系専門書の拡充について	124
7.4.2 その他蔵書の拡充に関する要望について.....	125
8. 生協関連.....	127
8.1 弁当・食堂関係	127
8.1.1 学内食堂の値段について.....	127
8.1.2 学内食堂の味について	128
8.1.3 留学生の要望について	129
8.1.4 健康志向のメニュー・ボリューム重視のメニューについて	131
8.1.5 具体的なメニューに関する要望について.....	132
8.2 施設関係	134
8.2.1 食堂の混雑について.....	134
8.2.2 営業時間について	134
8.2.3 石川台・緑が丘への食堂新設について	135
9. 生活関連.....	136
9.1 基本情報について	136
9.1.1 回答率について	136
9.1.2 学生の層ごとの回答率について	137
9.1.3 学勢調査 2008 と 2010 の傾向の変化	139
10. 調査資料集	142
基本情報.....	142
1. 生活基盤について.....	149
2. 学習状況について	158
3. キャンパスライフについて.....	168
4. その他.....	189
その他	190
謝辞.....	190
学勢調査 2010 スタッフ	191





1. 学勢調査概要

調査目的及び沿革

学勢調査は、本学における教育改善や施設建設・整備、学内サービス向上と言った大学の事業に学生の声を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的とした全学的アンケート調査です。学勢調査は本学独自の取り組みであり、国勢調査になぞらえて、「学勢調査」と名付けられました。学勢調査は、2004年の試行を経て、2005年より本格実施となり、学生が分析と提言を行うシステムとなりました。今回の学勢調査2010はこのシステムとなってから3回目となり、過去2回の調査ではいずれも学生の意見を大学側に伝える大きな役割を果たしています。

今回行われた学勢調査（以下、「本学勢調査」と記します）の回答者数は、2005年度の学勢調査に比べ2倍になり、これまで行われた学勢調査と比較して最も多くなりました。（学部生4850名、修士課程3484名、博士課程1524名、全学9588名に対し、回答者計2343名）（図1-1）。特に本学勢調査では、留学生への広報等を強化したことにより、留学生の回答者数が大幅に増加しました。

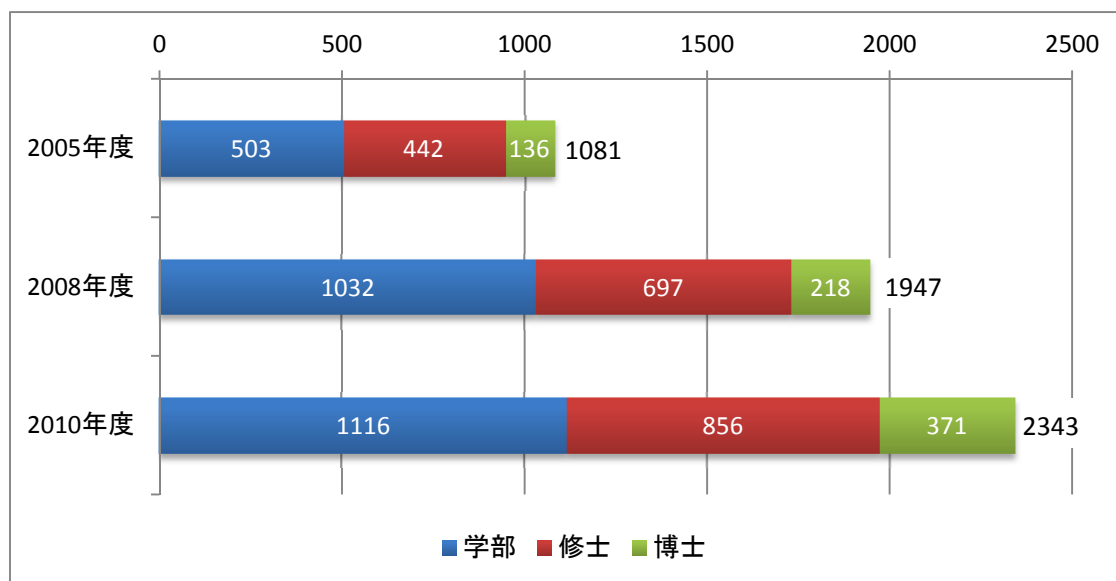


図 1-1 学勢調査回答者数の推移



1. 学勢調査概要

一般的な学生生活調査は、おもに大学の教職員によって、学生の生活や意見を調査し、報告した後、大学事業へ反映されます。この方法では、大学側が学生の意見や動向を正確に把握しないまま、新規のサービスや施設を導入するので、大学側の提供するサービスが学生の要望にできていない場合があります。一方、本学の学勢調査では、調査に加え、調査内容の設計から具体的な改善案の作成まで学生スタッフが行います。前者に比べ、調査結果と改善案の繋がりが強化しているため、より正確に大学側が学生の要望に応じたサービスを提供することができます。これまでの具体的な実績としては、講義室改修、電子掲示板設置、リフレッシュ・ルーム拡充、コンビニエンス・ストア出店が挙げられます。また、教職員の意識改革も進みつつあり、教職員と学生のすれ違いや不満足を解消する役割を果たしつつあります。

学勢調査における、大学、学生、学勢調査とスタッフの役割関係図を図 1-2 に示します。

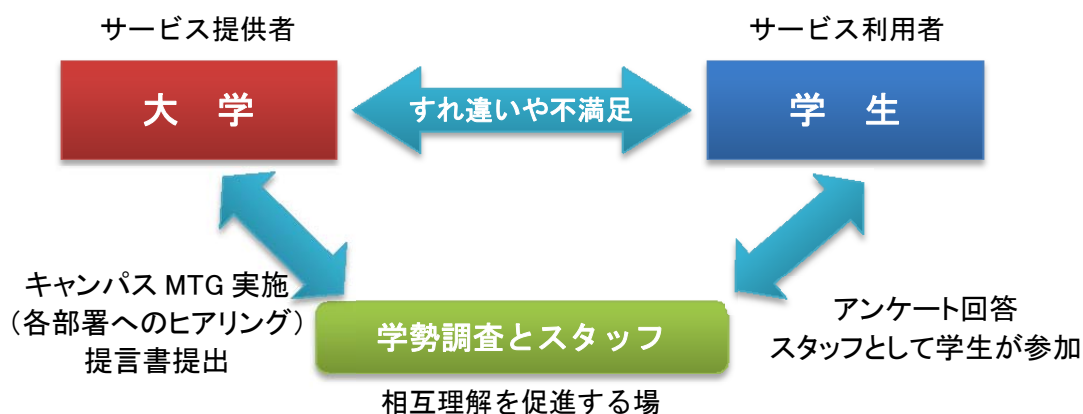


図 1-2 大学、学生、学勢調査とスタッフの役割関係



調査母体

教育推進室学勢調査 WG（主査：岡村哲至教授）が、学生支援 GP の協力を得て実施しました。

調査時期

本学勢調査は、2010 年 10 月 1 日～同年 10 月 31 日に行われました。

調査対象

本学勢調査は、本学に在籍している学部、修士、博士学生を対象としました。

調査事項

「調査資料集（P.142～P.189）」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。また、今回の調査では、本学学生のより生の声を取り入れるために、自由記述欄を多く設定しております。

調査方法

本学勢調査は、オンライン上に設置した専用調査ページを通じて実施しました。その際、回答者が、本学学生であることの確認として、学外からのアクセスに対しては本学学生でない場合は知り得ないと考えられる質問を行い、正解者のみ調査への回答を可能としました。

分析方法

アンケートによる調査データは項目ごとに分類し、調査と同時に募集した学生スタッフがデータ分析、問題発見、原因分析、改善策議論を行いました。学生スタッフの各班とその担当範囲は以下の通りです。

- － リーダー班 …… 全体の進捗状況管理
- － 生活班 …… 本学学生の生活基盤について
- － 学習班 …… 本学学生の学習状況について
- － 図書館班 …… 本学附属図書館について
- － 施設班 …… 本学の各種施設について
- － サービス班 …… 本学の各種サービスについて
- － 生協班 …… 本学生協について
- － その他班 …… 上記班以外の意見、及び学勢調査について



1. 学勢調査概要

全体会議の記録

2010 年 11 月 4 日 (木)	学勢調査の説明・スタッフ顔合わせ
2010 年 11 月 15 日 (月)	学勢調査の説明・班分け
2010 年 12 月 2 日 (木)	定量・定性データ分析途中報告
2010 年 12 月 16 日 (木)	キャンパスミーティングの準備
2011 年 1 月 5 日 (水)	キャンパスミーティングの準備
2011 年 1 月 24 日 (月)	提言素案の途中報告
2011 年 2 月 3 日 (木)	全学規模の議題・規模の大きい議題の決定

全体会議以外に、適宜各班ごとに会議を行いました。

教職員の方の意見の取り入れ

提言案を作成するにあたり、キャンパスミーティングとメールによる質問を行いました。キャンパス・ミーティングとは、調査データを基に作成した提言案や質問を大学各部署に提出し、それを元に教職員の方にヒアリングを行うものです。キャンパスミーティングを行うことにより、より現実的で実効性のある提言案を作成することができます。今回ご協力頂いた部署は以下の通りです。

－ 学務部学生支援課	…… 本学学生生活全般について
－ 学務部教務課	…… 本学教務サービスについて
－ 施設運営部施設安全企画課， すずかけ台地区事務部総務課，学務課……	本学施設サービスについて
－ 総務部評価・広報課	…… 本学広報活動について
－ 研究推進部情報図書館課	…… 本学図書館について
－ 東京工業大学生協本部	…… 本学生協について
－ 研究推進部研究企画課	…… 本学研究資金について
－ 留学生センター， 国際部留学生交流課，国際事業課	…… 本学外国語教育、留学について

公表および報告

本報告書は本学学長に 2011 年 3 月に提出後、調査結果をインターネットの専用サイト、および冊子形式において公表されます。



2. 全学的に共通・重要性の大変高い提言

提言概要

全体的な傾向として、「学生・大学間とのコミュニケーションの欠落」が課題として挙げられました。この課題は、前回の学勢調査 2008 においても大きく扱われており、改善策の提言が行われました。それにより、大学から学生への情報伝達において一部項目の改善がありました。しかし、大学の学生からの情報取り込み、及び大学側と学生側の相互認識については、未だに課題が残っていることが分かりました。これを解決するにあたり、学生側がより意見しやすいシステムの構築、またニーズの把握や相互理解を促進する方法が必要です。

現状分析

前回の学勢調査を受けて様々な設備が設置されました。しかし、本年度の学勢調査の結果、提言を受けて設置されたにも関わらずそれが有効活用されていない施設・設備が現状として存在することが浮き彫りとなりました。以下に実際に起こっている例を示します。

Case 1

大岡山第二食堂や体育館入口などに、設置された電子掲示板は前回の学勢調査の提言を受けて設置されたものです。しかし、今回の学勢調査では「設置場所が悪い・内容が面白くない」などといった意見が寄せられています。

Case 2

国際部が運営する International Communication Space HUB では、留学のための語学学習を補助する目的で英語ニュースなどをいつもモニターに流し、またネイティブの方に指導をお願いしています。しかしその利用率は現状として 10~20% であり、思うように日本人の学生が来ていないことが問題としてあるのですが、そのためにどういった企画が良いのか、また企画の広報をどういった形で行えば良いのかわからないといったことがあります。

(この件に関連する提言は 28 ページをご参照ください。)

図 2-1 学生との相互理解不足により、有効活用されていない例



2. 全学的に共通・重要性の大変高い提言

Case1 のように、学生が必要であるという意見を出したものの、学生が本来期待していたニーズが把握されずに対策が行われる、Case2 のように、大学側が学生の意見を取り入りたいのにも関わらず、そのシステムが存在しないため立ち往生してしまう、という状況が発生しています。この問題を改善するためには、学生からの意見の取り込み方法を構築することが対策として挙げられます。「〇〇が必要である」といった意見だけでなく、こういった場所にこういった形で必要なのか、といったより具体的な意見を集めることで学生側の真のニーズと大学側の改善策の間でミスマッチが起こらないようにすることができます。加えて、容易かつタイムリーに学生から意見を収集と蓄積することが大学側にとっても重要であることがわかります。

次に、学勢調査 2008 における提言との比較を行います。学勢調査 2008 では、学生・大学間のトラブルを解決するため「大学からの情報伝達」と「学生からの情報取り込み」の 2 点に着目し、特に大学からの情報伝達を重視し改善策を提案しました。本学勢調査では、「学生からの情報取り込み」を重視するため、この点において学勢調査 2008 と現状を比較しました。

・問い合わせサービスによる混乱の解消

この提言では窓口を 1 カ所に集約することにより学生が問い合わせやすくすることを述べていました。これに対し、Q&A 集はホームページ上で公開されるようになりましたが、窓口の一元化は行われていません。本学勢調査では、教務課とのキャンパスミーティングにおいて、教務課と専攻窓口の一元化について聞いたところ、教務課では全学的な業務を担当している一方で専攻では専攻独自のシステムがあるため統合することは現状として難しいという回答を得ました。（この件に関連する提言は 13 ページをご参照ください。）

・学生サポーターによる大学事業への学生意見の取り入れ

現在、学生がさまざまなサービス・施設に対してサポートする制度があります。サポーターの種類として、図書館サポーター、ピアサポーター、留学生チューター、省エネサポーターや学勢調査スタッフが挙げられます。サポーターの種類と業務概要を表 1 に示します。



サポーターの種類	業務内容	担当部署
ピアサポーター	新入生や後輩に対し、修学や進路、日常学生生活についてのアドバイスを行う	学生支援課
図書館サポーター	図書館業務の一部(資料の配架や整理・広報・企画・学習相談や見学時の対応)を行う	図書館
留学生チューター	入学した外国人留学生に対し、教育研究についての課外指導や生活指導を行う	学生支援課
省エネサポーター	学内での省エネを推進するため、学内を回り光熱・空調設備の清掃状況の確認・調査や、不要な設備の電源を切断する	施設運営部
学勢調査スタッフ	学勢調査のアンケート作成、分析、提言作成を行う	学生支援 GP

表 2-1 サポーターの種類と業務概要

このように学生が大学業務をサポートする場が増えており、学生視点を取り入れた運営が行われようとしています。しかし、サポーターの役割が単なるアルバイトの域を超えていないことも少なくなく、「学生意見の取り入れ」が必ずしも行われているわけではありません。一方で、これらの活動は継続して行われることにより、ノウハウの蓄積、役割の明確化が行われ、今後発展していく可能性があるため、長期的な視点から評価することが重要となります。

・学生による大学へのフィードバックの仕組み

学勢調査 2008 では、数年に一度行う学勢調査では学生の意見を対処できない問題の解決として、継続的に意見収集できる機構の設置を提言しましたが、現状として設置が未だなされていません。

以上より、「学生からの情報取り込み」は、十分には行われておりません。ただし、実現や効果が表れるには時間が必要なサポーター業務に限っては、これからも継続していく必要があると言えるようです。



具体的提言

以上に挙げた課題を解決するためには、以下の2点が重要となります。

- (1) 学生側が学生のニーズの把握とシステムの考案に関わること
- (2) 継続性があること

(1) 学生側が学生のニーズの把握とシステムの考案に関わること

現在は、下図のように、学生側の意見・要望が取り入れられた後、大学側が解析、解決策の考案・導入までを行っています。このようなシステムでは、学生のニーズ、また導入される解決策の利用しやすさが考慮されておらず、結果として導入した解決策が学生の真のニーズを満たせないことになってしまいます。そこで、解析、または解決策の考案において学生視点の意見を取り入れることで、より効果的な解決策を導入することができます。学勢調査もこれに含まれますが、より具体的な段階において行われるべきです。

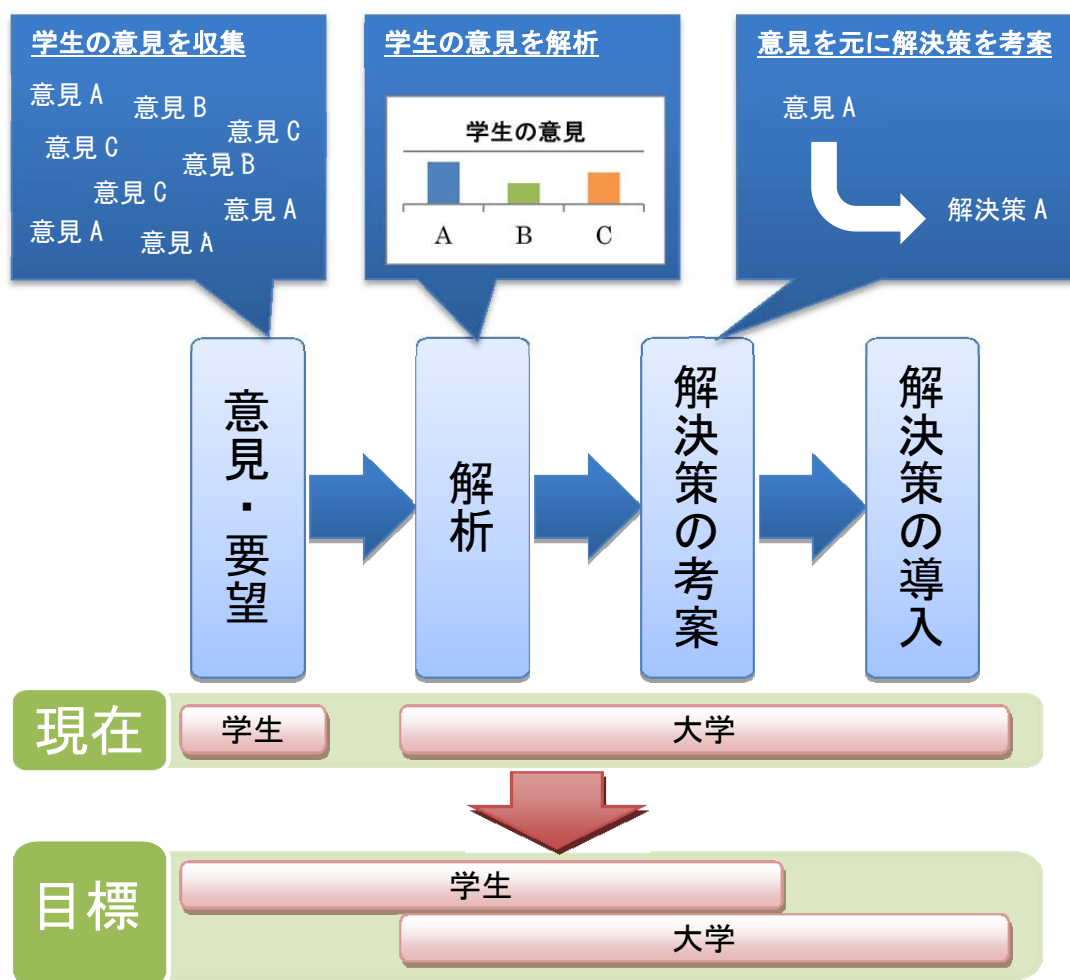


図 2-2 改善策を施行する模式図



(2) 継続性があること

学勢調査は2年に1回程度行われるものであるため、学生からの意見をタイムリーに収集することや、また提言を受けて講じられた解決策が、本当に学生のニーズに合ったものであるかを学生側から大学側にフィードバックすることができません。そこで継続的に学生の意見を収集するためのシステムを導入することで、以上の課題に対応することができます。また大学側は、そこで得られた意見をデータベースとして蓄積し、今後のために活用することが求められます。

以上のことを踏まえ、具体案として以下の方法があります。

・事前アンケート・説明会

設置を検討、もしくは計画している設備の設置案の情報を Web 上で公開し、一定期間（例えば 2 週間程度）の期間を設けて学生から具体的意見を募ります。設置案があることを周知することができると同時に、実際に使う「学生」からの意見を取り込むことにより「学生」のニーズと合致させることや、より実用的な設置案へと改善できることが期待できます。（ここで「」を使用しているのは、実際に設備を使用する「学生」は、意見を述べることのできる学生とはタイムラグの関係で異なる、という状況が生じるからです。長期的計画の場合、このようなことが生じがちですが、ステークホルダーとして「学生」が参加する機会を設けることは必要だと考えます。）

また、計画が本格的に動き出した段階で説明会を開くことで、将来実際に利用する人々に設置した理由やメリット、考えている利用方法などを説明し理解を得ます。実際に設備が完成してからの利用者からの不満が出るといったことを防止するとともに、運営上の改善点があれば修正する事もできます。

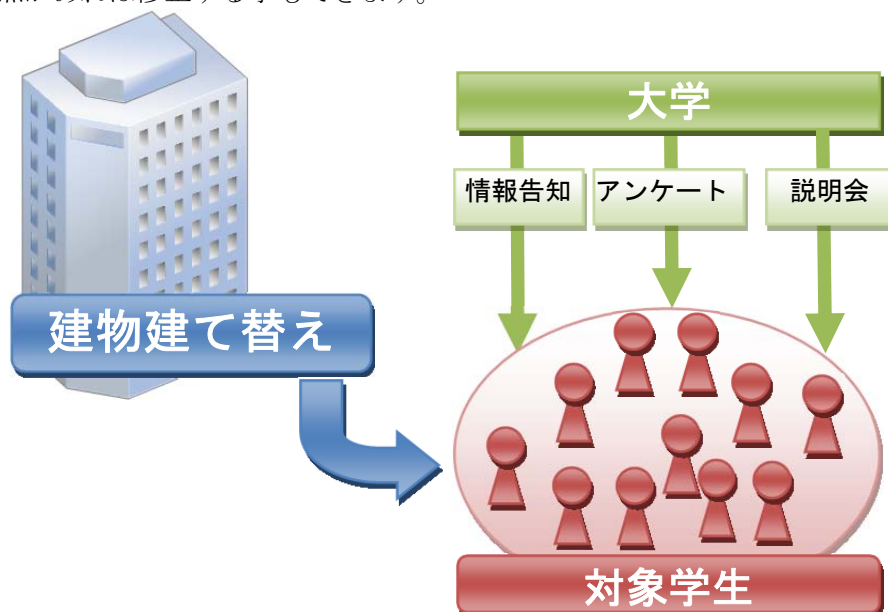


図 2-3 事前アンケート・説明会のイメージ図



・学生モニター

登録制の学生モニターを設置します。そして、大学側が何か新しい事をしたい時や問題を改善したい時に、学生モニターに意見を聞くことで気軽に学生の意見を取り入れるようにします。

具体的には学生モニターの希望者を募り、専用のメーリングリストを作成します。大学側が学生の意見を聞きたい時には、そのメーリングリストを活用してアンケートを行ったり意見交流会の開催の連絡を送ったりします。また、月に1度の割合で学生モニターが集まる場を設け、そこで学生の意見を定期的に聞くということも考えられます。

迅速かつ確実に学生の意見を聞く事ができ、小さな事柄についても意見募集をしやすいことが長所として考えられますが、一方で意見が特定の学生のものに偏ってしまうということが懸念されるため、使用する用途は限定されると考えられます。

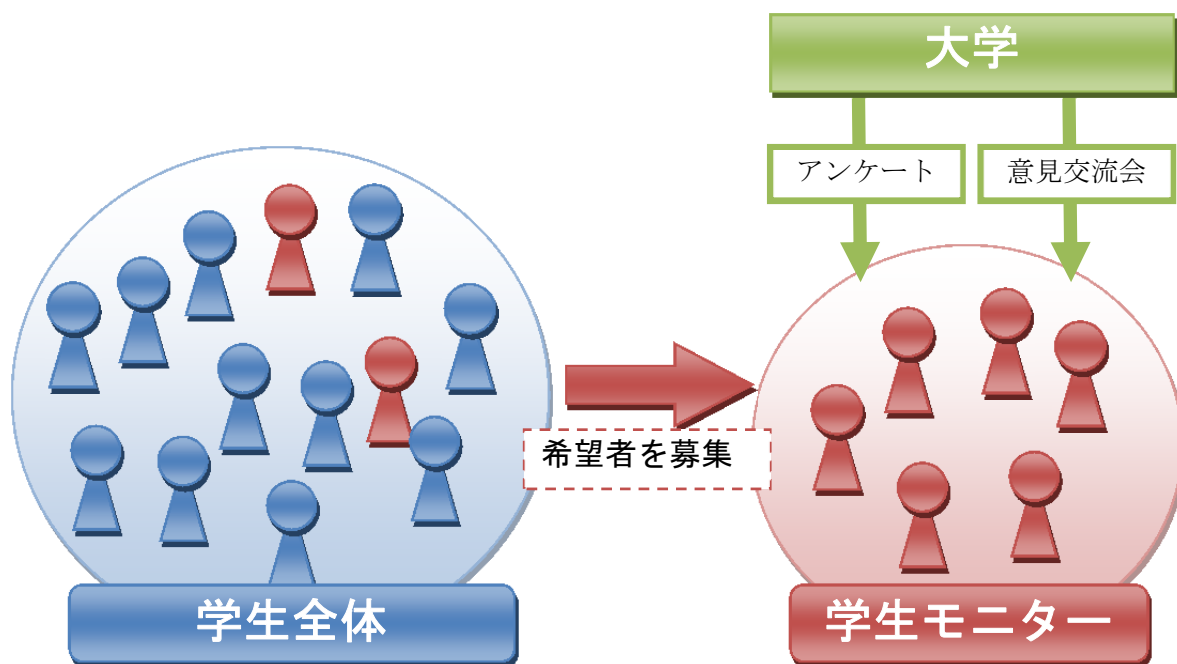


図 2-4 学生モニターのイメージ図



・意見交換ポータル

インターネット上で、学生からの意見・要望を投稿できる掲示板システムを設置し、意見内容の傾向、大学側の回答が見られるようにします。具体的なシステムとしては、図 5 のように学生の意見・質問に対し大学の担当部署や他の学生が意見を投稿するシステムとします。投稿に対し「賛成ボタン」「反対ボタン」をつけることでその投稿に対する学生の注目度を測れるようにします。

このようなシステムを利用することで、学生から意見を収集し大学の施策へとフィードバックすることで、より学生目線の視線を実現できると考えられます。また、学生の要望が通らない場合でもその理由を説明することで、大学側と学生のミスマッチをなくせると考えられます。

実際に運営する際には、東工大ポータルによるログインを必須とする・ハンドルネームによる投稿を可能とする・大学側が投稿内容をチェックするなど対策を施すことで、荒らしや工作行為を防ぐ必要があると思われます。

学生 A : ○○学科のリフレッシュルームの使用時間が短いです

レポートを書く際などに、○○学科のリフレッシュルームをいつも使わせてもらっているのですが、利用時間が 17 時までと短く、困っています。
せめて、19 時くらいまで伸ばしてもらえないでしょうか？お願いします。

賛成(1)
反対(1)

○○学科担当者□□

○○学科のリフレッシュルームを担当する□□です。
○○学科のリフレッシュルームに関しては、過去に 24 時間開放していた際に、利用マナーが悪く、ゴミが散乱していたという状況があったため今のようなになりました。
ですので、利用時間の延長というのは難しい状況です。

賛成(1)
反対(0)

学生 B

たしかに、マナーの問題があるというのはわかりますが、それならば、いつも使う学生の中から曜日ごとに担当を決め、その人が責任をもってゴミの片づけなどを行う形では駄目でしょうか？お願いします。

賛成(5)
反対(0)

※説明のための例であり、実在のリフレッシュルームとは関係ありません

図 2-5 意見交換ポータルのイメージ図



2. 全学的に共通・重要性の大変高い提言

これらの具体案にはそれぞれ特徴があり、複数組み合わせることにより学生視点の施策を行えると考えられます。

例えば、新たに建物を建てる際にはそれに関わる学生が明確なため、事前アンケートや説明会が有効と考えられます。また、留学フェアに関する広報活動を行う際には、学生モニターの人に相談することでより効率的な広報活動が出来ると考えられます。一方、リフレッシュルームなど既存の施設に関する不満に関しては大学側が調査して調べるのは難しいので、意見交換ポータルに寄せられた意見を元に施策を行ったり情報の周知を行ったりするのが良いと考えられます。

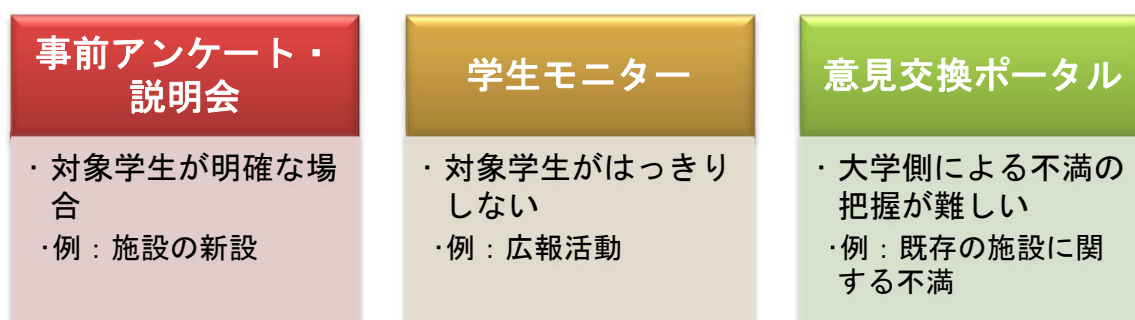


図 2-6 各具体案の特徴

以上のような方法で現状として存在する問題を解決することができると考えられます。ただし、これらの取り組みをより活用するためには、大学・学生の双方にとって使いやすい仕組みをつくることが重要であり、そのためには学生が仕組みづくりに参加するような形式にすべきと考えられます。また、仕組みが出来た後も、仕組みが存在するということを学生に広く周知するための努力や工夫を続けることも重要となります。



3. サービス関連

重要性が高い項目

3.1 事務手続き・情報伝達の一元化

3.1.1 事務手続き・情報の一元化について

提言概要

事務窓口の一元化や情報伝達の一元化の方針として、以下の二つを提言します。

- ・事務窓口の一元化は不可能ですが、学生が担当窓口を把握できるように努力すること
- ・必要な人へ必要な情報が届くように情報を電子化すること。

学生の意見

学生の意見として、事務窓口に関して、様々な事務処理施設が散在していて不便である点、事務処理が非効率である点が挙げられました。

また、情報伝達に関して、掲示板が教務課、専攻で点在しており、情報把握がしにくい点、新しいイベント、制度等の学生への周知がうまくいっていない点が指摘されました。

具体的意見

【事務窓口関連】

- ・事務窓口の一元化は強く希望します。様々な事務処理施設が散在していて不便と感ずることもあり、また事務処理自体が非効率になりえます。施設全体の配置を改善すればもっと有効なスペースが生まれると考えます。
- ・各種手続きに書類の提出が多すぎる。電子化及び手続きの簡略化を進めるべきだと思う。
- ・事務手続きの一元化は結構難しいと思います。しかし、もしできるなら実現して欲しいですが、その前に、事務員の職員数をもっと増やして欲しい。

【情報伝達関連】

- ・情報の提示方法について、掲示板を使つての伝達方法では見落とすことがあったり、複数の個所に点在するそれぞれの掲示板をチェックする必要があるだったりし、手間がかかったり、情報漏れが起こることがある。また、急な連絡の場合対応が追い付かないことも起こる。そこで、学内にある掲示板類をまとめて、web上で確認できる体制を整えてもらいたい（すでにあるのに私が気付いていない場合はすいません）。特に、教務課・入試課・支援課などの情報は学務部としてまとめて検索などができると非常に助かる。
- ・イベント・制度等の学生への周知が一元化されていないために、活かされていないものが多いように感じる。大学内の掲示板などの乱立を見ると、学内広報が、大学側の部署によって既定されていて、学生側からの利便性・認識性などを考慮していないように思



3. サービス関連

う。

- ・講義棟にある学科の掲示板の内容を、すべて web 上で確認できるようにしてほしい。
- ・不特定多数に向けた情報は学内の掲示板を使い、知らせる相手が決まっている情報はインターネット、メールを通じてなど、完全に振り分けて知らせるようにしてほしい。

(他計約 20 件)

現状分析

【事務窓口関連】

学生の意見を分析した結果、学内に多数ある窓口から、適切な窓口を選ぶことが難しいという状況となっていることが把握できました。(図 3.1.1-1 から、事務窓口を 1 カ所にまとめたセンターを望んでいる学生が約 300 名いることがわかります。)

そこで、事務窓口が一元化できないかという点について教務課に質問したところ、教務課では、学生の事務手続きを効率的に行うため、①学生全体に関わる事務手続きに関しては教務課、②専攻に関わる事務手続きに関しては専攻事務、と窓口を大きく二つに分けているということが分かりました。このため、事務窓口一元化の方向は難しいと考えられます。ただし、部分的に一元化した方がいいところはある、遺失物に関しては窓口を一元化する予定です(詳細は 3.1.2 遺失物の窓口一元化を参照)。今後の方向性として、学生がどの窓口を利用するのが適切かを把握できるような事務窓口の一覧表を作成するなどの対応が考えられます。これに関しては、大学ホームページ内に一覧表の PDF が設置されていますが学生に十分周知されていない可能性があります。また、来年度の新入生向けに同様な冊子を作成し配布予定だそうです。

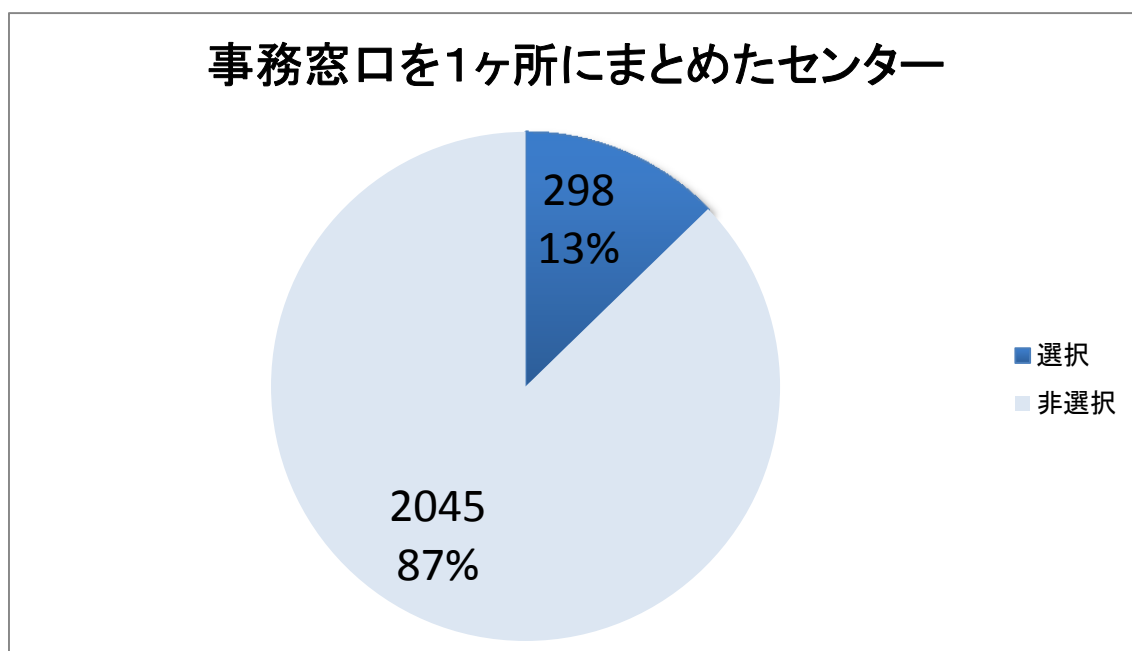


図 3.1.1-1 学生用掲示板・電子掲示板の充実度



【情報伝達関連】

現状分析として、各専攻や各部署の掲示板で連絡が止まっているため、幾つもの掲示板をチェックしなければ不便であるといったことや、情報を見逃しがちであるという意見が寄せられました。

これを解決するためには、掲示板でのみ連絡を行うのではなく、同じ内容を教務 Web などにて連絡することが考えられます。その際には、専攻に関する情報はその専攻の人へ、授業に関する情報はその授業を履修している人へ、全学へ関係する情報は全学へ連絡するといった配慮が重要と考えられます。

学勢調査 2008 との比較

教務 Web システムについて学勢調査 2008 ではユーザーである学生と教員の意見をより取り入れたシステムを構築するとあり、現在改善途中であると言えます。

具体的提言

【事務窓口関連】

まず、事務窓口に関して、今後完全一元化の方向はありませんが、部分的に一元化すべきところについては、一元化を進めていくことを提言します（詳細は 3.1.2 遺失物の窓口一元化を参照）。また、学生がどの窓口を利用すればいいのかわかるようにする事務窓口一覧については、引き続き周知を頑張ってもらいたいと思います。

【情報伝達関連】

各専攻と教務課・学生支援課の連帯の強化が挙げられます。具体的には、休講情報や試験の情報など授業に関する情報を各専攻の掲示板で止めるのではなく、教務課に連絡して履修者全員に周知がされるようにすることが挙げられます。



項目別提言

3.1.2 遺失物の窓口一元化

提言概要	遺失物の窓口を一元化すべき
学生の意見	遺失物の窓口を一元化してほしい
具体的内容	・遺失物の収集を統一してほしい。教務課や各講義棟の事務室など、現在、それぞれ独立に収集しているため、どこに問い合わせればいいのかわからない。(合計3件)
現状分析	現状では、遺失物は学生支援課や教務課など複数の部署で管理されており、遺失物を探す際には複数の部署に問い合わせなければならず不便でした。 これに関して学生支援課に問い合わせたところ、遺失物に関しては最終的に窓口を一元化して Web で落としたものの特徴、拾った場所などを見られるようなシステムを構築予定とのことでした。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	学生が問い合わせる際に困らないような遺失物管理体制の構築をお願いします。



3.2 教務 Web・OCW 関連

3.2.1 教務 Web 関連

提言概要	教務 Web システムのさらなる機能の追加
学生の意見	教務 Web でもっと多くの情報を閲覧できるようにして欲しい
具体的内容	・卒業あるいは修了要件を満たすために何の科目があと何単位必要なのか (Web 等で) 確認できるサービスがほしい。 (合計 4 件) ・学科内で自分の席次を知ることができるシステムが欲しい。 ・教務 web システムで、どの講義をとるか選んでいるときに、同時間の講義を複数選択可能に出来ませんか。選んでる際も 1 つしか選択できないため、比較しにくいです。 (合計約 10 件)
現状分析	教務 Web システムは 2009 年度より施行されたシステムであるため、まだ発展途上中であり、それゆえに様々な意見が出てきました。今後はできる限りユーザーである学生と教員に使いやすいシステムとなる必要があります。
学勢調査 2008 との比較	現在改善の最中。教務課からは「今後も引き続き、学生・教員からの意見を取り入れて、利用しやすいシステムの構築を目指します」という回答を得ました。
提言案	システムの都合や大学の方針との兼ね合いで実現可能な機能、実現不可能なシステムがあるかと思いますが、なるべく学生の意見を取り入れたシステム作りをしていくようお願いします。 その際、今回寄せられた意見にある、卒業あるいは修了要件を満たすために必要な科目や単位数、学科内での席次を見ることができるシステムの実装について検討していただければと思います。また、教務 Web システム内で教務 Web システムに関する要望を言いやすくするようなシステムを作ることによって学生の意見を取り入れる努力もしてもらえればと思います。



3. サービス関連

3.2.2 OCW-i 関連

提言概要	教員に OCW-i をより活発に活用してもらう
学生の意見	先生方にもっと OCW-i を活用して欲しい
具体的内容	・ OCW-i を利用する教員と利用しない教員がいて、学習環境に大きな差が出ています。あえて違う先生の授業にもぐりこんで授業を受ける友達もいるくらいなので、さらに改善をお願いしたいです。 ・ OCW の休講情報やハンドアウトのアップロード情報は非常に便利です。もっと多くの先生に広めてもらいたいです。 (同様の意見が計 4 件)
現状分析	現状として、OCW-i を使うかどうかは教員の自由意志に任されています。そのため、比較的年配の教員を中心に、活用していない場合が多くあります。これは、IT スキルの問題もありますが、教員への OCW-i の利便性及び具体的な使い方に関する情報が伝わっていないことが背景としてあります。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	・ 教員に OCW-i の活用法についてレクチャーする機会を設ける。 ・ 授業アンケートで教員が OCW-i を活用していたかどうかを評価する項目を作る。



3.3 就職関連

3.3.1 就職支援全般について

提言概要	就職サポートの充実(特に学部生や文系就職希望者)
学生の意見	図 3.3.1-1 からわかるように、サービスに関する各項目のうち、進路および就職に対する要望が最も多くなっています。また、図 3.3.1-2 より、就職活動を控えた修士 1 年が過半数であることを筆頭に幅広い学年からの要望があります。 また、今回、自由記述として、就職支援の強化を求める意見は全体で 14 件寄せられました。特に、学部、専門外就職に対するサポートを求める声が 4 件あります。
具体的意見	・就職（学部卒を含む）のサポートを特に充実してほしい。 ・文系就職に関するサポートを充実させてほしい。 ・やはり就職活動を行う学生に対する環境が不全であるように思われる。 自分は修士 1 年の学生であり今年から就職活動を行ったが、振り返ってみると、この大学にいた学部 3 年生の時は今のような活動はできなかった様に思う。それはやはり情報が不足していること、大学からの大々的なイベントが軽薄であったことなど、やはり環境として学部生の就職活動を全く応援していないという点を考えてしまった。修士になった現在でも就職活動に苦勞している点を鑑みると、修士 1 年生に対してはもちろんのこと、特に学部 3 年生への大学からのアプローチが薄いように思われる。 同様の意見が 4 件あります
現状分析	東工大のキャリア支援については、まず学科、専攻の教員が中心となっており、それでは対応が難しい全学的な就職ガイダンス等の開催や文系就職などの場合には学生支援センターが支援を行っています。(学生支援センターHP 参照： http://www.gakumu.titech.ac.jp/gakuseisien/career/index.html) なお、学生支援センターの学生向けの活動内容は近年拡充しており、各種就職セミナーや、講義「キャリアデザイン」の開催、キャリアアドバイザーによる個人面談などがあります。今後もさらに、学生のニーズに合った支援を拡大する必要があります。 次に、学部就職や文系就職について述べます。東工大学部生の約 90%は修士課程へ進学し、学部卒での就職は 10%です。学部卒就職や文系就職は、学科、専攻による支援を受けにくく、また講義等カリキュラムによる制約を受けやすいこともあります。そのため、学生支援センターが中心とした



3. サービス関連

	全学規模のバックアップが特に必要です。実際、学生支援センターでも対策をしつつありますが、まだ足りていないというのが実情のようです。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	引き続き、学生支援センターには学部就職や文系就職の人へ向けたサポートを充実していくようお願いします。 具体的には、学部卒での就職を希望する学生に特化した支援(セミナーや講義)を行う、文系就職の学生へ商社、コンサル、金融など業界別のセミナーや情報交換会の開催を行う、などといった対策が考えられます。

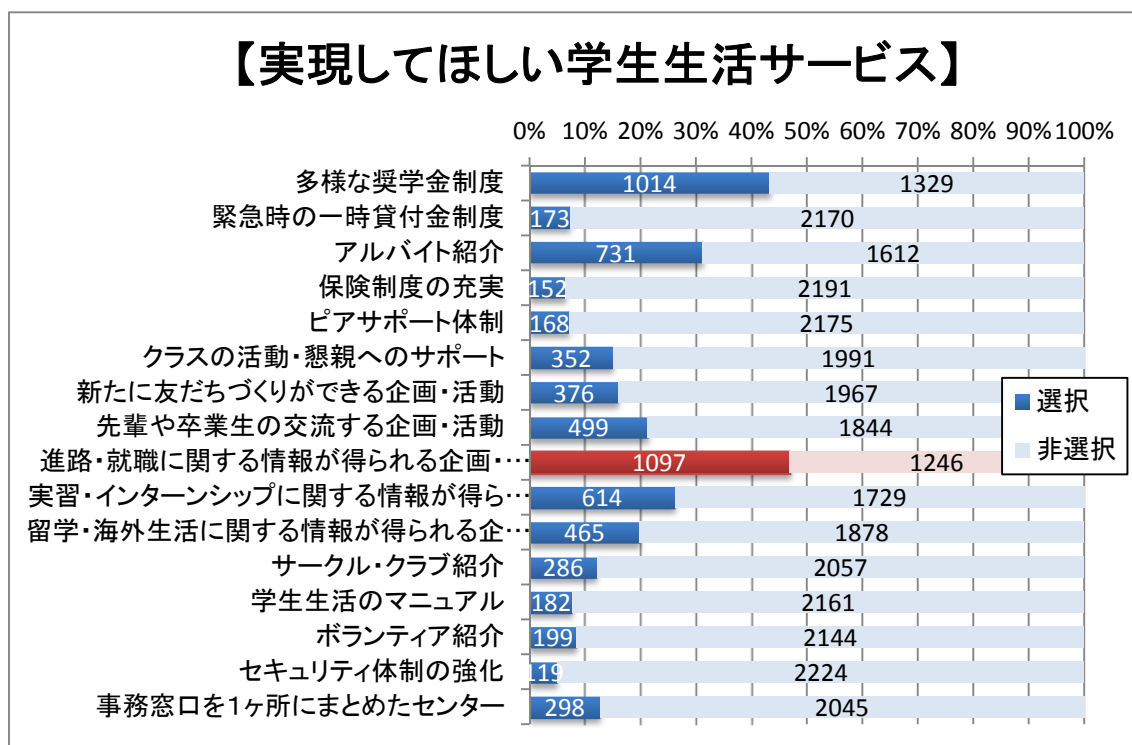


図 3.3.1-1 どのようなサービスが必要とされているか



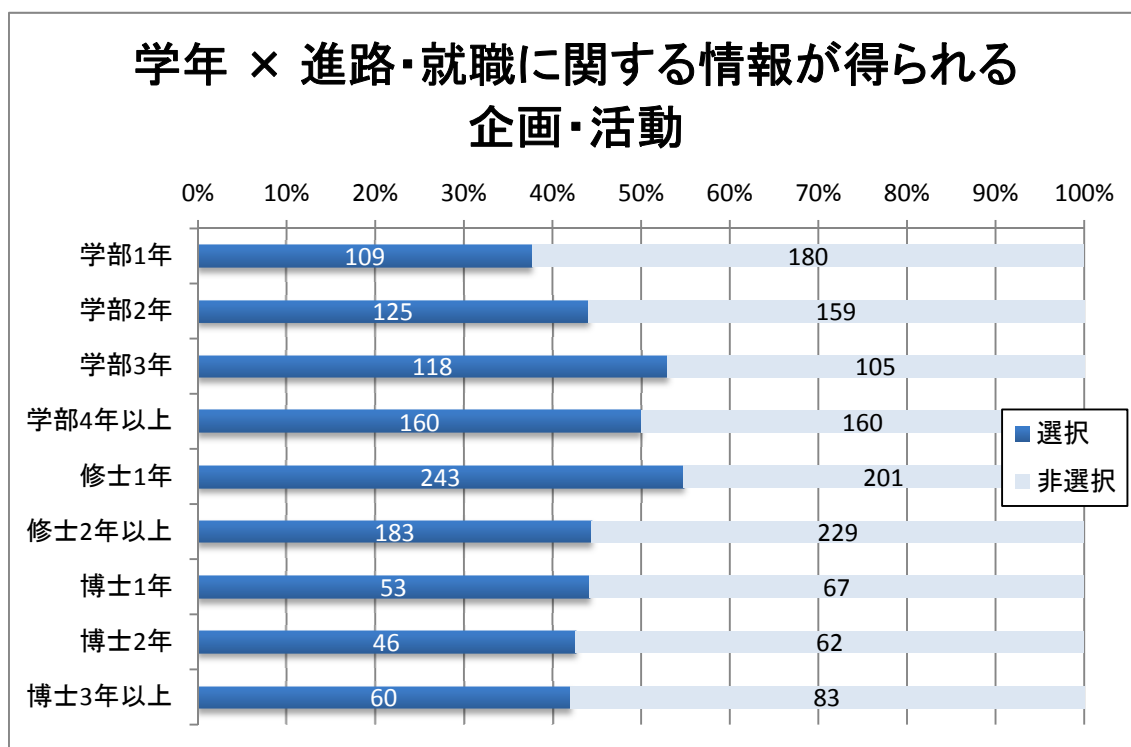


図 3.3.1-2 進路・就職に関する情報が得られる企画・活動等サービスが必要か

3.3.2 セミナーの曜日分散について

提言概要	就職・キャリアに関するセミナーを、曜日を分散させて行う。
学生の意見	就職活動等のイベントを特定の曜日に集中させるのではなく、分散させる。
具体的内容	・就職活動等のイベントなどが、基本的に水曜日に集中している。 水曜日はゼミが固定であるため、参加できないことが多い。 その他の曜日への振り替え等の対策を希望します。 ・女子学生・女性研究者対象のセミナー等が開催される木曜日に研究室の行事が重なり、一度も参加できず残念。曜日に幅があるとうれしいが、セミナー自体が少ないので難しいだろうかと思う。
現状分析	現在、前述の就職セミナーについては、主に水曜午後を中心に行われています。これは、学部では水曜午後に授業をほとんど行わないので、参加しやすいとの配慮によるものです。しかし、就職支援の項目で述べた通り、就職希望者の多くは大学院生であり、参加できるか否かは授業の都合よりむしろ研究室の都合との兼ね合いとなります。そのため、水曜に研究室のミーティングを行っている場合には参加が難しくなるという現状があります。ただし、学生支援課としてもその点は配慮し複数回に分けて開催できるような場合には曜日を変えるような努力はしているものの、開催できる日数の関係で分散しきれていないようです。



3. サービス関連

学勢調査 2008 との比較	なし
提言	学生の意見を参考に、大学院生も参加しやすいような日程決めに今後も頑張ってもらいたいと思います。

3.3.3 OB・OG との交流について

提言概要	大学と蔵前工業会との連携を強化し、学生のキャリア形成につなげる。
学生の意見	東工大卒業生との交流の場を持ちたいという意見です。就職に直結したところでは、卒業生による説明会の開催を求める声があります。またそれ以外に、卒業生との交流を通じて、広く将来のキャリアを考える契機としたいとの意見もあります。
具体的内容	・就職活動に関連する、しないにかかわらず、大学が企業などの若手から取締役まで幅広く社会に出て活躍している OB・OG と接する機会を積極的に増やして、縦のつながりを強化していくことに積極的に取り組んでほしい。 ・就職に関して。複数の OB の方に来ていただき、ブースを用意し、直接話をするイベントを作ってほしい。私立の大学では行われているようです。 ・就職活動のためだけでなく、卒業生の話を聞ける機会があるとより進路のイメージがつかめるかも。企業内の研究者とか公務員、経営者になった人とか。 でも、就職活動に特化したような講演会は、大学でやることじゃないし、スマートじゃないのでやめてほしい。 同様の意見が 3 件あります
現状分析	大学としての卒業生との交流を考える際に、最も大きな選択肢は蔵前工業会の活用です。現在、蔵前工業会の試みとして、蔵前ゼミと称して、卒業生と学生との交流が、大岡山、すずかけ台の両キャンパスで年数回行われています。学生支援センターとしては、学生の卒業生交流に対するさらなるニーズを把握しており、蔵前工業会との協力体制の強化について前向きに検討したいとのことです。なお、学生支援センターでは、企業に就職した OB・OG の話を聴く機会として「東工大生の仕事とキャリアセミナー」を両キャンパスで開催しています。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	全学規模で、蔵前工業会との連携を強化し、キャリア支援面における学生と卒業生との交流をしやすくするよう努力する事を提言します。



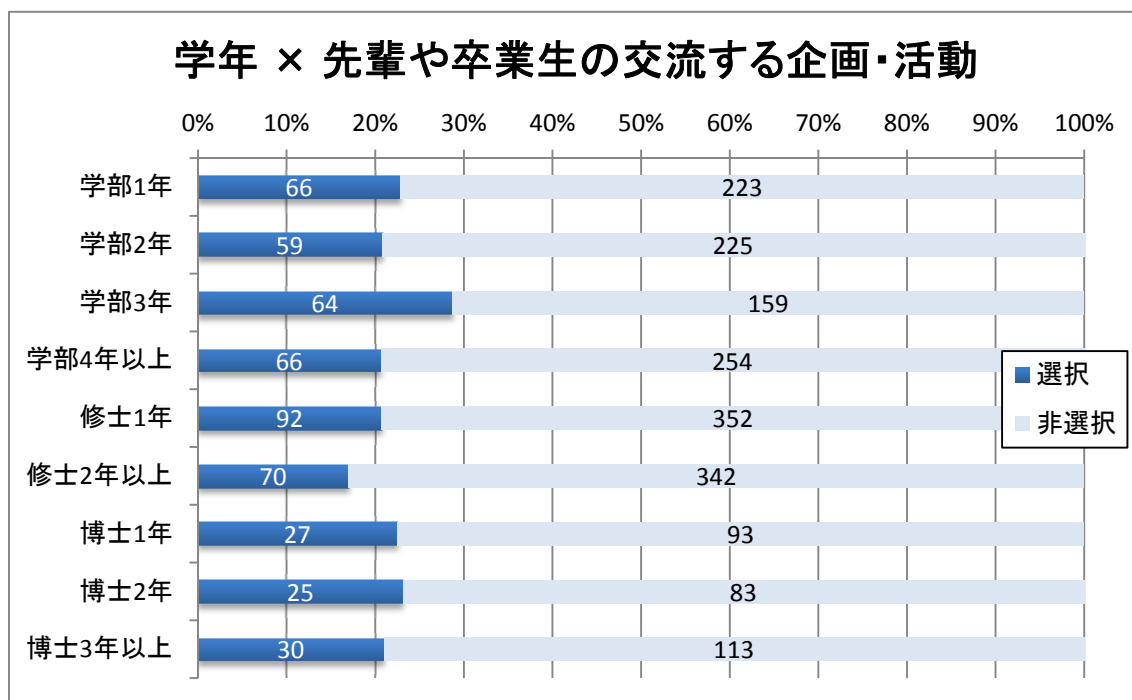


図 3.3.3-1 先輩や卒業生の交流する企画・活動が必要かどうか



3.4 留学・留学生関連

3.4.1 留学関連

提言概要	留学の、全学協定と部局間協定の情報伝達の一元化・強化
学生の意見	留学について、積極的な情報提供を求める意見が得られました。(図 3.4.1-1) 具体的には、留学フェアの回数を増やす、留学関連のホームページを充実させる、また学科・専攻等による部局間協定についての情報提供の強化を求める声が寄せられています。
具体的内容	・留学やインターンシップ、就活情報等に関して、専攻、学科単位、学部、研究科単位、全学などさまざまな枠があり、わかりにくい。一か所にすべて情報をもとめて掲示してほしい。調べる手間ばかりかかり、有益な情報を逃してしまうことが多々あった。事務的な管轄は違っても、同じ場所に情報を載せてほしい。 ・海外留学（学科、専攻などから経済的な援助を受けられるもの）の紹介をもっと積極的にしてほしいと思う。 研究室に所属すると、海外留学の支援制度に関する情報を研究室のメーリングリストなどで知る機会があり、自分が思っていた以上に制度が充実していると感じたが、準備に数ヶ月かかることもあるため、できれば学部時代からそのような情報が学生全体に周知されるような環境を整えて欲しい。 ・留学フェアをもっとやってほしい。 同様の意見が 3 件あります。
現状分析	現状、東工大の留学制度については、留学生交流課が管理する東工大生全体を対象とした全学協定等に基づくものと、各専攻や研究科単位で管理し、その部局に所属する学生を対象とした部局間協定等に基づくものの 2 種類があります。情報伝達は、全学協定については、年 1 回各キャンパスにおいて開催の留学フェアや、「東工大生のための海外留学のてびき」冊子および国際室の海外派遣留学のページにて、周知がなされています。部局間協定については、担当する部局が独自に情報周知を行っています。 なお、部局間協定については、研究室所属学生への指導教員からのメールなど、研究室単位での情報伝達が主です。そのため、教員の留学への積極性やメール転送の有無に情報伝達が依存することや、研究室未配属の学部生には情報が伝わりにくいという現状があります。「東京工業大学学術交流協定校一覧」(http://www.ipo.titech.ac.jp/data/agreement.html) には全学・部局間協定の両方が掲載されていますが、例えば工学系独自の部局間協定 (http://www.eng.titech.ac.jp/support/graduate/abroad.html) にある



	協定校は、協定校一覧には掲載されていません。また、「東京工業大学学術交流協定校一覧」からは、その部局間協定のプログラムの概要、および問い合わせ先が分かりません。留学には語学や資金面において早めの準備が必要なことから、学部時代から部局間協定についても、全学協定同様に十分な周知を行う必要があります。 また、留学プログラム申請の事務手続きや人員の都合上、全学協定と部局間協定とを一括して1つの部署で管理することは困難という話を、キャンパスミーティングにて留学生交流課から伺いました。なお、留学フェアに関しては、今年度は大岡山で約280人、すずかけ台で約100人の参加であり、留学希望者は一定以上の割合で参加していると考えられます。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	部局間協定と全学協定との一括した情報提供(情報の一元化)、および情報伝達の強化を提言します。具体例として以下のようなものが考えられます。 ・国際室の海外派遣留学ページでの部局間協定の掲載 全学・部局間協定に関わらず、Webにて留学情報を1つのサイトで一括して掲載します。もしくは、部局間協定に関しては、各プログラムの概要と問い合わせ先を掲載し、各プログラムの入口を統一します。同時に、各部局間協定校の確実な掲載を提言します。 http://www.iad.titech.ac.jp/studyabroad/top http://www.ipos.titech.ac.jp/exchange/send.html (注) (注：新サイト。平成23年2月現在、開発中。) ・「東工大生のための海外留学のてびき」への部局間協定の掲載 「東工大生のための海外留学のてびき」内の全学協定一覧(図 3.4-2)と同様に、部局間協定に関しても一覧にまとめ、掲載します。 ・留学説明会の開催 留学フェアの開催回数の増加を提言します。もしくは、派遣交換留学など人気のあるプログラムに関する小規模な説明会を提言します。



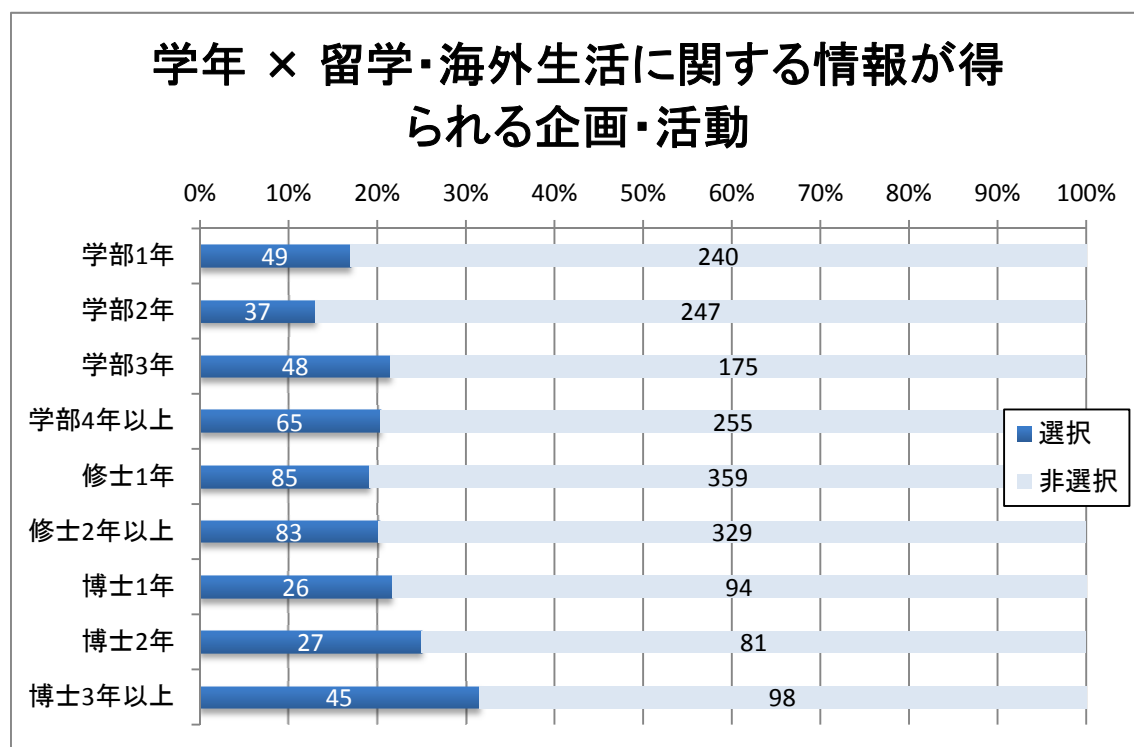


図 3.4.1-1 留学・海外生活に関する情報が得られる企画・活動が必要かどうか

◇海外留学プログラム《短期:1学期(留学先大学の期間)以上1年以内》

No.	名称	プログラム概要	派遣先	人数
1	派遣交換留学 (東工大授業料不徴収協定校への留学) http://www.ipotech.ac.jp/exchange/send.html	東工大が授業料不徴収協定を結んでいる大学に、本学に在籍したまま、1学期以上(留学先大学の期間)～1年以内で留学するプログラム。東工大に授業料を支払うことで、留学先の授業料、検定料等が免除になる。留学先の大学では、留学先の状況に応じて授業を受けたり、研究に参加したりすることができる。詳細は「4. 派遣交換留学について」を参照のこと。	東工大授業料不徴収協定校	187 (推薦枠)
			スイス連邦工科大学(チューリッ校)	4名
2	日仏共同博士課程 (CDFJ) http://www.cdfj.jp/	日本側コンソーシアム、フランス側コンソーシアムに参加している大学の博士課程に在籍する学生を相互に交換するプログラム。8月から11月に留学を開始し、6ヶ月以上～1年間留学する。日仏双方の指導教員により、共同して研究指導を受ける協力体制が整っていることが条件。原則として研究交流するのに十分な英語能力があればよいとされているが、日常生活のためにある程度のフランス語も必要になる。	フランス側コンソーシアム加盟大学 54校 (2009.4時点)	50 (コンソーシアム全体)

図 3.4.1-2 「東工大生のための海外留学のてびき」内の各協定の一覧表



提言概要	留学、特に人気プログラムの人数枠拡充、および留学環境の整備
学生の意見	留学の門戸を広げることへ要望があります。特に、短期留学や長期留学について、幅広いプログラムを求める意見が寄せられています。
具体的内容	・ 交換留学制度について、交換可能人数（日本人東工大生が海外へ）を増やして多くの人が留学できるようになれば良いと思う。 ・ 超短期留学の紹介が大学を通してあったら嬉しい。 ・ 大学院でも二年間の留学がしたい。現状では本学でも最大二年間の休学・留学はできるが、海外大学とは学期がずれているため、二年間の休学で二年間留学できるとは限らない。（同様の意見が2件あります）
現状分析	現在の留学プログラムは、派遣交換留学の他、海外での学位取得を目的としたプログラムや、短期海外インターンシップなどがあります。これらにおいて、人気のあるプログラムはすぐに埋まり、また不人気のプログラムは枠が余る傾向にあると、キャンパスミーティングにて伺いました。 特に人気があるプログラムとしては、欧州の大学への交換留学や、海外インターンシッププログラムであり、不人気なものとしてはアジア圏への交換留学が挙げられます。これは、比較的留学準備のしやすい欧州の大学や、期間的に参加しやすい短期プログラムに人気が集中する結果と考えられます。これらの背景には、修士卒での就職を考えた場合、留学をする場合は修士の在学延長がほぼ必須であるとともに、留学希望者が躊躇することがあると考えられます。（学部では在学延長が認められておらず、修士では就職、研究活動と重なるため） また、各種交流協定による留学は、東工大と相手大学との学生の交換留学が原則となっています。そのため、東工大からの派遣学生が多くても、本学へ受け入れる相手大学からの派遣学生が少なければ、人数枠を増やすことが難しいといった現状もあります。 また、留学を希望する東工大生の語学力が十分ではなく、相手大学が要求する語学基準に到達しないことにより、出願が受け付けてもらえずに、協定に規定された人数枠を満たすことができない結果となっている場合も多いようです。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	・ 人気プログラムの人数枠の拡充 人気のあるプログラムの人数枠拡充をお願いします。ただし、現状分析より困難な現状があるため、実現性は高くはありません。 ・ 各種民間のプログラムの紹介 人気プログラムに参加出来なかった学生に対して、民間の各種留学、イ



3. サービス関連

	ンターンシッププログラムや奨学金の紹介を提言します。 ・留学のしやすいカリキュラムの整備 授業日程や就職活動時期等の問題、また教育方針等の問題から困難とは思いますが、留学しやすいカリキュラムの整備を提言します。
--	---

3.4.2 留学生との交流

提言概要	西 1 号館の整備により，留学生と日本人の交流を促進する。
学生の意見	留学生との交流の機会がほしいという意見があります。
具体的内容	・留学生の友達がほしいので，ペンパル紹介や，交流会を開いてほしい。 ・留学生との交流に関する情報が手に入れにくい。留学生交流を企画する団体も広報活動が難しいと言っていた。 同様の意見が 2 件あります。
現状分析	交流活動をする場所とサポート体制は整っているようです。 現状では，留学生と日本人が交流する場として，西 1 号館が挙げられます。ここには，留学生センター，留学生に対する日本語の講義室があり，1 階のラウンジでは留学生との交流が可能です。しかし，大半の日本人学生はこのことを知らないのが現状のようです。 留学生センターは，東工大内の外国人留学生、研究員、教員の日本語・日本事情教育、および留学生と日本人学生の交流促進をサポートする役割を担っています。また、地域ボランティア団体が、外国人留学生、研究員、教員の家族への日本語のサポートを行っており、留学生センターは教室提供などの協力を行っています。ただし、国際交流活動は学生が自主的に行うものであるため、留学生センターが主体となって運営するものではなく、また大学側が学生の課外活動を管理するべきではないのでは、ということでした。 また、留学希望者を含め、学生（日本人・留学生）の英語コミュニケーション能力の伸長を目的とした、HUB-ICS (International Communication Space, http://www.ipotech.ac.jp/ics/index.html) が西 9 号館 1 階に設置されています。ここには、各種英語メディア（ニュース、雑誌）の提供の他、英語による各種イベントを行っています。ただし、学生の認知度が低いほか、イベントへの日本人学生の参加状況が芳しくないという現状があります。これに対し、ICS も学生を対象とした企画を最大限努力しながら行っているが、その広報・周知の方法は手探り状態であるということです。 なお、大学の公式業務として行ってはいませんが、留学生センターや東工大での外国語教育を管轄している外国語研究教育センター



	(http://www.flc.titech.ac.jp/) の各教員や相談室に問い合わせれば、ペンパルや母国語を教え合う Language Partner などを探す手伝いをも出来るということです。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	○広報活動充実の努力（留学生センター、ICS への提言） 英語での交流に興味関心があると考えられる学生として、例えば、 ・留学生 ・日本人学生留学希望・経験者 ・比較的レベルが高い英語語学講義、留学希望者向け講義の受講者 ・英語による講義（文明科目など）の受講者 ・TISA や SAGE、ESS など英語を用いるサークルのメンバー ・月曜英語カフェ（外国語研究教育センター）の参加者 などが考えられます。こういった学生に対し広報活動を行うことが、比較的效果が高いのではと考えます。 また、チラシやメールなどの一般的な広報はすでに実施されているということなので、例えば現在すでに実施されている英語に関わる活動を、ICS などにて実施することも、広報になるかと考えられます。例えば、語学、英語を用いた講義形式のイベント、月曜英語カフェをその場で実施できれば、英語に関心がある学生が、定期的に訪れることになるのではないのでしょうか。 ○学生への提言 現状分析より、国際交流のための場所とサポート体制は整っています。交流活動は学生主体で企画・運営・参加するものなので、実際にこれらの場所を訪れることで、自ら活動していくことも大切なのではないのでしょうか。

3.4.3 留学生への経済的支援

提言概要	留学生の生活における経済支援の不満解消が必要とされます。
学生の意見	留学生用の奨学金の現状に不満があると報告されています。
具体的内容	・ Give me financial aid and to finish master course so I can be able to go to doctoral course. ・ Must increase scholarship for privately funded qualified researchers. ・ More scholarship for qualified researchers. ・ 留学生に経済的な支援がほしい。（奨学金の種類や金額や機会などが増



3. サービス関連

	やしてほしい) 同様な意見が 11 件あります。
現状分析	・図 3.4.3-1 からわかるように、東工大における留学生の人数は近年増加傾向にあり、大学としても経済支援を含む支援が追いついていないとの認識があるそうです。 ・奨学金の数が増えることは現状ではとても難しいという報告を学生支援課のほうから受けました。 ・留学生センターでは学生支援課と協働して新入生オリエンテーションを実施しています。また、留学生はほぼ全員が日本語を履修するため、個々の留学生をある程度把握出来ているそうです。場合によっては、アルバイトの紹介など個人的相談に応じているケースもあるということでした。
学勢調査 2008 との比較	2008 年よりアンケートに応じた留学生の数は大幅に増えたものの、奨学金への不満は比較的少なくなったと見られます。これは、現在進行中の奨学金の制度が全体的な留学生の不満をある程度、解消したと考えていいと解釈できます。
提言案	■<u>留学生の生活支援の不満解消のため、生活費を正確に把握し、個人差を考慮したうえでの生活支援をやってみることを提案します。</u> 生活費を考慮したうえでの経済的支援をする考えを加えることが、奨学金に対する不満の解消につながるところがあると考えられ、支援方法の一部改善が必要と考えられます。

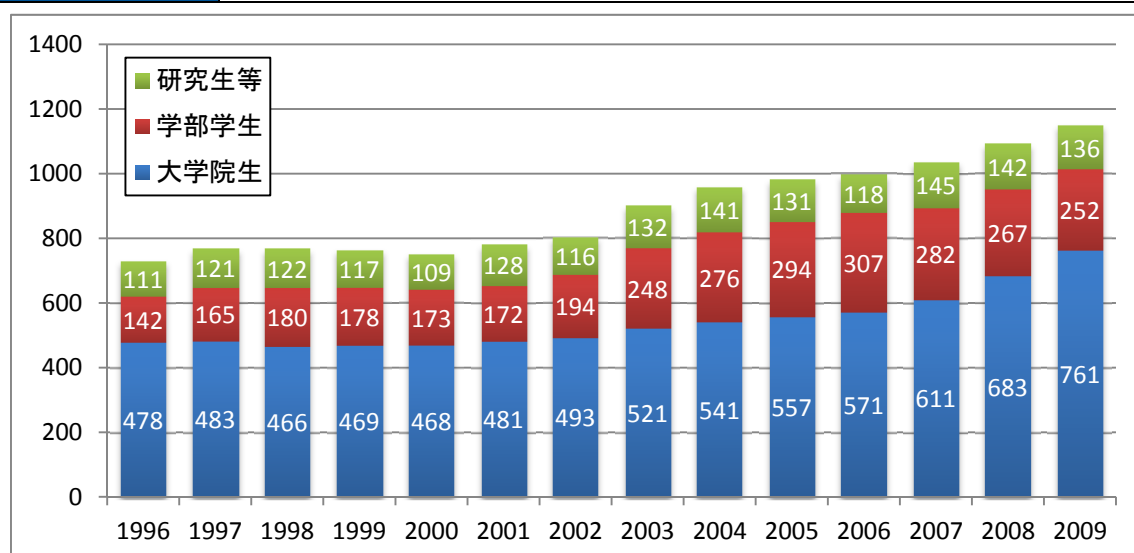


図 3.4.3-1 留学生の人数の変化



3.5 経済的支援関連

3.5.1 奨学金・授業料関係

提言概要	奨学金・授業料免除の広報強化によって、より必要とする者に支援する
学生の意見	奨学金・授業料免除の充実を求める声があります。
具体的内容	・可能であれば、給付型奨学金を充実させ、手続も簡略化して欲しい。 ・博士課程で最低限の生活費と授業料が保障される研究生活を送りたい。そうでなければ、いくらモチベーションがあっても入学することが不可能である。 ・授業料免除の予算を増やして欲しい。 (同様な意見が 32 件あります)
現状分析	給与型奨学金や、学費の減額を求める声が高まっています。図 3.5.1-1 から分かるように仕送りの少ない修士課程や博士課程の学生は多く、そのような学生からの意見が特によく見られました。 2010 年度前期の申し込み数と採用者数は給与奨学金が 485 名中 80 名、授業料免除が 933 名中 719 名となっています。 経済支援の充実を求める声は多いものの、学生支援課によると奨学金や授業料免除の増枠は、奨学財団や国の予算に依存するため非常に困難とのこと。 なお、今年度から奨学金の資料の連絡を新学期向けオリエンテーション内で行なったところ、昨年度に比べ応募数が多かったそうです。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	引き続き、ガイダンス等による奨学金や授業料免除に関する広報活動を強化し、経済支援が必要な人が確実に申請を行えるよう対策することを提言します。



3. サービス関連

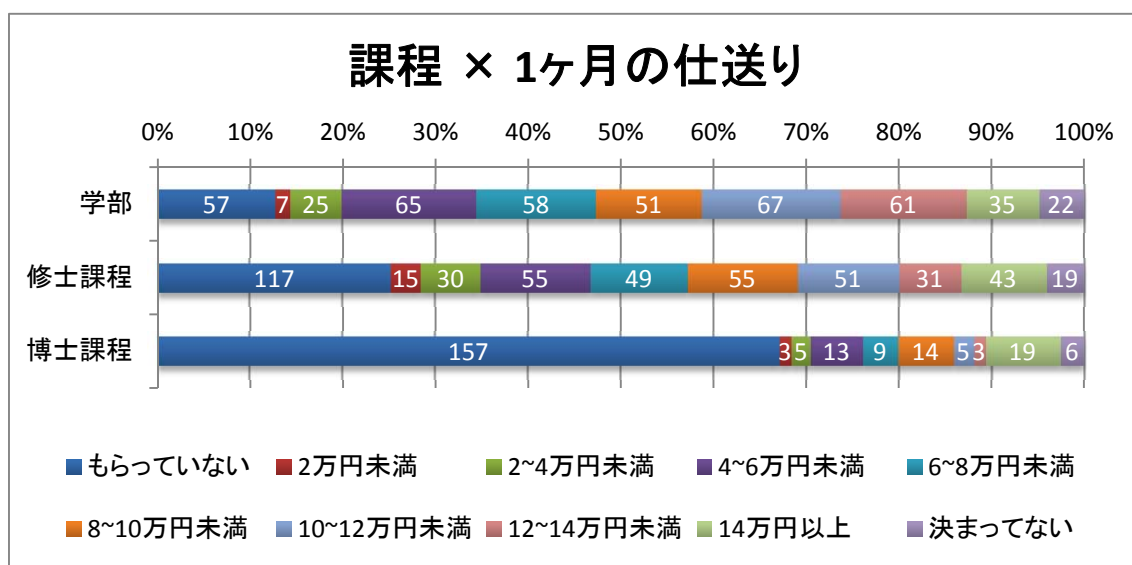


図 3.5.1-1 課題×1ヵ月の仕送り

3.5.2 TA・RA 関連

提言概要	TA/RA の「労働時間」基準の明確化・全学統一
学生の意見	TA/RA の待遇改善が求められています。
具体的内容	・博士課程に進学することになりましたが、研究生を送る上で金銭的に非常に厳しいです。TA/RA やアルバイトに関して補助を切望します。 ・ 1) TA 業務依頼の時点で、謝金額の話をすることを義務化する 2) 講義の準備など、業務時間数が分かりにくい場合は、何らかのチェックを行う といったことが必要ではないでしょうか。 (同様な意見が 6 件あります)
現状分析	TA/RA の待遇については専攻により大きな差が存在しています。その原因として、「どのような業務が業務時間として認められるか基準が定まっていない」ことが挙げられます。ある専攻では実働時間がほとんど 0 の場合でも謝金が振り込まれ、またある専攻では準備に数十時間のかけたとしても数時間分しか認めないなど格差があり、TA/RA は専攻が認める業務時間と実際の労働時間の乖離に対し不満を抱えています。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	専攻の認める「労働」の最低限度の基準を明確にし、それを全学的に統一することを提言します。具体的には、各研究室での TA/RA の実態を調査し、それを元に労働に該当する作業を設定を行い、その作業にかかる最低限度の時間を決めるといった事が考えられます



3.6 サークル関連

3.6.1 サークル支援体制の向上

提言概要	サークルとの話し合いの場を設ける
学生の意見	サークル活動、課外活動をもっと積極的に支援してほしい
具体的内容	・東工大は、研究面でのサポートは充実していると思いますが、サークル活動への関心は薄いように感じています。講義室の開放や補助金等について、もっと真剣に検討してください。 ・技術系サークルには大学を挙げての支援を望みたい。 (合計 8 件、原文まま)
現状分析	東工大には数多くの公認サークルが存在しますが、このようなサークルに対する東工大の支援体制は整っていないのが現状です。この背景として、サークル同士およびサークルと大学とのコミュニケーションが欠けている可能性が考えられます。というのも、体育系サークルは毎月 1 度代表者会議を開き、情報交換を行っています。それ以外のサークルではそのような場がありません。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	・定期的にサークルとの話し合いの場を設けることを提言します。 課外活動の補助金にも限度があり、サークルへの支援としてできることは限られるかもしれませんが、話し合いの場でお互いの事情を共有することで解決する問題もあるので、話し合いの場を設けることが重要だといえます。

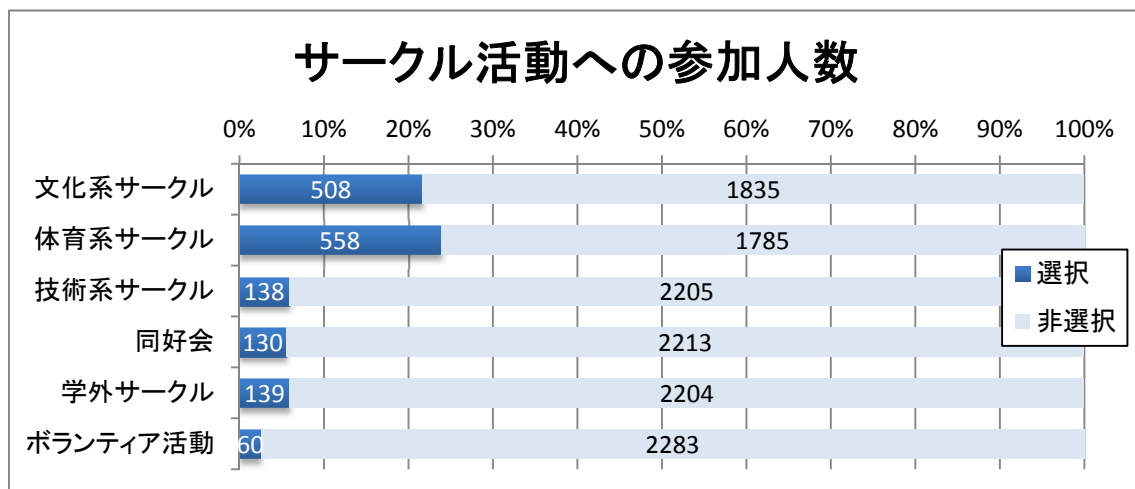


図 3.6.1-1 課外活動への参加人数



3. サービス関連

3.6.2 サークル使用設備の開放について

提言概要	現在の使用実態に合わせた使用規則を、話し合いにより作成する。
学生の意見	講義室およびサークル棟の利用拡大を求める意見があります。特に、講義室や備品の貸し出しの拡大、またサークル棟使用時間の延長を求める意見があります。
具体的内容	・サークルに対して講義室の貸出状況が悪すぎる。サークルに何の説明もせず規制を強化するとは大人気ない。休日も講義室を使わせて欲しい。サークル棟の器物損壊やボヤ騒ぎ等いろいろ解決しなければならない問題があるが、今はただ大学側が力で無理やり抑えている状況だ。そんなにサークル活動がうっとおしいなら、開き直って「東工大はサークル活動を推奨しない」と内外に発表すればいいのではないか。 ・サークル棟の利用時間(8:30-20:00)についての規則があるが、多くのサークルにとって実情とあっていなく、最近その規則を徹底する動きがある。規則を変えるかももう少し柔軟な対応が必要だと思う。 ・ボヤ騒ぎでサークル棟の使用時間の厳格化が通達されたが、実情に則さず、また活動に支障をきたす。また、使用時間の厳格化と火災防止の因果関係が見えない。 同様な意見が 24 件あります
現状分析	最近、サークルの講義室やサークル棟の使用に関して、規則を厳守させる方向で検討が進んでいます。これには、特定のサークルによるサークル棟の器物損壊やボヤ騒ぎがあったことが背景としてあります。 そもそも、従来からサークルによるこれらの施設利用についての規則は明文化されてはいたものの、そこまで厳密には守られておらず、大学側もそれをある程度は黙認していました。そのため、最近になって急にサークルに対する規則が厳しくなったという学生側の認識とは実際は異なっているようです。とはいえ、急に規則を厳密に運用することになればサークルからの不満が出ることは必至で、実際サークル側からはサークルの実態にそくしていないとの声が寄せられています。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	規則の厳格化の原因はサークル側にありますが、以前と比べ大幅に方針転換している点や、厳格化がサークル活動へ大きく影響を与えている点、原因となったサークルが一部のサークルである点など多くのサークルにとって納得しづらい面もあります。なので、サークル側との大学側との話し合いの場を設け、この問題に関して話しあうことを提言します。その際、大学側としては規則の厳格化に関わった人に出席してもらうようお願い



	します。
--	------

3.6.3 サークル棟について

提言概要	サークル棟を整備、清掃し、また新設する。
学生の意見	サークル棟が古い上に汚く、また耐震の面で不安であるとの意見が寄せられています。
具体的内容	・予算の面で厳しいと思いますが、あまりに古いサークル棟など、もう少し改善してほしい。 ・サークルの規模と割り当てられた部屋の大きさが不適切。50人以上でサークル棟4の一室というのはあまりにも酷すぎる。狭い中での工作機械の使用は非常に危険である。 今一度サークル棟の使用状況を把握し、部屋の割り当てをしなおすべきである。 ・所属しているサークルの人数に対して部屋が狭く、地震が起きたら危ないぐらい物が密集しているので、人数に合った部屋割りを考えて欲しい。 (合計 26 件、原文まま)
現状分析	サークル棟の耐震強度の問題については、命に関わる重要な問題ですが、南5号館など他の建物の耐震補強も進んでいないといった実情があり、早期解決は難しいようです。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	サークル棟の改築や新設に関しては実現が難しい問題ではありますが、いつかは対処しなければいけない問題なので他の建物との優先事項を考慮しつつ検討してもらえればと思います。 サークル棟の清掃に関しては、サークルとの話し合い場を設けそこで具体的に学生の意見を聞き、現状の清掃状況が十分かどうかを判断してもらうようお願いします。



3.7 事務職員の対応に関して

3.7.1 事務職員の対応に関して

提言概要	事務職員の学生への対応について引き続き改善をして欲しい
学生の意見	事務職員の態度が不適切（同様の意見が計 95 件）
具体的内容	・事務対応は、質問にスパッと答えていただけないことが多いです。それは担当者がいないとか、やったことがないとか、この書類でいいんじゃないかな？とか、不安になることがたびたびありました。 ・学生に対してタメ口で応対する方がいるが、見下されているように感じてしまう。 銀行などではないのでそこまで丁寧な応対を求めるべきでもないが、ですます調で応対するくらいは心がけてほしい。 ・事務職員の方の中で対応に非常な差があるように感じます。 ほとんどの方は気持ち良い対応をしてくださるのですが、態度の悪い方が一部居られると思います。 言葉が悪いようですが学生をなめたような態度は改めるべきだと思います。 (原文まま)
学生の意見	事務職員の態度良い、良くなった（同様の意見が計 26 件）
具体的内容	・とても丁寧に対応していただけてます。 ・教務課の対応は良いと思う。 ・学生支援センターの方々はいつも親切に対応してくれる。 ・すずかけ台の事務職員の対応は 3 年前に比べ格段に良くなった。 (原文まま)
現状分析	事務職員の態度が悪いという意見と良いという意見の両方が見られましたが、悪いという意見の数が前回に比べて減っているようなのである程度改善はされているようです。それは図 3.7.1-1 から読み取れます。 ただ、現在でも「言葉遣いや挨拶がなっていない」や「対応が適切でない」、「対応が冷たい・固い」といった不満は多いので引き続き改善していく必要があるかと考えられます。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	事務職員の対応に関しては引き続き改善していくようお願いします。 なお、学生の詳細な意見に関しては関係部署へ別途送付しますので、それを参考に対処をお願いします。



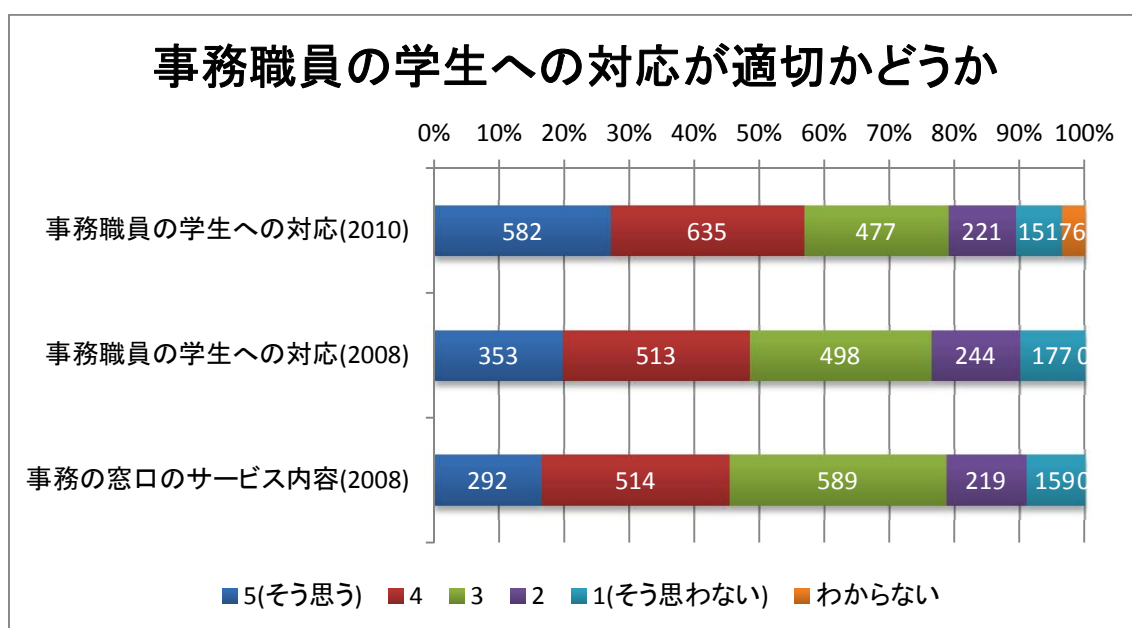


図 3.7.1-1 2008・2010×事務職員の学生への対応



3.8 その他意見

提言概要	証明書発行機の稼働時間の延長
学生の意見	証明書発行機の稼働時間の延長や操作性の向上
具体的内容	- 書類関係は証明書発行機を 24 時間稼働させれば可能なのではないだろうか？ - 本館 1 階の自動書類発券機の操作性が悪い（選択に時間がかかるとすぐにカードが戻ってきてしまい、何度も PIN コード入力から始めなければならない）。 - 田町キャンパスに証明書発行機の設置。 （原文まま）
現状分析	現在是对应する職員の勤務時間に合わせて 8 時 30 分～18 時（すずかけ台に関しては 17 時 30 分）までしか証明書発行機は利用できません。なお、証明書発行機の稼働時間延長については学生からも強い要望があったため、延長の予定とのことです。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	- 証明書の稼働時間延長については、学生の意見が反映された延長が行われるようお願いします。 - 操作性に関しては、学生の意見を反映し操作性を改善するような試みをするようお願いします。 具体的には、大規模でなくてもいいので学生へのアンケートや聞き取り調査を行うことなどが考えられます。

提言概要	女子学生・女性研究者対象セミナーの開催曜日の調整
学生の意見	女子学生・女性研究者対象のセミナー
具体的内容	女子学生・女性研究者対象のセミナー等が開催される木曜日に研究室の行事が重なり、一度も参加できず残念。曜日に幅があるとうれしいが、セミナー自体が少ないので難しいだろうかとも思う。
現状分析	女子学生・女性研究者対象のセミナー等を同じ曜日に開催するのは、セミナーに参加したいがその曜日が都合悪い人にとっては行きにくい。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	女子学生・女性研究者対象のセミナーについて、なるべく曜日をばらして行うようお願いします。



提言概要	安全衛生講習の実施内容の検討をすべき
学生の意見	安全講習関係
具体的内容	・春に行われた安全衛生講習の内容の半分ほどが本質的でなく、散漫でした。この種の講習については要点を短時間で把握できることが最優先なので、内容と構成を吟味していただきたいと思います。
現状分析	安全衛生講習に関しては、総合安全管理センターにて一部ビデオ配信を行っていたりもしている。それにも関わらず、実際に講習会を開く意図が明らかになっていない。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	次回内容の検討の際、学生の意見を参考にしてもらえればと思います。

提言概要	一人でも多くの学生に家庭教師の紹介をできるようにするべき。重複の起きないようなシステムを導入するべき。
学生の意見	家庭教師関連
具体的内容	・家庭教師を希望する学生の為の依頼の斡旋では、希望者が多く抽選になる場合が多いですが、すでに東工大から依頼を受けている学生が追加の斡旋を取るために何度も抽選を受けていたりします。登録制にするなどして一人の学生ばかりが仕事を独占しないように管理してはいかがでしょうか。大したソフトはいらないと思います。Excel などでも簡単にできるはずです。全体としては、学生生活サービスに満足しております。自分の利用方法次第でとても有効に活用できると思います。ありがとうございます。
現状分析	現状として、家庭教師は登録・抽選制となっているが、1人の学生が何人も重複して家庭教師ができるようになってしまうなど、均等に機会が回ってこないという問題があります。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	学生からの意見を参考に、システムの検討を行ってもらえればと思います。

提言概要	田町にも教務課の出張所を作るべき。
学生の意見	田町キャンパス関連
具体的内容	・田町に教務課等事務方の出張所を作ってほしい。たとえば、東大 MOT の科目履修申請のためだけ会社を休んで大岡山には行けない。
現状分析	現状として、社会人学生は田町キャンパスに教務課の出張所がない



3. サービス関連

	め、書類提出のためだけに会社を休んでまで大岡山まで行かざるをえないという現状にあります。 本件に関して、田町キャンパス内のイノベーションマネジメント研究科の事務室を教務課の代行をできないかと大学に質問をしたところ、研究科との調整が必要不可欠だという回答が返ってきました。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言案	田町キャンパスのイノベーションマネジメント研究科の事務室と連携を取って、大岡山に書類を送れるようにするようお願いします。



4. 施設関連

重要性が高い項目

4.1 レストスペース（安心して仮眠が取れる場）

4.1.1 レストスペース（安心して仮眠が取れる場）新設

提言概要

研究内容や実験内容によっては、学校に泊まりこんで研究をせざるを得ない学生もいます。そういった学生のためにも、安心して仮眠がとれる場としてレストスペースを設置することを提言します。

学生の意見

学内に新たに欲しい施設として、もっとも要望が多かったものはレストスペースです（図 4.1.1-1 所属別欲しい施設）。また、学年によって多少のばらつきはあったものの、どの学生からも強い要望が見られました。

学科や専攻別にみると、建築学科・金属工学科・生体分子機能工学専攻からの要望が多いです。（図 4.1.1-2 類・学科・専攻×レストスペース要望率）。

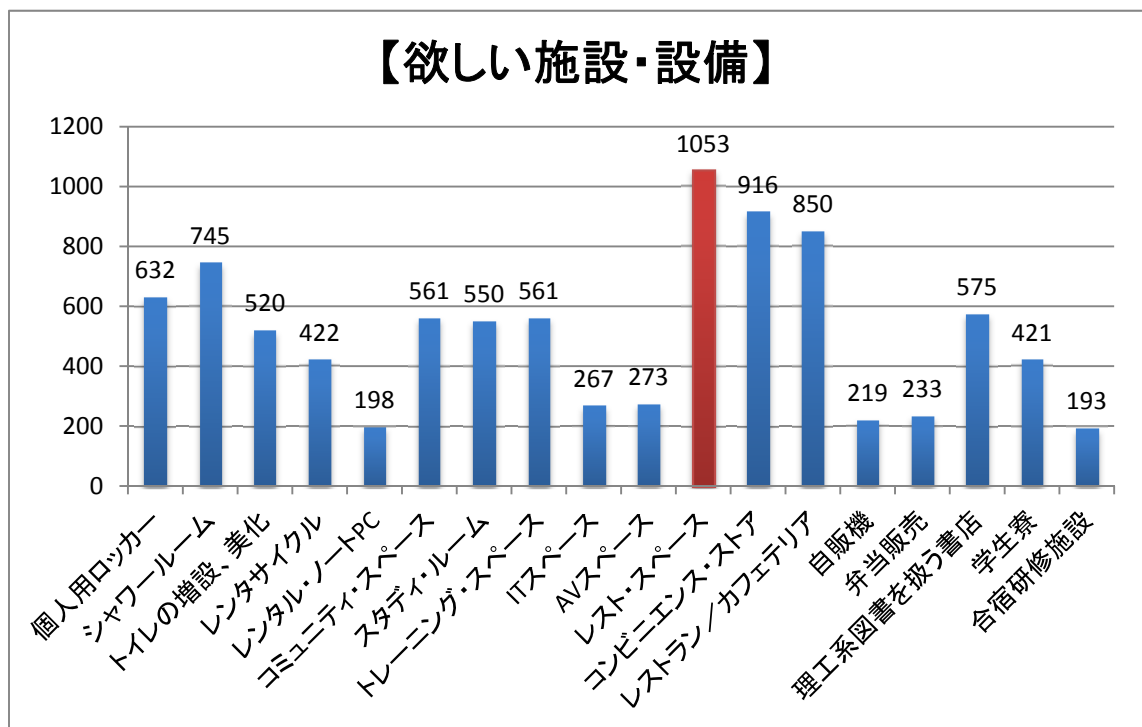


図 4.1.1-1 欲しい施設



4. 施設関連

1類		38%	材料工学専攻		55%
2類		25%	有機・高分子物質専攻		58%
3類		31%	応用化学専攻		45%
4類		54%	化学工学専攻		41%
5類		34%	機械物理工学専攻		43%
6類		41%	機械制御システム専攻		44%
7類		45%	機械宇宙システム専攻		48%
			電気電子工学専攻		39%
数学科		39%	電子物理工学専攻		32%
物理学科		47%	集積システム専攻		45%
化学科		52%	土木工学専攻		40%
情報科学科		56%	建築学専攻		53%
地球惑星科学科		61%	国際開発工学専攻		44%
金属工学科		73%	原子核工学専攻		25%
有機材料工学科		65%	分子生命科学専攻		55%
無機材料工学科		40%	生体システム専攻		48%
化学工学コース		52%	生命情報専攻		46%
応用化学コース		30%	生物プロセス専攻		50%
高分子工学科		39%	生体分子機能工学専攻		85%
機械科学科		56%	物質科学創造専攻		41%
機械知能システム学科		55%	物質電子化学専攻		59%
機械宇宙学科		52%	材料物理科学専攻		33%
国際開発工学科		53%	環境理工学創造専攻		50%
制御システム工学科		46%	人間環境システム専攻		58%
経営システム工学科		24%	創造エネルギー専攻		47%
電気電子工学科		51%	化学環境学専攻		50%
情報工学科		39%	物理電子システム創造専攻		44%
土木・環境工学科		36%	メカノマイクロ工学専攻		31%
建築学科		74%	知能システム科学専攻		39%
社会工学科		44%	物理情報システム専攻		52%
生命科学科		59%	数理・計算科学専攻		27%
生命工学科		46%	計算工学専攻		40%
			情報環境学専攻		52%
数学専攻		43%	人間行動システム専攻		14%
基礎物理学専攻		39%	価値システム専攻		46%
物性物理学専攻		47%	経営工学専攻		53%
化学専攻		53%	社会工学専攻		50%
地球惑星科学専攻		45%	技術経営専攻		33%
物質科学専攻		53%	イノベーション専攻		25%

※上位3項目を赤字で表記

図 4.1.1-2 類・学科・専攻×レストスペース要望率



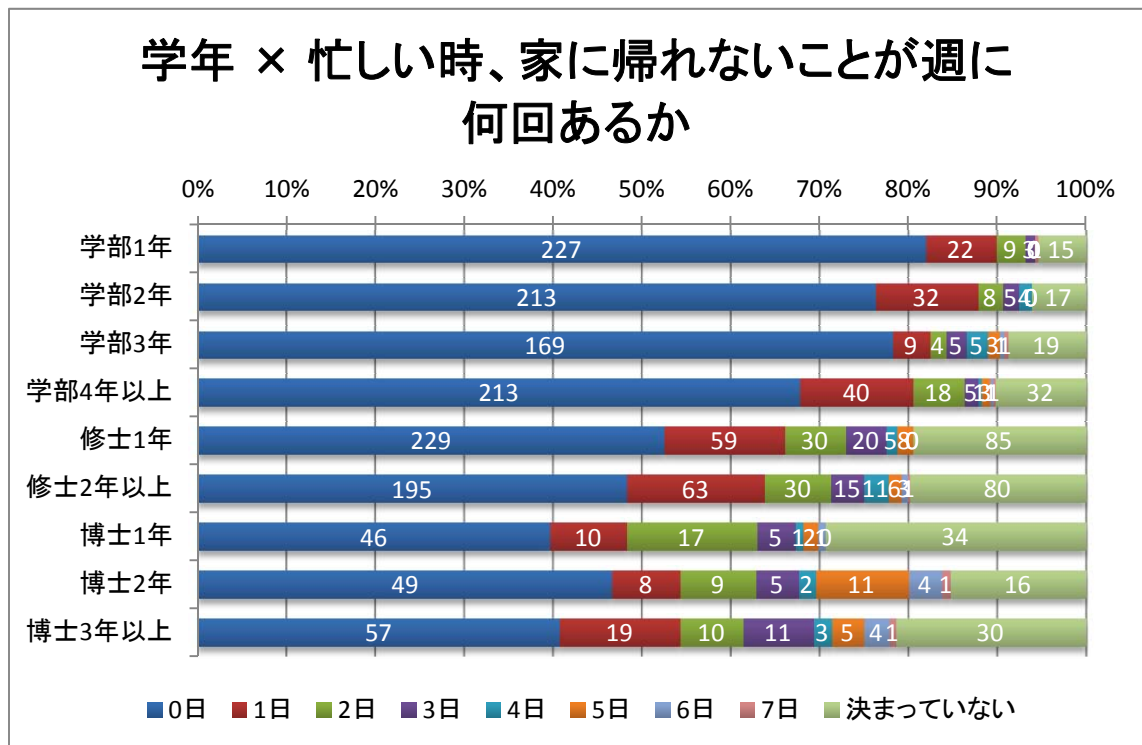


図 4.1.1-3 忙しい時、家に帰れないことが週に何回あるか × 学年

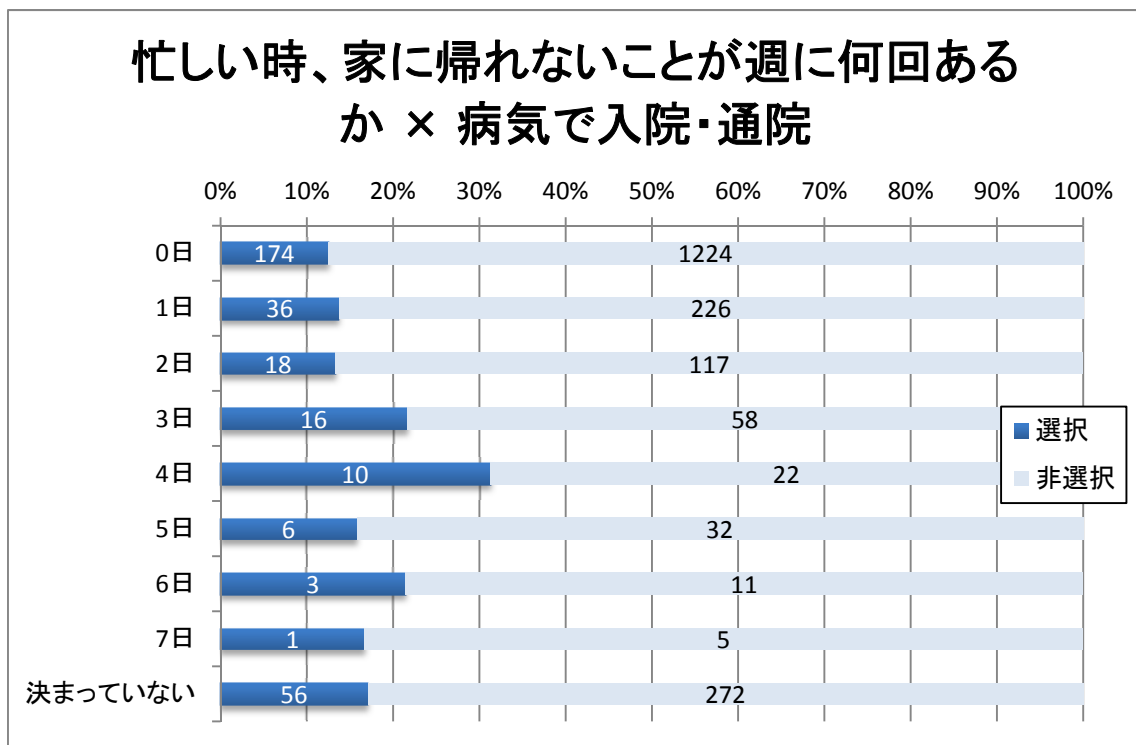


図 4.1.1-4 忙しい時、家に帰れないことが週に何回あるか × 病気で入院・通院



具体的意見

- ・仮眠室が欲しい（同様の意見が 34 件あります）
- ・女性が安心して仮眠できる部屋がほしい。（同様の意見が 2 件あります）
- ・寝泊りできる施設がほしい（同様の意見が 5 件あります）

現状分析

研究室に所属している学部 4 年生以上の方は、実験の性質や追い込みの時期によって、学校への泊まり込みがやむを得ないこともあります。実際、図 4.1.1-3 からわかるように、修士以上の人の過半数が忙しい時には家に帰れない日があると答えています。

忙しくて家に帰れず、満足な休息が取れないことは学生の健康へ悪影響を与えている可能性があります。誤差の範囲かもしれませんが、図 4.1.1-4 をみると、忙しい時に家に帰れないことがある人のほうが病気での入院・通院していることが読み取れます。

レストスペースがあれば、十分に休息がとれ、かつ安心して学業に専念できます。また、学生の健康管理の観点からも良いと考えられます。

現在、大岡山北地区にある保健管理センターでは、体調の悪い生徒が仮眠することにも使えるベッドを用意していますが、原則として心身のコンディションがすぐれない方に休養をとってもらうためのものなので、仮眠専用のベッドというわけではありません。

また、生命理工では学生・職員が利用出来る女性休養室を設置しており、日中仮眠できるようになっています。しかし、利用率としては職員の方が多く、学生の多くは 1 階ピロティを利用しているため、学生のためのレストスペースとして十分ではないようです。

このように、現在でもレストスペースに近いものはいくつかありますが、それが学生の望むレストスペースとは異なっています。

学勢調査 2008 との比較

前回提言書において、2011 年秋開館予定の新図書館に実験的にでもレストスペースを導入するという提案をしましたが、これは実現されませんでした。

具体的提言

各学科・専攻の学生の要望や泊まりこみ状況に応じ、レストスペースの設置を前向きに検討することを提言します。特に、**新規に建物を建てる際にはその建物を使う予定の学生の意見を調査し、レストスペースの設置を判断するよう提言します。**

なお、どのような形でレストスペースを設置するかについては、運営の関係上もあると思いますが、学生の意見が反映されるような形のレストスペースになるように学生の意見を収集する努力をすることをお願いします。具体的には、学生との意見交流会やアンケートなどを行うことで学生の意見を取り入れるようお願いします。



項目別提言

4.1.2 シャワールームの改善

提言概要	シャワールームを新設や、シャワールームの利用方法の公開
学生の意見	シャワールームを新設して欲しい。 シャワールームの利用方法について提示して欲しい
具体的内容	・これだけ帰宅できずに泊まり込む人が多い大学なのだから、シャワールームがあってもいいと思う。 ・西9のシャワーを使わせてほしい ・G3棟1階の女子シャワー室がいつも鍵が閉まっていて、いつ使えるのかわからない。使えるようにして欲しい。もしくは使い方についてわかるよう掲示して欲しい。 （同様の意見が41件あります）
現状分析	図4.1.2-1のグラフのように、シャワールームを望む人は研究室に所属している学部4年生以上で要望が多いことがわかるこのことから、レストルームと同様で研究で忙しい人たちにシャワールームが望まれていることがわかりました（図4.1.2-1 学年×欲しい施設（シャワールーム））。欲しい施設の要望としてシャワールームは4番目に多かったことから学生からの要望が強いことがわかります（図4.1.1-1）。 なお、類・学科・専攻別のシャワールームの要望は図4.1.2-2のようになり、レストスペースの際と異なる傾向となっています。これは現状でシャワールームがあるかどうかの影響していると思われます。
提言	レストスペース同様、各学科・専攻の学生の要望や泊まりこみ状況に応じ、シャワールームの設置を前向きに検討することを提言します。特に、新規に建物を建てる際にはその建物を使う予定の学生の意見を調査し、レストスペースの設置を判断するよう提言します。 また、現在使用可能なシャワールームがどこにあるのか、いつ使用可能なのかをまとめ、利用条件なども載せた上で公開することを提言します。なお、専攻内の学生などに利用を制限している場合にはそれを専攻学生にわかるように明示することも必要かと思われます。



4. 施設関連

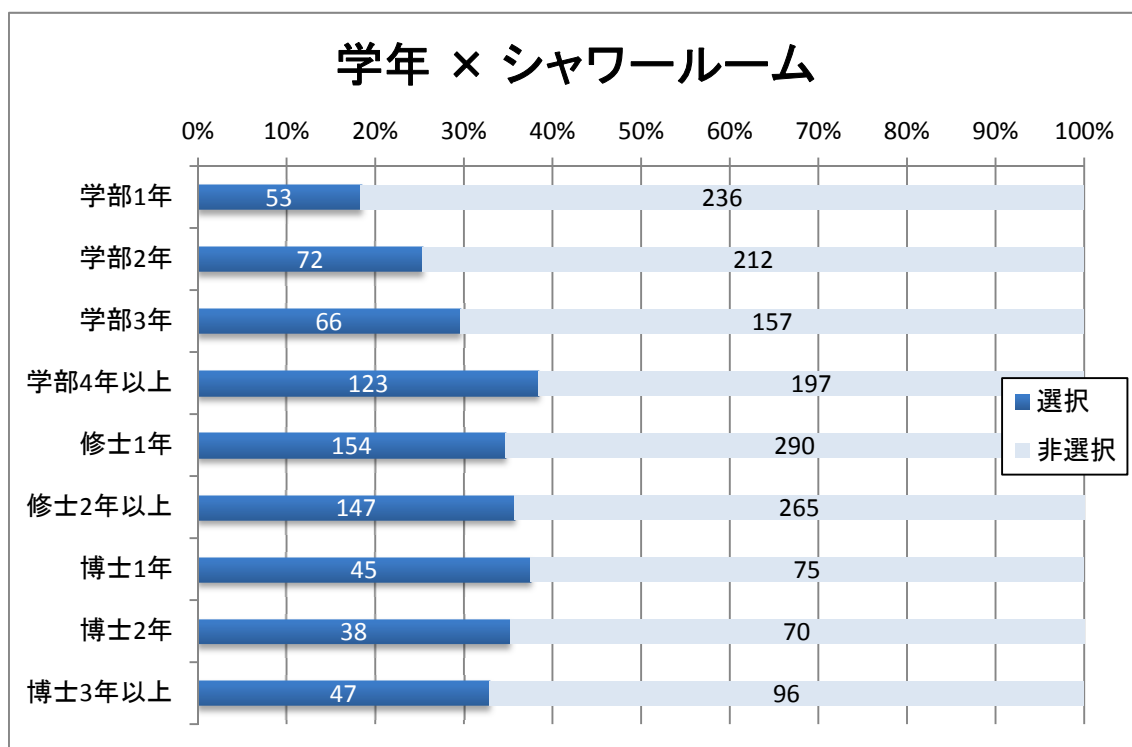


図 4.1.2-1 学年×欲しい施設（シャワールーム）



1類	20%	材料工学専攻	48%
2類	25%	有機・高分子物質専攻	58%
3類	21%	応用化学専攻	45%
4類	27%	化学工学専攻	41%
5類	19%	機械物理工学専攻	37%
6類	18%	機械制御システム専攻	41%
7類	33%	機械宇宙システム専攻	32%
		電気電子工学専攻	29%
数学科	22%	電子物理工学専攻	48%
物理学科	18%	集積システム専攻	38%
化学科	15%	土木工学専攻	32%
情報科学科	19%	建築学専攻	27%
地球惑星科学科	35%	国際開発工学専攻	26%
金属工学科	47%	原子核工学専攻	38%
有機材料工学科	30%	分子生命科学専攻	36%
無機材料工学科	28%	生体システム専攻	33%
化学工学コース	19%	生命情報専攻	54%
応用化学コース	12%	生物プロセス専攻	50%
高分子工学科	35%	生体分子機能工学専攻	35%
機械科学科	29%	物質科学創造専攻	38%
機械知能システム学科	25%	物質電子化学専攻	18%
機械宇宙学科	31%	材料物理科学専攻	42%
国際開発工学科	28%	環境理工学創造専攻	31%
制御システム工学科	38%	人間環境システム専攻	29%
経営システム工学科	47%	創造エネルギー専攻	33%
電気電子工学科	32%	化学環境学専攻	39%
情報工学科	34%	物理電子システム創造専攻	28%
土木・環境工学科	36%	メカノマイクロ工学専攻	25%
建築学科	48%	知能システム科学専攻	29%
社会工学科	36%	物理情報システム専攻	42%
生命科学科	44%	数理・計算科学専攻	27%
生命工学科	31%	計算工学専攻	28%
		情報環境学専攻	28%
数学専攻	14%	人間行動システム専攻	19%
基礎物理学専攻	39%	価値システム専攻	54%
物性物理学専攻	27%	経営工学専攻	24%
化学専攻	27%	社会工学専攻	43%
地球惑星科学専攻	55%	技術経営専攻	8%
物質科学専攻	40%	イノベーション専攻	25%

※上位3項目を赤字で表記

図 4.1.2-2 類・学科・専攻×シャワールーム要望率



4.2 リフレッシュルームについて

4.2.1 リフレッシュルーム利用時間の延長

提言概要	リフレッシュルーム利用時間の延長
学生の意見	施錠時間が早いという意見がありました。また、実験が深夜に及ぶときの仮眠や休憩、遅くまでレポートに取り組むために 24 時間開放にしてほしいという声もありました。
具体的内容	・夜遅くまで、もしくは休日に勉強できるスペースがほしい。 (同様の意見が 7 件ありました。) ・24 時間利用可能な空間を用意して欲しいです。 研究室に所属すれば必要ありませんが、それまでは夜中にレポートを書いたり勉強したい時に利用できるスペースが全く有りません。 (原文ママ) ・学生が何かプロジェクトを起こした際、一番困るのはミーティング場所だと思います。そのために、講義室や、リフレッシュルームを休日や深夜でも利用出来るように整備して欲しいと思っています。 (原文ママ)
現状分析	リフレッシュルームは学科・専攻・建物により管理が異なっています。管理が複雑なために、今回の調査では全てのリフレッシュルームの開放時間を把握することはできませんでした。しかし、夕方 5 時に施錠されるリフレッシュルームが確認されており、学部生が 7・8 時限目の授業後に利用することができません。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	学科・専攻・建物ごとで異なる事情があり実現は難しいとは思いますが、学生からの意見を参考に前向きに検討してもらえればと思います。 具体的には、飲食などの利用マナーを決めた上で、利用時間の延長を検討していただければと思います。

4.2.2 リフレッシュルームの管理の見直し

提言概要	リフレッシュルームの管理の見直し
学生の意見	自由記述より、リフレッシュルーム清掃が行き届いておらず衛生面の不安を感じる学生の声や、またリフレッシュルームの施錠が一日中かかったままで利用できなかったという学生の声がありました。
具体的内容	・南 2 号館のリフレッシュルームが汚く夏場虫が出るので



	何とかしてほしい。(原文ママ、同様の意見が3件ありました)
現状分析	以前、学生証認証付で深夜も利用できたリフレッシュルームがありましたが、学生の利用マナーに問題があったために現在は利用できなくなったという例がありました。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	流し台の併設されているリフレッシュルームで会食を行う学生もいます。そういった学生の利用マナーの向上も必要ですが、今一度衛生管理体制を確認していただきたいと思います。

4.2.3 オープンスペースの増設

提言概要	利用者制限のないオープンスペースの増設
学生の意見	学部生が昼食をとったり空き時間を過ごしたりする場所が少ないという声、学科や専攻によっては自由に使えるリフレッシュルームが限られていて困っているという声がありました。
具体的内容	・ 学生がリラックスできる場が少ない。生協は混みすぎるしリフレッシュルームは専攻外の人には使いにくい。(原文ママ)(同様の意見が7件ありました) ・ 特に1年次はサークルに所属していないと授業がない時間帯にいる場所が無いので、そういったときに利用出来る場所を増やして欲しい。(原文ママ) ・ 友達と相談しながら勉強できるスペースがほしい。(原文ママ)
現状分析	図 4.2.3-1 にあるように、コミュニティ・スペースに関する要望は学部1～3年生に多く、これは研究室に所属していない学生が利用できるリフレッシュルームが限られていることを反映していると考えられます。 現存のオープンスペースとしては、西9号館の2階ロビーを奥に入ったところにある飲食・雑談可能なオープンスペースがあり、よく学生に利用されています。椅子も机もあり、玄関階ということで、学部生にも利用しやすく感じられていると考えられます。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	研究室所属していない学部生の居場所として、飲食・雑談可能なコミュニティ目的のオープンスペースの増設を提案します。



4. 施設関連

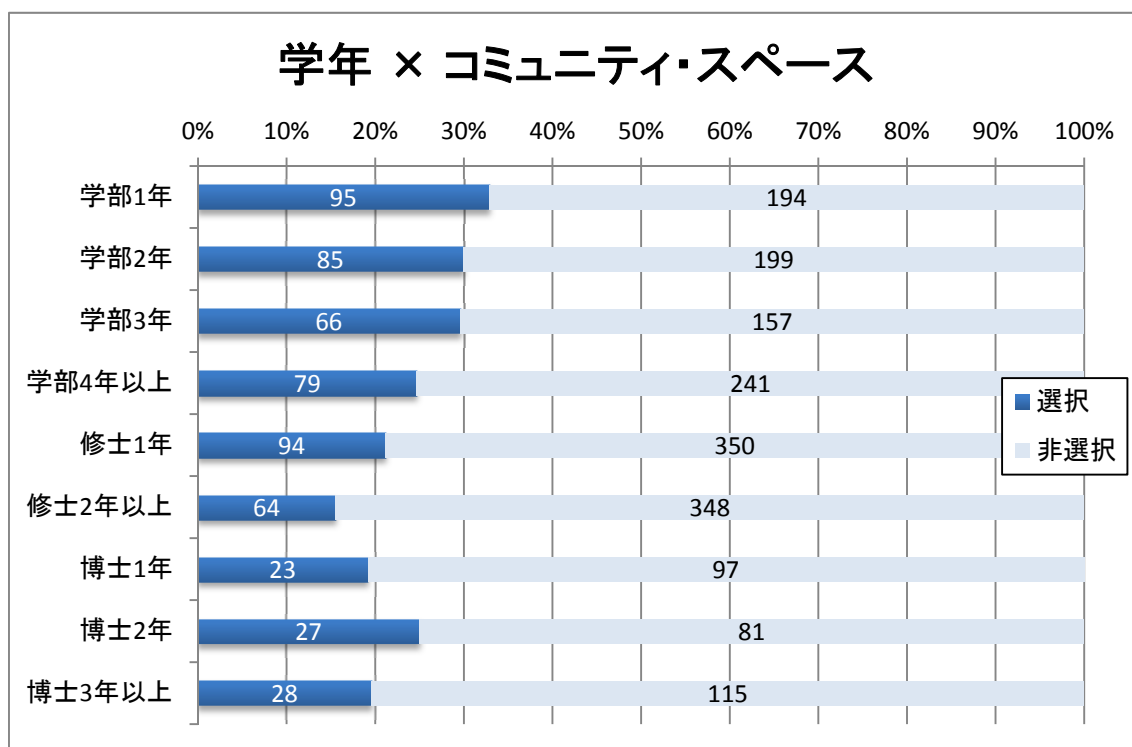


図 4.2.3-1 学年×欲しい施設（コミュニティ・スペース）



4.3 学生寮について

4.3.1 学生寮を改善して欲しい

学生の意見	学生寮を改善して欲しい
具体的内容	・学生寮（男子）が遠い上に年数制限があるのでは安心して利用できない ・青葉台の学生寮が古すぎる。とても“学ぶ”ための寮とは言えない。 ・It would be nice if there were dormitories available for international students after the first year. （同様の意見が 26 件寄せられました。）
現状分析	自由記述からの意見として、寮がキャンパスから遠すぎる、設備が古くて不十分、年数制限などの制約があるといった意見が見られました。それから、欲しい施設・設備の設問の結果から、調査に回答してくれた留学生の半分以上は学生寮が必要だと思っていることがわかりました。また、東工大における留学生の数は年々増加しており、寮に対する需要も今後増えていくことが予想されるので、何らかの対策が必要だと考えられます。 このことを踏まえ、学生支援課に問い合わせたところ、以下のようなお話を聞くことができました。 「大学側としても既存の学生寮の施設・設備に不満が多いことは把握していますが、様々な都合で建て替え等は難しく苦勞しています。なお、新たな学生寮を確保するため、昨年から大学としても本格的に力を入れて取り組んでおり、具体的には、今まで、国際室や教育推進室などが個別で学生寮の確保に動いていたのをやめ、大学の学長、理事及び各部局等の長で構成される「21 世紀の個性輝く東京工業大学検討委員会」の下に、全学組織として寮整備検討部会を設置し、そこで一括して学生寮の確保等について検討を行うようにしました。」 実際、現在その部会が主導して、すずかけ台ハウスの取得について検討を進め、研究者を含めた学生向けの寮を確保するための手続きが進行中とのことです。また、学生へアンケートを行い、どのような寮であれば学生のニーズに合うのかについても、今後、調査していく予定とのことです。
提言	今後も留学生の数は増加すると考えられるので、それに応えられるように学生寮の設備を充実させていくこと、そして、学生寮は快適に学生生活・研究活動を行うためのものである、それに適した立地条件や設備を確保することを寮整備検討部会にて行っていくようお願いします。



4. 施設関連

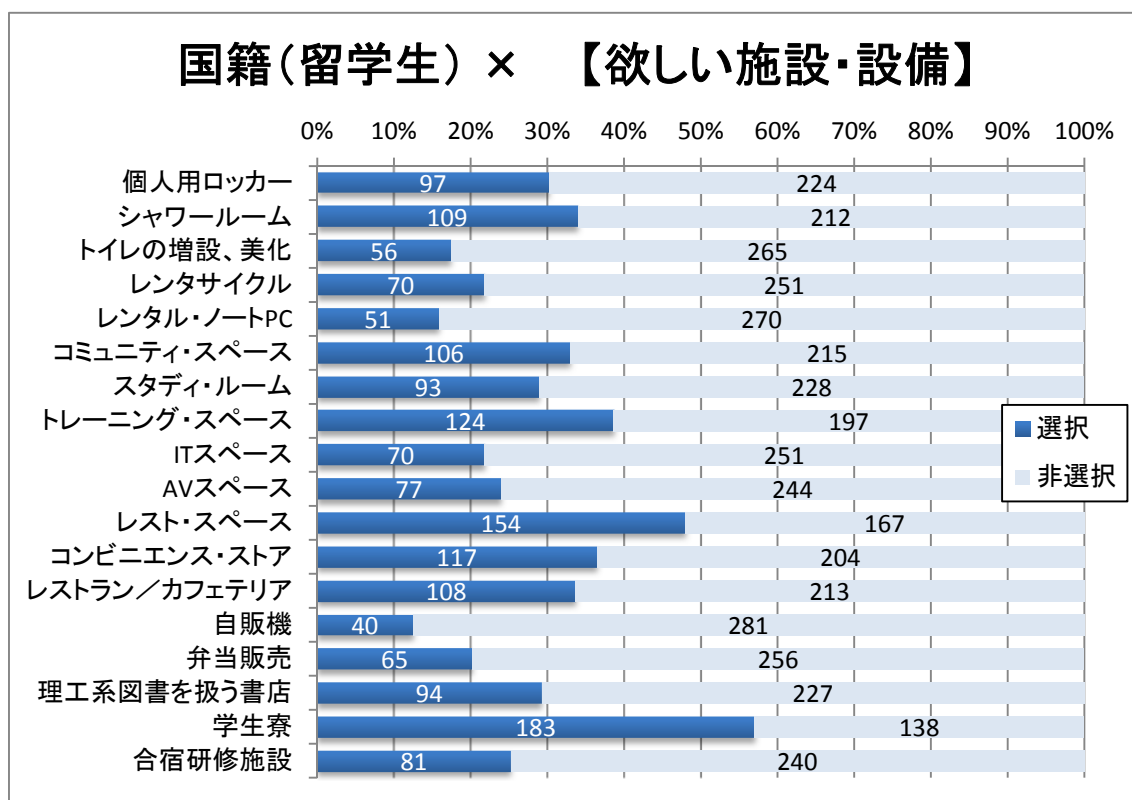


図 4.1.3-1 留学生 × 【欲しい施設・設備】



4.4 喫煙について

4.4.1 喫煙場所の位置が不適切

提言概要	喫煙場所の位置が不適切
学生の意見	図 4.4.1-1 に示したように、現在の喫煙場所に不満を持つ声が多く、半数の学生が喫煙場所を減らしてほしい、または移転してほしい、と述べていることがわかります。 一方で、喫煙場所を増やしてほしいという意見は 6 件、風雨の影響を受けない場所への設置は 4 件でした。また、全面喫煙の意見は 48 件でした。
具体的内容	・通路脇・入り口付近に喫煙場所がある場所が多く、(S6 号館など) あまり分煙としては機能していないように思います。可能ならば密閉された喫煙室を用意してほしいです。 ・西 9 号館入口の喫煙所を移動してほしい。「誰もが通る場所」ではないところに設置してほしい。 ・J2 棟の 1 階出口に喫煙所を設けるのは止めてほしい。 (同様の意見が 188 件あります)
現状分析	実際の喫煙場所を確認したところ、南 6 号館の入り口や、南 1 号館ピロティ出入り口脇など、人通りの多い場所に指定喫煙場所が設置されている場所もありました。これら学内の指定喫煙場所は、地区ごとの安全衛生委員会によって決められています。出入り口付近に設置されているのは、利用者の利便性を考えてのことだそうです。しかし、委員会の方でも人通りの多い喫煙場所に対しては不適切だと認識しており、委員会に要請があった場合には、移転または廃止を検討するそうです。実際に委員会に要請があり、移転した例もあります。出入り口などを避けて屋内に喫煙室を設置してはどうかという意見に対しては予算的に難しいとのことでした。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	今回の調査でとくに不満の声が多く寄せられた喫煙場所や不適切と思われる喫煙場所を、その地区の安全衛生委員会に廃止または移転の検討を要請することを提案します。今回の調査で不満の声が寄せられた喫煙場所は、S 6 号館入り口脇、W 9 号館入り口脇、J 2 棟出口脇、S 1 号館ピロティ脇です。移転の検討をお願いします。なお、学生からの詳しい記述については別途お送りしますので、それを参考に検討していただければと思います。



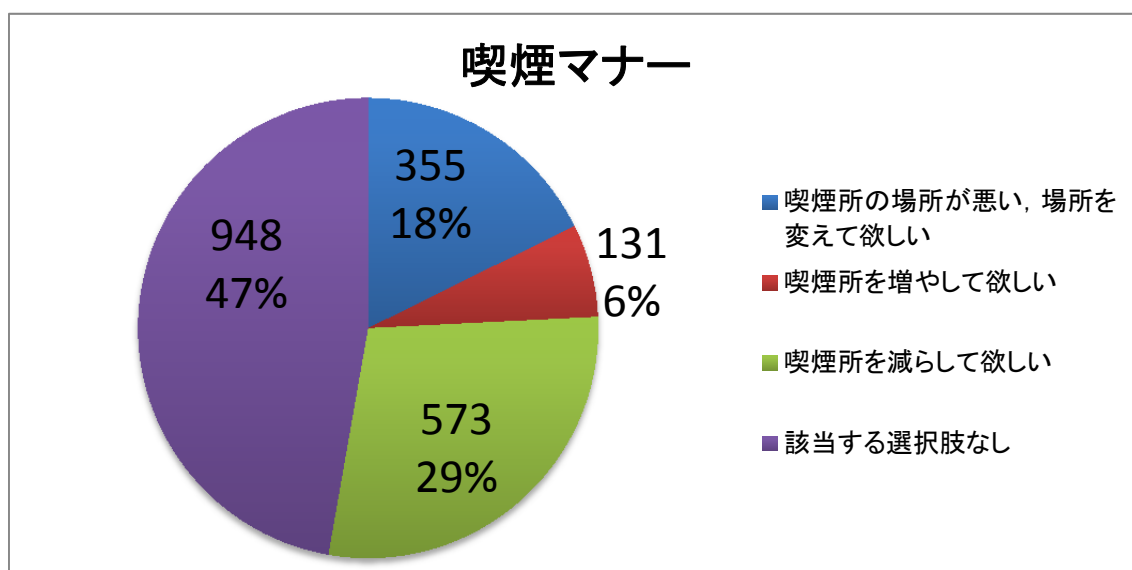


図 4.4.1-1 喫煙所に関する意見

4.4.2 喫煙マナーが悪い

提言概要	喫煙マナーに関する周知の徹底をお願いします。
学生の意見	歩きタバコの禁止を徹底して欲しい
具体的内容	・ 歩行喫煙の対策をしてほしい。 ・ 僕は 08 年入学ですが、入学当時は喫煙マナーの良い学校だという印象を持ちました。しかし、09 年(2 年生)になり、歩きタバコをする学生をしばしば見るようになり、今年 10 年(3 年生)でもやはり喫煙マナーは悪くなっていると感じています。特にウッドデッキの図書館および掲示板側で多いように思います。 ・ まだまだ歩きタバコが多いという印象。 しかし、こちらから注意しづらい部分もある。 なんとかできればしてもらいたいと思う。(難しいとは思いますが) (同様の意見が計 80 件あります)
現状分析	上の具体的意見のように、歩きタバコをしている人が多いという意見が多数寄せられた。歩きタバコは怪我につながる危険な行為であり、周囲の子供も多数訪れる東工大では特に注意すべき行為です。また、喫煙所の工夫をして受動喫煙をなくそうとしても歩きタバコをしている人がいるとその努力も無駄になってしまうので、問題です。 現在でも、構内入口及び構内に「歩行喫煙禁止」、「指定喫煙場所以外禁煙」の表示をするなどの対策を行っていますが、学生から多数の意見が寄せられていることを考慮すると徹底されているとまではいかないようです。



学勢調査 2008 との比較	なし
提言	簡単に解決する問題ではないと思いますが、引き続きマナー改善のための活動をしていくようお願いします。 ただ、この問題は学生の問題でもあるので身の回りの人でマナーの悪い人がいた際に注意するなど、学生同士の努力も大切だと考えられます。



4.5 駐輪場について

4.5.1 自転車利用のルールの徹底

提言概要	自転車利用のルール徹底
学生の意見	西地区などで駐輪場以外に停められている自転車が多いことや、駅の近くに大規模な駐輪場がないことから、駐輪場を増やして欲しいという意見があります。また、雨の日にバイクや自転車が傷むので屋根を設置して欲しいという意見があります。
具体的内容	・駐輪場に屋根を設置してほしい。 ・バイク駐輪場に屋根が欲しい。 ・駐輪場の場所を増やしてほしい。 (同様な意見が 58 件あります)
現状分析	学勢調査の結果(図 4.5.1-1)、駐輪場の現状に満足していない人の方が多ことが分かります。実際に現在の駐輪場の状況を調査した結果、溢れている駐輪場がある一方で、ほとんど利用されていない駐輪場もあり、利用者の動向と設置場所が合っていないことがわかりました。一部の駐輪場に屋根が設置してありますが、多くの駐輪場に屋根は設置されておらず、自転車やバイクが雨ざらしになっています。このように、現状は学生の要望を満たしていません。 しかしながら、大学全体の駐輪可能台数が大学に登録された自転車の数を満たしていることや、新たに駐輪場を新設できそうなスペースがないため、駐輪場を新設することは難しいようです。屋根に関しては、駐輪場に日常的に放置されている自転車をなくすために、あえて設置していないようです。大学側としては、学内の移動には自転車を使わず、徒歩で移動するように求めています。
学勢調査 2008 との比較	2008 年度の結果(図 4.5.1-2)と比較すると、登録せずに自転車を利用している人が減っています。しかしながら、現在も登録せずに自転車を利用している人が存在し、今後も登録の呼び掛けが必要であるといえます。
提言	現状では、ルールを守っていない人の影響で、正しく駐輪場を利用している人や通行人などが不利益を被っているので、違法駐輪や放置自転車をする人に対して、もっと積極的に指導することを提言します。



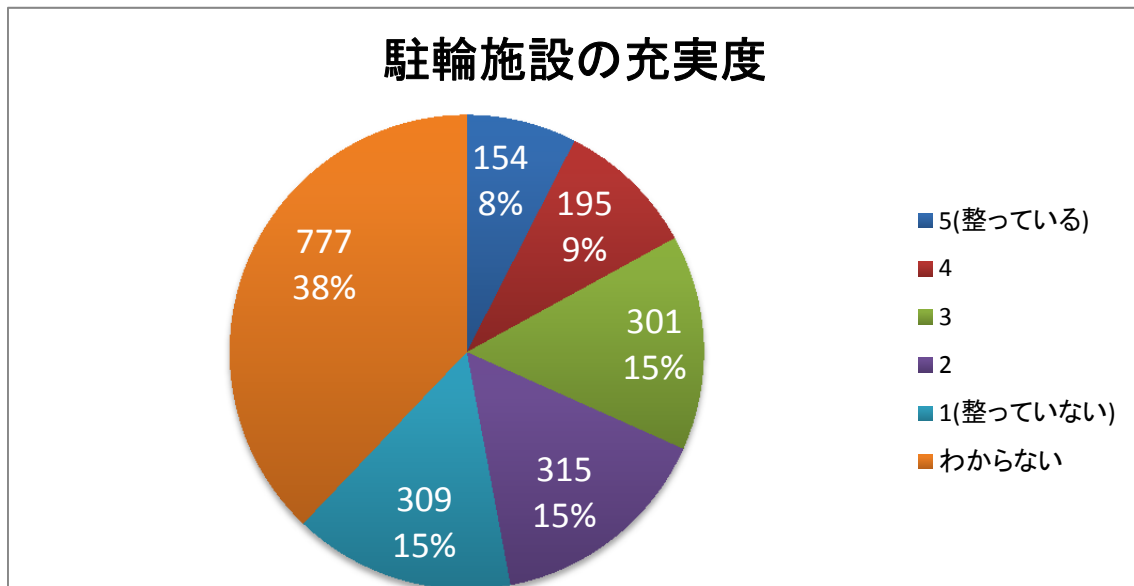


図 4.5.1-1 駐輪場の充実度

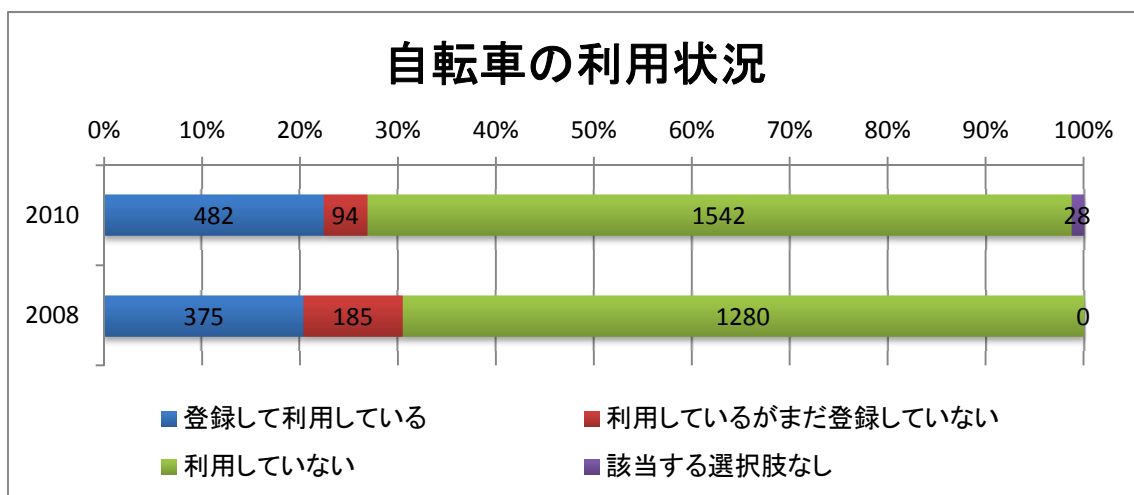


図 4.5.1-2 自転車の利用状況



4.6 校内のゴミ箱について

4.6.1 土日のゴミ回収に関して

提言概要	土日のゴミ回収に関し検討するよう提言します。
学生の意見	土日、校内のゴミ箱からゴミがあふれているので対策をとってほしい
具体的内容	・休日に学内にくると、必ずゴミ箱があふれており非情に汚いのでゴミの収集を休日にもすべき。 ・土日に清掃業者の方がゴミ箱のゴミを回収しないこともありゴミが溢れてしまう。そのゴミをカラスがついばんでさらにゴミが散らばってしまう。土日に大学に訪れた人に対して良くないイメージを与えてしまうので是非対策をしてほしい。 (同様の意見が 15 件あります。)
現状分析	下の写真は 2/06(日)16 : 00 頃の大学構内 (南 2 号館入口横) のゴミ箱の写真です。この写真からもわかるように、ゴミ箱からゴミが溢れています。この理由としては、ゴミがゴミ箱に収まりきっていないこと、収まっていなかったゴミに対するカラスの被害であると考えられます。このような状況は土日に訪れる外部の人への印象を悪くするという面でもあまり好ましくない状況です。 なお、大学としては金曜日にはできるだけ空にするよう業者に頼むといった対策を行っているそうですが問題の解決には至っていないようです。
提言	全てのゴミ箱に対し土日の両日にゴミの回収を行うというのはコストの面で難しいかと思しますので、利用率の高いゴミ箱について土曜日から日曜日のいずれかに回収を行えないか検討をお願いします。



図 4.6.1-1 日曜日夕方のゴミ箱の様子



4.7 大岡山スポーツ施設

4.7.1 体育館トレーニングルーム

提言概要	ベンチプレスなどの老朽化した器具の補修または取り替え
学生の意見	体育館トレーニングルームの老朽化した器具の補修または取り替えの要望が多く寄せられました。図 4.7.1-1 が示すように大岡山キャンパス（大岡山地区、石川台地区、緑が丘地区）では整っていない部類を選択した人（1,2 を選択）は約 14%でした。また図 4.7.1-2 が示すように欲しい施設・設備でトレーニングスペースを選択した人は約 20%でした。
具体的意見	・ランニングマシーンなどの下半身用の器具を増やしてほしいです。 ・トレーニングルームのパワーマックスというトレーニング機器が故障中のままで使えない。早く直してほしいです。 ・フリーウエイトリフティングができる器具がほしいです。 「同様な意見が 10 件あります」
現状分析	一日の一般利用者平均は約 30 人です。ただし水曜日はサークル活動のため約 60 人に増え、授業のある日は約 70 人に増えます。現状ある器具で危険なものは修理しますが、新たに器具が欲しいなどの要望は予算の都合上難しいです。修理する場合、体育の授業で利用している物品は体育担当（社会理工学研究科の先生）が修理します。それ以外の物品は学生支援課が管理しているので学生支援課が修理します。学生の要望は受付のトレーナー経由で学生支援課や体育担当に伝わる仕組みですが、これらの要望は予算の関係上、反映されていないようです。 現状、納入時期の明記されている器具は約 15%（全体の台数は 32 台）にとどまり、非常に古い器具も多数あります。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	基本的にトレーナーがついており、今まで重大な事故にあった学生はいません。しかし、今後のことも考えベンチプレスなど老朽化した器具の補修または取り替え、さらに全ての器具に対して納入時期を明記するようよろしくお願いします。



4. 施設関連

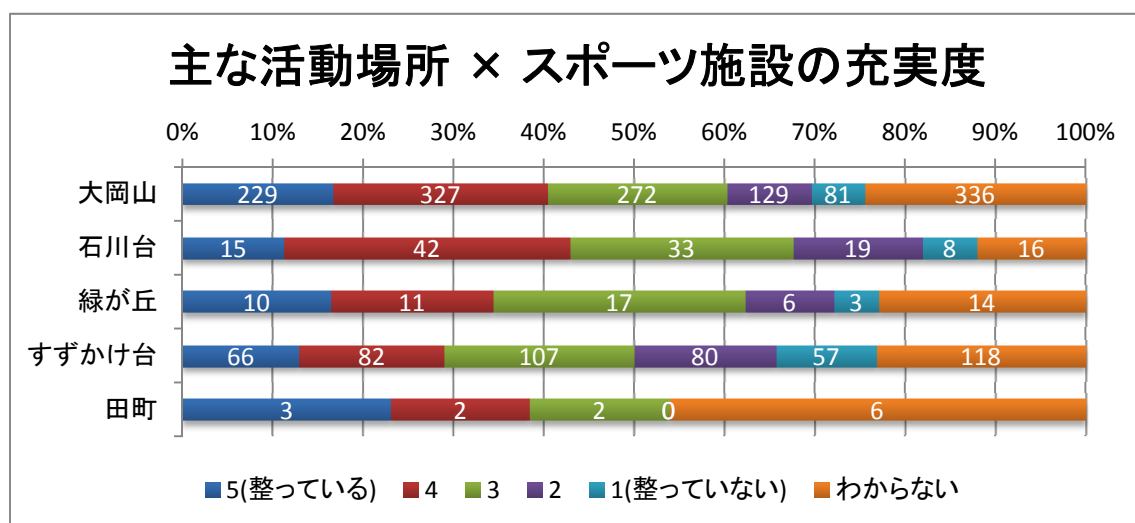


図 4.7.1-1 主な活動場所×スポーツ施設の充実度

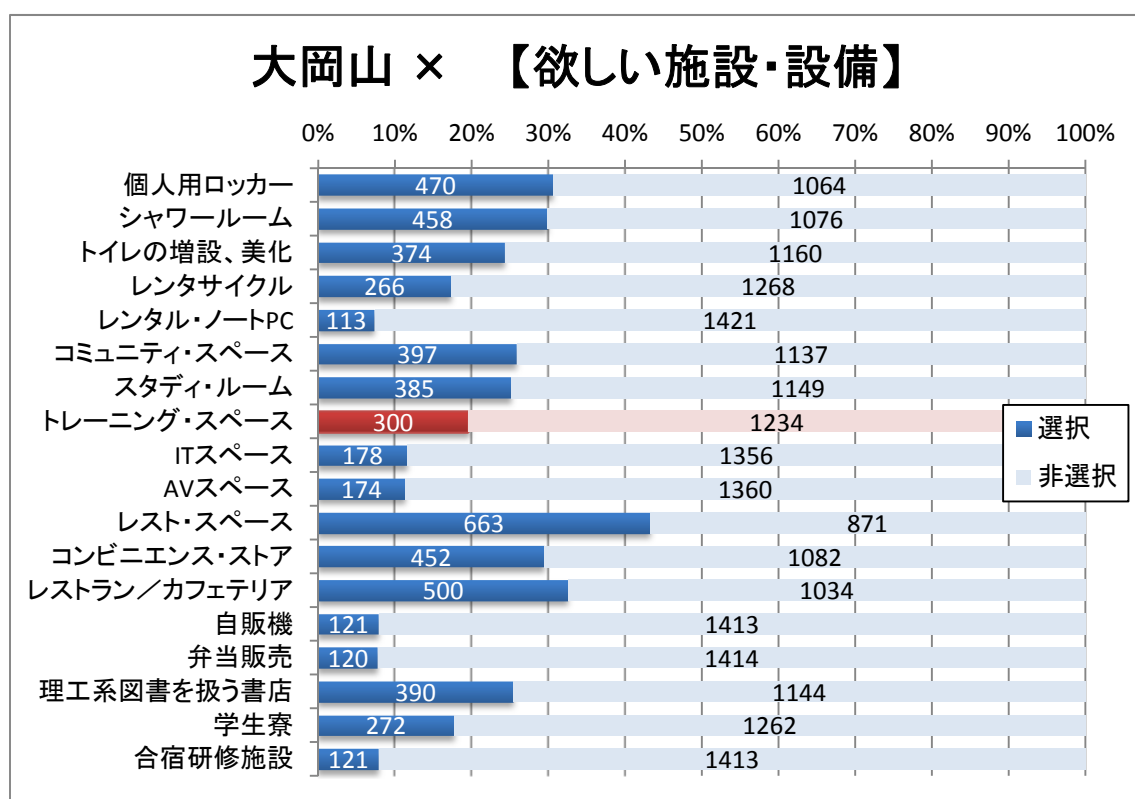


図 4.7.1-2 大岡山×欲しい施設・設備



提言概要	トレーニングルームの平日の終了時間の延長
学生の意見	トレーニングルームの利用時間延長の需要が高いことが分かりました。
具体的意見	・トレーニングルームの利用時間を延ばしてほしいです。 「同様な意見が 9 件あります」
現状分析	トレーニングルームを利用する場合は誰か職員がついている必要があります。トレーニングルームの利用時間延長に対して各部署に問い合わせた結果、体育担当は「延長するなら学生支援課へお願いしてください」、学生支援課は「人は増やせません」との回答です。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	終了時間は平日では 17 時 45 分ですが、研究室によってはコアタイムが決まっていて利用できない学生もいます。安全管理の体制を整えた上で、現状の終了時間の延長をご検討よろしくお願いします。

4.7.2 体育館アリーナ

提言概要	空調設備の設置または換気構造の改善
学生の意見	夏期の体育館アリーナの空調を改善して欲しいという要望が多く寄せられました。
具体的意見	・アリーナの空調がよくないです。最近まで公認サークルに所属していましたが、今年の酷暑にもかかわらず空調がなく窓も必要時に開けられない状況に気分が悪くなっていた部員が何人もいました。換気や温度調節を満足に行えるような環境にしてほしいと感じます。 ・体育館内の温度が高いです。夏になると、脱水症状者が出て危険です。 「同様な意見が 10 件あります」
現状分析	夏場（7,8,9 月）における体育館アリーナのここ数年の利用割合（授業、サークル、大会）は 7 月 1 日から 8 月 6 日までの授業のある期間では平日はサークル約 50%、授業約 40%、その他（職員優先など）10%、土日休日は大会がほぼ 100%です。使用禁止期間をはさんで 8 月 18 日から 9 月 30 日までの授業のない期間では平日はサークル約 90%、その他約 10%、土日休日は大会がほぼ 100%です。例外の日もありますが、ほぼこのような割合となっています。出典は「平成 22 年 7,8,9 月アリーナ予約状況」です。
学勢調査 2008 との比較	換気環境はグラウンドが芝生になったため下窓は開けられるようになりました。上窓は酷暑の時のみ学生支援課に頼めば開けられるようになりました。



4. 施設関連

	空調設備は外部の業者に依頼し嘆願書の対応を現在行っています。交渉内容としてはなぜ設置は難しいか（後付けは構造上難しいなど）、設置可能性はあるのかなどです。
具体的提言	救急車などで搬送された患者さんは今のところ報告されていませんが、今回の結果を踏まえて空調設備の交渉を行っていただくようよろしくお願いします。

4.7.3 テニスコート

提言概要	テニスコートの一般利用者への貸し出し時間帯の設置
学生の意見	大岡山キャンパスのグラウンドの隣にあるテニスコートの一般開放の需要が高いことが分かりました。
具体的意見	・軟式テニス部が使っているコートがよく使われていないことがあります。もともとあの人数に対して6面も使っています。有料化してもいいので、コートの貸出を熱望します。 ・大岡山のテニスコートが利用できないのは問題だと思います。「同様な意見が10件あります」
現状分析	多くはソフトテニス部が使用しています。ただし、8月から9月の中の合宿中の2週間程度は使用されていません。その時は、説明会を開催し、抽選会をして、一般開放を行っています。 通常時に一般開放されない理由は、テニスコートは東工大の学生・職員のみが使用できるという原則があり、他大学の学生を含んだサークルは使用が認められていません。東工大の学生・職員以外が使用した際に、起きた事故等の対応が難しいからです。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	学生のコートマナー向上と学内生のみ利用可を前提に、夏場以外にも一般開放する時間設定のご検討よろしくお願いします。



4.8 すずかけ台スポーツ施設

4.8.1 グラウンド

提言概要	グラウンドで利用できるスポーツの拡充
学生の意見	すずかけ台のグラウンド環境改善の需要が高いことが分かりました。図 4.7.1-1 が示すようにすずかけ台キャンパスでは整っていない部類を選択した人（1,2 を選択）は約 24%でした。また図 4.8.1-1 が示すように欲しい施設・設備でトレーニングスペースを選択した人は約 37%でした。
具体的意見	・野球のできるグラウンド整備してほしいです。 ・グラウンドのフェンスを高くしてほしいです。 ・バレーボールコートは風が強くて使いづらいです。 「同様な意見が 6 件あります」
現状分析	平均では 3,4 団体が利用しています。多いときでは一日に 8 団体ほどが利用しています。通常時はバレーボール 40%、サッカーパス練習 50%、キャッチボール 10%となっています。5,6 月はバレー大会が開催されるためバレーボール 65%、サッカーパス練習 30%、キャッチボール 5%となっています。“野球のできるグラウンドを整備して欲しい”という意見に対しては、今のところ計画はないようです。これは多目的グラウンドは埋め立て地であり、土壌が非常に軟弱なため、これ以上高いネットの敷設は無理だからです。グラウンド設置時にもいろいろ検討したようですが、無理とのことです。 また、現在のところ、グラウンドの芝生化の計画はありません。砂の飛散等について地域住民からの苦情は特に寄せられていません。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	利用したいスポーツの種類を調査し、利用できるスポーツの種類を増やしていただくようご検討よろしくお願いします。



4. 施設関連

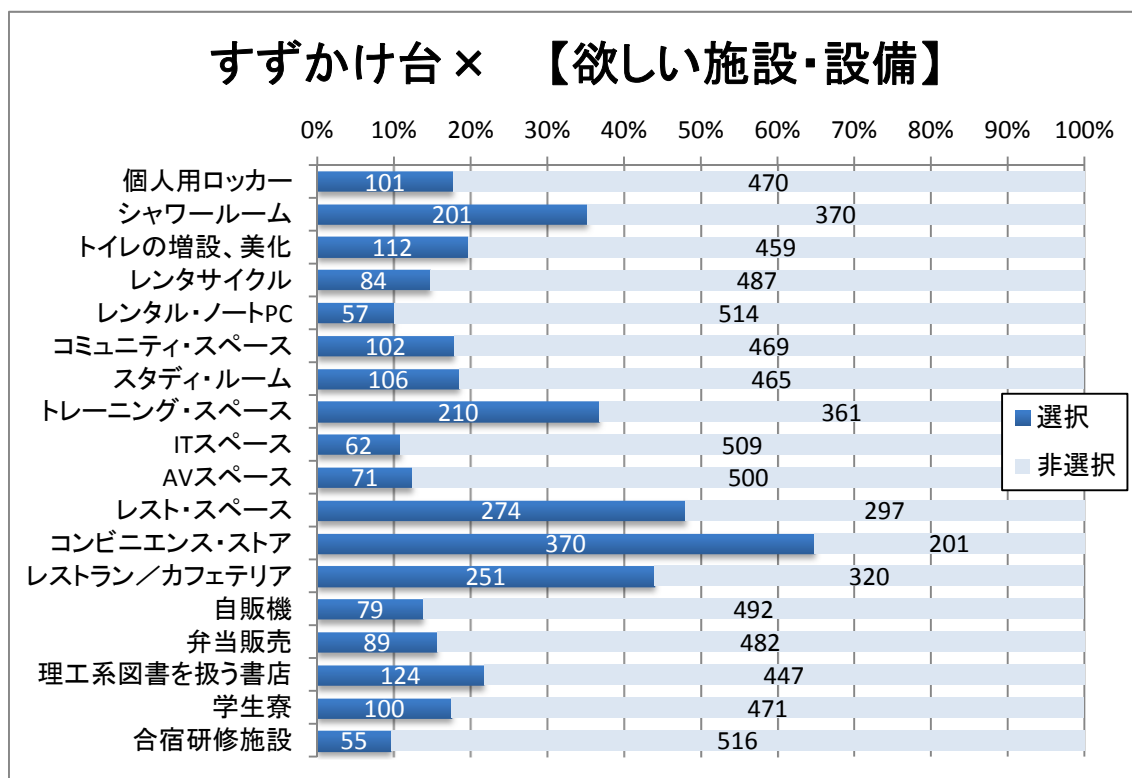


図 4.8.1-1 すずかけ台 × 欲しい施設・設備

4.8.2 フットサルコート

提言概要	フットサルコートの新設または整備
学生の意見	すずかけ台のフットサルコートの需要が高いことが分かりました。
具体的意見	・ フットサル施設を拡充してほしいです。 ・ すずかけ台にテニスコートとは別のフットサルコートを作ってください。 現在のテニスコートでは、フットサルで利用する際にテニスのボールの穴や凹凸が障害となっています。大きな怪我人が出てフットサル禁止となるととてもつらいです。 「同様な意見が 4 件あります」
現状分析	3 面あるテニスコートのうち 1 面をフットサルコート専用にしないのはテニス利用者が約 8 割、フットサル利用者が約 2 割だからです。また、フットサルコートの新設して欲しいという意見に対してですが、山などを崩して造ることは横浜市の条例により難しく、駐車場などのスペースをフットサルコートにすることは事実上難しいです。土地の有効活用を考えた際に、駐車場としての利用需要が高いからです。
学勢調査 2008 との比較	なし



具体的提言	フットサルとして利用する場合も正しい利用法で使用するのであれば安全面の問題はないとのことですが、コート劣化も見られますので整備のご検討よろしくお願いします。
-------	--

4.8.3 体育館・プール

提言概要	体育館・プールの新設または現状の施設のスポーツ利用検討
学生の意見	体育館とプールの新設の需要が高いことが分かりました。
具体的意見	・すずかけ台に体育館が欲しいです。 ・すずかけ台に屋内プールを造ってください。 「同様な意見が 23 件あります」
現状分析	授業、サークルがすずかけ台にないので新設費用や維持費を考えると難しいです。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	プールや体育館の新設は難しいとは思いますが、既存のスペースを有効活用できないかご検討よろしくお願いします。

4.8.4 トレーニングセンター

提言概要	終了時間の延長
学生の意見	トレーニングセンターの利用時間延長の需要が高いことが分かりました。
具体的意見	・トレーニングルームの利用時間を延ばしてほしいです。 ・すずかけ台キャンパスのトレーニングルームは、夕方の遅い時間に利用したいです。19 時か 20 時くらいまで使えると、利用しやすいです。早く終わるので、運動できない日が多いです。 「同様な意見が 5 件あります」
現状分析	現状では一日平均 50 人が利用しています。18 時 15 分で閉まってしまうのは受付の非常勤職員の雇用条件で時間が決まっているからです。一日の雇用時間が決まっているのであれば、開館時間を遅い時間にシフトできないかという質問に対して、これも事実上難しいとの回答を頂きました。理由としては、利用者は学生ばかりではなく職員も利用対象となっているため、昼休みの利用希望者がいるためだそうです。また、建物管理、防犯、事故等の対応面からも難しいとのことでした。 理由は学生が怪我をする可能性も考慮し、トレーニングセンターの開館時間の間は常勤職員が待機していなければならないからです。つまり常勤の職員の労働時間を延長しないといけません。これは予算の関係上難しい



4. 施設関連

	です。 また 1 日の利用者の時間帯別割合は平成 22 年 4 月から 12 月までの集計で、11 時 30 分～13 時が約 15%、13 時～14 時 30 分が約 11%、15 時 30 分～17 時が約 42%、17 時～18 時 15 分が約 32%となっています。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	終了時間は 18 時 15 分ですが、研究室によっては利用できない学生もいます。安全管理の体制を整えた上で、現状の終了時間の延長をご検討よろしくお願いします。



4.9 ムシヨラについて

4.9.1 ムシヨラの改善について

提言概要	ムシヨラ現在の利用状況を調べ必要であれば新規に場所を確保するよう提言します。
学生の意見	ムシヨラ(Musholla:イスラム教徒が礼拝を行うスペース)を拡充して欲しい
具体的内容	• The university can provide the Muslim student some space (may be a room) for friday prayer during noon break. Right now they are praying in the top floor of south-3 building but due to the number of increasing people, the pace gets really crowded. • There is a quite large number of muslim students in the Ookayama campus. It is difficult for us to find a place for our daily prayers in the campus. If the university would kindly provide a prayer room for us, we would be really grateful. (同様の意見が 20 件あります。)
現状分析	ムシヨラが不足しているという意見が前述のように 20 件ありました。 東工大における留学生の人数が増えていることをうけて、東工大におけるイスラム教徒の人数も増えていく可能性があり、現状と今後の動向によっては拡充を検討していく必要があります。
提言	ここ数年の傾向として留学生の人数が増えておりムシヨラの需要が高まっている可能性が高いです。利用者状況を調べ、ムシヨラの数が足りないと思われる地区があればムシヨラの増設をするよう求めます。また、これについては今後の動向に注視し、検討していくべきだと思います。



4.10 無線 LAN について

4.10.1 無線 LAN の改善について

提言概要	無線 LAN のアクセスポイントの設置について学生の意見を参考にするよう提言します。
学生の意見	無線 LAN が繋がらない場所があるので改善して欲しい
具体的内容	・南 4 号館の 3 階以上の階に無線 LAN を導入して欲しい。 ・pub-net が使えないところがあるので強化してほしい。 (同様の意見が 14 件あります)
学生の意見	その他、無線 LAN に関する意見
具体的内容	・無線 LAN について、パソコンだけでなく、ipod-touch も学内の無線 LAN を利用できるようにしてほしい。 ・今年度のいつからかはっきり分かりませんが、大岡山キャンパスで無線 LAN が急に使えなくなりました。(すずかけでは使えます。)PC には問題がないようなので、何か大岡山の LAN に問題があると思うので、早く直してほしいです。(私だけでなく、他の学生からもそのような報告があると、生協の方が言っていました。)
現状分析	無線 LAN に関し様々な意見が寄せられました。 これに関して研究推進部情報基盤課へ伺ったところ、無線 LAN が利用できなくなった等の質問に関しては大学生協や東工大 IT サービスデスク (E メール: helpdesk@gsic.titech.ac.jp) にお尋ねの際に具体的な場所 (講義室名など)、ご使用の機器 (機種や OS など)、利用できなかった日時をお知らせください、との返答をいただきました。 また、無線 LAN のアクセスポイントの設置基準に関しては、講義室や食堂などの公共スペースを対象としているので、それに合致する場所であれば将来的な設置の検討をしてもらえとのことでした。逆に、南 4 号館の 3 階以上など専攻が管理していて公共スペースでない場合には、設置はそこを管理している部署次第とのことでした。 なお、iPhone や iPod touch などスマートフォンの接続方法については http://www.noc.titech.ac.jp/wlan/wlan-index.shtml のページに記載の「接続設定ガイド」に既に掲載されているので、それを参考にしてもらうよう返答をいただきました。 このように大学としては無線 LAN に関するサポート対応をある程度整えていると言えます。ただ、上記のような意見があることから、学生視点の周知が十分ではなかったかもしれません。また、今回の学勢調査で無線



	LAN に関する意見がある程度寄せられたことを考慮すると、サポートデスク等の無線 LAN に関する問い合わせ先が十分に周知されていなかった可能性もあります。
提言	学生視点でのサポート体制を作るよう提言します。具体的には、周知を行う際には学生がわかりやすい場所へ掲載するようお願いします。また、サポートデスク等の問い合わせ先の周知に関しては極めて問題があるという訳ではありませんが、周知の方法の改善を検討していただけると助かります。



4. 施設関連

4.11 防犯・安全管理について

4.11.1 防犯・安全管理について

提言概要	安全管理について
学生の意見	夜間の防犯対策について対処して欲しい
具体的内容	・ 銀杏並木が、夜間暗すぎてあぶない。 ・ 防犯対策お願いします。 ・ 街灯を夜間でも点灯すること。(省電力よりも安全優先) ・ ウッドデッキのようにスロープ(芝生)のライトアップを21時ころまでしてほしい。夜になると暗くて怖いところが多い。 ・ 資源化学研究所前の出口(駐車場と反対側)付近が暗すぎる。階段があるのにあの暗さは危険すぎると思う。現に何回か転びそうになった。 ・ すずかけ台キャンパスで、夜とても暗いところがあります。 あぶないので、電灯をつけてほしいです。 ・ 夜間の学内が暗すぎるので、せめて地面が見えるくらいの外灯が欲しい。
現状分析	特別件数が多いわけではないが、夜間の防犯対策について要望が数件寄せられました。前回の学勢調査2008では、この傾向は見られなかったため、注目すべき項目であると考えられます。 なお、安全衛生委員会にも学生からの直接の要望が何度か寄せられたそうで、その結果として緑が丘地区の街灯の増設や、街灯の光を遮っている樹木の枝払いなどが行われたそうです。
提言	学生の意見を反映させた安全管理を今後も続けていくようお願いします。また、学生側も安全管理で不安な場所がある場合には安全衛生委員会へ相談するようお願いします。



4.12 南5号館について

4.12.1 南5号館の建て替え問題について

提言概要	南5号館の改修工事の計画がどのように進んでいるのか定期的に告知するよう提言します。
学生の意見	南5号館の建て替えまたは補強工事を行なって欲しい
具体的内容	・それより建物の耐震補強工事を優先してほしい。先日の新聞で「菅首相が学生時代を過ごした建物（南5号館）の耐震補強工事が未着手」というニュースを読んだので、身近な、しかも重要な話題だと思う。 ・とにかく南5号館をきれいにしてほしい。 （同様の意見が15件あります）
現状分析	学内向けのPDF内で南5号館の耐震性に問題があることについては指摘されます。なお、他にも耐震工事が遅れている建物がある中で南5号館が特に注目されている原因としては、ニュースで取り上げられていること。そして、南5号館が建てられた時期が古いことが考えられます。 南5号館の建物改修については大学としての改修の最優先事項として要求したそうですが、平成23年度予算としては認められなかったそうです。これに関しては大学の範疇を超えた問題なのでどう仕様も無い問題です。 ただ、予算が取れず改修工事が進まない場合でも、そのような事情を説明するだけでも学生の不満・不安が軽減されと考えられるので、改修工事の計画がどのように進んでいるのかについて伝えていく努力は必要だと考えられます。 （参考 URL[学内の建物の耐震性について]学内からのみアクセス可： http://www.sisetu.titech.ac.jp/gakunainews/taishinnka.pdf） （参考 URL[南5号館の耐震性に関する外部のニュースサイト]： http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20100920-OYT8T00243.htm）
提言	南5号館の改修工事についてどのように計画が進んでいるかを、南5号館の利用者にわかるように定期的に周知するよう提言します。 具体策として、南5号館内の掲示板等に周知用の文章を載せたり、南5号館の研究室の教職員・学生にはメールで連絡したりする方法が考えられます。



4.13 個人用ロッカーについて

4.13.1 個人用ロッカーについて

提言概要	個人用ロッカーについて学生の要望や実情を考慮し、検討するよう提言します。
学生の意見	個人用ロッカーが欲しい
具体的内容	・個人用ロッカーをもっと導入してほしい。毎日重い教科書を担いで登校するのはしんどい。 ・個人ロッカーがあるととても良いと思う。サークルに所属していない学生に特に便利だと思う。 (同様の意見が計 7 件あります)
現状分析	図 4.13.1-1 のように学部 1・2 年生からの要望が多く、学部 1・2 年生の一番欲しい施設・設備となっている。この理由としては、学科にも寄るが学部 1・2 年生が自由に使えるロッカーが大学から支給されない場合が多く、一方で学部 1 年生は体育の授業のための荷物を用意する必要があるからだと推測される。なお、図 4.13.1-2 からサークル未加入者よりもサークル加入者の方が個人用ロッカーを要望していることが読み取れるので、サークルに加入している人はサークルのロッカーで十分というわけではなさそうです。 また、図 4.13-1.3 のように類・学科・専攻別に見ると、所属ごとで要望に極端に差があることがわかる。これは現段階で個人用ロッカーがあるかどうかによって左右されていると考えられる。
提言	学生からの要望が多かった類や専攻において、学生生活の実態を考慮しつつロッカーの設置を検討するよう提言します。



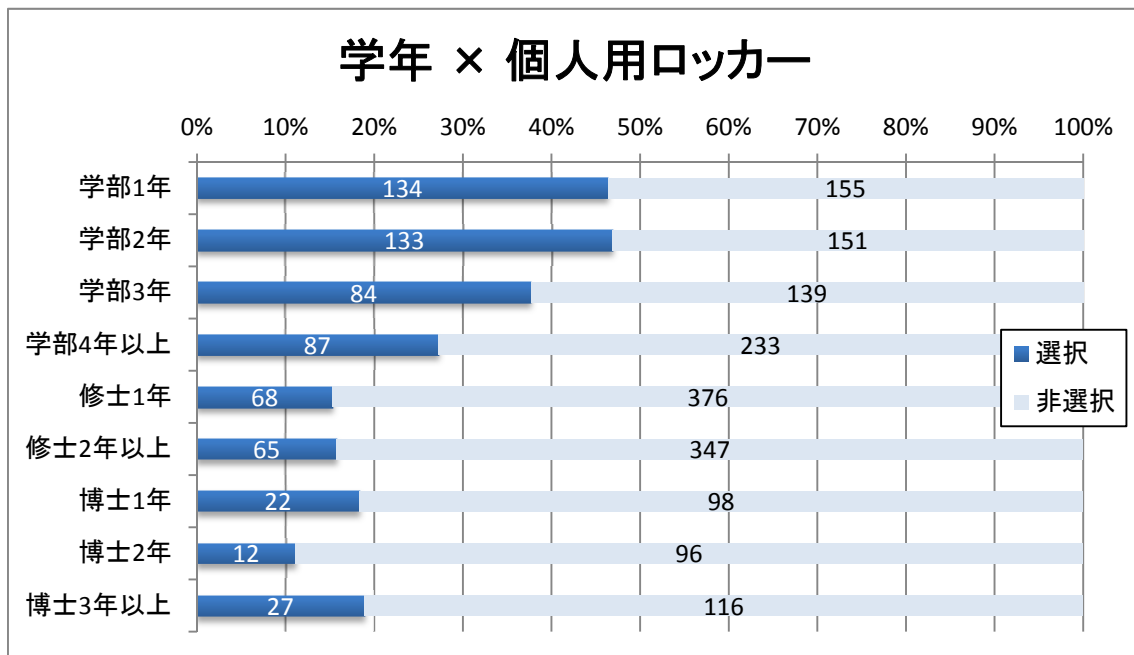


図 4.13.1-1 学年×欲しい施設（ロッカー）

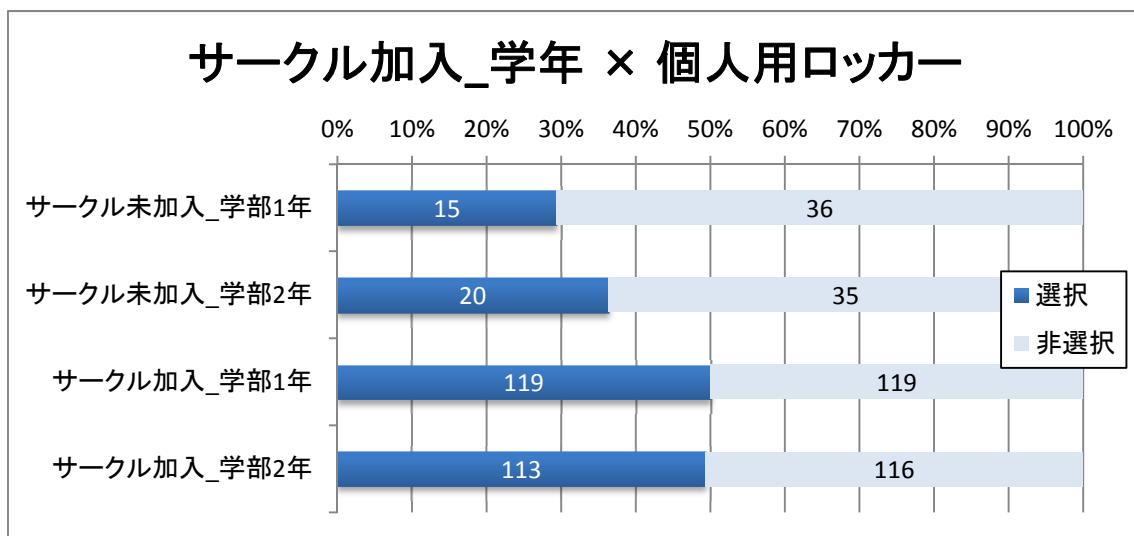


図 4.13.1-2 サークル加入_学年×欲しい施設（ロッカー）



4. 施設関連

1類	52%	材料工学専攻	20%
2類	31%	有機・高分子物質専攻	24%
3類	45%	応用化学専攻	40%
4類	40%	化学工学専攻	15%
5類	44%	機械物理工学専攻	13%
6類	65%	機械制御システム専攻	13%
7類	35%	機械宇宙システム専攻	12%
		電気電子工学専攻	18%
数学科	56%	電子物理工学専攻	20%
物理学科	51%	集積システム専攻	0%
化学科	18%	土木工学専攻	28%
情報科学科	30%	建築学専攻	40%
地球惑星科学科	52%	国際開発工学専攻	15%
金属工学科	47%	原子核工学専攻	17%
有機材料工学科	20%	分子生命科学専攻	0%
無機材料工学科	16%	生体システム専攻	10%
化学工学コース	43%	生命情報専攻	29%
応用化学コース	64%	生物プロセス専攻	0%
高分子工学科	30%	生体分子機能工学専攻	20%
機械科学科	37%	物質科学創造専攻	28%
機械知能システム学科	30%	物質電子化学専攻	18%
機械宇宙学科	21%	材料物理科学専攻	8%
国際開発工学科	34%	環境理工学創造専攻	19%
制御システム工学科	28%	人間環境システム専攻	17%
経営システム工学科	24%	創造エネルギー専攻	20%
電気電子工学科	44%	化学環境学専攻	19%
情報工学科	38%	物理電子システム創造専攻	14%
土木・環境工学科	36%	メカノマイクロ工学専攻	6%
建築学科	32%	知能システム科学専攻	14%
社会工学科	36%	物理情報システム専攻	18%
生命科学科	33%	数理・計算科学専攻	7%
生命工学科	38%	計算工学専攻	14%
		情報環境学専攻	7%
数学専攻	14%	人間行動システム専攻	24%
基礎物理学専攻	4%	価値システム専攻	23%
物性物理学専攻	7%	経営工学専攻	6%
化学専攻	17%	社会工学専攻	7%
地球惑星科学専攻	10%	技術経営専攻	17%
物質科学専攻	20%	イノベーション専攻	50%

※上位3項目を赤字で表記

図 4.13.1-3 類・学科・専攻×欲しい施設（ロッカー）



4.14 セブンイレブンについて

4.14.1 セブンイレブンについて

提言概要	セブンイレブンの営業時間については出来る範囲での改善をお願いします。
学生の意見	営業時間・営業日を拡張して欲しい
具体的内容	・コンビニを土日也能用できるようにして欲しい。 ・セブンイレブンには期待していましたが、休日や深夜など利用したい時間帯に限って開店しておらず、がっかりしました。 学部生にとっては十分かもしれませんが、研究室所属者にとっては不便な店です。 (同様の意見が計 35 件あります)
現状分析	南地区に設置されたセブンイレブンに関して、営業時間が短いといった意見や土日や夏休みに営業してなくて不便といった意見が寄せられました。これに関しては、セブンイレブンも営利団体であり利益が出なければならず、当初見込んでいたよりも利用者数が少ないといったこともあり、やむを得ない事情のようです。利用者数が当初見込みより少ない原因については、リーマンショックの影響などが考えられます。 なお、前回の調査では購買や学食の営業時間延長を求める声が多数あったのに対し、今回は少数であったことから、営業時間延長に関する要望が学食・購買からセブンイレブンへと移ったと考えられます。
提言	学生側からの要望が多いことも確かですが、現在の営業時間になって経緯に関してはやむを得ない状況もあると考えられます。なので、今回は提言としては様子見とします。ただし、次回以降の調査でも学生側の不満が増えていくようであれば、業者の再選定をすべきかどうかといった議論も起こってくる可能性がありますので、セブンイレブン側にも可能な範囲でいいので営業時間等の改善をお願いします。



4.15 講義室について

4.15.1 授業を受けにくい講義室について

提言概要	学生の意見を参考にした講義室の改善をお願いします。
学生の意見	授業を受けにくいので改善して欲しい
具体的内容	・縦長すぎて席がないときは見えづらい。 ・椅子が固いのでお尻が痛い。 (同様の意見が多数寄せられました)
現状分析	授業を受けにくい講義室があるという意見は多数寄せられ、図 4.15.1-1・図 4.15.1-2 のようになった。ここからわかるように、全ての講義室が受けにくいと評価されているというよりは、一部の講義室が受けにくいとされている可能性が高いと思われる。ただし、この意見数はその講義室を使う学生の数を反映させていないので、様々な学生が使うような講義室の方が多くなるという傾向は見られるかと思われる。 なお、大学側としてもどの講義室が受けにくいかを独自に調査し、改善を行っているため講義室の使用環境は改善されつつあると考えられます。ただし、教室の形や教室に備え付けの設備など改善が難しい物については改善が進んでいないようです。
提言	今回のアンケート結果も参考にしつつ、講義室の整備を今後も進めていくようお願いします。なお、今後の整備に活用してもらうため、担当部署にはより詳細なデータをお送りします。

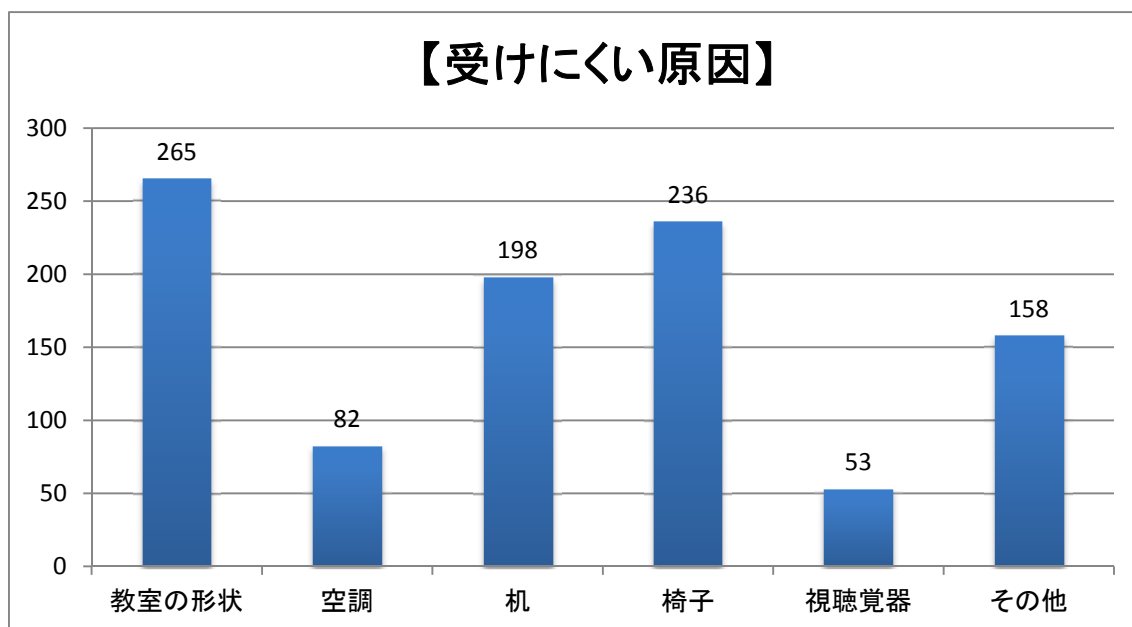


図 4.15.1-1 受けにくい原因



1ラボ	1	J2	3	S622	5	W8	1
2ラボ	2	J22	2	S63	2	W831	2
4ラボ	3	J221	12	S631	11	W832	2
B2	2	J23	1	S632	2	W833	3
B221	1	J231	1	S633	6	W834	1
B223	2	J233	2	S634	4	W836	1
B226	4	J234	1	S635	9	W8の10Fの講義室	1
C711	1	M	1	S636	2	W8のラボ	1
C912	1	M011	4	S637	1	W9	3
C913	2	M1	1	S638	5	W922	1
CIC711	3	M111	5	S8-210	1	W926	1
CIC913	4	M112	2	S8-623	1	W931	2
G1	1	M113	3	VBL	4	W9-311	1
G115	3	M114	5	VLSI設計室	1	W933	11
G2	1	S	4	W124	1	W935	2
G223	2	S001	2	W2	2	W9-626	1
G3	2	S011	16	W241	26	W9-631	1
G323	2	S1	2	W242	2	B	1
G5	1	S201	0	W3	1	W4	1
G511	2	S202	2	W321	6	黒板が少ない教室全般	1
H101	14	S222	10	W322	2	情報工学科実験室	1
H111	2	S3	2	W331	1	情報実験室	1
H112	1	S321	3	W332	2	図書館	1
H113	2	S322	8	W334	1	石2-318	2
H114	13	S323	9	W421	1	石川台1号館	1
H115	1	S33	1	W5	3	石川台2-315	1
H116	5	S4	0	W503	1	石川台3号館304号室	1
H121	9	S421	8	W521	5	石川台3号館のPC室	1
H135	13	S422	1	W522	1	石川台地区	1
H137	3	S5	4	W531	9	大岡山全般	1
H611	1	S511	8	W533	1	大教室	1
H622	1	S512	14	W541	4	CIC806	2
I	1	S5-155	1	W6	3	電子工学実験室(南2号館)	1
I121	13	S521	1	W611	2	北2号館5階輪講室	1
I122	5	S543	1	W621	3	本館	1
I123	2	S6	49	W622	1	緑が丘	2
I124	1	S611	5	W631	2	緑が丘1号館 1階会議室	1
I311	3	S612	10	W632	2	緑が丘1号館2階製図室	1
I321	1	S615	1	W633	1	緑が丘一号館	1
I4-B04	1	S62	1	W635	1	緑ヶ丘1階会議室	1
I4-B05	1	S621	16	W641	2	その他	2

図 4.15.1-2 受けにくい教室としての意見数一覧



5. 学習関連

本項目では、本学での学習について寄せられた意見と関連する定量的データ等から、以下の8つの細目に分けて提言を述べていきます。

5.1. 大学の指針	 大学や学生の目指すべき方針について
5.2. 国際的教育	 大学の国際化について
5.3. 研究および研究室に関して	 研究生活や研究教育について
5.4. 授業の実態	 授業の実態について
5.5. 大学制度	 大学の教育制度について
5.6. カリキュラム	 時間割・授業内容に関する要望
5.7. 単位・成績	 成績評価の標準化
5.8. その他	 上記以外の意見の抜粋

なお、本学は「しっかりとした基礎学力を身に付け、人々から信頼される創造性豊かな理工系人材を育成します」という教育ポリシーを掲げています。詳細については、下記のURL (<http://www.titech.ac.jp/about/activity/policy.html>) もしくは各学科・研究科等のホームページをご参照下さい。

提言概要

今回の学習に関する提言の中で最も重要性が高いのは「大学の指針」です。また、「学生の主体性・目標意識の向上」、および「国際的教育」も重要性の高い提言と位置付けます。続いて、本項目の内容を簡潔にまとめると、授業の質の担保と学習環境の改善、教育・研究についての更なる情報公開を提言しています。学生側が授業内容を把握した上で自主的に学習に励み、大学側が学習環境を積極的にサポートする事が、上記の教育ポリシーを体现するような人材の教育に欠かせないのではと進言します。



重要性が高い項目

5.1 大学の指針

5.1.1 大学の指針についての話し合い

提言概要

大学や学生の目指すべき方針について、両者の話し合いの場を設けることを提言します。

学生の意見

今回の調査では本学での学習に関して、様々な意見が提出されました。具体的な意見は、後述する各種意見にて述べますが、それらの意見は多種多様であり、一概に東工大生全体の意見としてまとめることは出来ません。

現状分析

学勢調査にて様々な意見が寄せられましたが、学生の考えは多種多様であり、総意となりうるような一貫した意見としてまとめることは出来ませんでした。また、意見の中には抽象的で具体性に欠けており、その記述からのみでは学生の真意を読み取れないものも多くありました。これは、アンケート形式で意見募集を行う学勢調査の限界と考えられます。

そのため、各意見の賛同者の全学生に対する割合等は本調査では把握できません。ですが、学生の意見として挙げられている意見の主な傾向、種類に関してはある程度把握できましたので、これらに関しては項目別提言にて扱います。

学勢調査 2008 との比較

2010 年度の調査で新しく取り上げた項目です。

具体的提言

今回寄せられた意見を参考に、**大学の学習に対して、学生、教員、大学と意見交換をする場の設置**を提言します。



項目別提言

5.1.2 学生の学習に取り組む姿勢・意識、および視野の広さ・多様性の受容の向上

提言概要	学生の主体性や問題意識の向上を目的としたカリキュラムや授業形態の充実が、学生の学習への姿勢・意識、および視野の広さ・多様性への受容の向上に有効になるのではないかと考えました。
学生の意見	学生の主体性がない、視野が狭いなどの問題や、その改善を求める意見が提出されました。
具体的意見	<学生に対して改善を求める主な意見> ・学生の勉強に対する意識が低すぎる。 (学生の学業に対する意識・姿勢に関わる意見が 14 件あります) ・世界観の狭い学生が目立つ (視野の狭さや多様性の受容に関わる意見が 11 件あります) <学生の主体性の改善を求める意見> ・一言でまとめると根本的な原因は、学生が「自らの責任で」主体的に社会で生きてゆく能力の無さだと考えます。(同様の意見が 8 件あります) <主体性を向上させる授業形態やカリキュラムを求める意見> ・知識トランスファー型の受身主体から、議論を中心とした能動的な講義とする (同様の意見が 23 件あります)
現状分析	「学生に対して改善を求める意見」として寄せられた自由記述の意見のうち、「学生の学習への姿勢・意識」「視野の狭さや多様性の受容」について改善を求める意見が、多くを占めていました。そこで、今回はこの 2 点が、「学生に対して改善を求める意見」の中で主なものと、学生スタッフの中で考えました。以下では、「学生の学習への姿勢・意識」を高める方法を分析します。 図 5.1.2-2 に示した通り、「目標意識」が高い学生は、「勉強・研究時間」が長いことが伺えます。このことから、「学生の学習への姿勢・意識」を高めるためには、学生が「目標意識を持つ」ような教育体制が有効ではないかと考えました。 ここで、関連する定量データはありませんが、「主体性が高い」学生であるならば、問題に自ら取り組むため、「目標意識が高い」と考えられます。学生の「主体性を高める」教育体制により、「学生の学習に取り組む姿勢・



	意識」を自ずと向上させることが出来る可能性があります。 その他にも多岐にわたって、学生の能力・技術に対して向上を求める意見が寄せられました。それらの問題に関しても、学生が「主体性」「目標意識」を持つことが、向上につながる一因ではないかと考えました。例として、後述する「学生の国際コミュニケーション力・語学力の向上」を挙げます。学生が「主体性」「目標意識」を持っているのであれば、今後の進路や必要な能力を自ら考え、「語学力」が必要だと認識すれば、その能力の向上に自ら励み、問題の自発的な解決に繋がるのではないかと考えられます。 また、「学生の主体性の向上」「主体性を必要とする授業形態・カリキュラム」を求める意見も、自由記述において一定数以上寄せられました。 現在本学では、学生による能動的・発見的な学習への取り組みを念頭に置く、「創造性育成科目」という授業が複数開講されています。これらは「主体性を必要とする授業形態・カリキュラム」の一例と考えられます。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	以上を踏まえ、「主体性・目標意識」を向上させる学習カリキュラムや授業形態を整え、また「視野の広さや多様性の受容」を高めるような学習カリキュラムや授業体制を整えていくことが、今後学生の「学習に取り組む姿勢・意識」および「視野の広さ・多様性への受容」の向上に有効になるのではないかと考えました。そこで、「主体性」「視野の広さや多様性の受容」を高める教育の具体例について述べていきます。 これら2点を向上させるためには、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションといった、学生が能動的に取り組む要素を含んだ、授業カリキュラムや授業形態が有効ではないかと考えています。 そのような要素を含んだ教育体制は、学生自ら考える機会が含まれているため、学生の主体性が向上するのではないかと考えました。 また、これらの教育体制は学生が共同で作業する機会も含んでいます。共同活動を成功させるためには、他者との積極的な意見交換や意思疎通が重要と考えられます。そのため、これらは「視野の広さや多様性の受容」を向上させる機会になり得るのではないかと考えています。 このような学習体制は、同様の内容が自由記述の回答として学生からも提案されています。また、先述の「創造性育成科目」ではそういった形式が取り入れられていますが、一般の講義内においても、部分的（カリキュラムの途中や講義の最後など）にこのような形式を漸次取り入れることも、



5. 学習関連

学生の主体性・目標意識を向上させるために有効ではないかと考えられます。

本項目は調査データをもとに学生スタッフが解釈したものです。提案された授業形態などは学生側の一つの意見として捉えていただき、本学のより良い教育のために、今後さらなる調査と検討が必要であることを添書させていただきます。

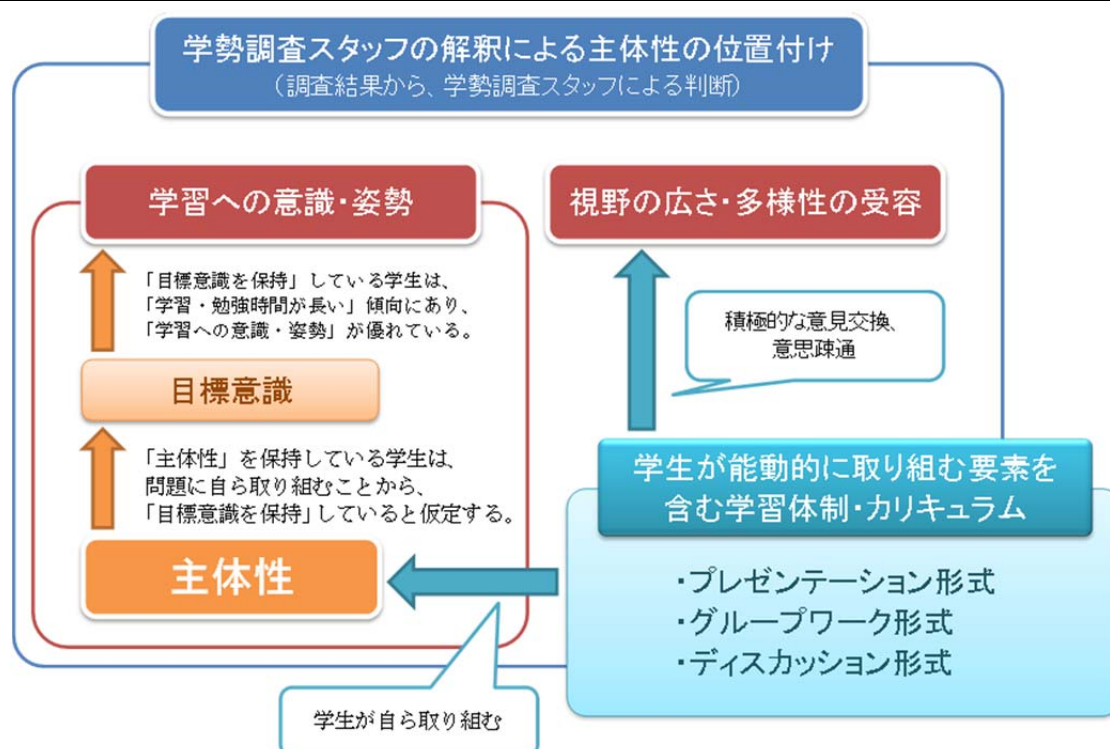


図 5.1.2-1 「学習への姿勢・意識」「視野の広さ・多様性の受容」の向上

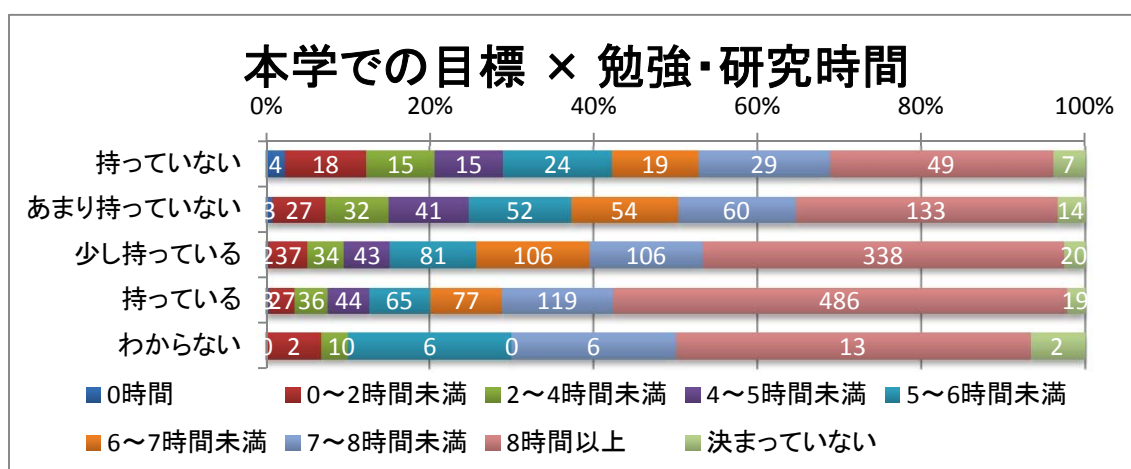


図 5.1.2-2 本学での目標意識と勉強・研究時間との相関



5.1.3 学部生の目標意識向上のための授業の工夫

提言概要	学部生の目標意識向上のための授業の工夫
学生の意見	学生の学習意欲向上を向上するためには、「学科・研究の説明の充実」「授業の有用性の説明」「早期の研究室所属」が有効ではないかという意見が提出されました。
具体的意見	・各学科の魅力をもっと伝えて目標をもたせる (学科・研究の説明の充実に関わる意見が 10 件程度あります) ・基礎の大切さと、実際研究室には行った際にどれぐらい必要か危機感をあおる。 (授業の有用性を説明に関わる意見が 5 件程度あります) ・研究室所属を早める(卒業研究は 4 年からでもいいかもしれない)。それによって蓄えた知識の具体的な活用を実感できるから。英語の大切さにも早く気付く。それに伴い進路の方針の決定は早まるので、2 年までに将来の進路を考える機会があるようにする。 (早期の研究室所属に関わる意見が 5 件程度あります)
現状分析	図 5.1.3-1 は本学における目標を持った学部生の割合を示したものです。学部 1 年次から学部 2・3 年次にかけて、目標を持つ学生の比率の低下が示されています。 図 5.1.3-1 は、学部 1 年次の学生の意欲向上に有効と考えられる講義の結果です。「研究室体験できるような授業を増やす」「学部 1 年次において専門科目を増やす」が比較的多く選ばれました。これらの措置は、早期に自分の進む分野の具体像が見え、目標意識が明確になるため、意欲向上につながるのかもしれませんが、またこういった意見の傾向は、自由記述からも一定程度読み取ることが出来ました。 また、研究室所属の早期化をすることで、勉強の必要性や危機意識が高まるといった意見も寄せられました。この試み自体は研究室側の負担も大きいため実現は難しいですが、勉強の必要性や危機意識を高める方法として参考にすべきところはあるかもしれません。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	学部生の目標意識を向上させるカリキュラムとして、「学科・研究内容の説明の充実」「授業の有用性の説明」「研究室体験できるような授業の充実」など、授業の意義を明確にすることや、将来を俯瞰できる内容を授業に盛り込むことなどが有効であると考えられます。具体的な内容に関しては規模の大きい提言にもあるように、学生の意見調査や学生との意見交流を経て決めるべきだと考えられます。



5. 学習関連

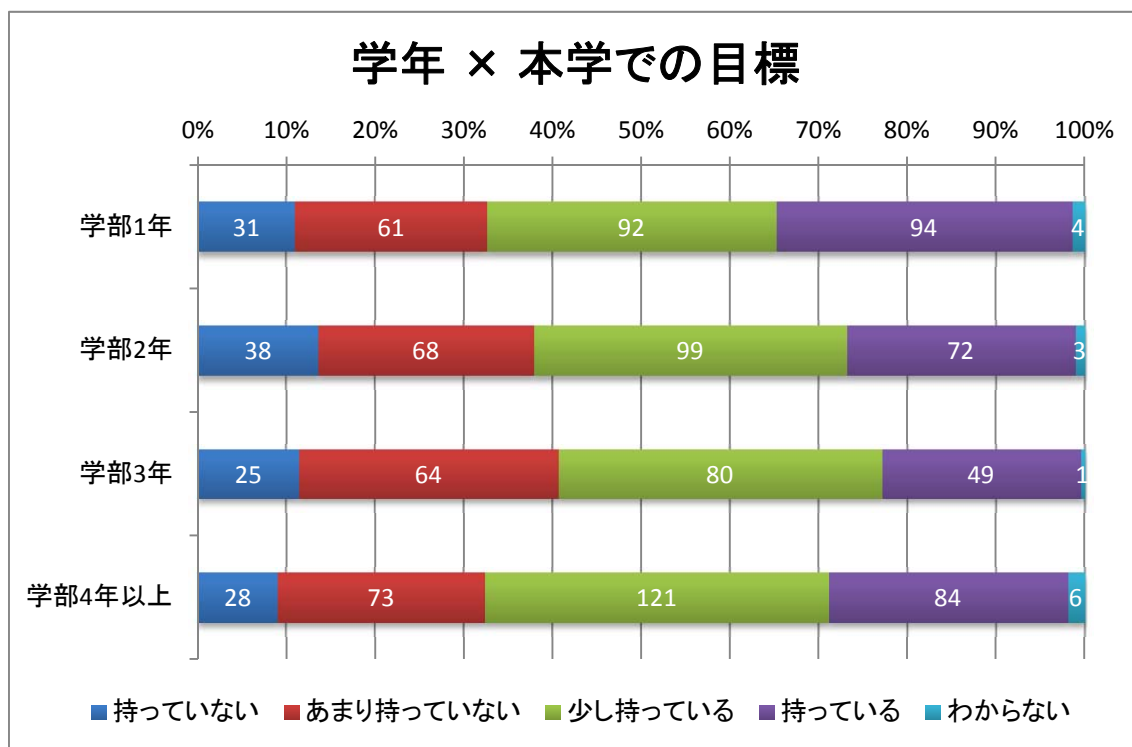


図 5.1.3-1 学年別の本学での目標の違い

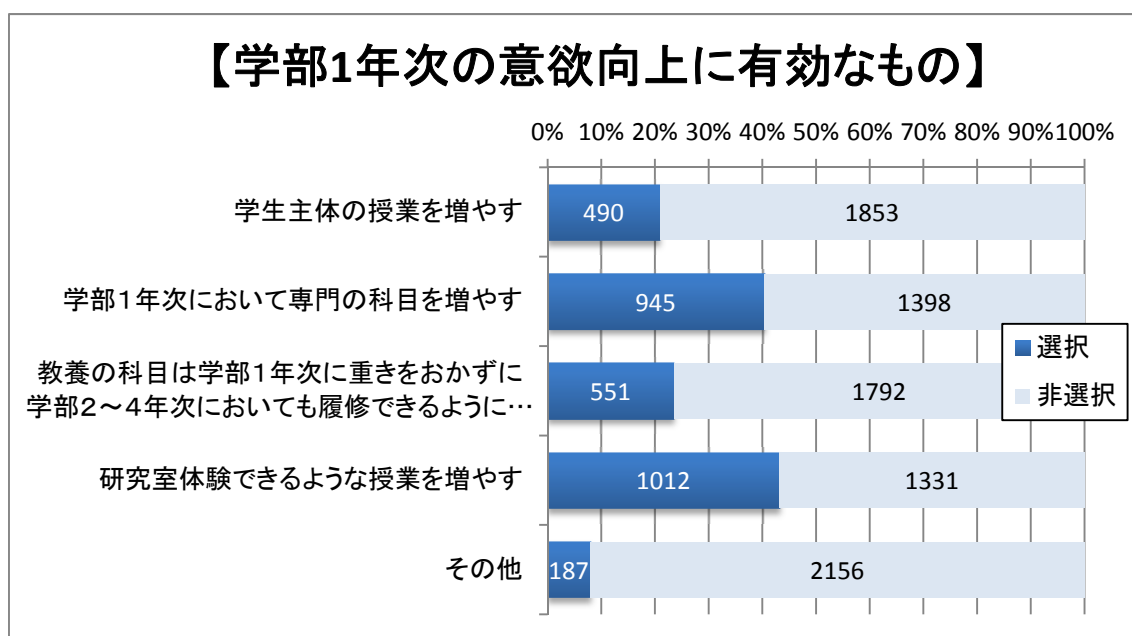


図 5.1.3-2 学部1年次の意欲向上に有効なもの



5.2 国際的教育

5.2.1 学生の語学力

提言概要	本学に在籍する留学生との交流の活発化
学生の意見	本学における学生の国際コミュニケーション力の強化に対する意見が提出されました。
具体的意見	・ Intense graduate students (Master and Doctor) English communication skills. ・ 我々はプレゼンや英語が他国と比較して非常に低能。 (日本人学生の国際コミュニケーション力向上を望む意見：21件) ・ TOEIC は単なるビジネス英語のテストであって、これで高得点をとっても English language proficiency として英米で使われることはまずない。聴解力とリーディングのみしか試験しないので、受験者の英語力を十分に反映しないからだ。東工大は TOEIC を速やかに廃止して、TOEFL もしくは IELTS に移行すべき。 (本学での語学力評価の方法の移行を提案する意見) ・ If possible, organise intensive Japanese language courses for foreign students ・ Should have more categories of classes available, beside the main studies involving the major. For examples, art classes, literature classes, and more advanced Japanese classes (e.g. JLPT, Japanese literature, etc.). (集中講座など、日本語講座の充実を求める意見) ・ 有料でもよいので、学内で英会話教室を開いてほしい。学内ならば、授業や研究の合間に受けられる。 ・ 留学生や英語ネイティブスピーカーと交流できる場所や企画があるといいなと思います。 ・ I would to see more courses offered in different fields and have more visiting lectures from different backgrounds and countries. (留学生と日本人学生との語学教室、国際交流の機会を望む意見)
現状分析	日本人学生の国際コミュニケーション力の向上を望む意見が、一定数以上寄せられています。これらの意見は、日本人学生との意思疎通に困難を覚えた留学生から寄せられたり、国際学会でのプレゼンテーションや議論



5. 学習関連

	の場を経験した学生から寄せられたりしているようです。関連して、TOEIC による現行の英語力評価を、ライティングやスピーキングを含めた試験へ移行させる提案も寄せられています。なお、現在、高度なライティングやスピーキングの語学科目は開講されていますが、選択科目の1つという位置づけになっています。 また、本学は年々留学生が増加しており、スキルアップのために日本語の授業の充実を望む声が一定数以上寄せられています。 その他、学生の語学力の向上や国際交流のために、留学生と日本人学生との交流の機会を望む意見も一定数以上寄せられています。これらに関してはサービス関係の提言に詳しく述べられていますが、大学では語学教育や国際協力のサポート体制は整っており、それらの活用は学生の自主性に任せるとしています。
学勢調査 2008 との比較	2008 年度の調査においても語学教育の強化が挙げられています。
具体的提言	○国際コミュニケーション力の向上 英語のリーディング、リスニングだけでなく、今後はライティング、スピーキング能力の向上が必要となるかもしれません。具体的な方法としては以下のようなものが考えられます。 ・必修語学講義へのライティング、スピーキング要素の導入 ・学部早期からの留学生チューターなど、国際コミュニケーションの場を経験する学生数の拡大 ・語学力評価試験の TOEFL, IELTS 等への移行 なお、これら国際コミュニケーション力の向上のための手段は、今後詳細な調査と検討をする必要性があると考えられます。 ○留学生との語学・国際交流機会の支援 現在も大学による支援体制は整っています。それに加えて、留学生と日本人学生でお互いの言語を教え合う、タンデム、Language partner を、学生の目に付きやすい生協にて掲示板で募集するなど、更に学生が利用しやすいサービスの整備が有効かと考えられます。 また、すずかけ台キャンパスではオーラルコミュニケーションの講義を求める意見が上がっています。すずかけ台キャンパスでは留学生率が高いため、その環境を活かせるタンデムなどの手段は講義の代替手段として有効に機能する可能性があります。



5.2.2 教員の英語力強化

提言概要	教員の英語力の強化
学生の意見	本学における教員の国際コミュニケーション力の強化に対する意見が提出されました。
具体的意見	・ Urge all professors to learn more and more English. (同様の意見が 5 件あります)
現状分析	国際的教育についての自由記述において、22 件中 7 件が留学生からの記述であり、7 件中 5 件が教員に英語教育を施すべき、英語力を向上させるべきとの内容でした。このことから、教員の英語力に対して、不満をもつ留学生がいることがうかがえます。教員が英語力に欠けることは、少なからず留学生に対する教育・指導にも支障が生じる恐れがあります。また国際化が進む中で、大学の競争力を維持のためにも好ましくはないと考えられます。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	教員にも英語の公開試験の結果を提出する義務を課し、英語力が不足していた教員に対する研修を行うことで、教員の英語力への関心を高めることが今後重要になってくるのではないのでしょうか。

5.2.3 すずかけ台キャンパスにおける語学授業の充実

提言概要	すずかけ台キャンパスの学生に配慮して授業形態とカリキュラムの再考
学生の意見	すずかけ台キャンパスの学生が英語教育などを筆頭に各種授業で、大岡山の学生に比べ不利な点が多いという意見が提出されました。
具体的意見	・ すずかけ台では英語のオーラルコミュニケーションの授業が開講されません。大岡山で受けたくても研究室での研究を考えると時間がかかりすぎて大岡山まで行けません。これからの時代、英語学習は必須です。どうかすずかけ台でのオーラルコミュニケーション授業を開講して下さい。(同様の意見が 19 件あります)
現状分析	教務課とのインタビューにおいて、問題点を共有できました。教務課より外国語研究教育センターに検討を打診する予定です。
学勢調査 2008 との比較	なし
具体的提言	すずかけ台キャンパスの学生に配慮したカリキュラムの再考を提言します。具体的には以下のようなものが考えられます。 <必修科目の具体例> 生命理工の学部生が必修の英語授業や TOEIC 対策の講義。



5. 学習関連

＜選択科目・大学院の授業＞

英語授業の拡充と存在の告知（大学院に関しては、すずかけ台でも受講できる英語科目がある）



5.3 研究および研究室に関して

5.3.1 学生への研究支援

提言概要	研究環境に対する相互理解を深める事を目的とした情報公開
学生の意見	研究支援を充実させて欲しい
具体的内容	・施設、設備に投資する前に研究に投資してほしい。(同様な意見が 9 件) ・実験器具・設備等にもっとお金をかけて頂きたい。(同様な意見が 4 件) ・授業料免除の見直し、予算決算の公開、学生と運営側との意見交換 雇用や実験スペースへの要望を含め、合計 18 件の意見が寄せられました。
現状分析	本学の財務諸表を調べたところ、平成 21 年度は前年度より研究経費が約 10 億円増額しました(表 5.3.1-1, 2)。にも関わらず、研究支援の要望が多い事を踏まえ、次に示す仮説を立てて研究推進部へお話を伺いました。 ・研究予算に関する学生側の認識と実情にギャップがある。 ・1 人あたりが恩恵を受ける額が少なく、予算が増えた実感がない。 質問① 学生が予算の事を詳しく分からずに研究費の増額を要望する事についてどうお考えですか？ 質問② 大学から各研究室に支給される研究費は、研究経費から捻出されているのですか？ 研究経費の増額により学生が受けた恩恵を具体的に教えて下さい。 回答① 学生が大学経営に興味をもつ事は非常に良いと思います。財務レポートもご覧下さい。 回答② 研究経費以外からも捻出されています。各研究室に割り当てる予算は大学側の一括管理ではなく、各部局(局・部・課などの総称)が管理しています。 学費免除の拡大や教務 Web システムの導入、博士への支援等が実現しました。学生 1 人当たりの教育経費は、他大学より非常に高い水準です。また、研究経費は増額しましたが政府からの補助金等は減額され、一概に研究費が増えたとは言えません。今後は研究助成に関する周知に一層力を入れる方針です。
学勢調査 2008 との比較	2008 年度の提言書の 4.1.2.3「研究および研究室に関して」という項目に同様な要望が記されていました。その報告内容を具体的に検証するために、本年度は更に踏み込んだ調査活動を行いました。
提言	上記のインタビュー結果から、いくつかの研究費に関する認識の違いが解消され、研究環境に対する相互理解の重要性も想起されました。 研究環境



5. 学習関連

に対する相互理解を深めるためにも、大学運営に支障のない範囲内で今後も予算や研究支援に関する情報公開をしていただきたいと思います。

また、インタビューの最後に、学生に向けて「世界に比する工業大学である本学を好きになっていただきたいと思います。過去の偉大な成果や現状を知る事でモチベーションを上げ、それをものづくりの力に活かして下さい」というコメントもいただきました。

研究経費

消耗品費	1,422,097	
備品費	681,388	
印刷製本費	34,873	
水道光熱費	713,312	
旅費交通費	641,447	
通信運搬費	92,890	
賃借料	68,239	
車両燃料費	654	
保守費	90,547	
修繕費	360,774	
損害保険料	8,984	
広告宣伝費	60,156	
諸会費	109,454	
会議費	50,358	
報酬・委託・手数料	472,582	
租税公課	370	
減価償却費	2,053,186	
雑費	2,617	
他勘定受入	96,586	
他勘定払出	△ 19,020	6,941,502

表 5.3.1-1 平成 20 年度財務諸表

[出典 http://www.titech.ac.jp/about/outline/pdf_financial/fs_20.pdf から抜粋]

研究経費

消耗品費	1,864,487	
備品費	784,751	
印刷製本費	46,297	
水道光熱費	609,096	
旅費交通費	680,581	
通信運搬費	100,182	
賃借料	83,416	
車両燃料費	373	
保守費	92,983	
修繕費	452,976	
損害保険料	3,317	
広告宣伝費	78,108	
諸会費	109,221	
会議費	36,360	
報酬・委託・手数料	634,553	
租税公課	279	
減価償却費	2,246,156	
雑費	4,627	
他勘定受入	136,397	
他勘定払出	△ 21,488	7,942,681

表 5.3.1-2 平成 21 年度財務諸表

[出典 http://www.titech.ac.jp/about/outline/pdf_financial/fs_21.pdf から抜粋]



5.3.2 研究室の拘束時間について

学生の意見	研究室の拘束時間が長過ぎる
具体的内容	・研究室に拘束される時間が長過ぎます。 ・学内全体で、研究室の実験で徹夜が横行していることが心苦しい。 ・担当教員は「コアタイムは...とくに無い」と言っていたのに、実際入ってみると「朝9時から夜の9時までがコアタイムだ」と言っていた。 (上記のものも含め、同様な意見が5件あります)
現状分析	図 5.3.2-1 より、大半の大学院生が研究や勉学に長時間励んでいる事が分かります。しかし上記の通り、望んでいないのに研究室に長時間滞在せざるを得ない学生もいます。また、今年度からすずかけ台キャンパスでは、休日・深夜・早朝の実験に申請が必要になりました。この施策の意図の確認も兼ねて、施設安全企画課にお話を伺いました。 質問 すずかけ台キャンパスで夜間作業の申請が必要になった経緯を教えてください。 回答 以前起きた事故が発端となり制定されました。制度目的は夜間作業時の責任の所在や連絡体制等の明確化であり、研究室の拘束時間を規制する制度ではありません。しかし、1日の研究実験時間は10時間までが望ましく、指導教官裁量で学生の管理を履行する事が下記URLに明記されています。 http://www.gsmc.titech.ac.jp/hyoushi/choukikeisaijyouhou/160730/040730kinmujikan.htm 以上により、研究活動の実態に対する大学側の見解が把握できました。学生が主張する研究室の拘束時間の長さが及ぼす悪影響は、現行の学勢調査のデータからは明言できません。追加調査の必要性の有無も含め、アンケート項目の改定が必要です。
学勢調査 2008 との比較	なし



5. 学習関連

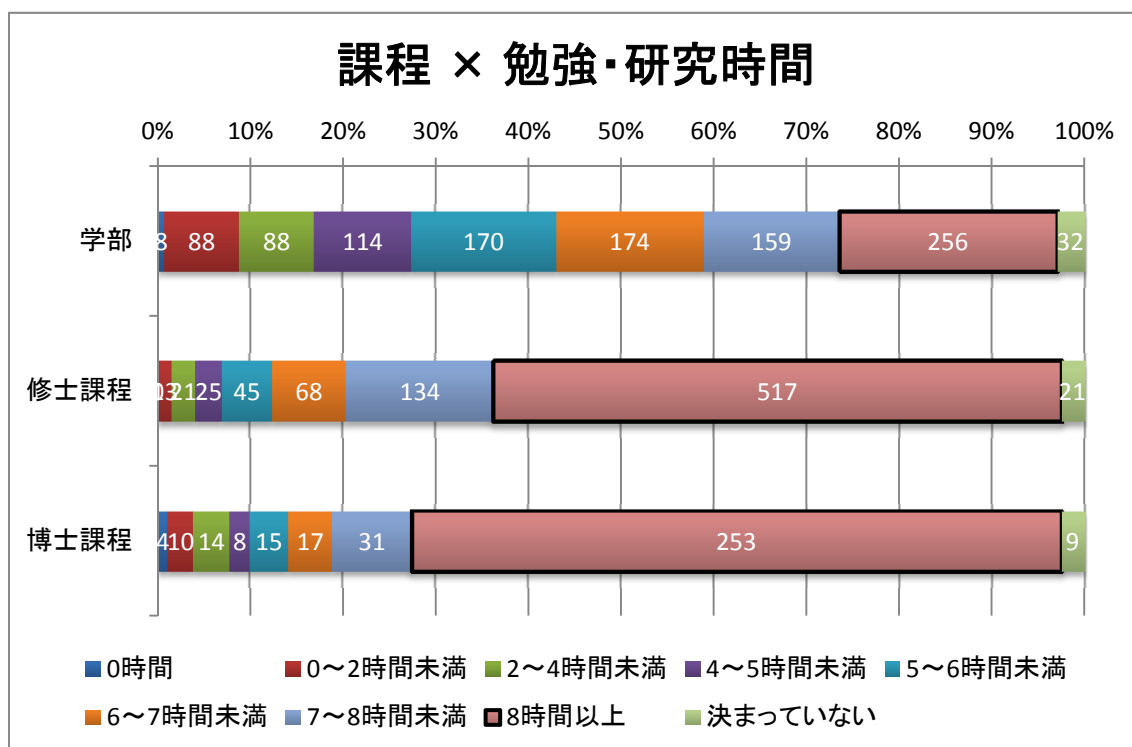


図 5.3.2-1 課程別の一日の勉強・研究時間



5.3.3 大学院における研究と教育の両立について

提言概要	教育と研究の両立を図る施策の実現
学生の意見	授業が多過ぎて研究に時間が掛けられない
具体的内容	・大学院の講義時間が多すぎて、研究に時間が掛けられない。 ・興味のない講義によって研究の時間が削られてしまう場合も多々ある。 「研究が忙しく、講義に時間をかけられない」という逆の主張などを含め、合計 13 件の意見が寄せられました。
現状分析	大学院生が授業に出ない理由は「研究・実験のため」が最多でした(図 5.3.3-1)。一方、授業が多くて研究に支障が出るという逆の意見も 9 件あります。どちらのデータからも伺える事は「研究と授業の両立が難しくなっている」点です。この点について教務課の見解を伺いました。 質問① 修士以上の学生が授業に出ない理由として最も多く出た回答が「研究・実験のため」である事をどう思われますか？ 質問② 研究と教育の両立の為にどのような取り組みが必要でしょうか？ 回答① 本学が研究大学である以上、研究を重視したい願望は当然だと思われそうですが、大学側には教育の質を保証する責務があります。30 単位以上の取得は大学院設置基準に定められており、この条件を満たす事が、学位取得の為に研究を行う上での大前提となります。 回答② 教育と研究の両立が難しいという意見も考慮し、修士課程の修了要件や博士課程の全般的な見直しを進めています。また、社会が学生に求めるのは研究成果だけではなく、研究室外の経験・知識も不可欠です。その一環として授業にも懸命に取り組んで下さい。 以上により、30 単位の取得という修了要件が変えられない実情と、教育と研究の両立を図る為の試みが始まっている事が分かりました。
学勢調査 2008 との比較	前回調査での該当項目(4.1.2.1 大学院における授業の意義と実施に関して)は学生の主張を主体的に扱った内容であったため、本年度は大学側の見解を把握するためにインタビューを実施しました。
提言	教育と研究の両立を図る施策の更なる検討・詳細調査が有効ではないでしょうか。一例として、実験で忙しい学生も参加しやすい時期・時間帯での授業の開講、研究への応用例・キャリア設計に役立つ事例等を取り上げる事を進言します。後者については、カリキュラムが実用的であれば学生は時間を遣り繰りして進んで授業に参加し、研究と教育に win-win の関係が再構築できる事を期待します。



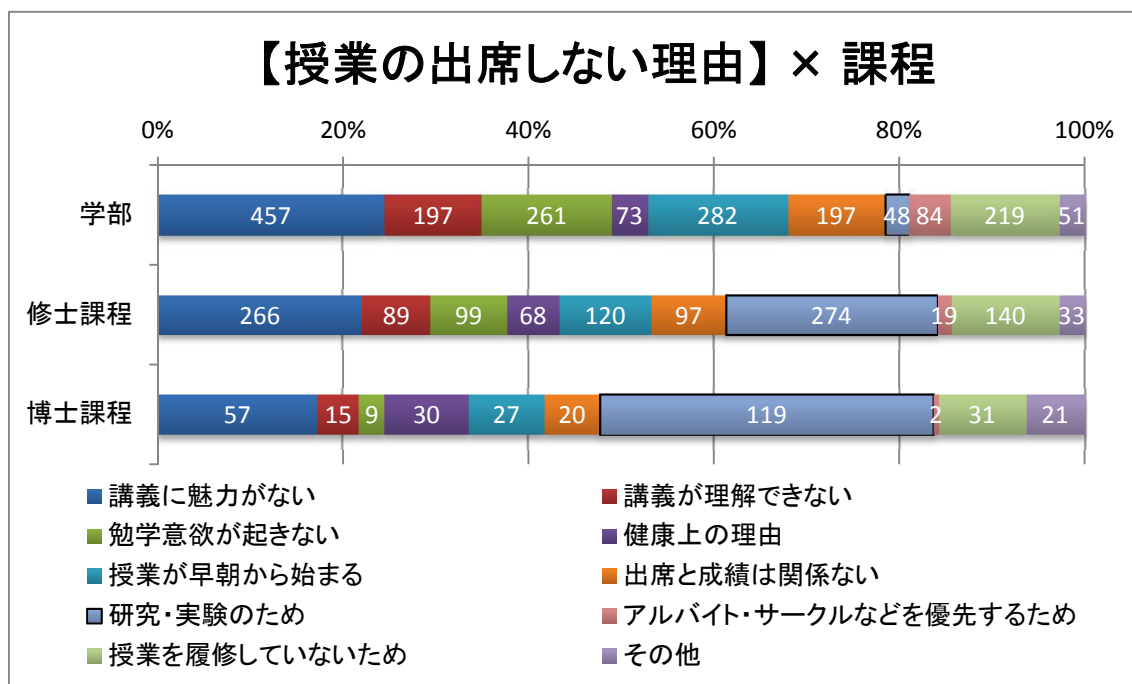


図 5.3.3-1 課程別の授業に出席しない理由



5.3.4 研究室同士の交流

提言概要	公開セミナーの広報の強化
学生の意見	専攻間・研究室間の交流
具体的意見	・専攻を超えた交流ができる機会を作ってもらえるとうれしい。 ・他の研究室交流の企画をもっと大学主体で数を増やしてほしい。 ・他学科や他専攻、他研究室がどんなことをやっているのか、知る機会が少なくてもったいないと思います。 (同様に専攻間・研究室間の交流を求める意見が5件)
現状分析	学生の中で、専攻外・研究室外の方々との交流の需要があることが明らかになりました。専攻内の交流については、専攻の研究室を一つの建物にまとめると良いなどの意見が寄せられました。しかし各専攻によって考え方や方針が異なるため、大学全体で一括した変更を行うのは困難なようです。学生主体の研究室間セミナーなどの開催が現状でできる解決策ではないでしょうか。 一方、専攻外の研究室の交流は大学側によるサポートが有効です。交流の促進には、研究室の公開セミナーの活用が考えられます。しかし、東工大HPでは他のイベントと併記され見つけにくく、このような機会はあまり認知されていないようです。特に、卒業論文・修士論文・博士論文発表会は研究室外へ向けた密度の高い発表会です。これらの公開発表会を周知し参加者を増やすことで、学生に新たな視点が加わることを期待します。情報の伝達法のうち、学部生には各種掲示板、修士・博士にはメールが効果的と考えられます(図5.3.4-1)。
学勢調査2008との比較	なし
具体的提言	東工大在学生向けHPトップに公開セミナーの情報をまとめた「オープンセミナー」の項目を新しく作ること、また項目を作った際はメール及び学科・専攻の掲示板で学生に通知することを提言します。さらに電子掲示板でも公開セミナーの情報を流すことを提言します。



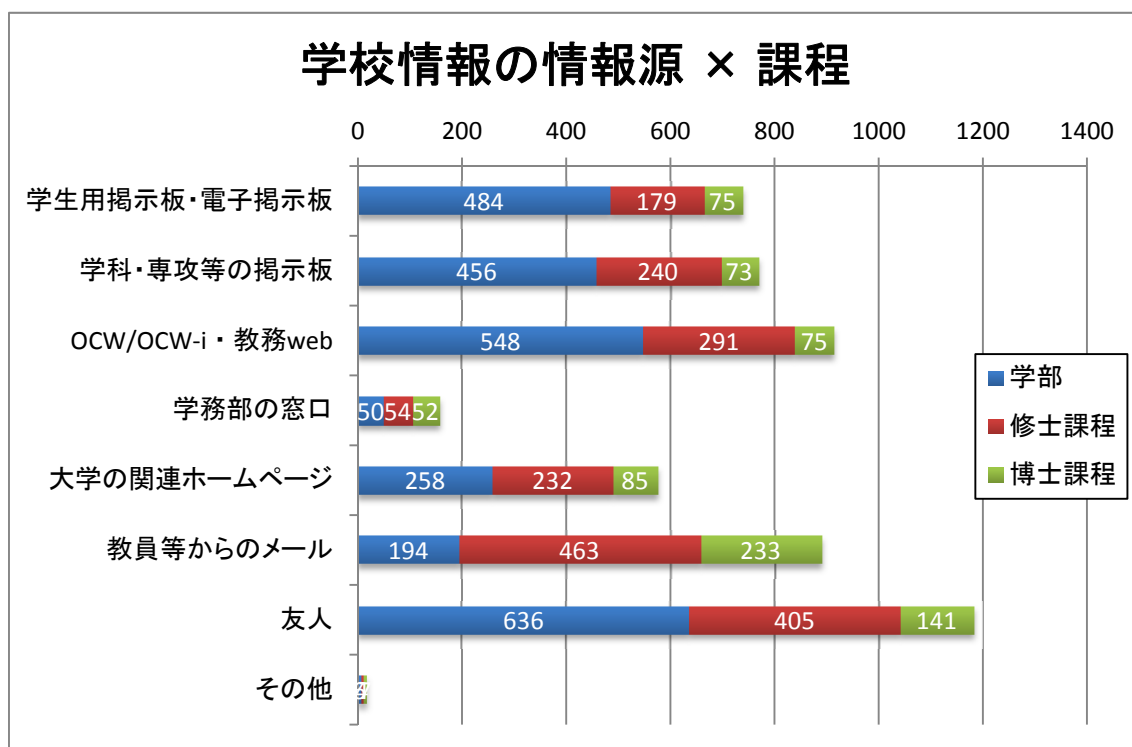


図 5.3.4-1 課程ごとの学校情報の情報源



5.4 授業の実態

5.4.1 授業評価アンケート

提言概要	授業評価アンケートについての現状報告
学生の意見	授業評価アンケートに対する意見
具体的意見	・選択式のアンケートは匿名性が高い一方、実際の問題点が浮かび上がらない。そのため、好きな事を書く欄が必要であると思う。また、採点結果が明らかになったのちのアンケートも必要であると思う。そうでなければ不当な採点をされたりハラスメントを受ける要因になりかねない。 ・授業評価の公表。 ・学期の終わりに書く評価シートはどのように活用されているのだろうか。 (以上 3 件)
現状報告	授業評価アンケートについて以上のような意見が見受けられました。 一つ目はアンケートの形式に関する意見です。今のところ 1 件しか自由記述がなく学生全体の意見が分からないので他にも授業評価アンケートについて不満や意見がないか調査する必要があります。 二つ目については困難かもしれませんが、各授業の評価結果の公開を求める声が一定数見られました。 三つ目の記述について、授業調査の結果は以下の URL で公開されていますが、この自由記述を見ると、このことについて十分周知がなされていないと考えられます。 http://www.cradle.titech.ac.jp/hyoka/index.html 授業評価アンケートがどのような目的で行われ授業の改善にどのような形で役立っているのか大きくアナウンスする事も重要だと言えます。
学勢調査 2008 との比較	学勢調査 2008 において授業評価アンケートに関する直接の記述はありませんが、「教員の指導力、やる気、授業の質に対する批判的意見」の参考として授業評価アンケートについての URL が記載されています。



5.4.2 教員に対する意見の現状報告

提言概要	教員に対する意見の現状報告
学生の意見	教員に対しての不満
具体的意見	・基本的に説明力にける教員が多いです。 ・先生方の教育に対するモチベーションは高いものの、その分野を学ぶことに対する魅力やメリット、社会へどのように貢献しているのか、といった説明が足りないと思います。（中略）単に知識を教えるのではなく使い方と魅力を大々的に宣伝すべきだと考えます。 ・生徒の勉強に対する意識が低すぎる。しかしその原因は教授にあると思う。教科書に書いてあること以外を教えるのが授業だと思う。 (12件)
現状分析	「教員の学生への対応は適切ですか。」というアンケート項目の回答をグラフ化して見ると五段階中、適切ではない側の「1」「2」を選んだ人の合計は11%で、「5」の27%、「4」の36%と比べかなり小さくなっています。多くの生徒は教員の対応に関して満足していると考えられます。 この項目の「教員」というのは、「指導教員」に限定せず、「教員全般の指導・授業・事務手続きの対応」という意図で質問しています。そのため参考程度の結果となりますが、教員の対応と研究室への満足度のクロス集計の結果を見ると、研究室への満足度が低いほど教員への不満も大きく、教員の対応が研究室への不満の一端を担っている可能性があります。 また、教員の指導力不足や、研究力(研究意欲)が低い「素質」がないなど教員が不適切だとする記述が12件見られました。特に指導力不足を指摘する記述は6件見られました。ただ、この件に関しては意見をした学生の主観の問題も大きく、一概には言えませんが、今後、教員の指導力に関する詳細な調査の必要性も出てくるかもしれません。
学勢調査2008との比較	学勢調査2008には「教員の指導力、やる気、授業の質に対する批判的意見」として24件の記述がある事を報告しています。単純に比較する事は出来ませんが、今回の調査では教員への不満を訴える記述は半減したと言えます。しかし、依然として不満の意見があがっている事に変わりはありません。



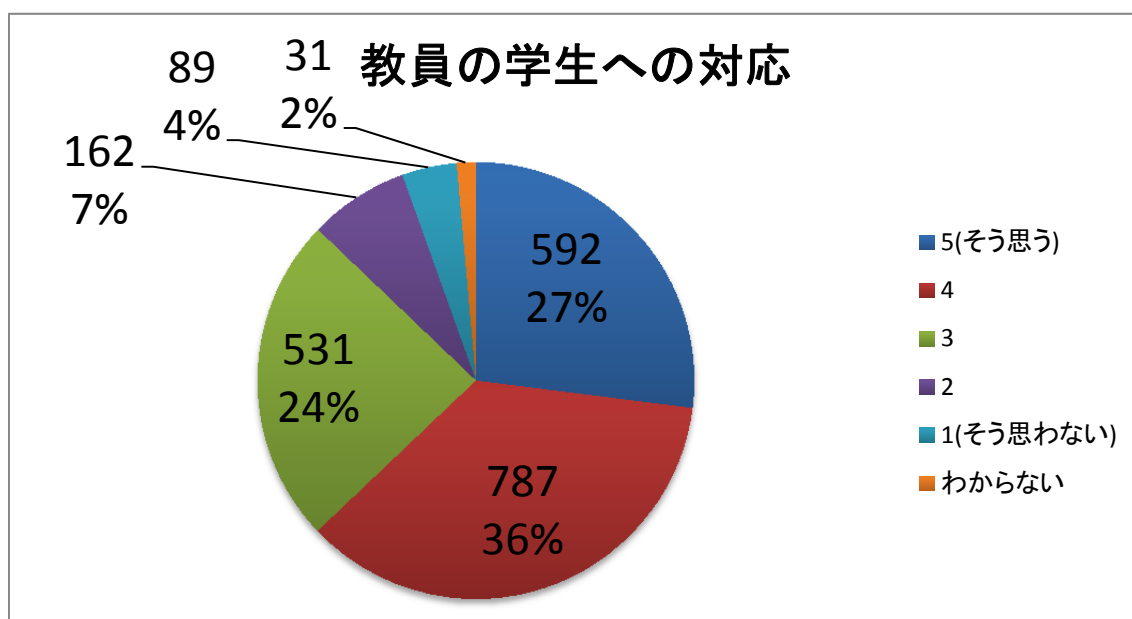


図 5.4.2-1 「教員の学生への対応は適切ですか」に対する回答

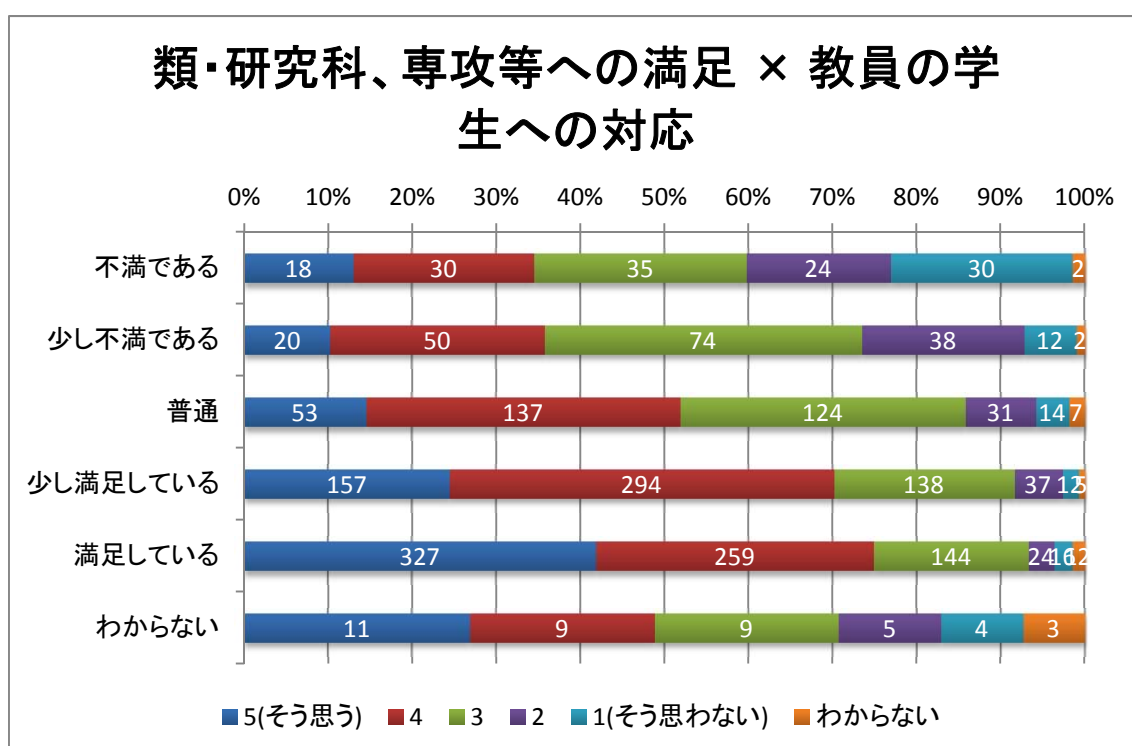


図 5.4.2-2 類・研究科、専攻などへの満足×教員の学生への対応



5.4.3 授業の出席状況・出席点についての現状報告

学生の意見	出席点制度や授業に出席を課す事への不満
具体的内容	・出席点制度をやめるべき。点数に実力が反映されない。 ・履修人数が確保できないといった理由で世話人の先生の研究室の学生が出席しなければならないような集中講義なら、行わない方がいいと思う。 出席点を減らすべき・無くすべきという意見が4件、出席を課されて困るという意見が4件で、合計8件の意見が寄せられました。
現状分析	出席点制度に不満がある一方で、出席点がないと授業に出ない学生が一定数存在する事も判明しました(図 5.4.3-1)。この事から、出席点は学生が授業に出ない事を抑止する働きがあると考えられます。また、2008年から2010年にかけて「授業に殆ど出席する」学生の割合が増加しました(図 5.4.3-2)。このデータは解釈が難しいため、①真面目な学生の増加 ②出席を課す授業の増加 という仮説を立てて教務課にお話を伺いました。 質問① 真面目な学生が増えた印象はありますか？具体的には、留年する学生の減少、授業の平均点の上昇といったデータはありますか？ 質問② 2008年から2010年にかけて出席点制度のある授業は増えましたか？文部科学省や大学側から、出席点を重視すべきという意見は出ていますか？ 回答① 「留年する学生の減少・授業の平均点の上昇」のデータはありますが、分析まで至っておりませんので、真面目な学生が増えたか否かは分かりかねます。 回答② データは、把握していません。出席の評価は、各教員の判断によって決定されています。大学及び文部科学省はそのような意向を表明していません。しかし、大学設置基準により単位の認定に必要な学習時間が制定されており、この点からも授業に出る事はいわば必然といえます。 以上により、授業の実態に対する大学側の見解を把握できましたが、授業の出席状況が変化した場合の原因を客観的指標で知る事はできませんでした。
学勢調査 2008との比較	2010年度の調査で新しく取り上げた項目です。2008年度の定量データとの比較からは、出席点がないと授業に出ない学生が一定数存在する事と、「授業に殆ど出席する」学生の増加が判明しました。



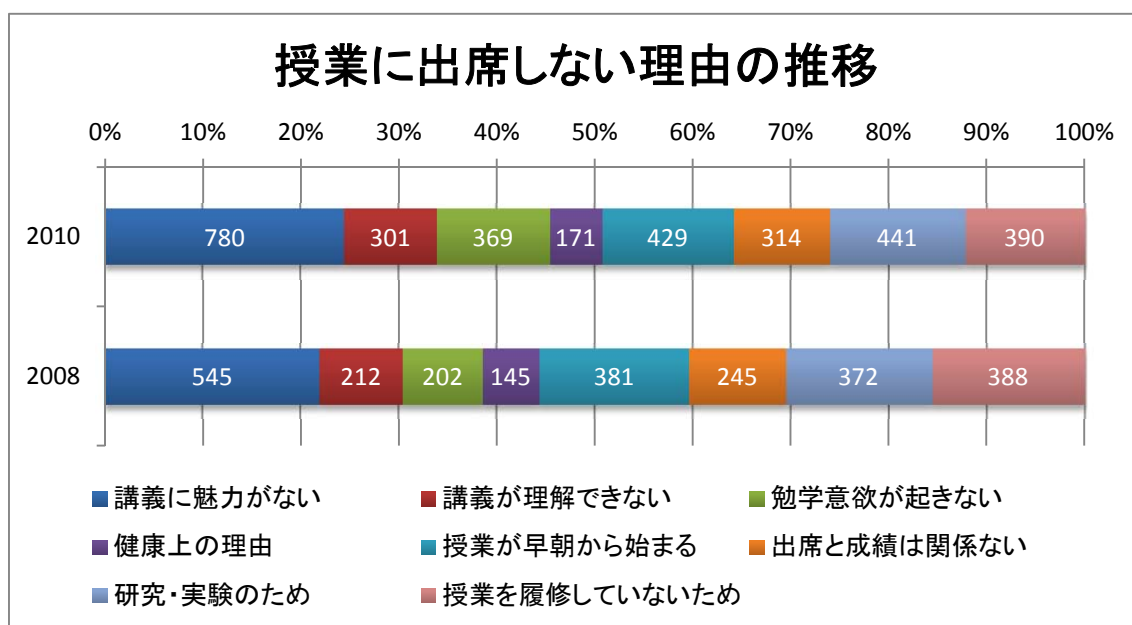


図 5.4.3-1 授業に出席しない理由の推移（複数選択可）

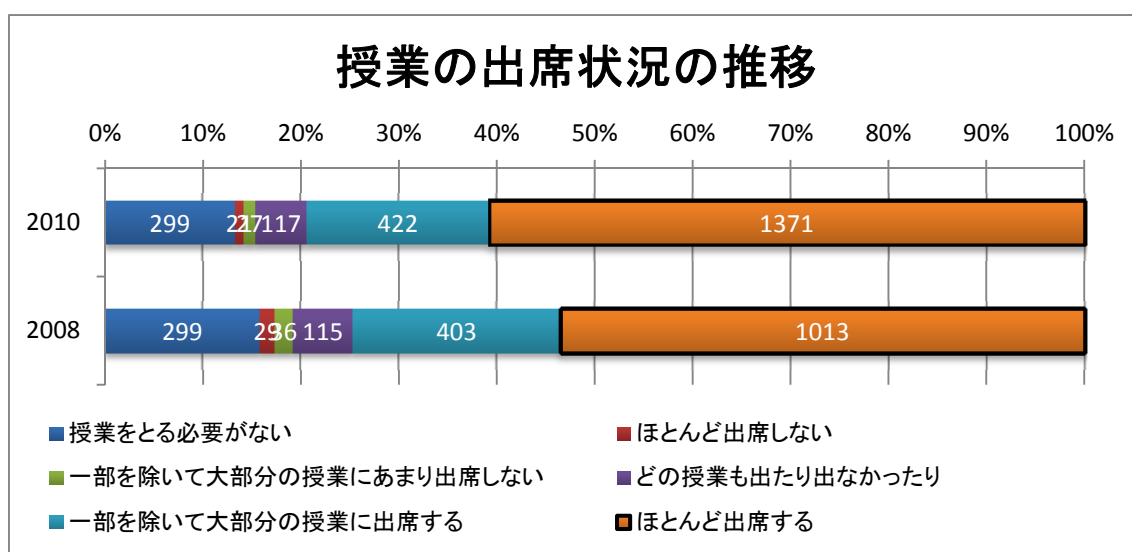


図 5.4.3-2 授業の出席状況の推移



5. 学習関連

5.4.4 社会人学生への配慮

提言概要	社会人学生への配慮の拡充
学生の意見	社会人学生への配慮
具体的内容	・履修しやすい時間帯の講義を増やしてもらいたい。 ・技術経営専攻の授業の時間帯をもっと社会人に配慮してほしい。 (授業が履修しづらいという意見が 9 件) ・時間のない社会人の立場にたって手続きの簡素化、ガイダンスの一本化を考えて頂きたい。(事務手続きへの要望が 3 件) 母数が少ないにも関わらず、施設・卒業要件等への要望も含め 18 件 の意見が社会人学生から寄せられました。
現状分析	以上により、「仕事との両立を図るのが困難で、授業の履修や事務手続きに支障が出ている」といった、社会人学生の学習環境の厳しさが想起されます。内訳は、イノベーションマネジメント研究科への意見が 13 件 を占めました。そこで、同研究科の自己点検・評価結果を拝見すると「土曜日だけで主要科目が受講できるローリング制の導入」等の改善事例の報告があります。以上を踏まえ、教務課にお話を伺いました。 質問① 改善事例があるにも関わらず、イノベーションマネジメント研究科の社会人学生から不満の声が多い原因をどうお考えですか？ 質問② イノベーションマネジメント研究科以外では、他大学の夜間過程のような社会人学生向けの教育プログラムはありますか？ また、社会人学生の要望を聞く機会がありますか？ 回答① 時間割への不満を解消するには、教職員の勤務体制を整える必要があります。そのためには全学的に同意を得る必要があり、現状では要望にはお応えできていません。 回答② 11-12 限（18:30-20:00）の授業は、イノベーションマネジメント研究科でのみ実施されています。現在その他の研究科では、社会人に十分配慮した教育プログラムはありません。 教務課の把握している限りでは、そのような機会はありません。イノベーションマネジメント研究科（社会人ドクターに関しては教育推進室）に検討をお願いする事は可能です。
学勢調査 2008 との比較	2008 年度の提言書の「4.1.2.2 大学院教育の諸制度について」という項目に同様な要望が記載されていました。その報告内容を具体的に検証するために、本年度は更に踏み込んだ調査活動を行いました。
提言	上記の分析内容・インタビュー内容を踏まえ、 社会人学生が学習しやすい



い環境作りを引き続き進めていく事を提言します。まずは意見交換の機会を定期的に設ける事で、社会人学生のニーズとその実現可能性を正確に確認する事が重要です。最後に、現状分析の欄に引用した「イノベーションマネジメント研究科の自己点検・評価結果」の URL を記載します。

http://www.mot.titech.ac.jp/data/keikaku_jikotenken_h19.pdf



5.5 大学制度

5.5.1 他大との交流の活発化について

提言概要	他大との交流の活発化
学生の意見	他大との交流制度の充実
具体的意見	・四大学連合や単位交換制度などをさらに充実させ、他の大学との交流をますます深めていくべきだと思う。 ・四大学連合における授業の選択肢を増やしてほしい。 (以上 2 件)
現状分析	現在、四大学連合や他大学との単位互換などで他大の授業を受けることができます。しかし、授業の選択肢について上のような不満の声が上がってきています。これについて教務課に以下のような質問を行いました。 質問 四大学連合での授業の選択肢を増やすことはできますか。できないとしたらどのような理由がありますか。 回答 ・文理総合コースでは履修生からの要求に基づき一橋大学に授業科目を増やすように要請していますが、要求科目数が多いため、一橋大学側の事情もあり実現していません。 ・どのような授業科目を新たに増やしたいか履修生の側から積極的に各コース主査の先生に申し出てほしいです。 ・工学部の学生に限りますが、経済学関係では慶應義塾大学で少人数のゼミを除くほとんどの科目を履修できますので、慶應義塾大学での履修をお勧めします。
学勢調査 2008 との比較	なし
提言	四大学連合などの他大の授業を受講できるシステムにおいて、履修できる授業を増やす事を提言します。他大学との交流をさらに活発化させるためにも履修できる授業の選択肢を増やしていただきたいです。 また、学生側もどのような授業科目を新しく開講してほしいのか積極的に申し出るべきです。



5.6 カリキュラム

5.6.1 時間割・授業内容に関して

提言概要	積極的な学生の意見発信
学生の意見	自由記述よりカリキュラムの改善を求める要望が 19 件存在します。
具体的内容	・時間割の自由度を少し増やしてほしい。(同様の意見が 4 件あります) ・カリキュラムを変更・見直しをした方がよい。(同様の意見が 10 件あります) ・授業ごとにすずかけ台―大岡山間を移動するのは負担である。(同様の意見が 5 件あります)
現状分析	教務課に以下のようなお話がうかがえました。 質問① 時間割および講義室の決定方法はどうなっているのでしょうか。 時間割の作成においてまず前年時間割を参考に全学科目が各曜日・時限に割り振られます。続いて、学科・専攻において専門科目の開講を決定します。それを受け、教務課は各学科・専攻に開講曜日・時限・希望講義室を調査します。この時点で曜日・時限が固定となります。そして、調査結果を元に講義室を調整します。 また、同じ授業を複数回行う事で、自由な授業選択ができないかという事については、現在講義室の数・教員の都合などの関係で難しいようです。 質問② 時間割決定の際に学生意見を反映することは可能でしょうか。 時間割作成にあたって、全ての学生の意見を反映する事は現状では難しい状況です。ただし、学生になるべく負担を強いる事がないように最大限配慮して時間割作成に臨んでいます。 学生の意見という点では、昨年教務 Web システム並びに講義室についてアンケートを実施しました。参考になる意見も寄せられましたが、回答率が 10%以下と低かったのが現状です。学生は是非このような機会を生かしてほしいです。 また、本学では Titanet3 を利用した動画送信システムにより、大岡山とすずかけ間でリアルタイムに同時に講義を行うことが可能です。このシステムは現在一部の講義で使われていますが、使用の有無は担当教員に一任されているということです。
学勢調査 2008 との比較	前回調査においても同様の要望(キャンパスの地理的な要因の関わる問題(7名)時間割の見直し(18名))が寄せられています。今回調査の結果から、十分な対策が行われていないことが分かります。



	しかし、キャンパスミーティングの結果『休憩時間が短く、授業間の移動が大変である』という意見を受け、2011 年 4 月 1 日より休憩時間を 5 分間延長する事が決定されています。
提言	カリキュラムに関する問題について学生が積極的に意見発信をしていくことを提言します。当事者の大部分である学生が説得力のある要望が出せないと問題は解決されません。本調査や教務課のアンケートに学生が積極的にこたえることは問題解決のきっかけになります。 ・事前調査(問題点の洗い出し) ・事前調査で分かった問題点に対して、それを問題と思っている学生の数の調査 ・問題点の対策方法の募集(学勢調査の自由記述などを利用) ・調査結果をもとに関係各所へのインタビュー といったことを、本調査や各学科で行うことで効率的な改善が行われると思われます。 具体的な問題に対して 前回調査の結果を受けて休憩時間が変更になります。それにより教室の移動などが容易になりますが、一方で部活動などへ影響が考えられます。この問題に関しては継続的な調査が必要です。 また、すずかけ台-大岡山キャンパス間移動の問題に関しては、動画配信授業等を利用し、キャンパス間の移動を減らすことはできないでしょうか。キャンパス間移動は学生にとって時間的・金銭的な負担が大きいので早急な改善を求めます。



5.6.2 文系科目への要望

提言概要	文系科目を充実させてほしい
学生の意見	文系科目の充実を求める意見が4件寄せられています。
具体的内容	・文系授業をもっと充実してほしい。(同様の意見が4件) ・専門科目はともかく、文系科目の初回講義は時間を半分にして2回ガイダンスを実施するようにしてはどうでしょうか。いくつかの講義の内容を聞いてから、選択したいです。
現状分析	前回調査に引き続き、今回調査でも文系科目の充実・新しい授業の追加を求める意見が4件ありました。しかし、現在東工大では文系科目・文明科目・総合科目合わせて400近い講義が開講されています。また、授業の追加を求める意見においても、追加してほしい授業に関してはバラバラであるのが現状です。 質問(教務課) 開講する文系の講座を決定方法。および学生意見の反映可能性。 回答(教務課) 全学科目については、それぞれに実施委員会が設置されており、その委員会において科目の検討を行っています。 専門科目だけではなく、幅広い視野と知見を見につけてもらいたいというのが全学科目の趣旨ですので、学生のニーズに合わせる必要がありますが、学生の意見が拡散しては新たに文系の科目を開講することにしても数に限りがある以上、対応は難しいと思います。 ある程度学生の意見がまとまれば、それを要望として各実施委員会にお伝えして検討いただくことは可能と思われます。 また、本学では文系大学である一橋大学(四大学連合複合領域コースへの所属が必要)・慶應義塾大学・お茶の水女子大学の講義を受講できるようになっています。是非その制度を活用していただきたいものです。
提言	現状分析のように学生意見が拡散した状況では授業追加の要望を出すことはできません。 従って、次回学勢調査や別調査による、学生のニーズの明確化が必要ではないでしょうか。増やしてほしい授業の分野に関する選択式アンケート項目(法・政治・経済・文・芸術など)と、具体的な内容に関する自由記述(たとえば法を選んだ場合には『知的財産に関する授業』など)を組み合わせることで学生のニーズを測ることができると思います。その中で特に多かった意見を提言とすることで学生の要望を実現しやすくなると思います。



5.7 単位・成績

提言概要	成績評価方法の公開基準の標準化
学生の意見	成績評価方法の公開・標準化
具体的意見	・成績は学科所属や大学院への内薦の判断に利用されているのに、授業ごとの成績のつけられかたは全くわからないという状況はあまり良くないと思います。 ・ I think something has to be done to standardize the system in all faculties. Currently, each faculty has its own way of evaluating students in exams, deciding labs for 4th year undergrads, etc. This happens because faculty heads are given plenty of freedom to do whatever they see fit. It may be a good way for passionate professors to do the best for the faculties. (以上 2 件)
現状分析	上記のように成績評価方法の公開を求める意見が寄せられました。また、これは授業の種類において大きく異なるので難しいと思いますが、成績評価方法自体についてもある程度の共通基準を作った方が良いという意見も一件見られました。 現在でも OCW のシラバスにおいて成績評価方法に関する項目がありますが、授業ごとに、具体的な数字を挙げるものから非常にあいまいな表現のものまで様々であり、授業によってはほとんど情報を得られないといったものもある状態です。
学勢調査 2008 との比較	学勢調査 2008 では「成績評価・単位認定の基準の明確化」の自由記述欄に成績の付け方の公表を求める記述がありますが、今回調査の自由記述を見るとこういった状況は改善されていないと思われます。
提言	成績評価方法の公開について、どの程度まで公開すべきか共通の基準を作ることを提言します。 このため大学側で OCW における成績評価方法の公開について一定の基準を作り情報公開を促すことを求めます。これには、成績評価方法をだれでも見ることができる大学のホームページ上で公表する事により評価の透明性が増す効果も期待できます。 また、OCW においてこのようなことができない場合でも、授業ごとの成績評価方法について一定以上の情報が得られるよう新たな窓口を設けていただきたいです。 もちろん授業を担当する教員ごとの意見の違いもありますので一律の基準を作ることは難しいかもしれませんが、その場合でもより多くの授業で



成績評価方法の情報が得られるように情報公開を促してもらいたいです。

授業の成績は学科所属及び大学院入試に使われるものであるので、学生は成績評価について単位申請前に十分な情報を得ているべきです。



5.8 その他

その他に、下記のような意見が寄せられました。

5.8.1 研究および研究室に関して

具体的内容	・教員の研究以外の仕事による負担が多い。(同様な意見が3件あります) ・Please also make a manual book of the experimental equipment in English. (同様な意見が2件あります) ・Professors should try to listen to what the students want to research in their lab, instead of pushing a project to them. ・教授が威圧的。学生の研究への配慮が足りない。 ・研究室にタイムカードを導入 (実際の研究時間の把握のため) ・研究室の教授は忙しく、学生への対応を上級生に投げている部分が多いと思います。 ・専攻毎で研究室ルールを統一してほしい。
-------	--

5.8.2 授業の実態

具体的内容	・研究に忙しすぎる教授もいて講義がある意味楽になってしまうことは少々残念。 ・各授業の一貫性がない。(途中で教授が交代する等) ・理学系の専攻で設けられている授業は実用性に乏しい。授業は研究をする上ではためになるが、就職活動などの役には立たない。 ・学んだことが研究室で生かない、もしくは時間がたちすぎて忘れる。
-------	--

5.8.3 カリキュラム

具体的内容	・少人数の授業 (同様な意見が3件あります) ・講義動画の web 配信 (同様な意見が2件あります)
-------	---



6. ハラスメント

重要性が高い項目

6.1 ハラスメントの実態

提言概要	ハラスメントの実態を報告する
学生の意見	ハラスメントの実情を訴える内容
具体的意見	・パワハラが強い研究室があるという。調査と対応を求めたい。 ・知り合いがセクハラを受けていてかわいそう。 (個人が特定される恐れがあるため自由記述の一部は改変してあります。) (同様にハラスメントの実態に関する意見が 16 件)
現状分析	アカデミックハラスメント (アカハラ)、セクシャルハラスメント (セクハラ)、アルコールハラスメント (アルハラ) といったハラスメントは、学生の生活や心身に著しく影響を及ぼす問題です。この問題に対し、東工大においてもハラスメント相談窓口が設置され、学生や研究室への啓発活動が行われています。 図 6.1-1 に 2010 年度及び 2008 年度にアカハラ・セクハラ・アルハラを「現在受けている」「かつてあった」「ない」と答えた学生の人数と割合を示します (2010 年度のみ「(上記の中に) 該当する選択肢なし」という選択肢を加えています。この選択肢を選んだのは「ハラスメントを受けているかどうかわからない」等の状況の学生だと考えられます)。この図より、3 種類のハラスメントのうち、アカハラを経験した学生が最も多いようです。そこで、ここでは、アカハラを例に取り上げて現状分析の結果を報告します。 図 6.1-2 は学年ごとのアカハラ経験者数を示しており、研究室所属を行う学部 4 年生を境に、アカハラの割合が増えていることを示しています。学部・修士・博士を合わせると、アカハラ経験者は全体の約 1 割でした。 図 6.1-3 は忙しい時、家に帰れない日の頻度を示しています。この図から、現在アカハラを受けている人だけでなく、過去にアカハラを経験した人も、経験のない人に比べて大学に泊まる割合が高いことがわかります。さらに図 6.1-4 からは、アカハラを受けたことのある人は受けたことのない人に対し所属する類・学科・専攻に対する満足度が低いことがわかります。 以上から、アカハラは学生の生活状況に深く関連し、心理状況に多大な影響を及ぼしていることが伺えます。学生への心理的影響については、巻末の調査資料集の図 3-(14)にも記されていますので、ご参照下さい。
学勢調査 2008	前回の学勢調査と比較すると現在受けていると答えた人の割合が減ってい



との比較	ることはわかりますが、今回の調査でもようやく全体の約 20%の回答が得られたに過ぎず、詳しい議論を行うことはできません。しかし、現在少なくともこれだけの学生がハラスメント被害を訴えているということは事実です。
提言	今回の調査からは、回答者数の少なさ、詳細な設問の少なさから正確な実態を把握することは出来ませんでした。しかし上記のように、ハラスメントによって学生生活への悪影響が見られる以上、何らかの対策を講じる必要があります。今回は統計の都合上、アカデミックハラスメントのみに着目しましたが、セクシャルハラスメント・アルコールハラスメントに対しても共に対策を行うべきです。

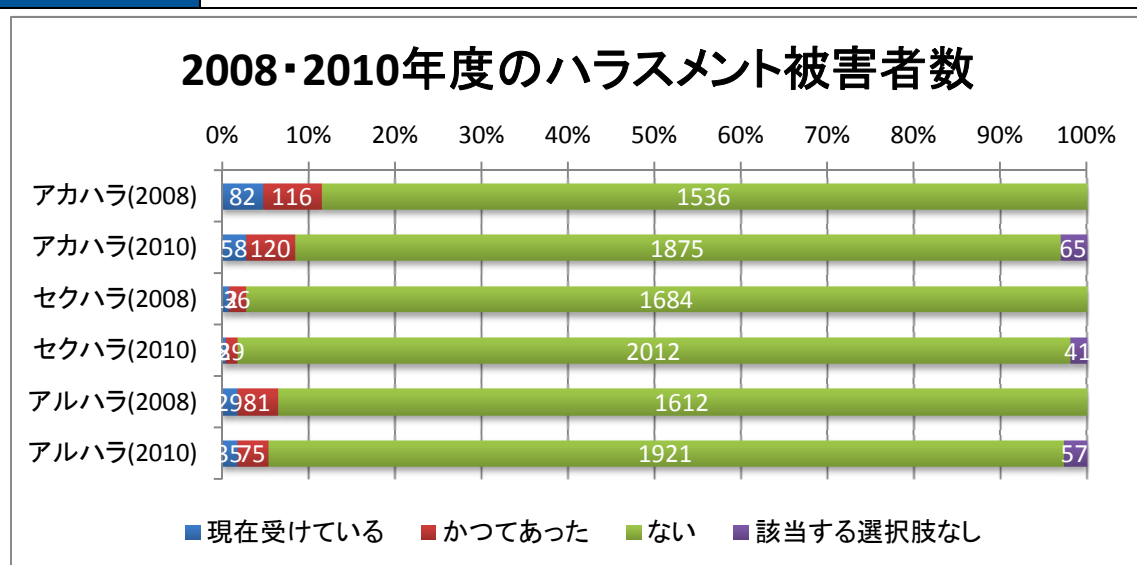


図 6.1-1 2008 年度と 2010 年度の各種ハラスメント被害者数の比較

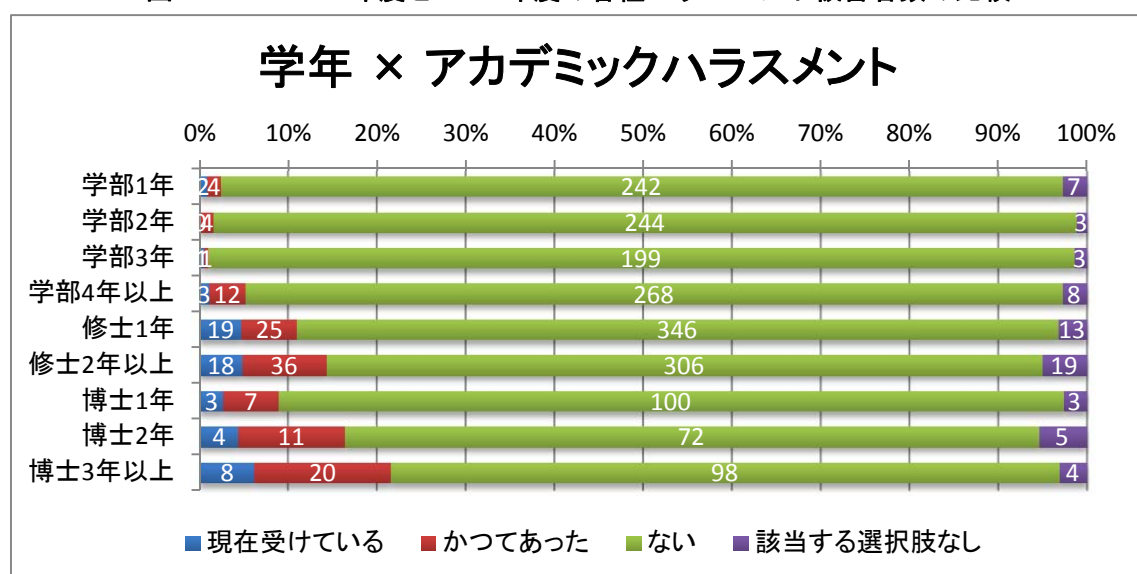


図 6.1-2 学年ごとのアカデミックハラスメント経験の有無



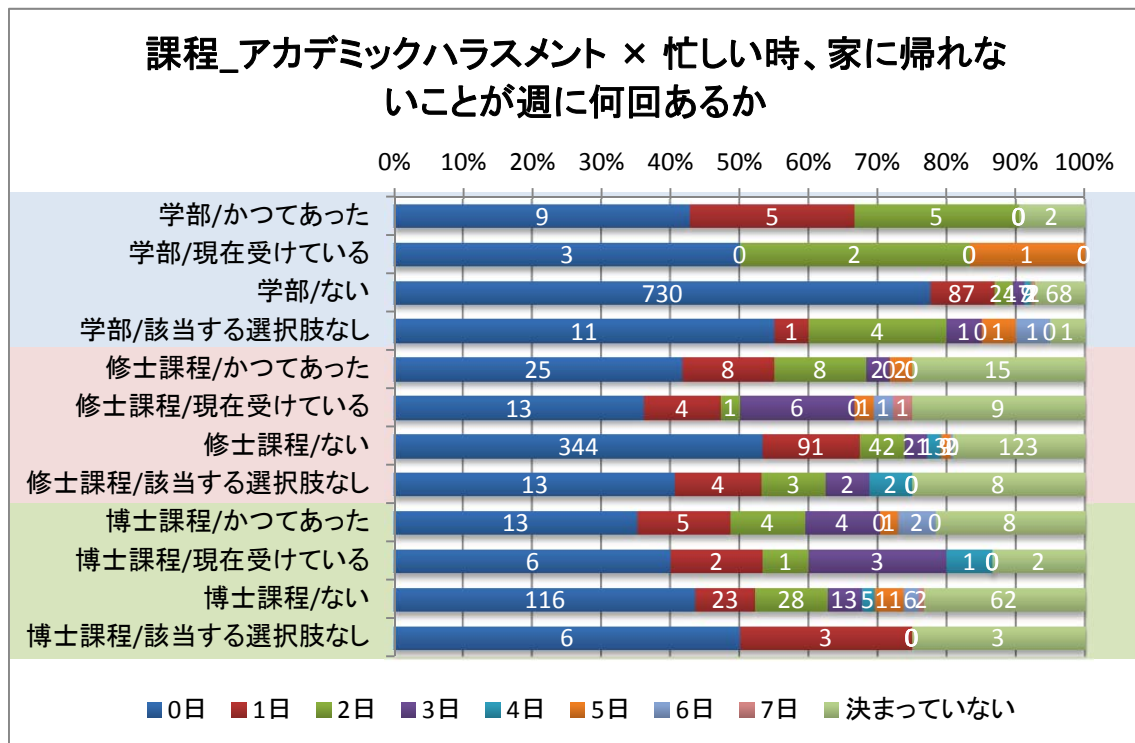


図 6.1-3 アカデミックハラスメントの経験と家に帰れない頻度

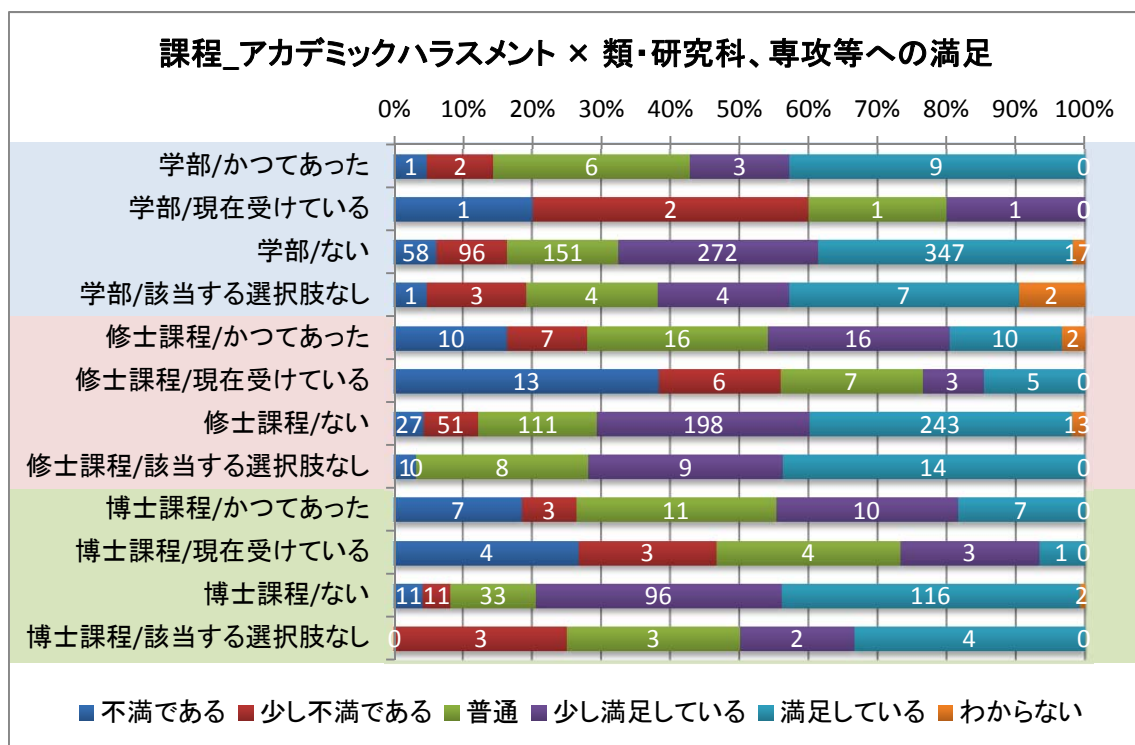


図 6.1-4 アカデミックハラスメントの経験と所属への満足度



6.2 ハラスメントの防止策

提言概要	ハラスメントの防止策の強化を提言する
学生の意見	ハラスメントの防止策を提案する内容
具体的意見	・ 学生への意見調査、研究室への訪問調査。アンケートを取るだけで終わらず、もう一步踏み込んだ対策を行って欲しい。 (ハラスメント実態調査の要望が 14 件) ・ 相談センターなどへもっと気軽に行けるような環境が望ましい。 (相談制度の充実・改善・広報を求める意見が 14 件) ・ 気軽に相談できる窓口の設置(ネット等) (より簡単な告発システムを作ってほしいという意見が 11 件) ・ 教員に対しても倫理教育を行い、議論する機会を設ける。 (教員へのハラスメント防止指導を求める意見が 11 件) ・ 研究室に所属する前の段階で、ハラスメントとその対策に関する知識を与えることが有効かと考えます。 (学生へのハラスメントの定義、対策法の説明を求める意見が 10 件) ハラスメントの防止策に関しては合わせて 173 件 (うち留学生は 15 件) もの意見が寄せられました。 アカハラ・セクハラに関しては上記以外にも、事件情報を公開、厳罰化する (それぞれ 10 件) 所属を変えやすくする (9 件) などの対策が挙げられました。またアルハラについては、サークルに対するアンケートの実施・罰則の強化・入学時のアルコールテストの実施など、全 12 件の意見が寄せられました。また、学生間のハラスメントも取り締まってほしい、という意見も 5 件寄せられました。
現状分析	ハラスメントの対策を求める自由記述の中では、相談制度の改善を求める声が 14 件と、実態調査の要望と並び最多でした。図 6.2-1 からは、ハラスメントを受けた際、学内の相談機関よりも友人や家族への相談や、何もしない人の方が多いことがわかります。一方で図 6.2-2 を見ると、アカハラ経験者は非経験者に比べ、「助言教員・クラス担任」を除く全ての相談機関の利用率が高く、これらの相談機関を必要としていることがわかります。 「かつてあった」人は特にカウンセリングとキャリアアドバイザー、就職担当教員の利用率が高いことから、心理的なケアを求めている様子や、将来の進路への不安を抱いている様子が伺えます。また、「現在受けている」人に関しては全体的に「相談してみたい」という回答の割合が比較的高く、悩みを抱え続けている様子が伺えます。



	質問（学生支援課・保健管理センター） ①全学アンケートやそれ以外のハラスメント調査は可能でしょうか？ ②相談窓口の体系はどうなっていますか？また相談窓口の HP やビラ以外の周知は行っていますか？ ③先生へのハラスメント講習会などは行っていますか？ 回答（学生支援課・保健管理センター） ① 全学アンケートを行うことは、方法や手順などが簡単ではありませんが、可能だと思います。一方、部局内へ立ち入るような調査は、当事者や他の関係者によってそれぞれ見解が異なる場合や、調査によって事態が悪化する恐れがありますので、一概に進めることは難しいのが現状です。 ② ハラスメントに関する相談内容は、どの相談窓口で相談しても、ハラスメント相談窓口を中心に、相談者の希望に沿ってまとめられます。なので、まずは学生相談室や行きやすい相談窓口にいらして下さい。来年度からは新一年生用にキャンパスガイドブックという冊子を作り、1 ページを割いて相談窓口一覧やハラスメントの対策法などを説明する予定です。 ③ 教員への講習会は着任時及び年に 1 回以上行っていますが、必ずしも出席の義務があるわけではありません。今後は年に 1 ～ 2 回各部局で講習会を行うこと、その際一定以上の出席を義務付けることを検討しています。
学勢調査 2008 との比較	前回の調査結果を受けて、「さよならミスマッチ」のリーフレットやHP によるハラスメントの啓発活動が展開されました。しかし、本調査の自由記述などにはそれらの活動に関してほとんど触れられていませんでした。そのため、現状の啓発活動ではその内容や学生への浸透が十分ではない可能性があります。その理由の一つとして、研究室に送られてきたリーフレットを指導教員が学生に配布しない場合があるほか、今年度はリーフレット自体が配布されていないことが挙げられます。
提言	① 定期的な実態調査 年 1 回の全学的実態調査を提案します。ハラスメントに特化した調査により、実情を現調査より詳細かつ広範囲に把握し、大学による適切な対応の基盤とします。具体的には、匿名性・回収率を確保するためにインターネットを介したアンケートを行う、アンケート内に実情を具体的に記述できる自由記述欄を設置するなどです。 ② 相談窓口の広報の強化



相談窓口のより一層の周知を提言します。具体的には、相談窓口一覧の HP 掲載、各種関連 HP にリンクの設置、学内メールによる URL の定期的周知、および相談窓口案内の掲示板への掲載、学内広報紙での紹介などです。これにより、救済を求める学生への認知を高めます。また非常に繊細な問題であるため、少しでも相談者の心理的ハードルを下げられるよう、相談窓口の地図や写真、各相談員の紹介やメッセージなどの HP 掲載を提案します。これらの実現は問題へのより迅速な対応に繋がります。

③ 新告発システムの導入

現在の相談窓口に加え、相談窓口への目安箱の設置、大学のハラスメント関連 HP へのメールフォームを設置し、そこからの相談実現を提言します。これらは相談者の心理的ハードルが低く、また当事者の周囲からも相談しやすい利点があります。

④ 学生へのハラスメントの定義・対策法の啓発

学生がハラスメントに適切に対応できるよう、関連知識の啓発活動を提言します。具体的には、リーフレット等の案内が、学生に直接届くように配慮する、HTML による見やすいハラスメント関連 HP の制作と詳細な情報掲載、来年度発行されるキャンパスガイドブックをはじめとした各種案内の留学生版（英語）の作成、年一回の研究室所属学生対象の講習会の実施などです。また、講習会での相談員紹介により、上記同様、心理的ハードルの低下が期待できます。これらは学生にハラスメントの定義・対策法等を認識させ、ハラスメントへの適切な対応を促します。

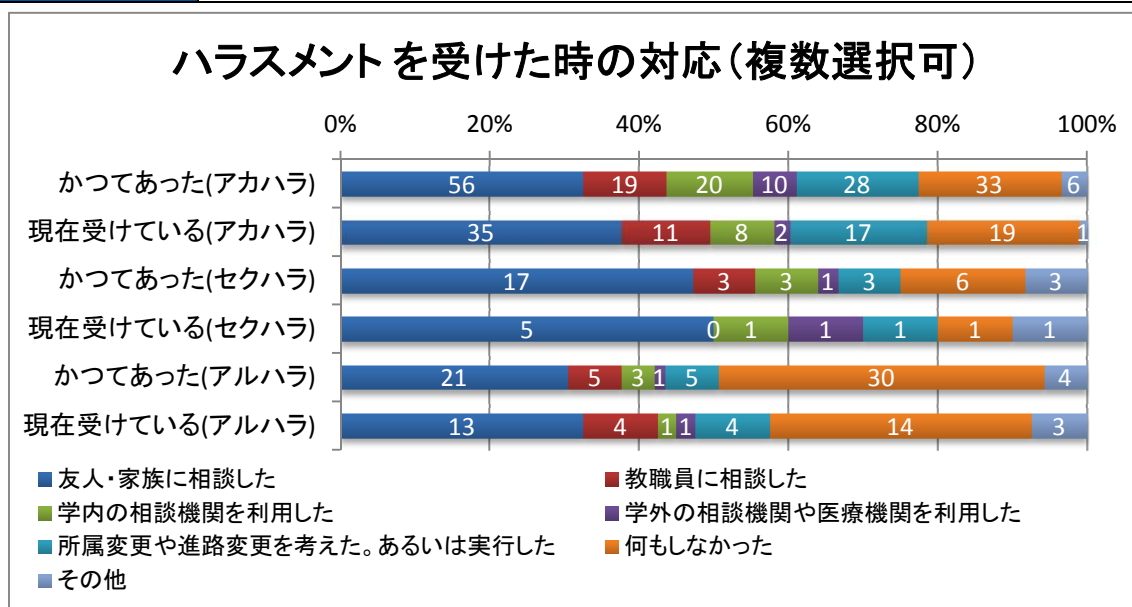


図 6.2-1 ハラスメントを受けた時の対応



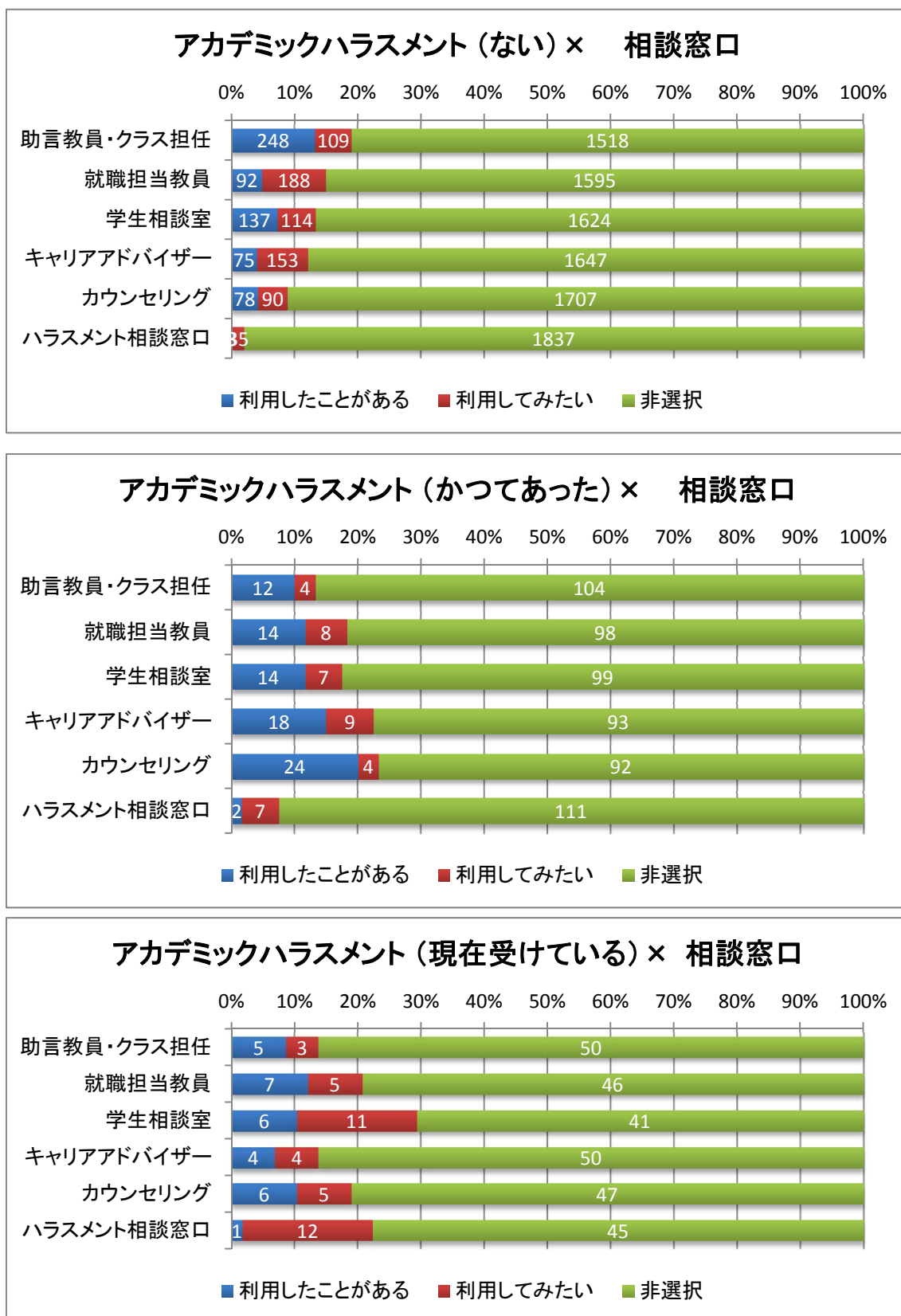


図 6.2-2 アカデミックハラスメント経験の有無と主な相談窓口利用者数



7. 図書館関連

重要性が高い項目

7.1 開館時間について

7.1.1 開館時間について

提言概要	今後の利用者数の変動や利用者マナーの変化に応じ、開館時間の延長を検討するよう提言します。
学生の意見	開館時間の延長に関する要望が合計 63 件寄せられました。 そのうち 24 時間開館を求める声が 21 件、その他休日の開館時間の延長要求や、朝の開館時刻を早める案、すずかけ台の図書館でも試験期間中の開館時間の延長を求める意見が挙がりました。(以下 原文ママ)
具体的内容	- 夏休み期間中の開館時間が短すぎます。夏休みであるのは学部生だけなので、院生にとって 11:00-17:00 までしか開いていないのは利用するにあたり不便です。(10 件) - 土日も 9 時-21 時まで開けて欲しいです。(18 件) - 学部 2 年生まではサークルの部室ぐらいしか授業が始まる前に行ける場所がないので、9 時より前に学校についても時間をつぶす場所がありません。そのため 9 時丁度を目指して大学に行くことになり、結果電車の遅れなどがあると遅刻してしまいます。図書館がもう少し早く開いていれば、授業前に自分で勉強しよう、というようなモチベーションをもって大学に早く来ることができ、1 コマ目の出席率も少しは上がるのではないかと思います。(5 件) - すずかけ台図書館も試験期間中は開館時間を延長してほしい。平日は仕方ないかも知れないが、せめて土日は 9-21 まで開館していただけると、わざわざ大岡山まで行かなくて済み、重宝します。(6 件)
現状分析	東工大の附属図書館の開館時間は他大学の附属図書館の開館時間を調査したところ、下記のような結果が得られました。(通常授業期) 東京大学 平日 8:30-22:30, 土日祝日 9:00-19:00, 京都大学 平日 9:00-22:00, 土日祝日 10:00-22:00, 大阪大学 平日 8:40-22:00, 土日祝日 10:00-19:00, 一橋大学 平日 9:00-22:00, 土日祝日 9:30-17:00, 大岡山キャンパスの図書館では、主に学部生の試験期間を考慮して試験期間を含む 2 週間の開館延長が実施されています。しかし、大学院生が多いというのは本学の特徴であり、土日祝日および休業期間中の開館時間の



	延長は特に大学院生にとって需要が高いと考えられます。 附属図書館側に開館時間の延長について聞いてみたところ、現状では難しいということでした。利用率と図書館を開館している時間にかかる費用において、金銭面でも人件費や光熱費とのバランスを鑑みる必要があるとのことでした。早朝や夜遅い時間に施設を開館することは、治安と学生のマナーの面においても懸念があるとのことでした。附属図書館側としては、早朝や深夜に図書館に学外の人も出入りできてしまうことや図書館が睡眠をとる場所になったりすることを特に懸念しています。 図書館を本来の目的で利用しない学生のマナー改善について、学生側でも相互に呼び掛けて努力する必要があると思われます。 また、すずかけ台キャンパスの図書館では、やはり利用者数とのバランスで開館時間の延長は難しいようです。
提言	大岡山新図書館については、学生のマナーも含め時間別利用者数、治安の面でも開館後様子を見てその後、学習エリアでの開館時間の見直し(延長)の検討を要求します。

7.2 すずかけ台図書館について

7.2.1 すずかけ台図書館について

提言概要	今後、すずかけ台のキャンパス計画を考える際に図書館へのアプローチを重要視するよう提言します。
学生の意見	すずかけ台の図書館の、立地に関する不満と移設の要望（3件）
具体的内容	すずかけ台図書館に関する要望の中では、蔵書の拡充を求める声と共に、図書館の立地が悪いという意見が寄せられました。（以下 原文ママ） ・ すずかけ台の図書館も、すずかけ門付近に新しく建て直してほしい。（長津田門の近くは生命や総合理工の学生の拠点からは遠い） ・ すずかけ台の図書館が入口から遠くて、あまり利用しません。場所が悪いなと感じることがしばしばあります。また、すずかけ台の図書館は、大岡山の図書館と比較して窓が狭く、とても閉塞感があって、あまり好きになれません。
現状分析	大岡山キャンパスでは、大多数の学生・教職員が毎日通過する場所に図書館があるのに対し、すずかけ台キャンパスでは、そういった通行の流れから外れた場所に、図書館が建てられています。 『図書館は、大学においては「学び」の場の中心であり、また「知の集積」でもあります。そのため図書館は「大学の顔」であり、大学で最も重



7. 図書館関連

	要な施設のひとつでもあります。』大岡山新図書館の設計コンセプトの冒頭にはこのような記述がありますが、これはすずかけ台の図書館にも適用されてしかるべきことです。
提言	今後、すずかけ台の新たなキャンパス計画を作成する際などには、大学として図書館へのアプローチを重要視し検討していくようお願いします。

7.3 OPAC 及び Web に関して

7.3.1 OPAC(Online Public Access Catalog)の精度, 機能性の向上について

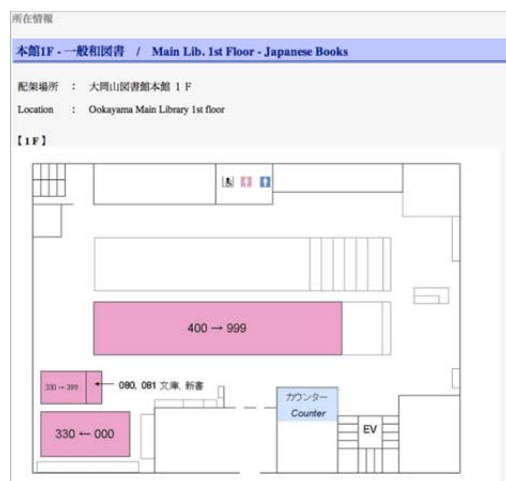
提言概要	今後、すずかけ台のキャンパス計画を考える際に図書館へのアプローチを重要視するよう提言します。
学生の意見	OPAC の精度や機能性の向上に関する要望（全 23 件）
具体的内容	OPAC の改善要求が、数多く寄せられました。（以下 原文ママ） ・ 単語を上手くいれないとヒットしないことが多く、手間がかかる。（13 件） ・ OPAC で表示できる「図書の位置」をもっと細かく示せるようにして欲しい。見つからない事が何度かあった。（3 件） ・ 図書の本文に含まれる言葉で検索できるようになるとより便利。（2 件） ・ タイトル以外に目次の内容からも検索できるようにしてほしい。タイトルだけでは目的の書籍に到達できず、探すのに多大な時間を要する。（4 件）



現状分析

下図に示すように、東工大の図書館では検索した書籍の所在情報が表示されます。しかしながらその範囲はかなり広く、書籍の配架を的確に示しているとは言いがたいです。そこで、しかし検索図書「所在情報」表示に、書籍の3桁の請求番号の百の位が断定できる程度の精度を要求すると、該当書棚は多くとも2,3に特定され、より利便性が向上すると考えられますが、書架の移動や配置換えを行った時に早急に対応できないという欠点があるようです。

また、すずかけ台の図書館は蔵書が少なく、大岡山からの書籍の取り寄せも短期間でスムーズにおこなわれているにも関わらず「すずかけ台の蔵書の拡充」を求める声が多いことの一要因として、OPAC 検索システムの使いにくさが挙げられます。書棚の間を歩き、タイトルを見て、手に取った本の内容



をパラパラとめくり確認する行為に OPAC の機能性がより近づくことができれば、すずかけ台キャンパスに居ながら大岡山の図書館から本を取り寄せることも、より安心して行うことができるはずです。

目次を含めたキーワード検索を可能にするデータベースの構築は、OPAC では難しく、これをできるようにするには時間のかかる作業ですが、すでに一部の和図書に関しては、TDL データベースの方ではキーワード検索が可能になっています。TDL データベースは年に 1000 冊のペースで増加していますがまだ冊数としては少ない状況です。

また、図書館システムの更新は 5 年に 1 度おこなわれており、次回更新は 2 年後の 2013 年 1 月なので OPAC もその時に再構築されるということです。OPAC をどのように改善するかは今も検討中ということです。

また、意見箱というものが附属図書館の出入り口の所にあります。あまり知られていなく使用頻度は低い。そのため学生の意見を取り入れたくても図書館側に届いていないようです。

提言

次回更新時の 2013 年 1 月には、学生の意見を反映させ、検索精度・機能性の向上した OPAC の再構築ができるようお願いします。また、学生の要望をもっと詳しく知り反映させるため、意見箱の認知度を高める努力をしたり、意見交流会などを開いたりすることを提言します。



7. 図書館関連

7.3.2 web ページのデザイン改善について

提言概要	今後、すずかけ台のキャンパス計画を考える際に図書館へのアプローチを重要視するよう提言します。
学生の意見	web ページのデザイン改善に関する要望（全 5 件）
具体的内容	Web ページの使い勝手が悪いという意見が寄せられました。（以下 原文ママ） ・ web 上での図書の予約、取り置きが行いにくい。 ・ 自分の貸出状況をチェックしたり、貸出予約を簡単にしたりすることのできる Web サービスがあると便利だと思います。 ・ オンラインページで、ログアウトするときに一度ブラウザを閉じなくてはもう一度アクセスできないというのが不便です。 附属図書館 HP 経由で、目的の電子ジャーナルや学術雑誌を検索しても見つからないことがあります。電子ジャーナルや雑誌に関する学生の要望を収集するシステムがあると良いと思います。もう既にあり、僕が知らないふだけであれば、そういうシステムをもっと使いやすく、気付きやすいウェブ・デザインにしてほしいです。
現状分析	下図に示すように、東工大 HP は 2 年前にそのデザインを一新し、情報の系統分類が分かり易くなりました。その大きな特徴として、ページトップにボタンが横一列に並び、下までスクロールしてページを動かすことなく全体を把握することができます。それに対し、附属図書館の HP は縦に情報を並べているため一度に情報を把握することができません。 そこで、附属図書館についても web デザインの見直しを要求します。  具体例をあげると、一橋大学の附属図書館の情報検索はひとつの窓ですべてを網羅しているのに対し、東工大では、項目ごとに別のリンクが張られています。見やすく分かり易いデザインは、学習、研究活動を助け、そ



	れらを推進することができると思います。 情報検索 ・東工大OPAC (蔵書検索) ・電子ジャーナル ・TDLデータベース ・学術文献データベース ・T2R2 ・NACSIS Webcat  現在の HP は職員によって作られていて技術的に難しい面も多々あるようですが、附属図書館側も HP のデザインが使いにくいことは認識していて、2 年後の図書館システム更新時に合わせて HP のリニューアルもすでに検討されているそうです。新図書館になる時に HP を変えるという話もあったらしいですが、リソースや本の移動もあり 2013 年に更新という話になっているらしいです。具体的なことはまだ決まっていないそうです。
提言	web デザインの見直しを要求します。また、見直しをする際に、OPAC と同様で学生の意見を反映させることができるように要求します。



7.4 蔵書の拡充に関して

7.4.1 文系専門書の拡充について

提言概要	文系専門書の拡充について
学生の意見	文系専門書の拡充要求（全5件）
具体的内容	様々な蔵書拡充要求が寄せられましたが、その中でも特に重要と思われる文系専門書の拡充要求を取り上げます（以下 原文ママ） ・ 文系の図書（人間行動システム専攻は文理融合のため、文系の本も必要なことが多いです） ・ 社会シュミレーション系 ・ 経営学関連書籍（2件） ・ 社会科学・イノベーション関連ジャーナル
現状分析	理工系単科大学ならではの特徴として、附属図書館では理系専門書の充実がみられますが、本学には、一般に文理融合という枠組みで捉えられる専攻、学科も数多く存在します。そこで、専攻や授業に関連する文系書籍の拡充を要求します。授業で教科書・参考書の指定を受けている書籍の購入、またラインアップが弱いと思われる分野については、専攻の教員に参考図書の選定を依頼する等の措置が考えられます。 現在図書館の書籍購入の方法は、①教員の推薦②学生からのリクエスト③図書館の職員による選定の3種類あり、そのなかでも①教員の推薦に関しては年2回図書館から非常勤講師以上の教員個人当てに「推薦図書のお願い」を送っていますが、回収率は半数に満たないそうです。また③図書館の職員による選定では、年2回発行される生協の「教科書販売リスト」に記載の図書は全て購入しているそうです。
提言	東工大に専攻のある分野の文系専門書ならびにラインアップの弱いと思われる分野については、定期的な「推薦図書のお願い」に加え、重点的な図書の推薦、選定、購入を要求します。



7.4.2 その他蔵書の拡充に関する要望について

提言概要	充実して欲しい資料については意見にばらつきが見られました。
学生の意見	充実して欲しい資料
具体的内容	・理系専門書（41 件） （藝術・建築関係などはこちらに含めた） ・文系専門書（27 件） （経営学,プレジデント・東洋経済などの経済雑誌,社会科学関係） ・洋書（42 件） （細かい分野指定があるもの、ないもの含む） ・文芸書籍（121 件） （一般小説・ライトノベルス、国内外の純文学系本など） ・実用書（12 件） （旅行案内本・TOEIC TOEFL 国家公務員等の資格対策本） ・授業の教科・参考書（22 件） （自身の所属する分野（例えば化学とか物理など）や類の授業のもの） ・電子ジャーナル（46 件） （自身の研究に関する分野。特定の傾向は見られなかった。）
現状分析	充実させてほしい資料に関する質問について、学年別に集計したところ、図 7.4.2-1 のようになりました。 参考書や専門書に関してはどの学年においても要望が多かった。なお、学術冊子や電子ジャーナル・電子ブック・データベースなどは学年を負うごとに要望が増加し、逆に一般教養書・一般雑誌は学年を応じて要望が減少していくといった傾向が見られた。 自由記述としての要望としては、個人の研究・学習分野によるものが多く、意見にばらつきが見られたため、学生全体の総意として特にどの分野のものが要望されているのかを特定するのは難しいと考えられます。 また、文芸書籍や実用書については個人の嗜好によるものが多く、個人で買うべきものですので、附属図書館として充実すべきものという意味で優先度が高くないと考えられます。
提言	充実して欲しい資料に関しては、以上のような傾向が見られました今後の参考にしてもらえればと思います。



7. 図書館関連

	参考書 専門書	一般 教養書	学術雑誌	一般雑誌	電子ブック	電子 ジャーナル	データ ベース	その他
学部1年	51%	47%	18%	33%	3%	2%	3%	7%
学部2年	56%	53%	16%	26%	9%	5%	9%	6%
学部3年	60%	45%	17%	23%	9%	6%	8%	4%
学部4年以上	55%	42%	24%	20%	9%	21%	17%	4%
修士1年	63%	35%	30%	18%	11%	32%	14%	3%
修士2年以上	54%	34%	35%	21%	16%	36%	19%	6%
博士1年	61%	28%	41%	14%	16%	46%	17%	5%
博士2年	55%	27%	43%	13%	28%	51%	21%	4%
博士3年以上	55%	21%	50%	9%	15%	59%	23%	8%

図 7.4.2-1 学年×充実して欲しい書籍



8. 生協関連

重要性が高い項目

8.1 弁当・食堂関係

8.1.1 学内食堂の値段について

提言概要	現状、特に問題ないと考えられます。
学生の意見	値段が高い・量が少ない
自由記述	・安いメニューを増やすというより、価格を下げて欲しい。 ・学食の価格を安くしてほしい。他の大学に比べて価格が高いため、学生が毎日食べていけるような価格設定をお願いします。 ・食堂の食事の値段が高すぎる。質も考えると外の一般の店と変わらない。努力が足りないと思う。 (同様の意見が 38 件寄せられました。)
現状分析	値段に関する満足度の項目を見る限り、前回の調査の時と比べ共に若干改善していると思われます。 自由記述内で値段について不満を書く人の人数は 1.3 倍程度に増えていますが、問題の形式が変更された影響が大きいと思われますので、単純比較できませんでした。 具体的な意見としては、外部の弁当屋やコンビニと比べて値段が高いという意見もあったが、そう思っている人は外部の弁当屋やコンビニを利用していると考えられるので、そういった人に合わせて値段設定を考える必要はないと思われます。 ちなみに、大学生協の値段設定は全国共通であり、一年を通して共通の値段を提供できるよう努力しているため、材料の市場価格が値上がりしても同じ値段でメニューを提供できるようになっている代わり、逆に市場価格が下がってもメニューの値段に反映できないようになっているため、他の食堂と比べ割高と感じられている可能性はあるかもしれないということです。
提言	現状、特に問題ないと考えられます。



8. 生協関連

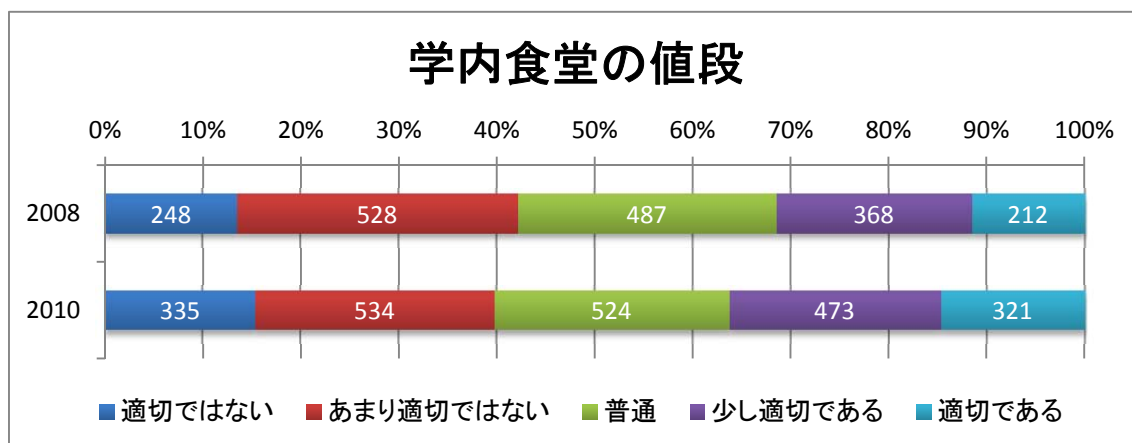


図 8.1.1-1 飲食施設の値段

8.1.2 学内食堂の味について

提言概要	現状、特に問題ないと考えられます。
学生の意見	味が気に入らない 質の向上を
自由記述	・ 値段の割に美味しくない。 ・ 単純に美味しくないし、ボリュームも少ない。近隣の私大などをよく比較してもらいたい。 ・ 不味い、高い、代わり映えしない。 (同様の意見が 20 件寄せられました。)
現状分析	値段同様、味に関する満足度の項目を見る限り、前回の調査の時と比べ共に若干改善していると思われます。 自由記述内で味について不満を書く人が 1.3 倍程度に増えていますが、問題の形式が変更された影響が大きいと思われますので、単純比較できません。
提言	現状、特に問題ないと考えられます。

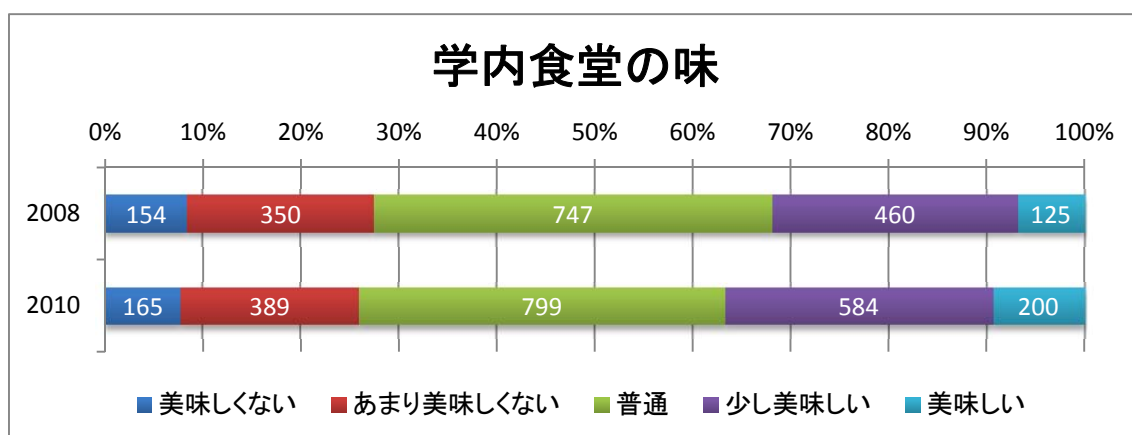


図 8.1.2-1 飲食施設の味



8.1.3 留学生の要望について

提言概要	飽きた
学生の意見	飽きた
自由記述 (留学生以外も含む)	・ 食事場所が他になく飽きる。 ・ Boring, same menu since last year. ・ 何年も同じメニューで飽きます。工夫が必要。 (同様の意見が 10 件寄せられました。)
学生の意見	ハラルメニューを充実して欲しい。
自由記述	・ more varieties of Halal Food ・ More Halal Foods ・ i would like you to extend the HALAL food, which is offered in ookayama, to suzukakdai cafeteria also (同様の意見が 13 件寄せられました。)
現状分析	○メニュー数を増やして欲しい 留学生の特に博士課程の学生が、メニュー数を増やして欲しいと思っていることがわかりました。これは、留学生が日本に慣れておらず、外部の飲食施設を利用する頻度が低く学食の利用率が高くなり、飽きやすくなっていると考えられます。 また、修士課程・博士課程の学生はすずかけ台で主に活動している人が多いことも関連していると思われます。 ○宗教や文化に対応したメニューについて 宗教や文化に対応したメニューに関する要望のほとんどは、ハラルメニューを充実して欲しいという意見でした。 ベジタリアン向けに野菜のメニューを増やして欲しいという意見も見られました。 これに対し、生協へ問い合わせたところメニュー開発については大学生協の上部で行なっており、東工大生協はその中からどのメニューを東工大で提供するのかを選べるだけなので、東工大生協だけで独自にメニュー数を増やすのは難しいそうです。 また、ハラルメニューに関しては東工大生協としても拡充の方針をとっており、現在では大岡山でしか提供されていませんが来年度からはすずかけ台でも提供する予定とのことです。メニュー数に関しても今後増やしていく予定だそうです。
提言	今後も、ハラルメニューの拡充に関しては進めていくようお願いします。メニュー数を増やすことに関しては難しいかもしれませんが、留学生



が学食のメニューを選びやすくするような努力は可能かもしれないので、それに関しては、今後も検討していただければと思います。

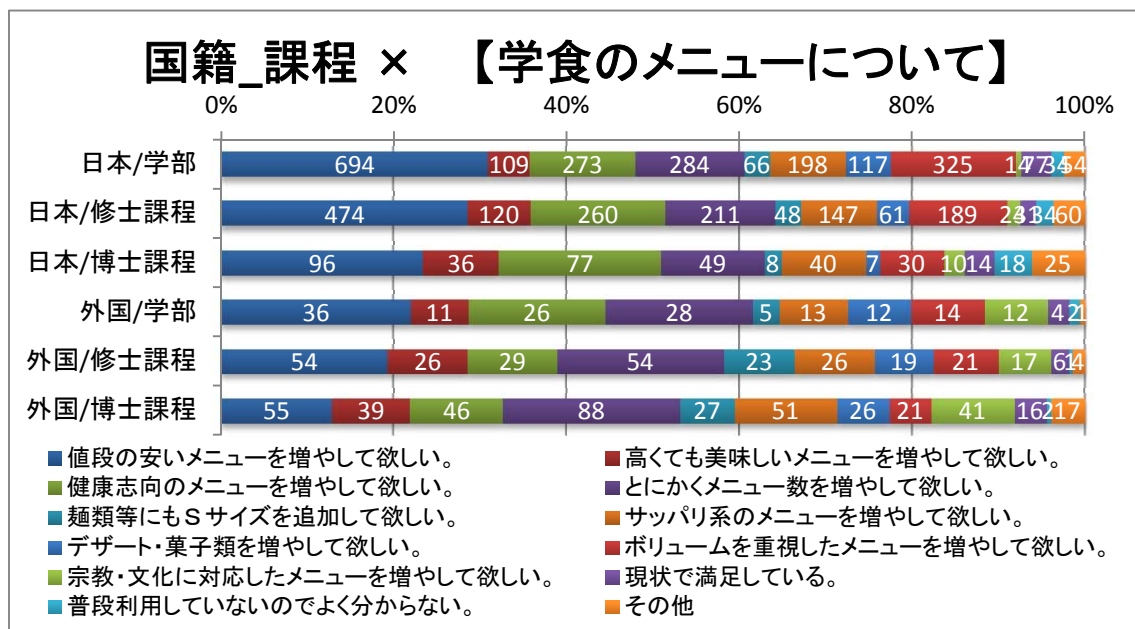


図 8.1.3-1 国籍・課程別の学食メニューに関する要望

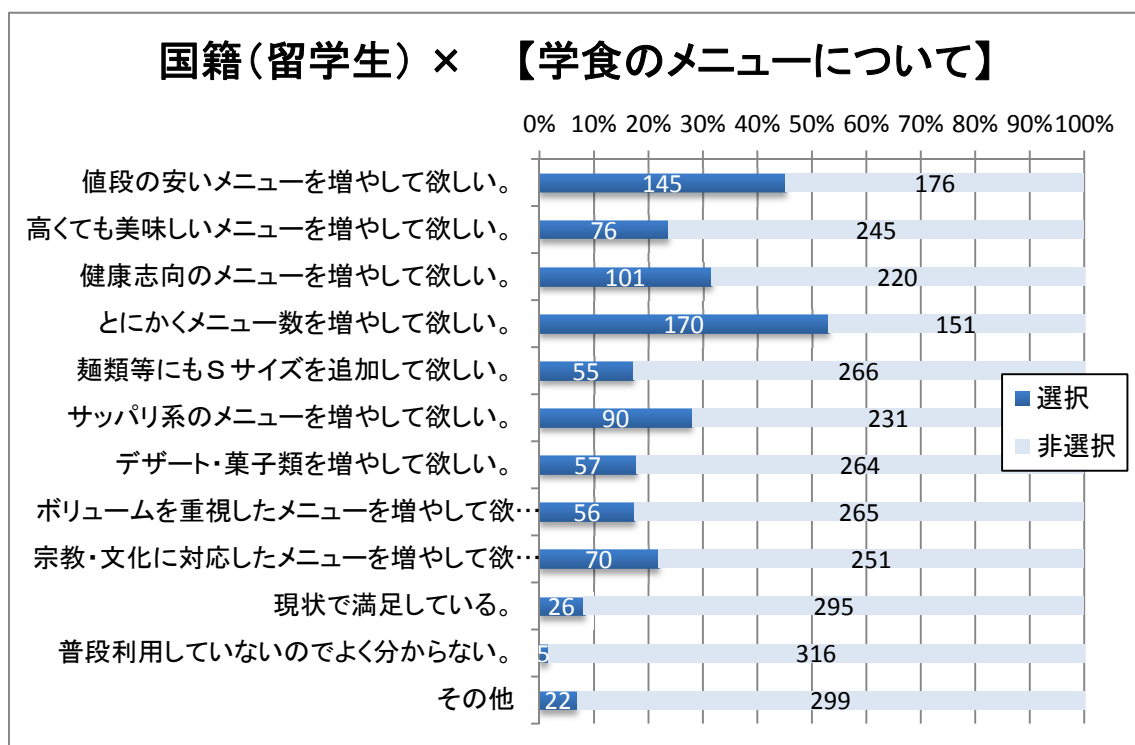


図 8.1.3-2 留学生の学食のメニューに関する要望



8.1.4 健康志向のメニュー・ボリューム重視のメニューについて

提言概要	健康志向のメニュー、ボリューム重視のメニューの両方の充実をお願いします。
学生の意見	野菜を充実して欲しい
具体的内容	・サラダバーのメニューを増やしてほしい。 ・セットを野菜重視にしてほしい。ポテトをキャベツに変えられるようにしてほしい。 ・VEGETARIAN FOOD! (同様の意見が13件寄せられました。)
学生の意見	魚を充実して欲しい
具体的内容	・もっと魚料理を増やしてほしい。肉系が多すぎると思います。 (同様の意見が4件寄せられました。)
学生の意見	肉・揚げ物以外を充実して欲しい
具体的内容	・肉・揚げ物類が多い ・肉のない野菜料理が少ない。メニューが変わり映えしないので飽きてしまった。 (同様の意見が8件寄せられました。)
学生の意見	量を減らしたメニューが欲しい
具体的内容	・Sサイズのライスのある定食も増やして欲しいです。 ・女性向けに値段と量を減らしてほしい ・全体的に量が多い。少量のメニューを増やして欲しい。 (同様の意見が10件寄せられました。)
現状分析	○健康志向のメニューについて 日本人に限ると、博士課程に進むにつれ健康志向のメニューを望む人が増える傾向があります。男女で比べた場合、女性のほうが健康志向のメニューを望んでいることがわかります。 さっぱりしたメニューに関する要望でも同じ傾向が見られました。 ○値段の安いメニュー・ボリュームを重視したメニューについて 値段の安いメニューやボリュームを重視したメニューは健康志向のメニューと比べほぼ逆の傾向となっており、学部生や男性における要望が強いことがわかります。 ○女性向けメニューについて 男性と比べ、Sサイズメニュー、健康志向やサッパリ系のメニューに対する要望が多いことがわかります。 これに関し、生協へうかがったところ、生協側としてもこの傾向に関し



	て把握しており来年度から第二食堂の弁当をガッツリ系とヘルシー系の二つの系統に分けて販売するとのこと
提言	これらの学生の意見を参考に、メニュー構成の調整等を行っていくようお願いします。

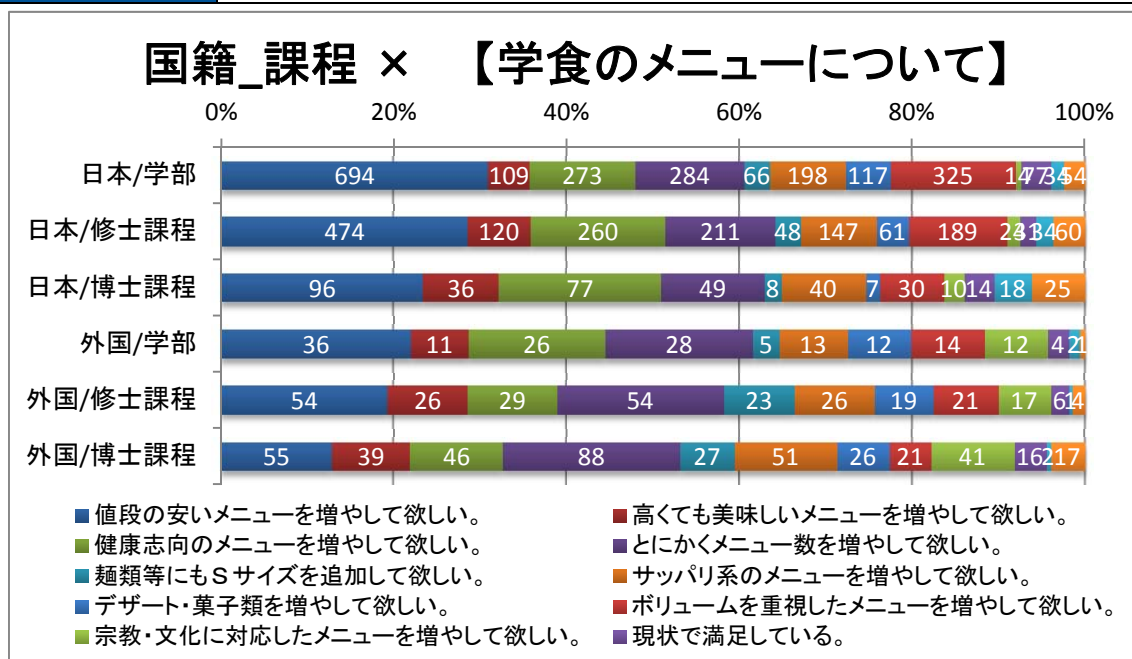


図 8.1.4-1 国籍・課程別の学食のメニューに関する要望

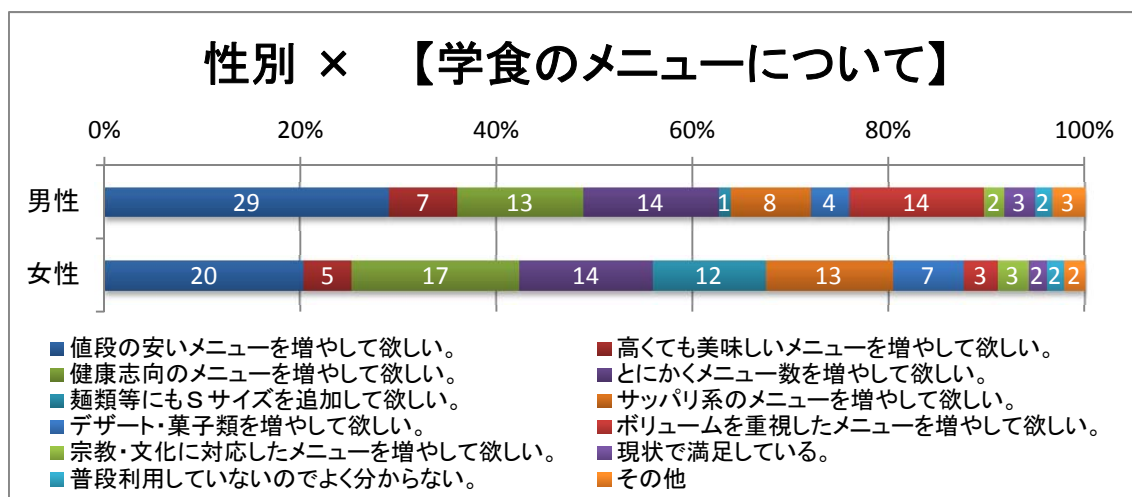


図 8.1.4-2 男女別の学食のメニューに関する要望

8.1.5 具体的なメニューに関する要望について

提言概要	特に提言する必要は見られませんでした。
学生の意見	具体的なメニューに関する要望
具体的内容	・ 韓国料理がほしい。



	・くじらメニューを復活させてほしい。 ・グリーンカレーを通常メニューに入れてほしい。 ・グリーンカレー減ぶべし。 ・辛いものは基本まずい. なんとかしてほしい。 ・総菜コーナーを充実させてほしい。 (同様の意見が多数寄せられました。)
提言	具体的なメニューに関する要望として大きな特徴は見つからなかった ので、学勢調査としては提言を行いません。ただし、具体的な要望の一覧 については学食に送付しますので、今後のメニュー構成の参考に使っても らえればと思います。



8.2 施設関係

8.2.1 食堂の混雑について

提言概要	引き続き対策をお願いします
学生の意見	食堂の混雑
具体的内容	・学食が混み過ぎです。 ・昼間の食堂が身動きのとれないほど混むことがある。なんとかして利用する人をまばらに分散させてほしい（講義終了時間をずらす等）。 （同様の意見が 8 件寄せられました。）
学生の意見	食堂が狭い
具体的内容	・学生数に対する食堂のキャパシティが小さい。 ・学生食堂が狭いので改善してほしい （同様の意見が 17 件寄せられました。）
現状分析	学食の混雑に関する自由記述ですが、前回の調査では 50 件なのに対し今回の調査では 8 件に収まりました。これは、セブンイレブンの設置によって混雑が解消されたことや、食堂側が混雑時の回転率を上げる工夫をした成果だと思われます。
提言	現状で生協側が出来る努力をしてある程度は効果が出ていることを考えると、今行っている努力を続けていき様子を見るのがいいかと思います。ですので、これからも現状で行っている混雑対策については引き続きお願いします。

8.2.2 営業時間について

提言概要	現状では厳しいと思われます。
学生の意見	学食・購買の営業時間の延長、営業日の拡張
具体的内容	・日曜も生協を営業してほしい。 （最寄りのコンビニが閉店してしまったので特に） ・食堂を毎週土曜日やるようにしてほしい。 （同様の意見が 20 件寄せられました。また、うち 12 件はすずかけ台に関するものでした。）
現状分析	すずかけ台駅前の am/pm が閉鎖している時期に調査を行った関係もあり、すずかけ台の学食や購買の時間延長や土日営業を求める意見が多めでした。 また、大岡山に関してはセブンイレブンが設置した影響で生協の営業時間延長を求める人が減っている傾向があると思われます。
提言	提言作成段階では、すずかけ台駅前のコンビニは別業者が営業を再開し



	ているので、緊急で問題となることはないと思われる。 また、現状より営業時間を伸ばす事については生協側としても厳しいこととなそうなので、相当数の要望がない限りは実現が難しいと考えられます。今回の調査ではそこまでの数の意見は寄せられていなかったなので、現状維持でいいと考えられます。
--	---

8.2.3 石川台・緑が丘への食堂新設について

提言概要	食堂の新設は厳しいと思われます。
学生の意見	石川台・緑ヶ丘への食堂新設について
具体的内容	・食堂が小さい。あるいは少ない。緑ヶ丘、石川台にも作るべき。 ・緑が丘地区は食堂から遠く食事をするのに不自由です。 食堂を作ってください。 (石川台地区において同様の意見が 24 件、緑ヶ丘地区において同様の意見が 22 件寄せられました。)
現状分析	前回の調査では、生協の弁当が売り切れと関連して飲食施設の充実や外部の弁当屋の導入が求められていました。しかし、今回の調査を見る限り生協の弁当が売り切れていて困るという意見はなく、外部の弁当屋を導入すべきという意見も少なくなりました。一方、弁当ばかりでは体に良くないので食堂を作って欲しいという意見が増えたと思われます。 食堂新設に関し、生協へ伺ったところ食堂の運営には 600 人／日程度の客数が必要とされるそうですが、石川台や緑が丘にはこれに必要な需要はないと判断されているため、新設は厳しいと考えられます。 ただし、食堂という形式は難しいですが、飲食スペースに昼休み限定で飲食物等を販売するようなスペースであれば設置は可能かもしれないとのことでした。これに関しては、今回の学勢調査の結果からこのような形式が望まれているのかいないのかを判断することは無理ですので、これの実現に関しては提言しないことにしました。
提言	現状では、食堂の新設は厳しいと思われます。 ただし、食堂という形式以外での飲食スペースであれば提供は可能かもしれないので、これの需要に関しては次回の学勢調査にて調べていくようにします。



9. 生活関連

9.1 基本情報について

9.1.1 回答率について

図 9.1.1-1 は学生全体に対する学勢調査の回答率を示したグラフです。前回の調査に比べ 5%程度回答率が向上しており、より多くの学生の意見をみなさんの意見を聞けたと言えます。なお、2008,2010 年の学生総数としては東工大ホームページ上にある公式統計のそれぞれ 2007-2008 年度、2009-2010 年度のものを使用した。

図 9.1.1-2 は過去の学勢調査への回答したかに関する質問項目の結果です。これを見ると 2/3 以上の人が今回はじめて学勢調査へ回答していることがわかります。このように新たに学勢調査へ回答してくれる人が増えることは好ましいことですが、前回の学勢調査を回答した人のうち今回の調査には回答してくれなかった人がそれなりの数いるようなので、これに関しては今後の広報活動の課題となるかもしれません。

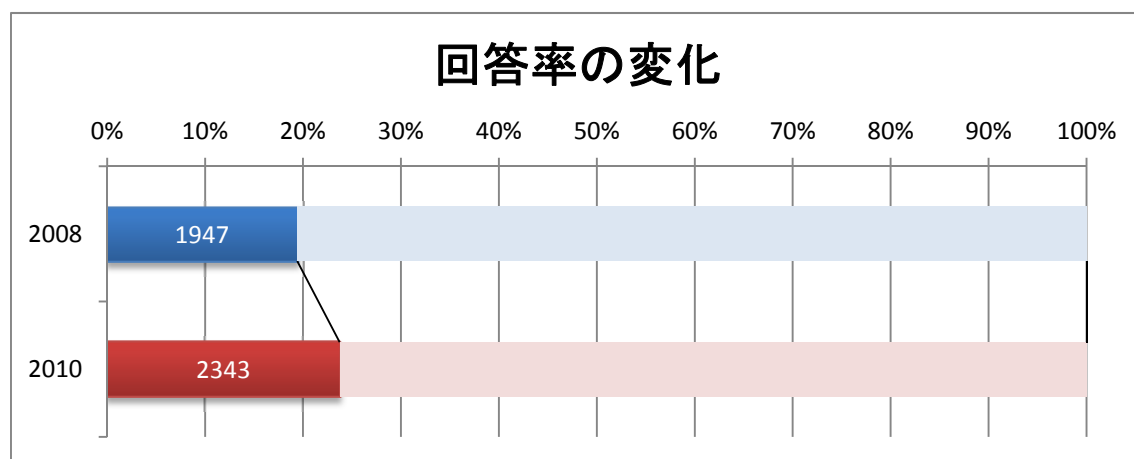


図 9.1.1-1 学勢調査 2008 と 2010 の回答率の変化

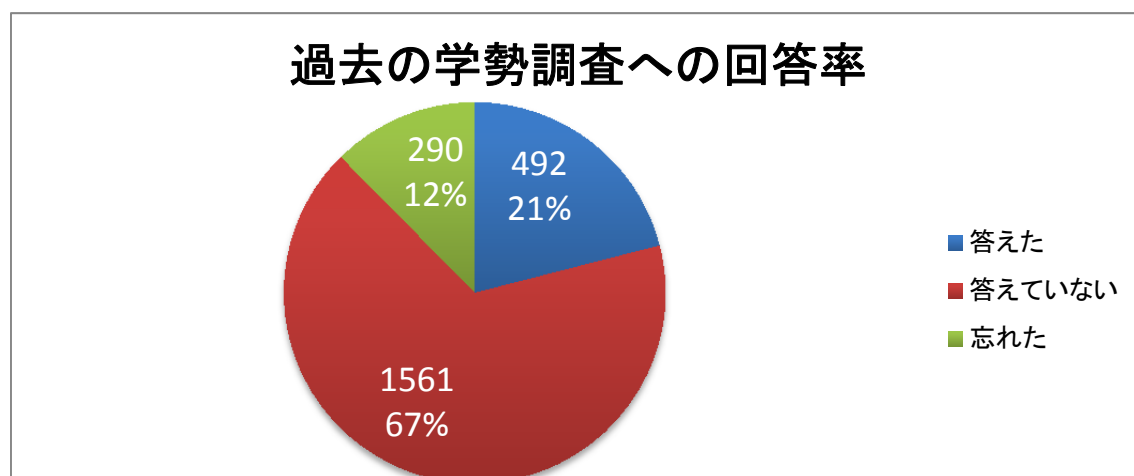


図 9.1.1-2 過去の学勢調査への回答率



9.1.2 学生の層ごとの回答率について

また、図 9.1.1-2,は学勢調査 2008・2010 の学生の層ごとの回答率を示したものです。これを見ると、前回の調査では日本人学部生、特に日本人の女性の回答率が高かったことがわかります。一方、今回の調査でも日本人女性の回答率は高かったのですが、それ以上に修士の留学生の女性や、博士の留学生の回答率が高かったことがわかります。この層の学生は前回の調査では回答率が低かったのもこれは大きな改善と考えられます。また、課程や国籍で多少のばらつきはありますが、女性の回答率が男性の回答率に比べ高く、女性の方に積極的に回答してもらえたということがわかります。

2008	日本/男性	日本/女性	外国/男性	外国/女性	合計
学部	20%	31%	12%	12%	21%
修士課程	20%	21%	16%	14%	20%
博士課程	15%	17%	10%	11%	14%
合計	20%	25%	13%	13%	19%

2010	日本/男性	日本/女性	外国/男性	外国/女性	合計
学部	22%	31%	25%	22%	23%
修士課程	24%	32%	18%	37%	25%
博士課程	19%	22%	37%	40%	24%
合計	22%	30%	26%	34%	24%

図 9.1.2-1 学勢調査 2008・2010 の学生の層ごとの回答率

学勢調査 2008

学部生・修士がメインで博士は少なかった

特に学部女子が多かった

留学生は少なかった

学勢調査 2010

若干、学部生が少なかったが課程別の偏りは少なかった

全体的に女性が多かった

留学生は多く、特に博士全般と修士の女性が多かった

図 9.1.2-2 学勢調査 2008・2010 の回答率傾向



9. 生活関連

類・学科・専攻別の回答率としては図 9.1.2-3 のようになりました。なお、国際開発工学科など一部の学科ではここ 1～2 年で定員が大幅に変化しており、正確なデータとなっていない可能性があります。これを見ると、類・学科・専攻ごとで回収率が大きく違うことがわかる。これに関しては、次回以降の調査の課題としていきたいです。

	2008	2010		2008	2010
1類	40%	41%	材料工学専攻	24%	28%
2類	40%	36%	有機・高分子物質専攻	21%	24%
3類	21%	24%	応用化学専攻	29%	29%
4類	29%	20%	化学工学専攻	33%	36%
5類	30%	36%	機械物理工学専攻	24%	26%
6類	27%	16%	機械制御システム専攻	19%	26%
7類	40%	29%	機械宇宙システム専攻	20%	32%
			電気電子工学専攻	26%	29%
数学科	14%	18%	電子物理工学専攻	22%	20%
物理学科	16%	25%	集積システム専攻	21%	25%
化学科	13%	27%	土木工学専攻	22%	32%
情報科学科	13%	24%	建築学専攻	9%	13%
地球惑星科学科	18%	22%	国際開発工学専攻	21%	30%
金属工学科	20%	13%	原子核工学専攻	18%	26%
有機材料工学科	21%	27%	分子生命科学専攻	28%	14%
無機材料工学科	30%	26%	生体システム専攻	16%	24%
化学工学コース	17%	18%	生命情報専攻	20%	31%
応用化学コース	20%	28%	生物プロセス専攻	23%	20%
高分子工学科	23%	22%	生体分子機能工学専攻	20%	21%
機械科学科	16%	40%	物質科学創造専攻	9%	21%
機械知能システム学科	24%	12%	物質電子化学専攻	14%	14%
機械宇宙学科	23%	21%	材料物理科学専攻	12%	20%
国際開発工学科	15%	84%	環境理工学創造専攻	9%	26%
制御システム工学科	15%	24%	人間環境システム専攻	19%	19%
経営システム工学科	12%	13%	創造エネルギー専攻	15%	25%
電気電子工学科	18%	24%	化学環境学専攻	23%	33%
情報工学科	19%	21%	物理電子システム創造専攻	12%	23%
土木・環境工学科	15%	19%	メカノマイクロ工学専攻	14%	34%
建築学科	11%	19%	知能システム科学専攻	11%	22%
社会工学科	27%	20%	物理情報システム専攻	15%	26%
生命科学科	11%	12%	数理・計算科学専攻	15%	14%
生命工学科	13%	20%	計算工学専攻	24%	30%
			情報環境学専攻	24%	24%
数学専攻	23%	23%	人間行動システム専攻	15%	22%
基礎物理学専攻	12%	30%	価値システム専攻	26%	18%
物性物理学専攻	11%	16%	経営工学専攻	19%	13%
化学専攻	10%	23%	社会工学専攻	19%	12%
地球惑星科学専攻	14%	30%	技術経営専攻	15%	13%
物質科学専攻	28%	33%	イノベーション専攻	22%	15%

図 9.1.2-3 学勢調査 2008・2010 の類・学科・専攻ごとの回答率傾向



9.1.3 学勢調査 2008 と 2010 の傾向の変化

図 9.1.3-1 は学勢調査 2008・2010 の学年ごとの回答数の変化を示したグラフです。ここから 2008 と 2010 を比べると学部生の割合が下がり、博士の割合が増えていることがわかります。これは 1.2 で説明した傾向とも一致します。また、学部生の中でも特に学部 1 年生の割合が 2008 と 2010 で大きく異なっていることがわかります。

図 9.1.3-1 は学勢調査 2008・2010 の主な活動場所別の回答数の変化を示したグラフです。ここから、大岡山の割合が減りすずかけ台の割合が増えていることがわかりますが、これは学部生の回答者の割合が減り博士の割合が増えたことを反映しています。また、博士の中でも特に留学生の割合が増えていることを反映しています。

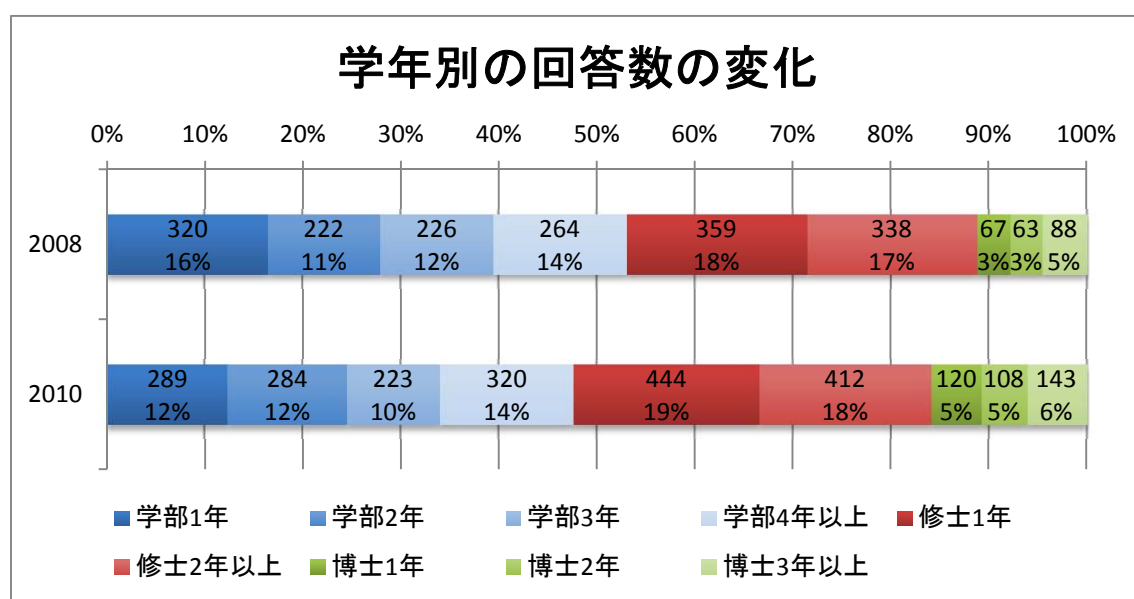


図 9.1.3-1 学勢調査 2008・2010 の学年ごとの回答数の変化

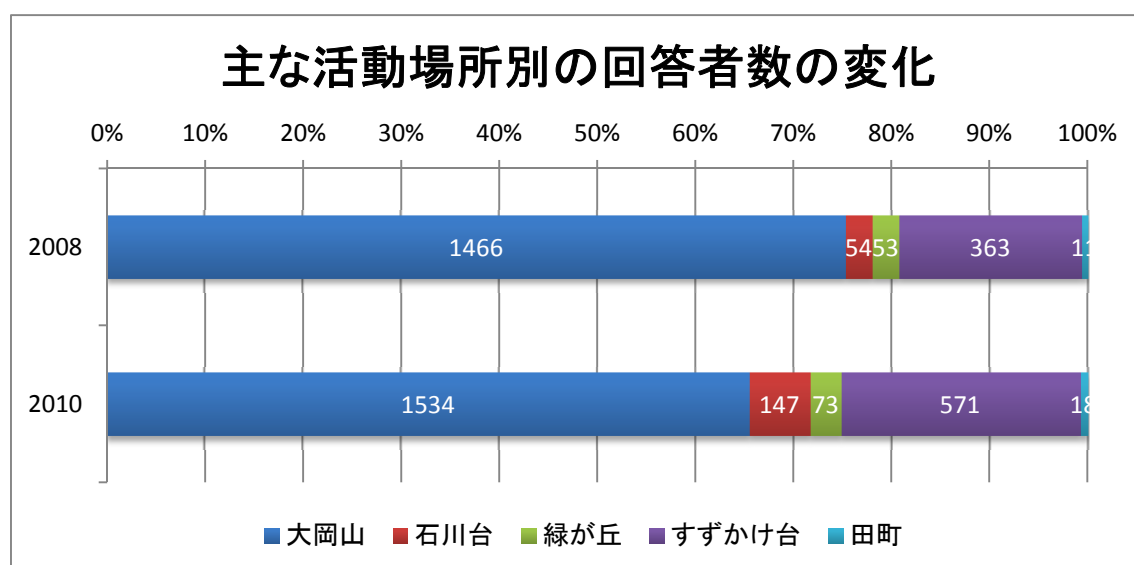


図 9.1.3-2 学勢調査 2008・2010 の主な活動場所別の回答者数の変化



9. 生活関連

図 9.1.3-3 は回答場所別の回答者の数の変化を示したグラフです。ここから、学勢調査 2008 に比べ学内での回答者数が増えていることがわかりますが、これは、学部学生は学外から、博士課程は学内から回答する傾向があるので（図 9.1.3-4）、学部生・博士の人数の変動によるところが大きいと考えられます。

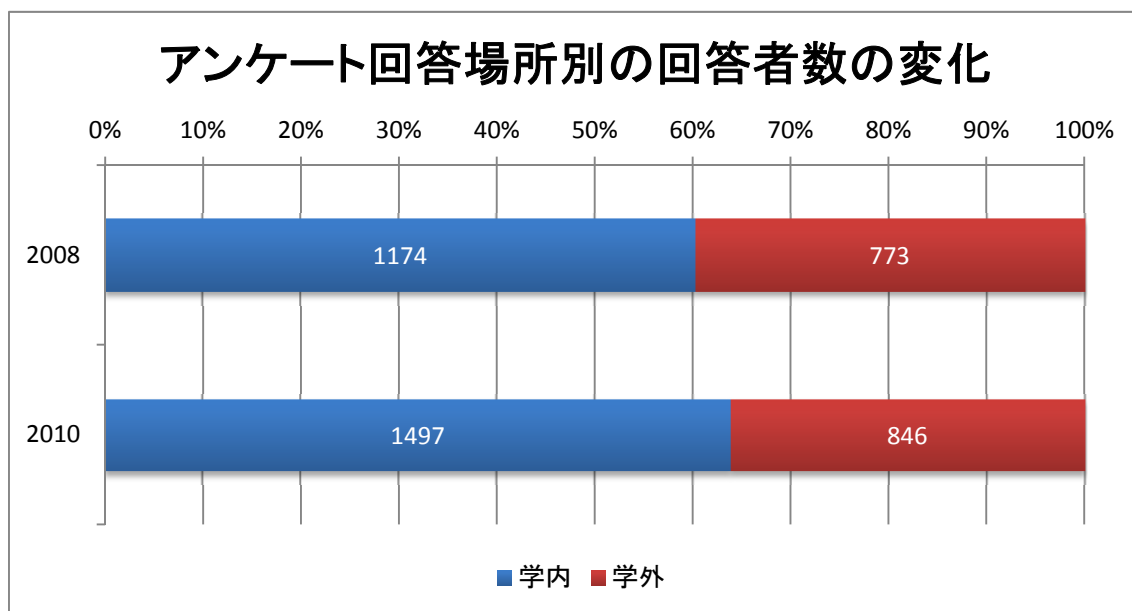


図 9.1.3-3 学勢調査 2008・2010 の回答場所別の回答者数の変化

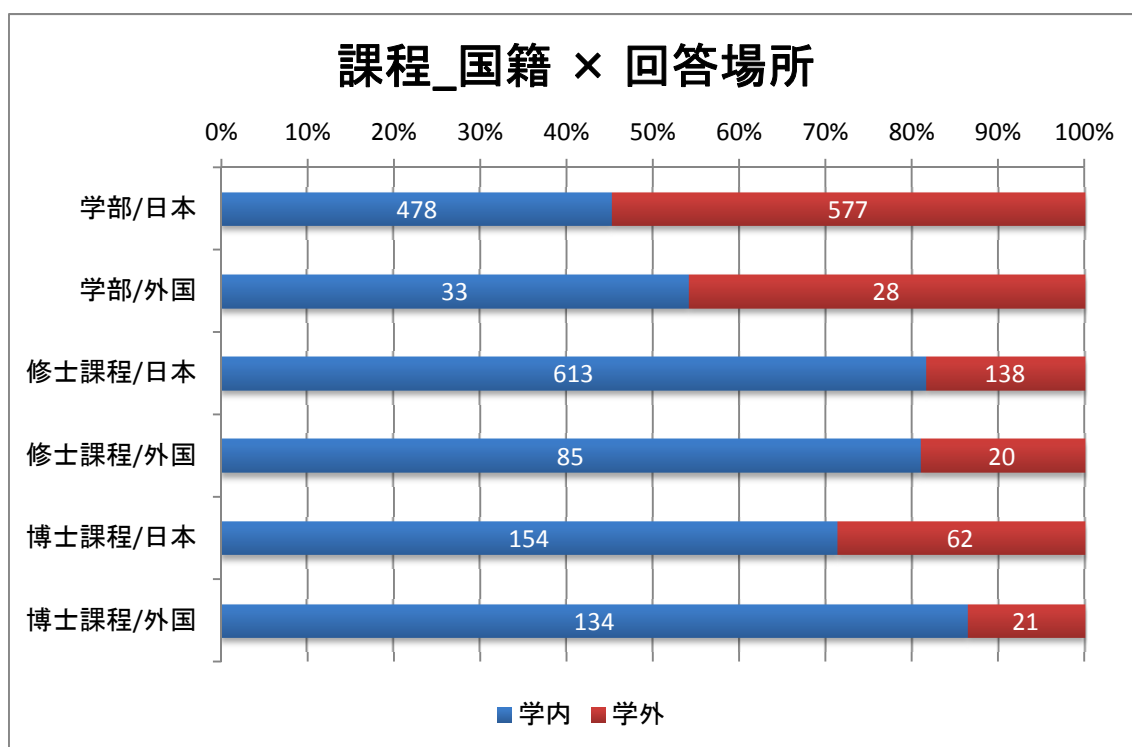


図 9.1.3-4 課程・国籍別の回答場所



図 9.1.3-5 は課程別の他大・高専出身者・留学生の割合を示したグラフです。青で示されたところが東工大出身者、赤で示されたところが他大・高専出身者となっています。また、色が薄い部分は留学生を表しています。

他大・高専出身かどうかについては前回の調査では調べていなかったのがこれが年度ごとにどのように推移していくのかについては今後の課題です。

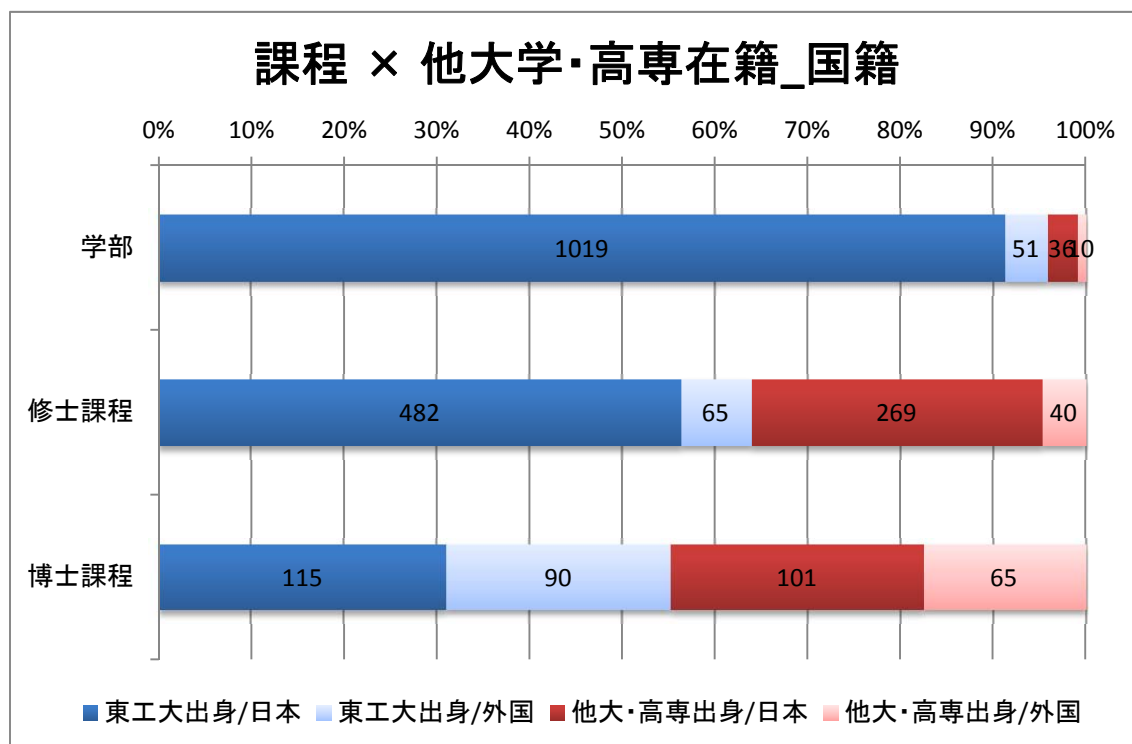


図 9.1.3-5 課程別の他大・高専出身者・留学生の割合

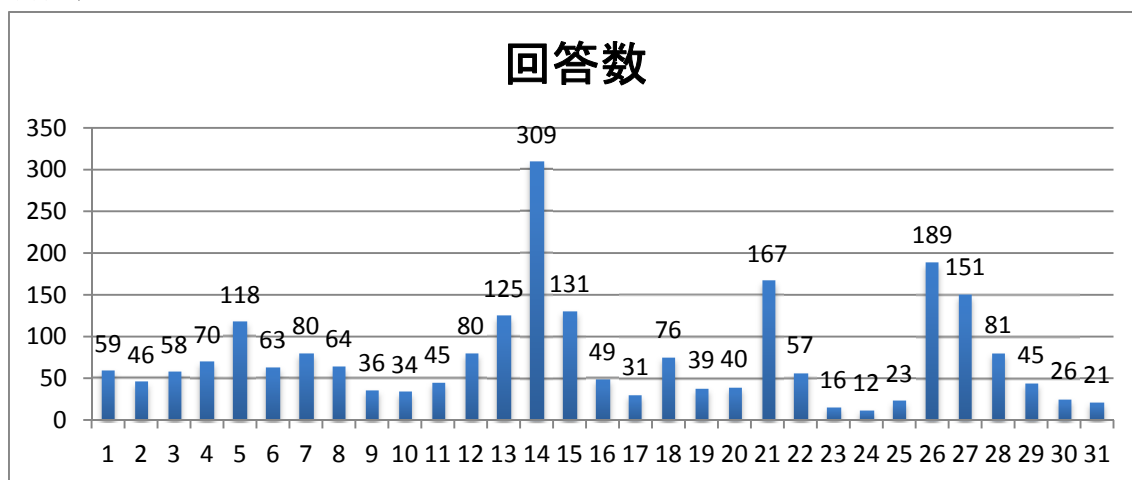


10. 調査資料集

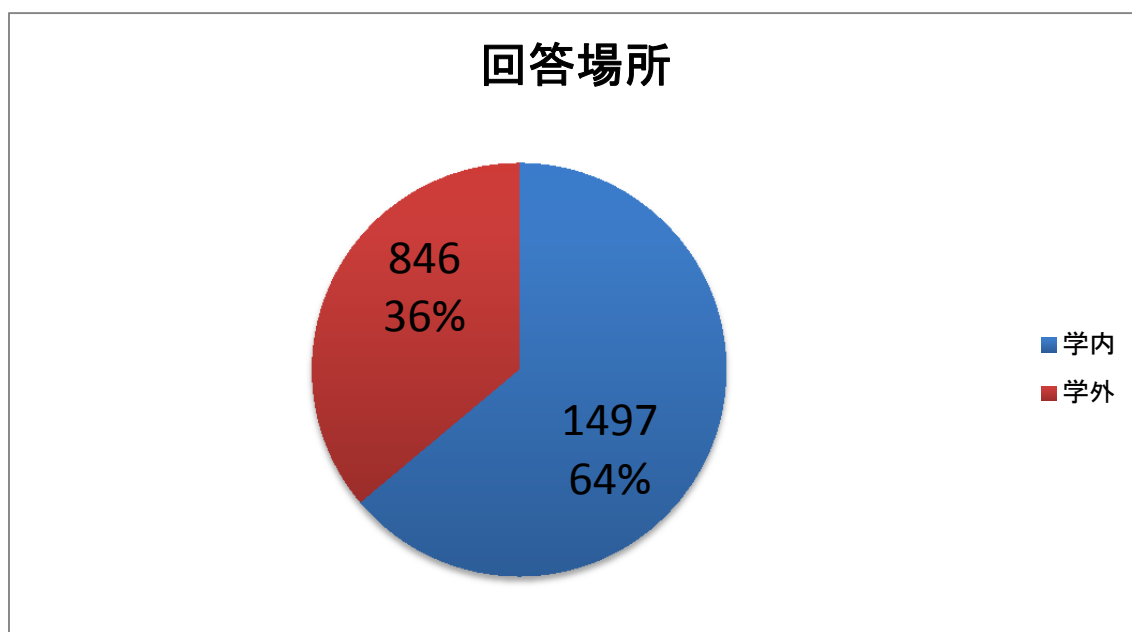
本章では、2010 年 10 月 1 日から 10 月 31 日にかけて行われた学勢調査アンケートの結果を掲載します。集計対象は自由記述回答の設問以外全てです。集計結果のグラフ・表中の数字は該当選択肢への回答者数です。なお、一部の設問は表記の都合上、実際の設問とは異なっていますが、内容に違いはありません。

基本情報

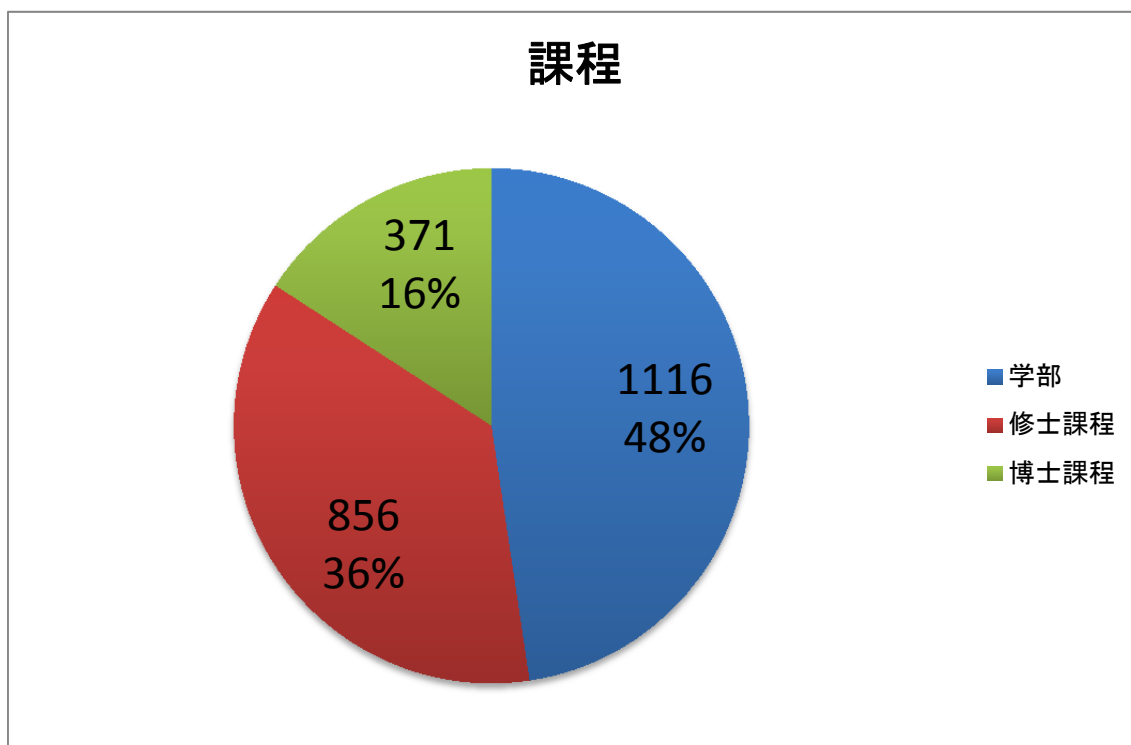
(0)回答日



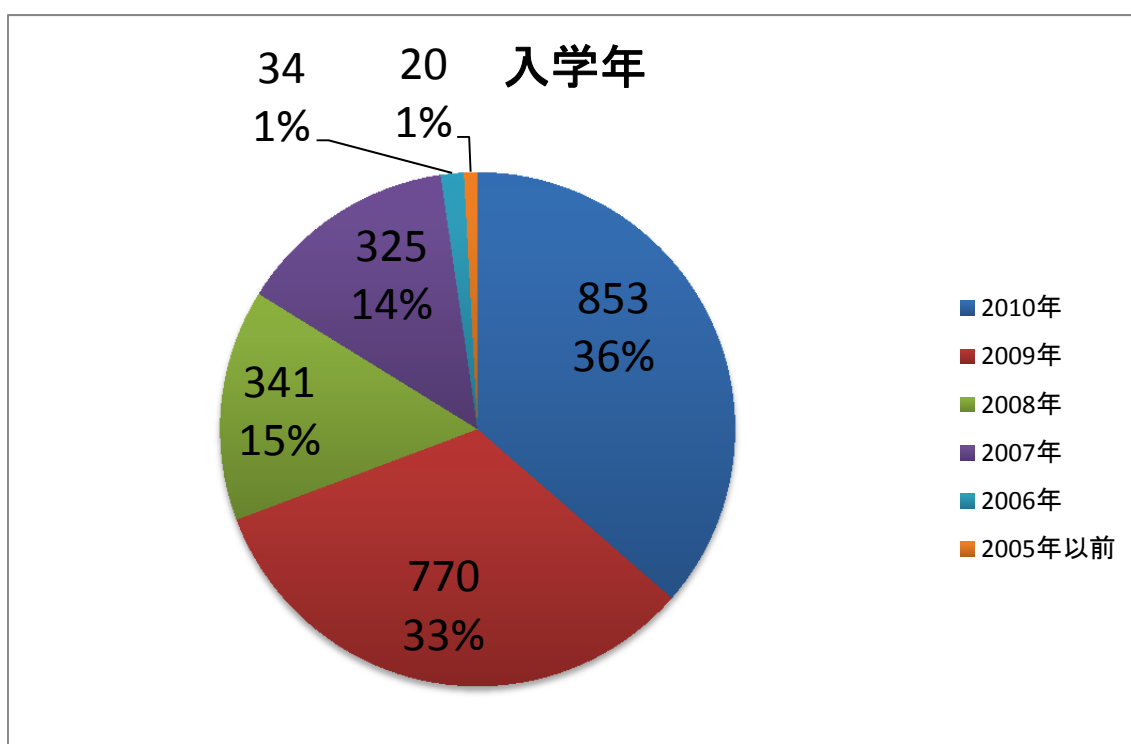
(1)あなたはどこでこのアンケートに回答していますか？



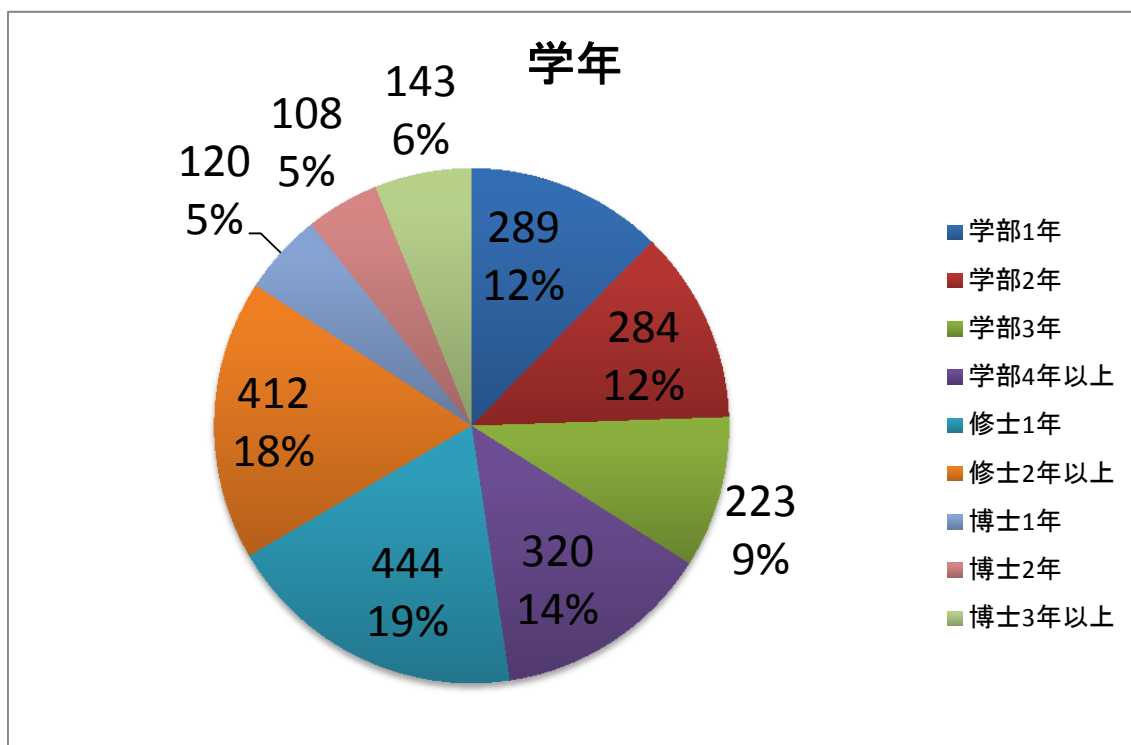
(2)学部／大学院



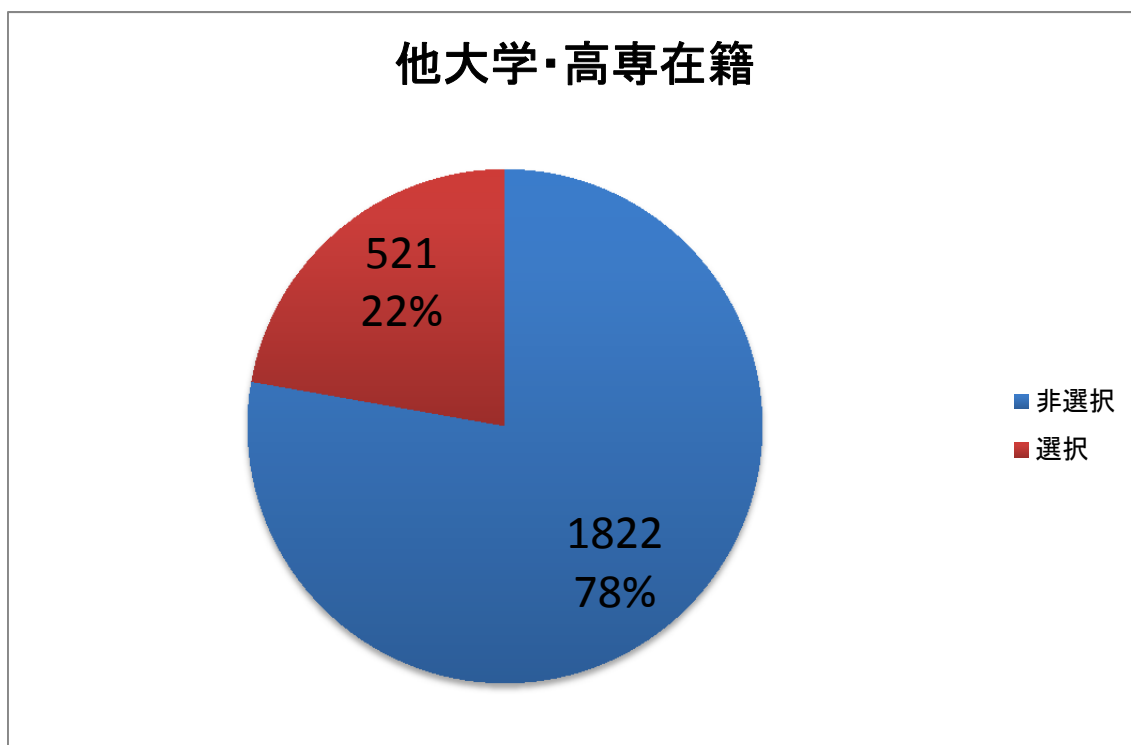
(3)現課程への入学年



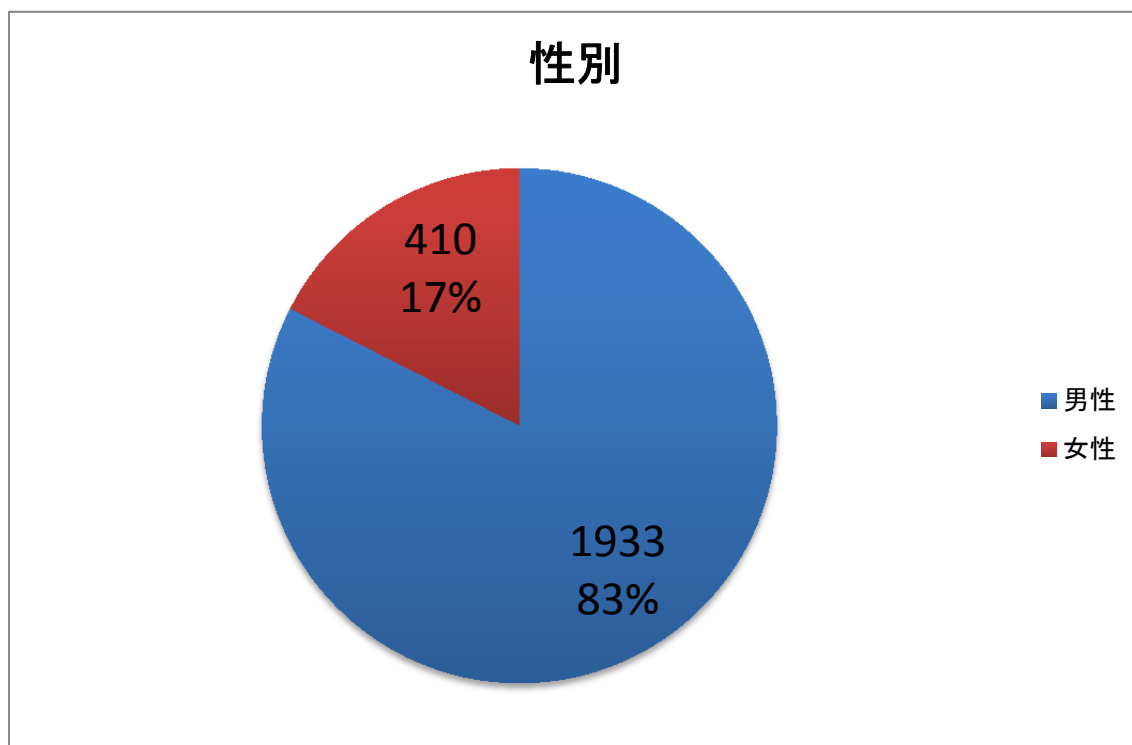
(4)学年



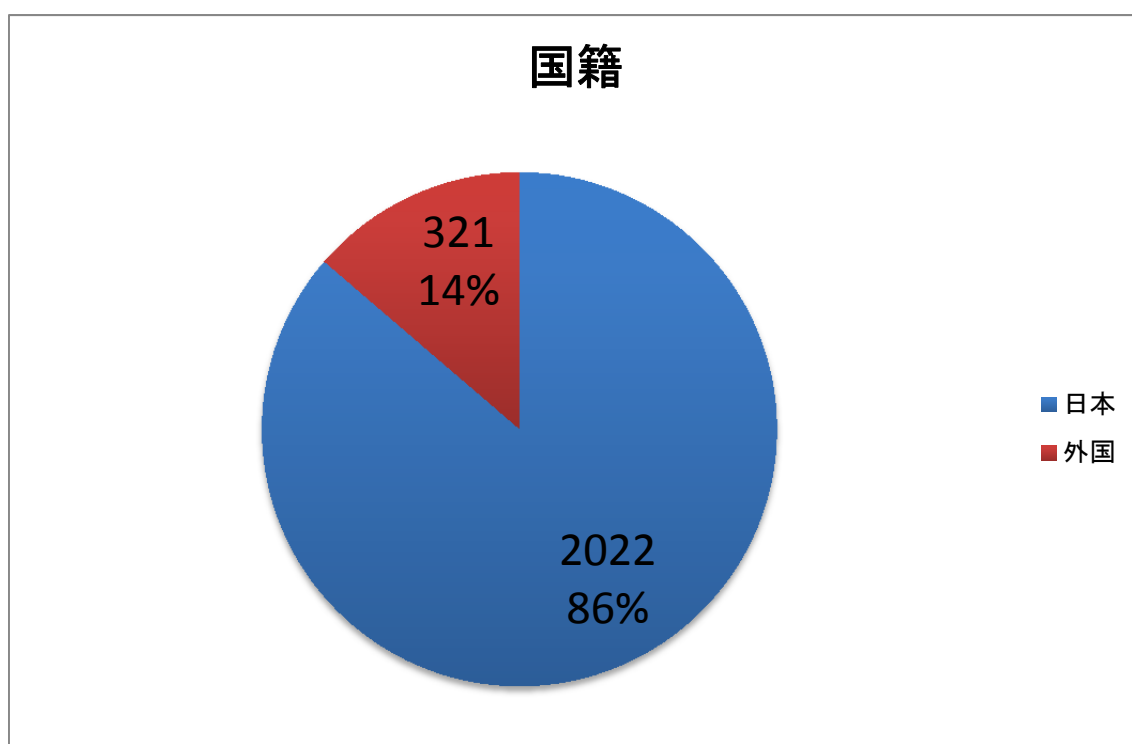
(5)他大学、または高専に在籍していた方はチェックを入れてください。



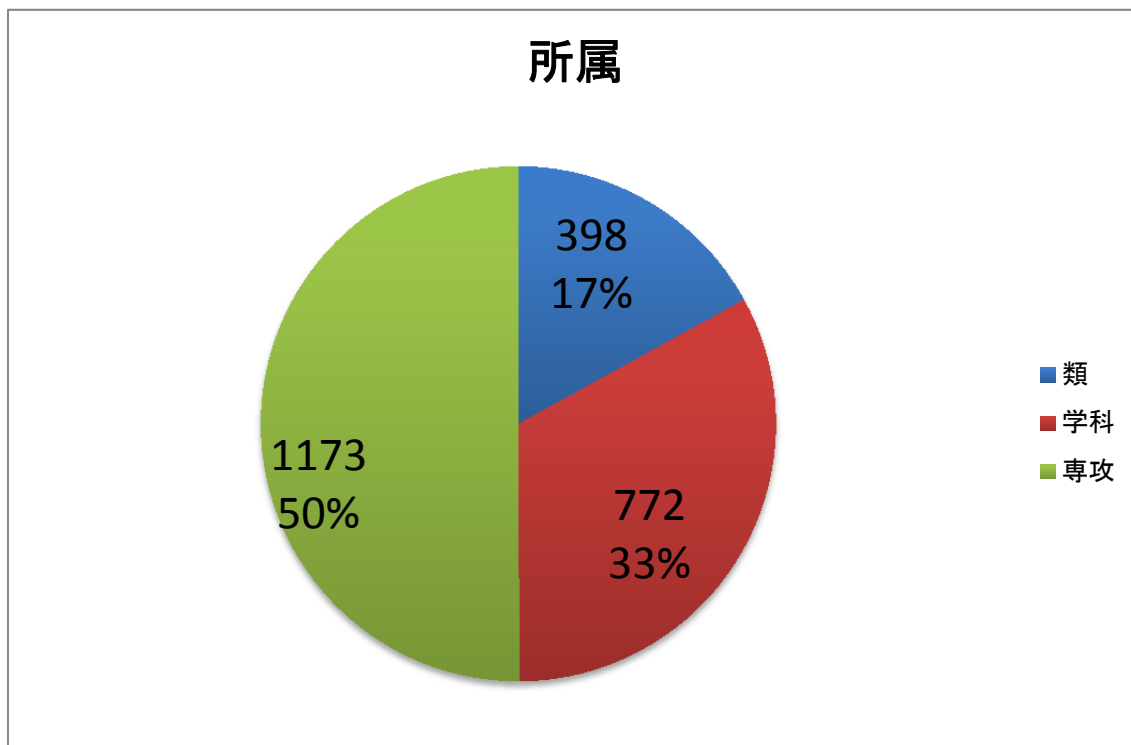
(6)性別



(7)出身



(8)所属(類、学科または専攻名)

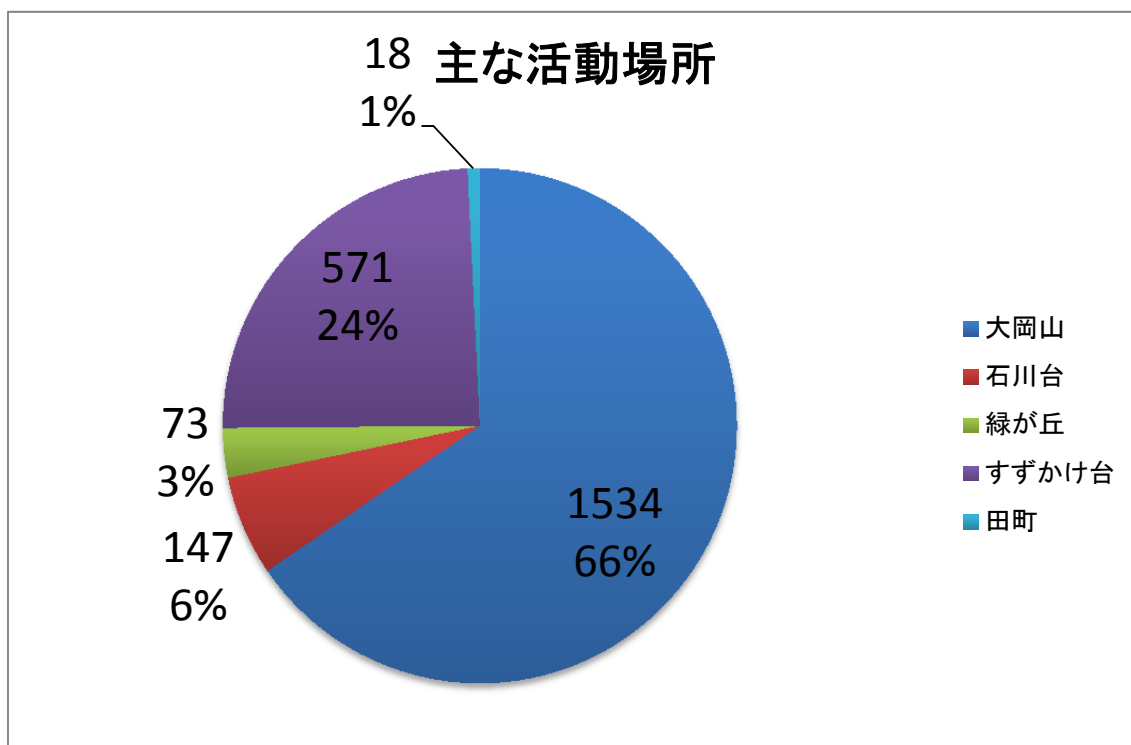


(8-a)所属別回答者数

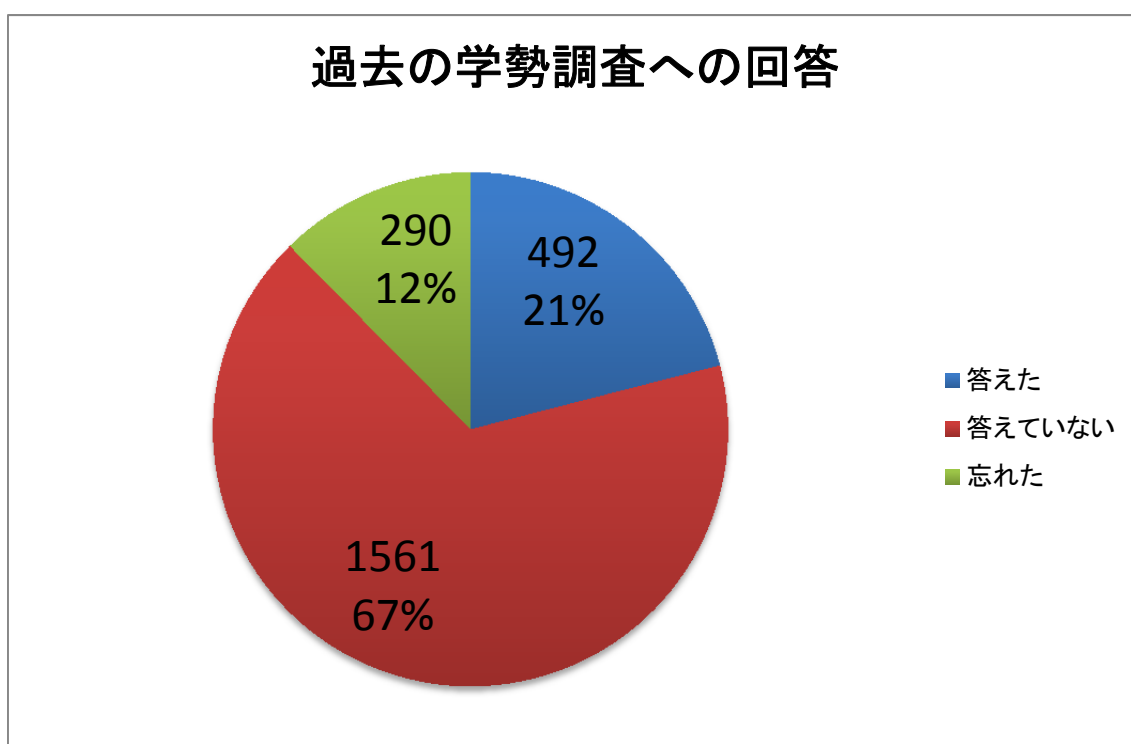
1類	89	材料工学専攻	40
2類	36	有機・高分子物質専攻	38
3類	29	応用化学専攻	20
4類	48	化学工学専攻	27
5類	85	機械物理工学専攻	30
6類	17	機械制御システム専攻	39
7類	49	機械宇宙システム専攻	25
		電気電子工学専攻	38
数学科	18	電子物理工学専攻	25
物理学科	49	集積システム専攻	29
化学科	33	土木工学専攻	25
情報科学科	27	建築学専攻	15
地球惑星科学科	23	国際開発工学専攻	27
金属工学科	15	原子核工学専攻	24
有機材料工学科	20	分子生命科学専攻	11
無機材料工学科	25	生体システム専攻	21
化学工学コース	21	生命情報専攻	28
応用化学コース	33	生物プロセス専攻	16
高分子工学科	23	生体分子機能工学専攻	20
機械科学科	41	物質科学創造専攻	29
機械知能システム学科	20	物質電子化学専攻	22
機械宇宙学科	29	材料物理科学専攻	24
国際開発工学科	32	環境理工学創造専攻	36
制御システム工学科	39	人間環境システム専攻	24
経営システム工学科	17	創造エネルギー専攻	30
電気電子工学科	68	化学環境学専攻	36
情報工学科	76	物理電子システム創造専攻	36
土木・環境工学科	22	メカノマイクロ工学専攻	32
建築学科	31	知能システム科学専攻	59
社会工学科	25	物理情報システム専攻	33
生命科学科	27	数理・計算科学専攻	15
生命工学科	52	計算工学専攻	50
		情報環境学専攻	29
数学専攻	14	人間行動システム専攻	21
基礎物理学専攻	23	価値システム専攻	13
物性物理学専攻	15	経営工学専攻	17
化学専攻	30	社会工学専攻	14
地球惑星科学専攻	20	技術経営専攻	12
物質科学専攻	30	イノベーション専攻	8



(9)キャンパス内の主な活動場所はどこですか？

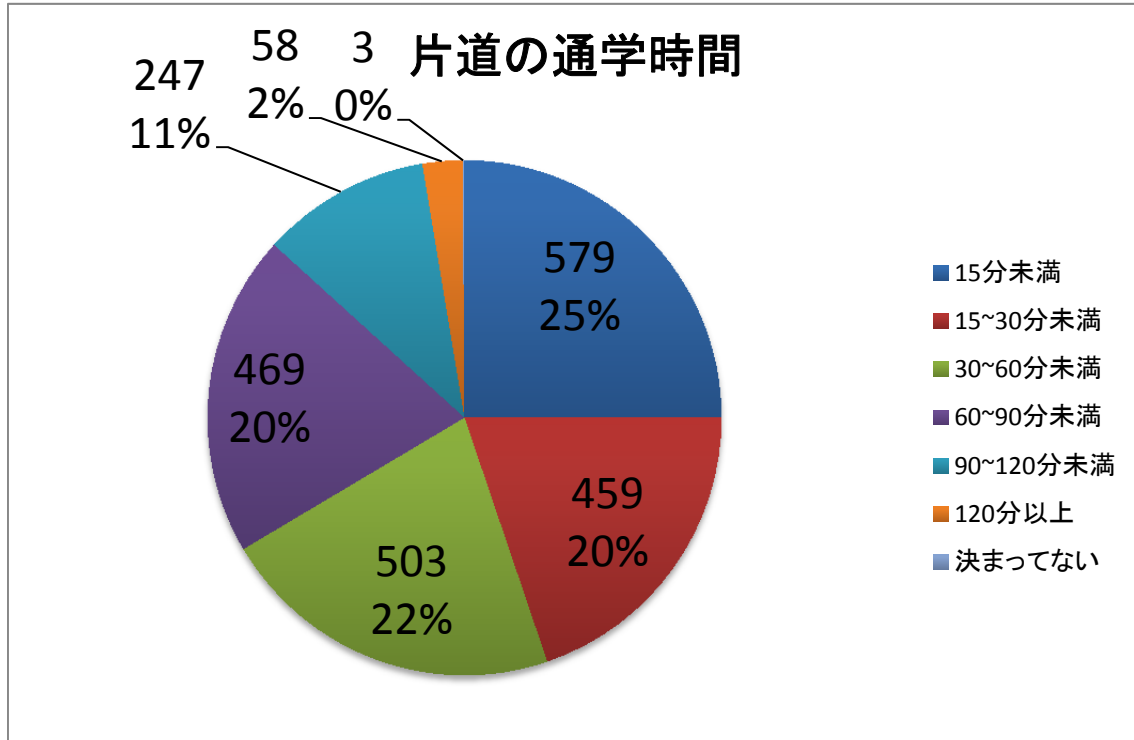


(10)過去に実施した学勢調査に回答しましたか。

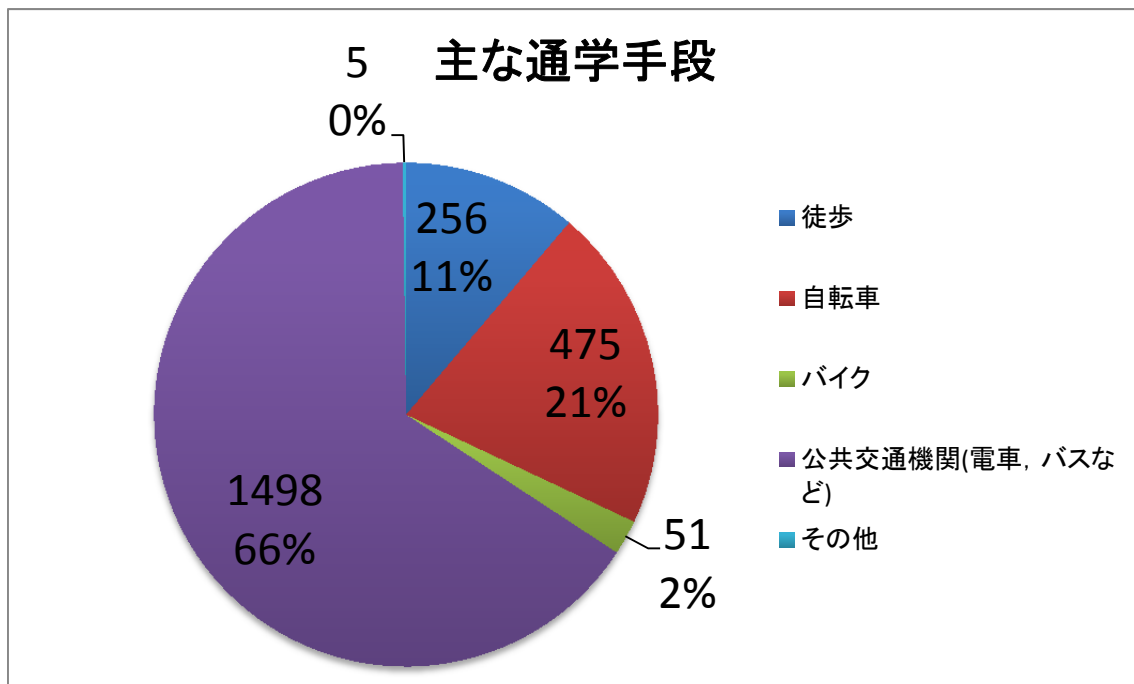


1. 生活基盤について

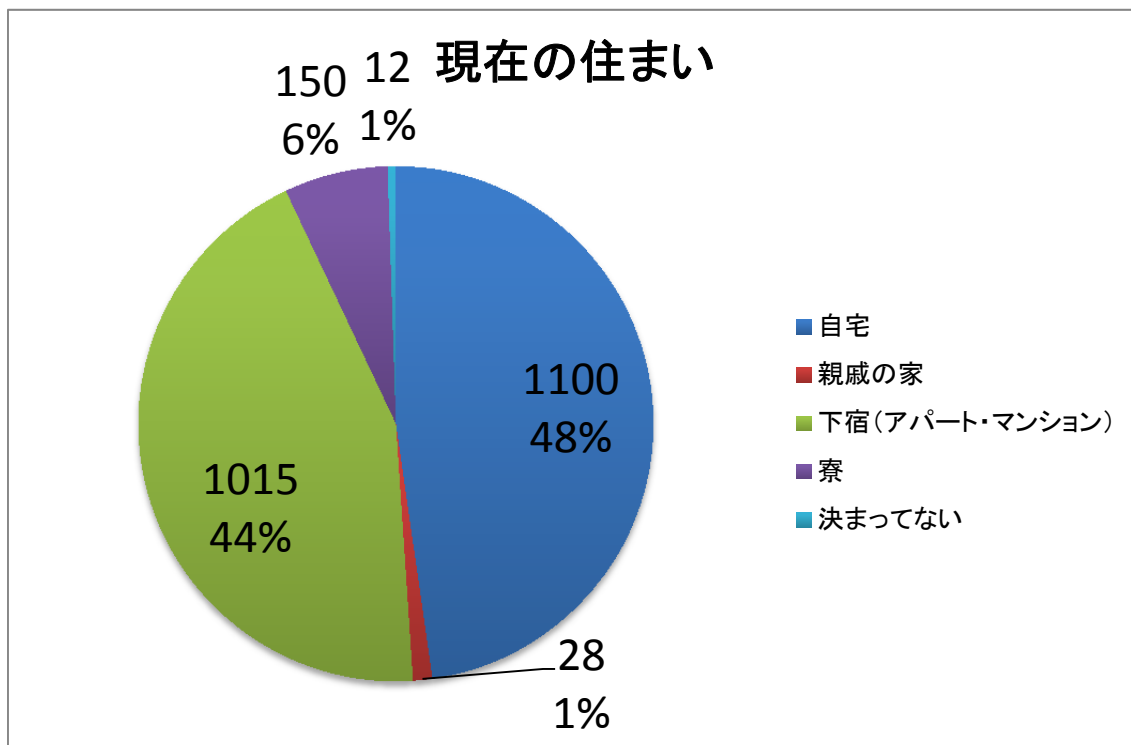
(1)片道の通学時間はどのくらいですか。



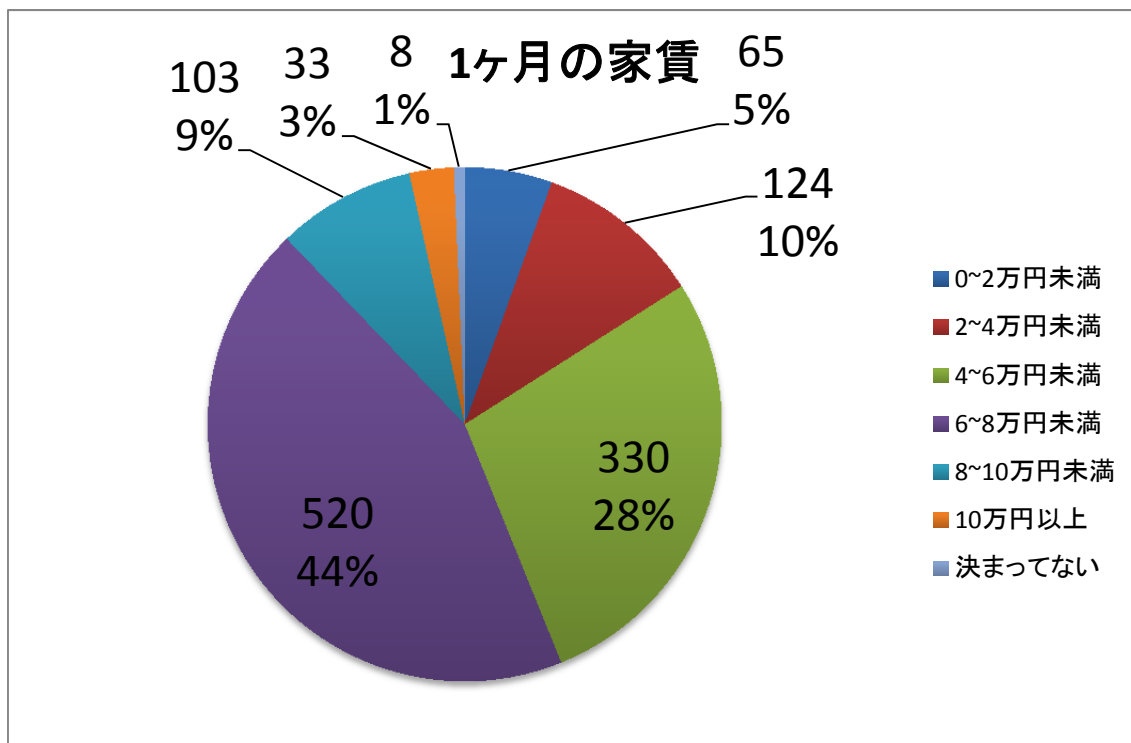
(2)主な通学手段は何ですか。



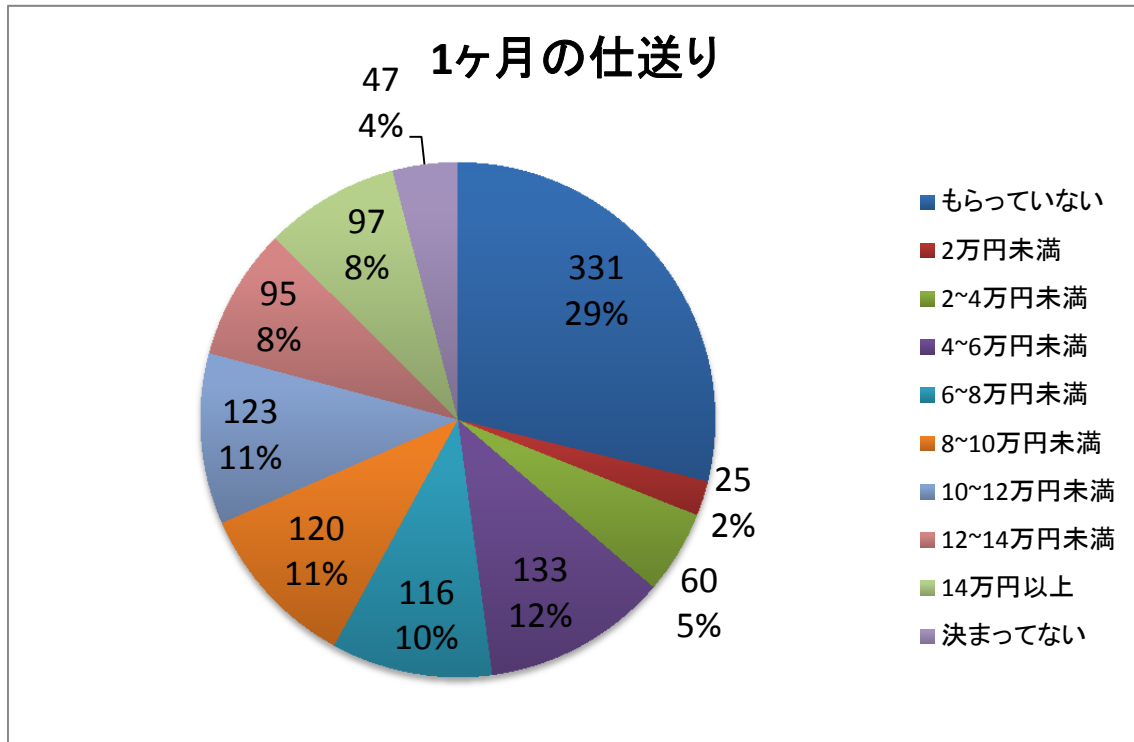
(3)現在の住まいは以下のどれにあたりますか。



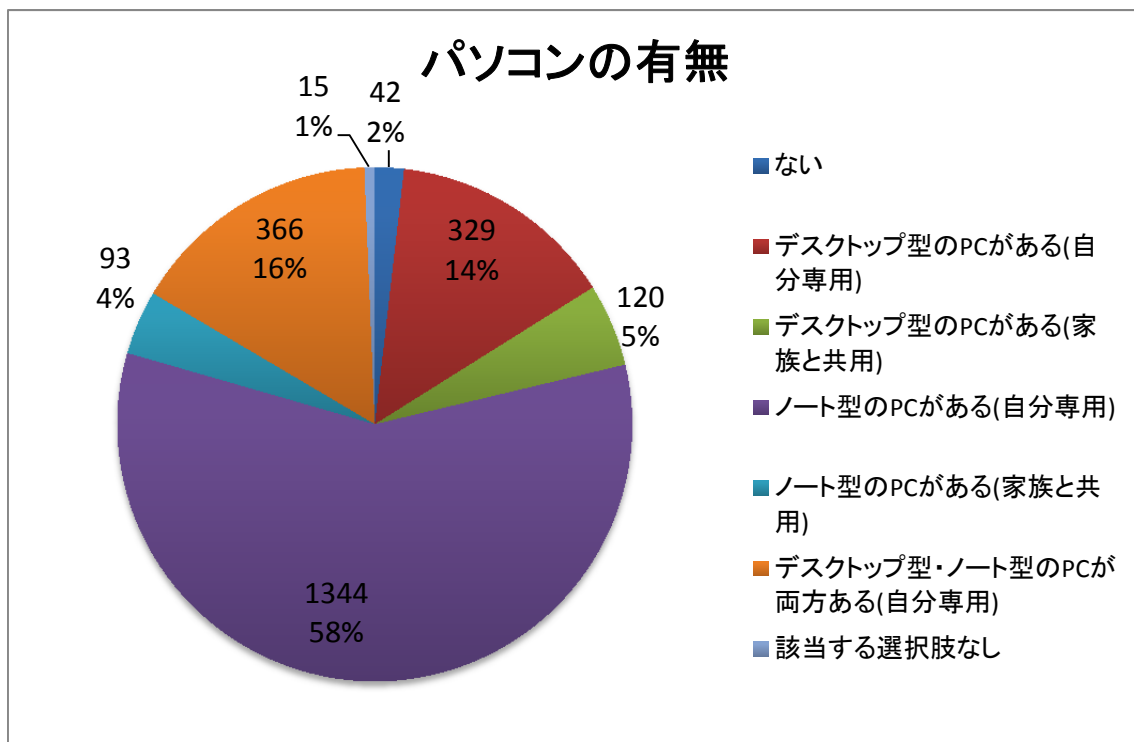
(4)(3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の家賃はどのくらいですか。



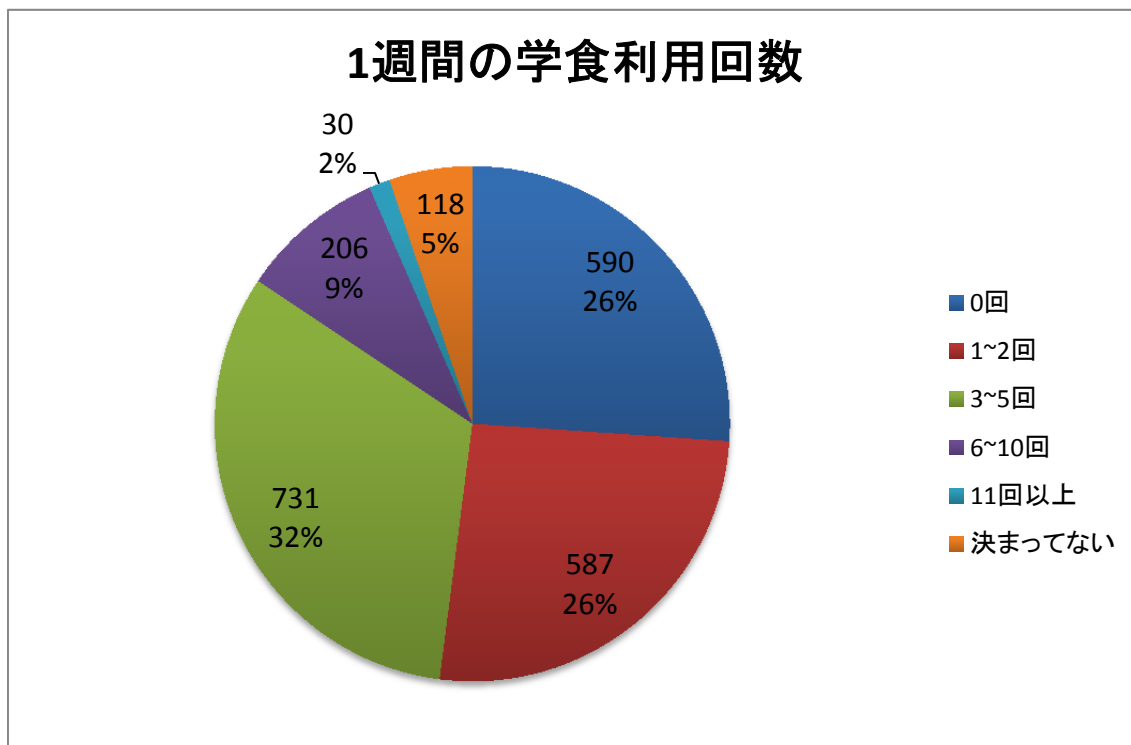
(5)(3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。



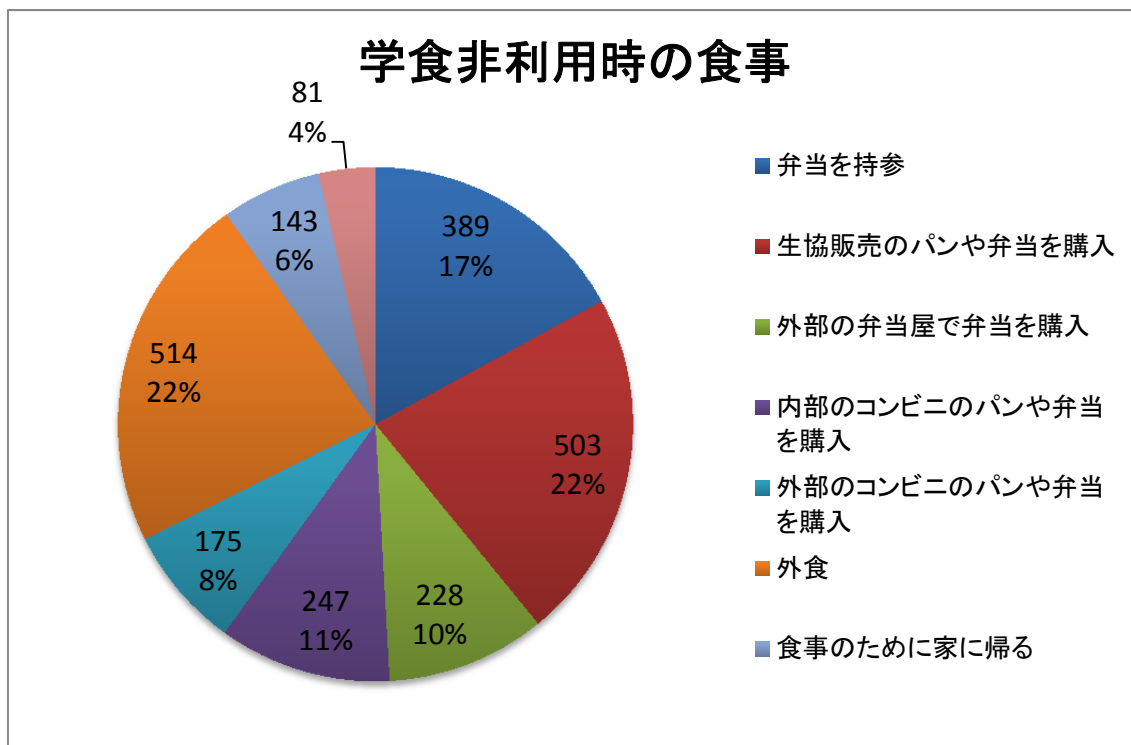
(6)パソコンが現在の住まいにありますか。



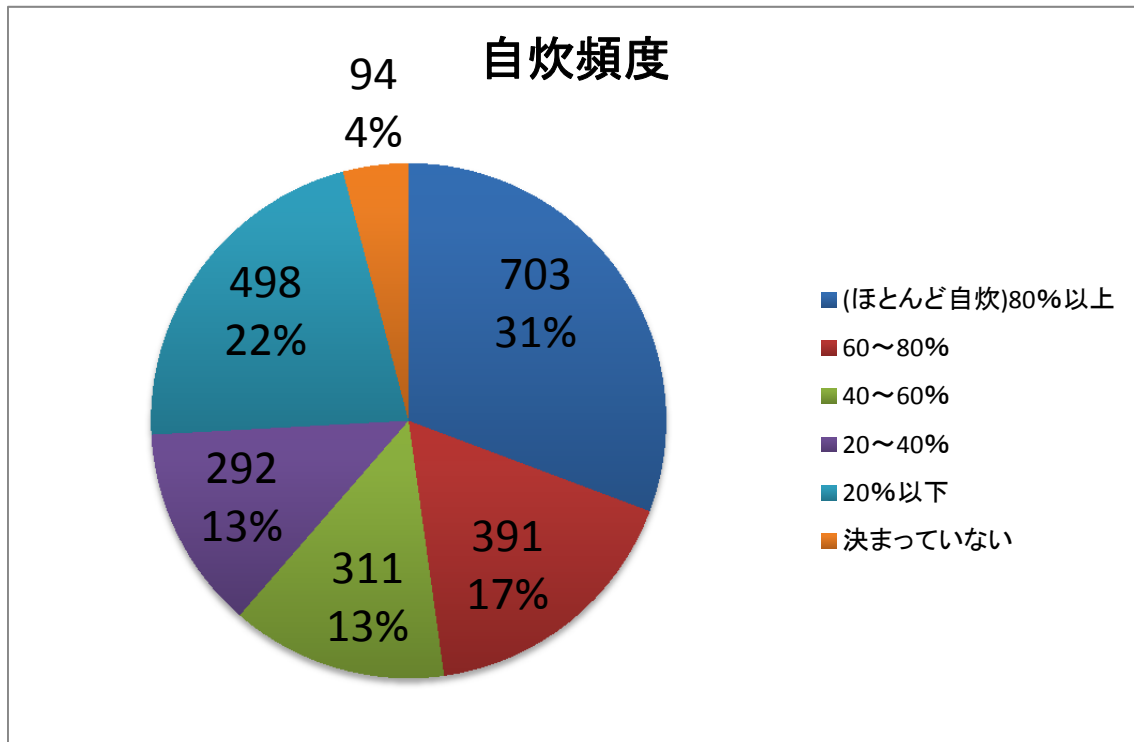
(7)1 週間に何回くらい学内の食堂(学食)を利用しますか。



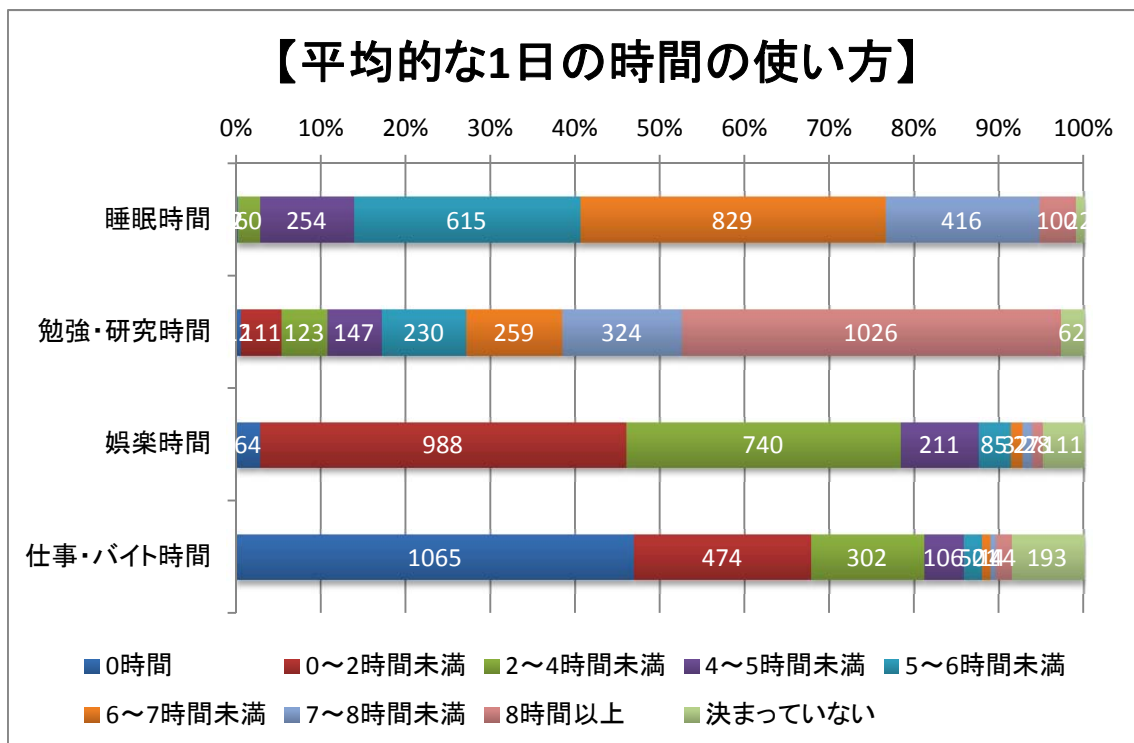
(8)学食を利用しない時は主にどうやって食事をとりますか。



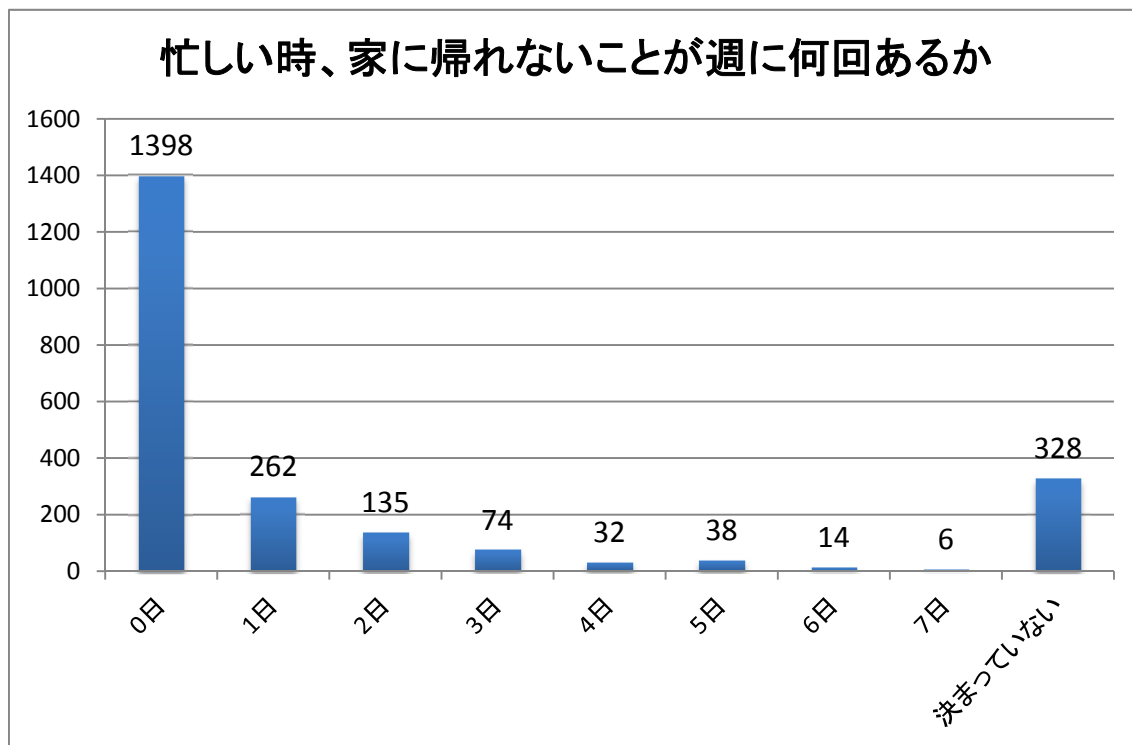
(9) 普段、自炊、もしくは家庭や寮で調理された食事をどのくらいとっていますか。



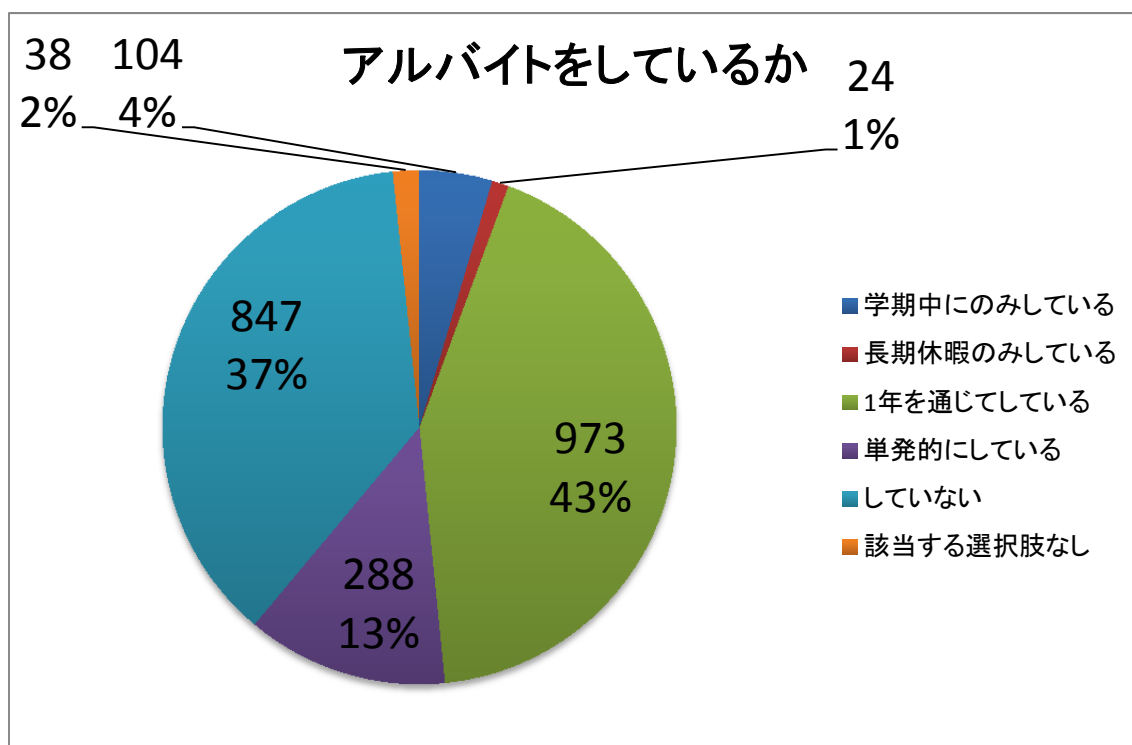
(10) 平日の平均的な時間の使い方を教えてください



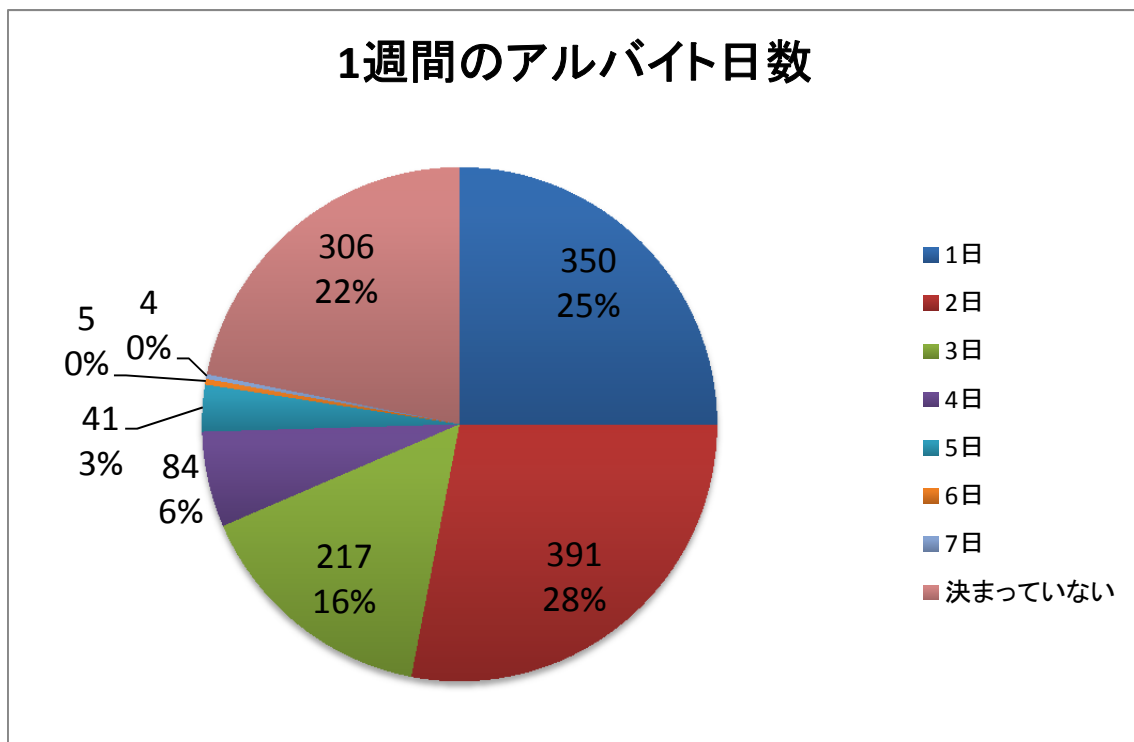
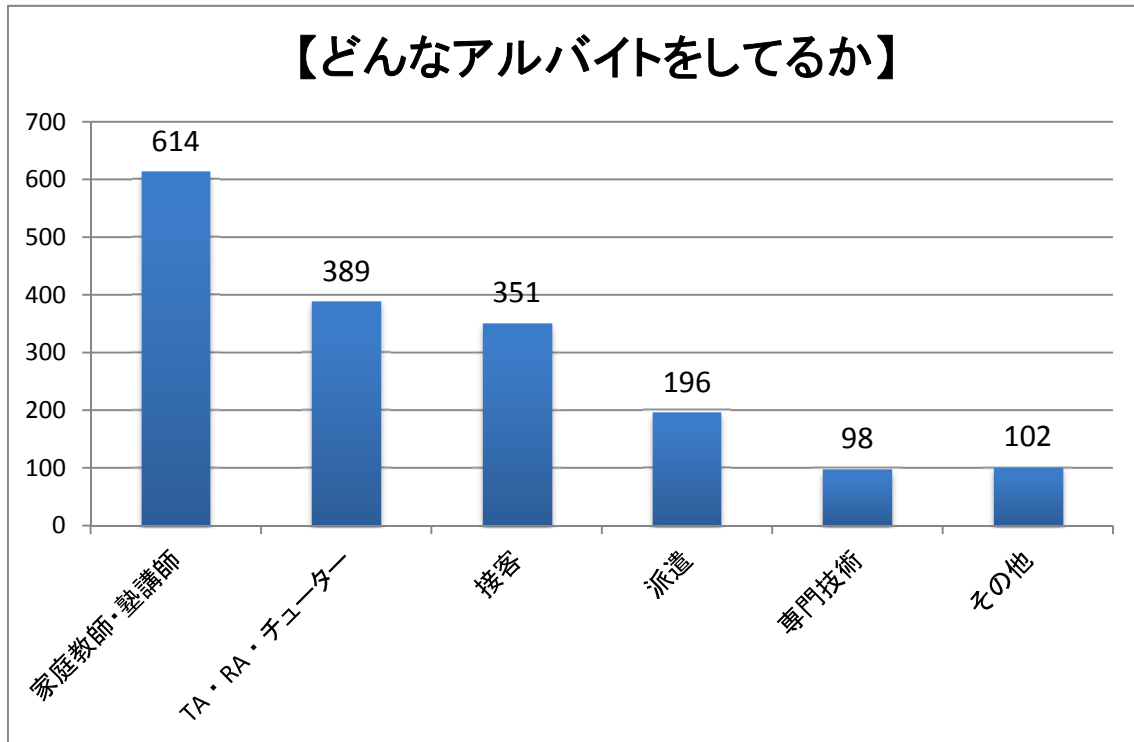
(11)あなたは課題や研究で忙しいときに、家に帰れないことが週何回程度ありますか。

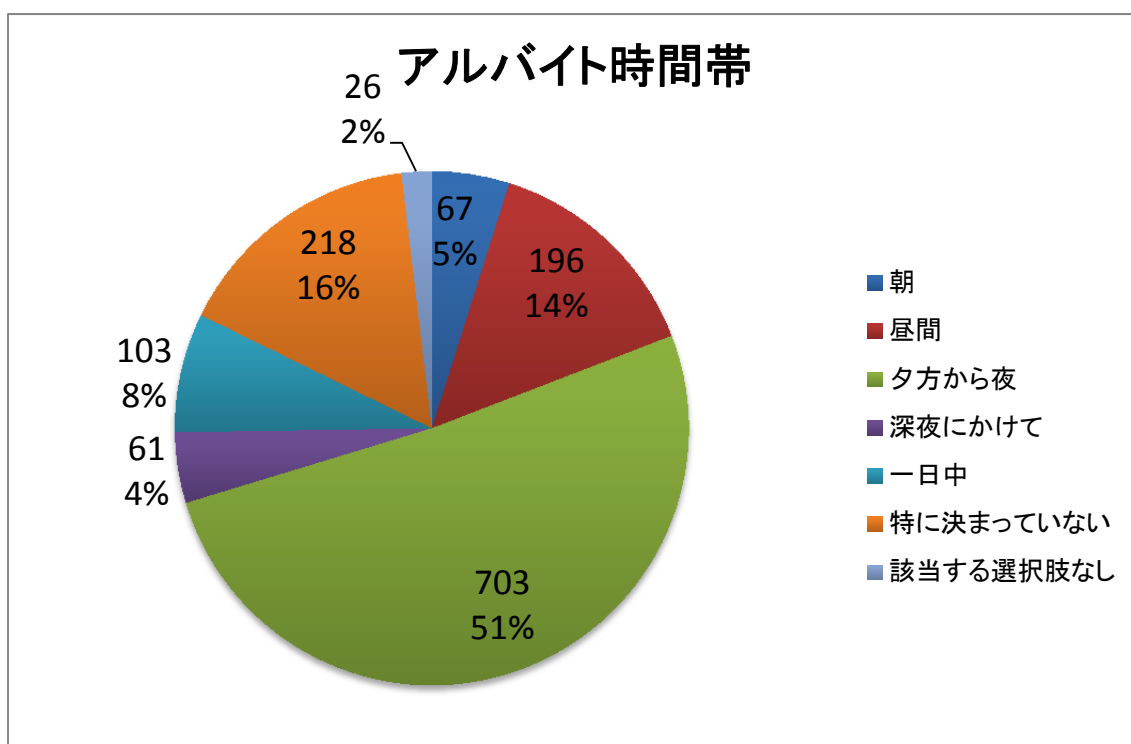
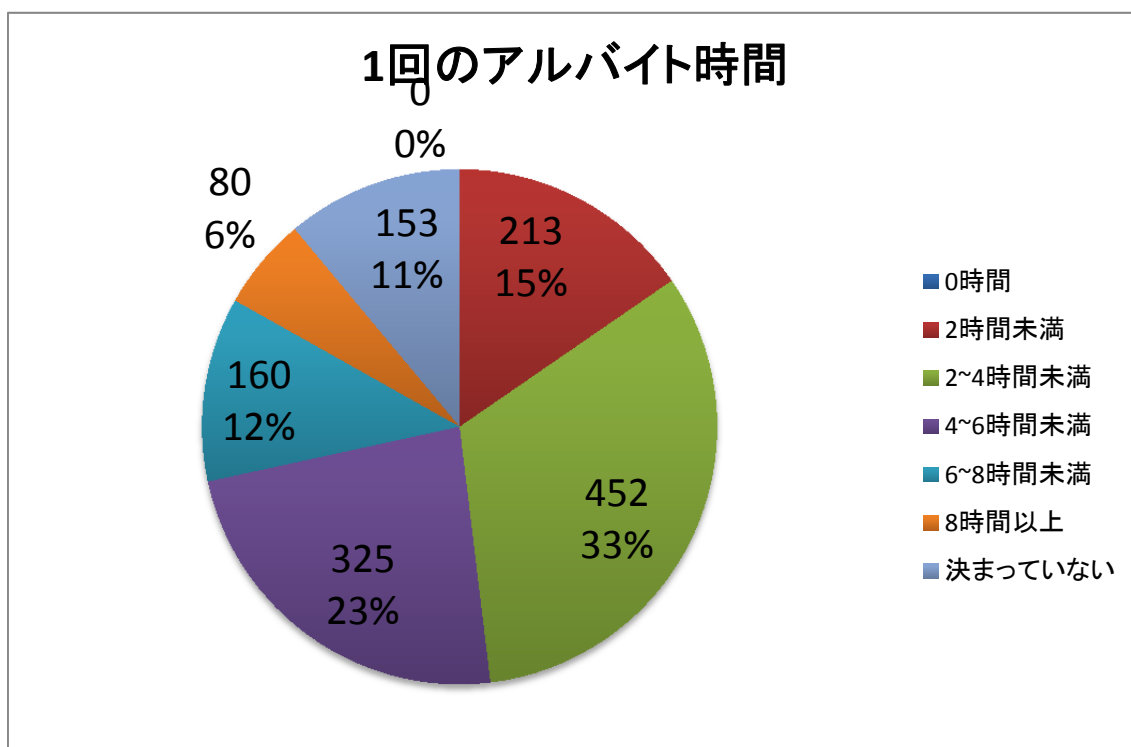


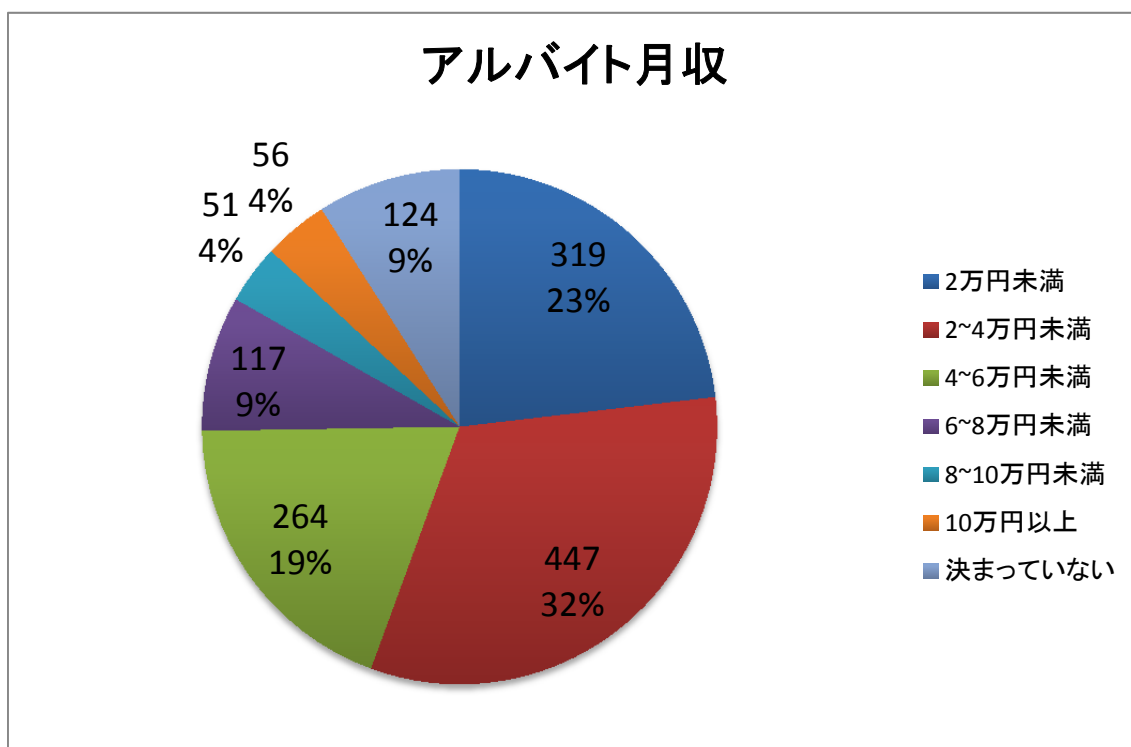
(12)あなたはアルバイトをしていますか。



(13)(12)でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。あなたがしているアルバイトの内容を教えてください(複数回答可)。

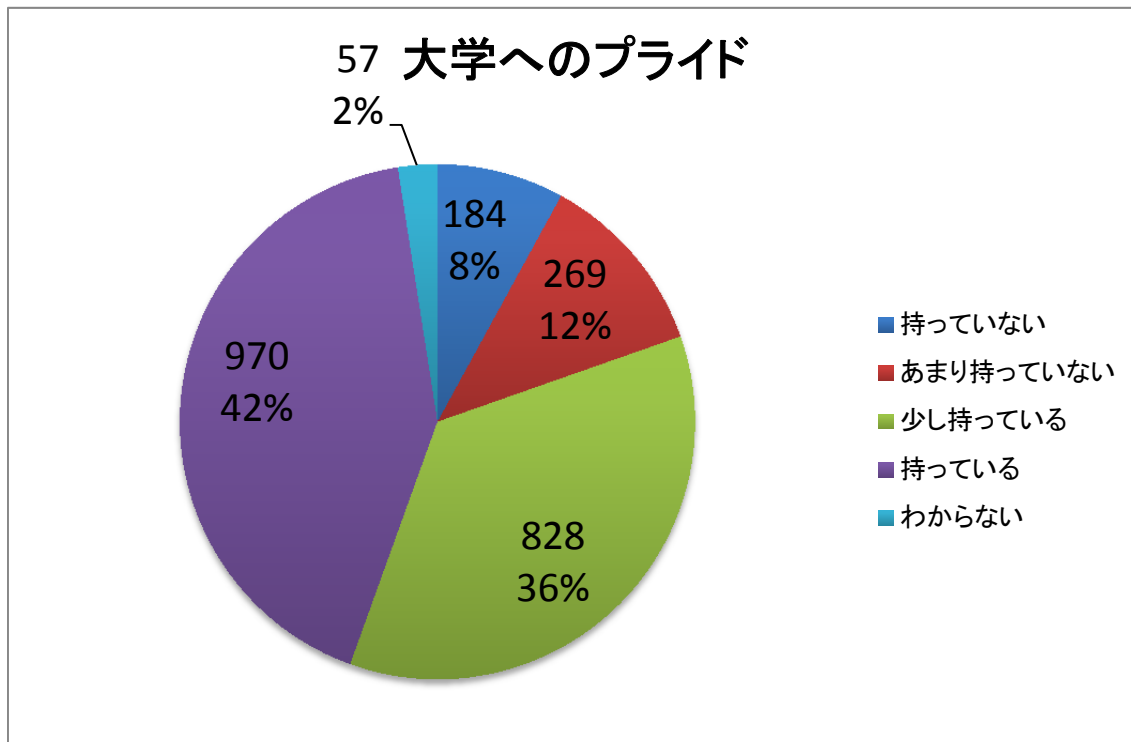




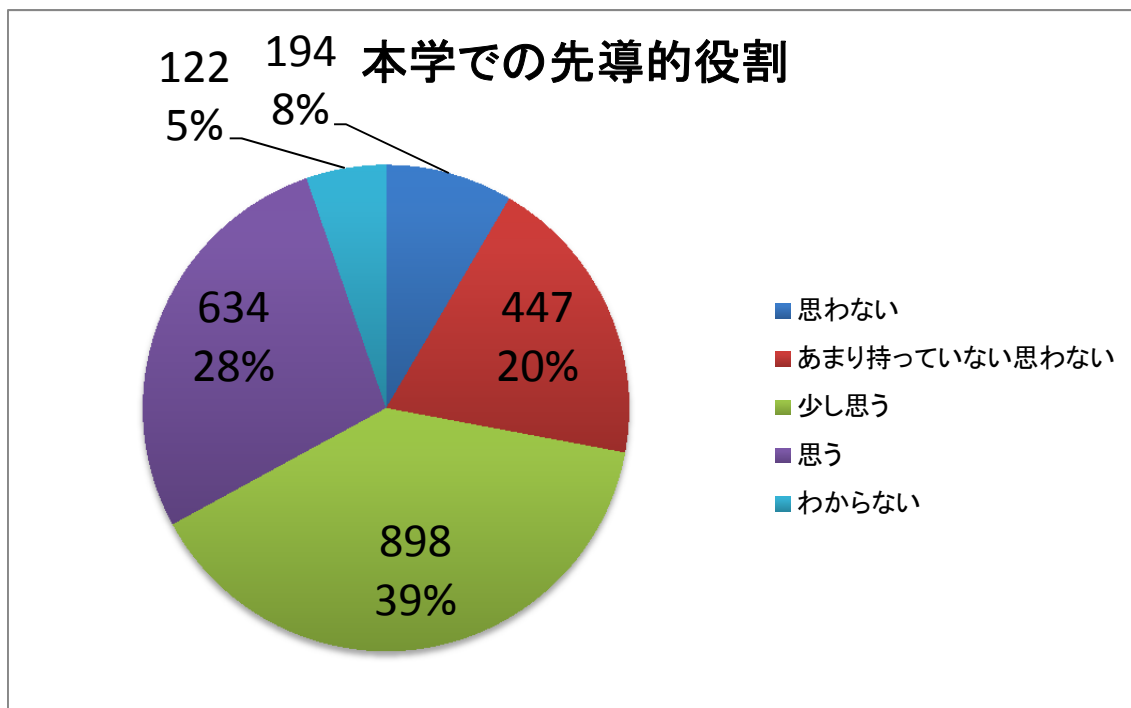


2. 学習状況について

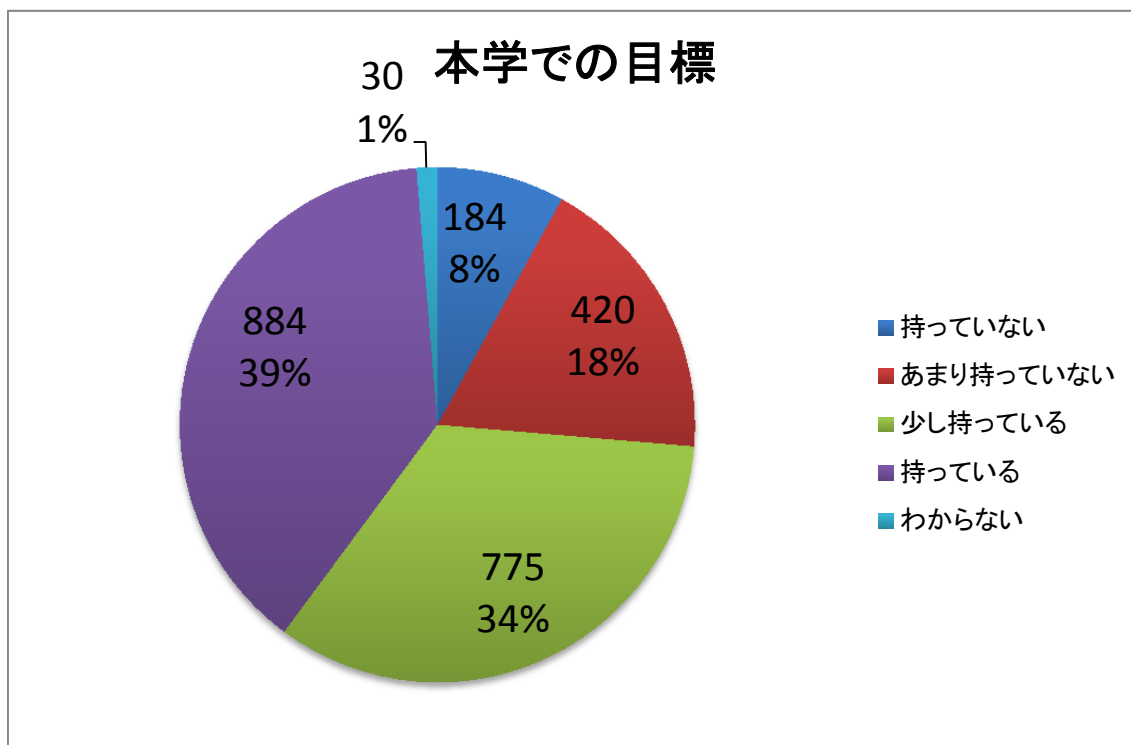
(1)大学にプライドをもっていますか。



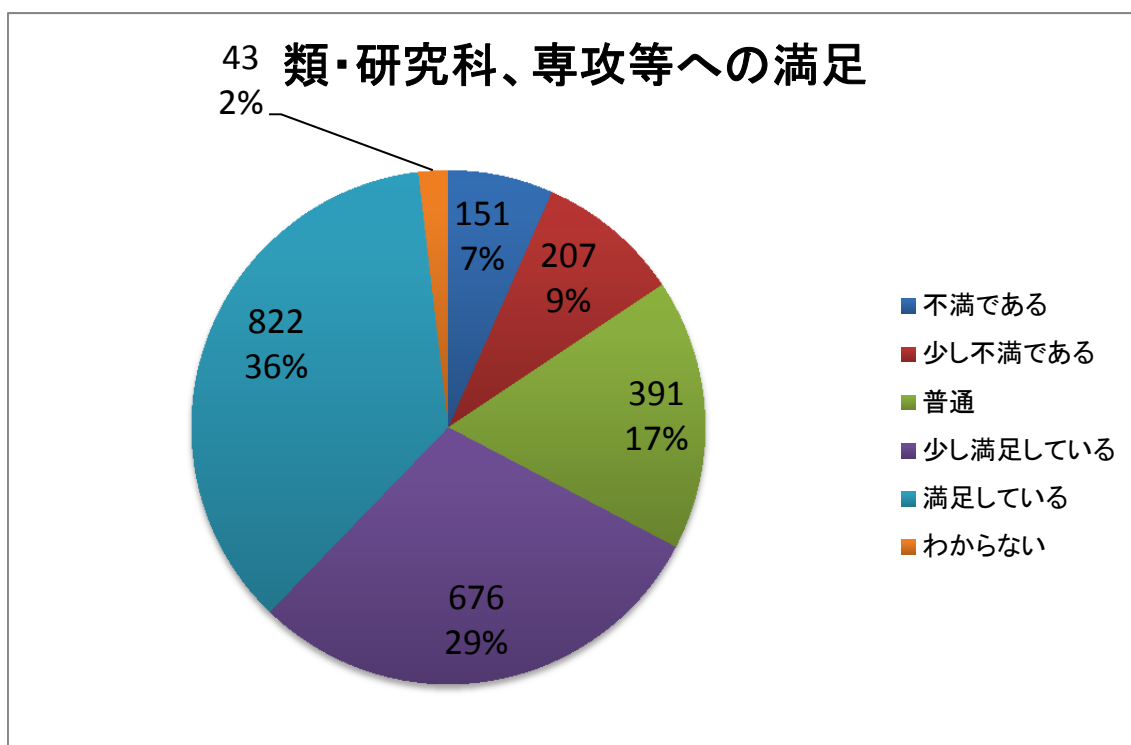
(2)本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。



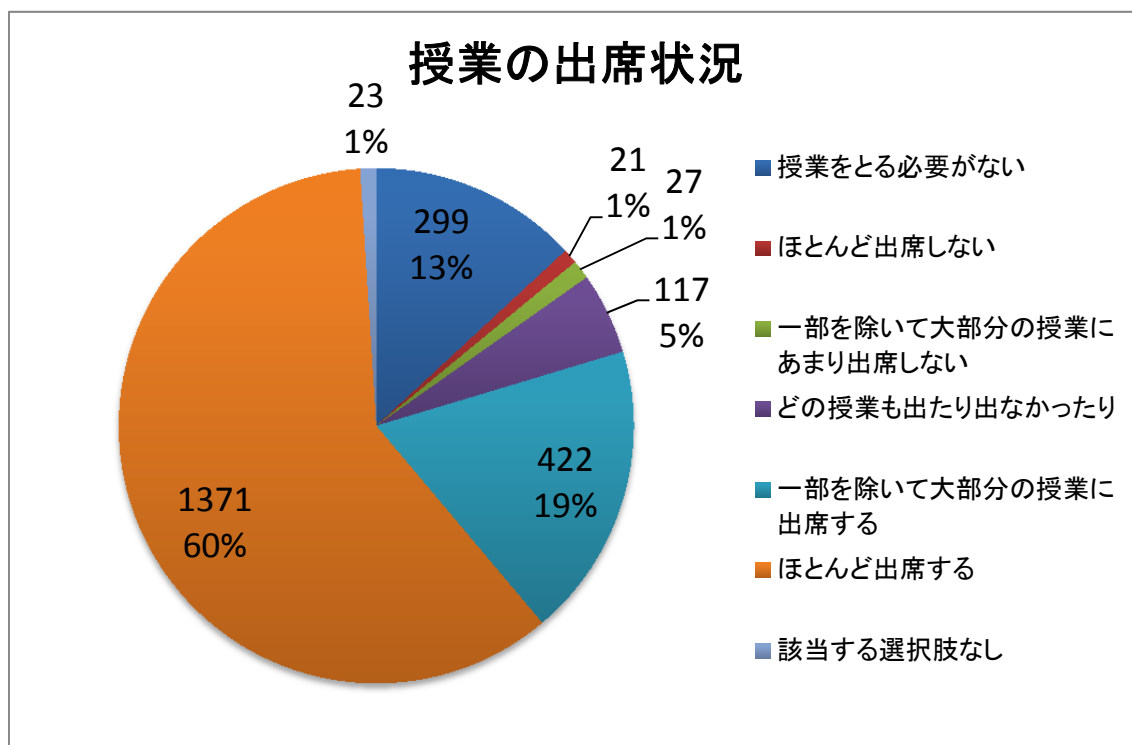
(3) 本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。



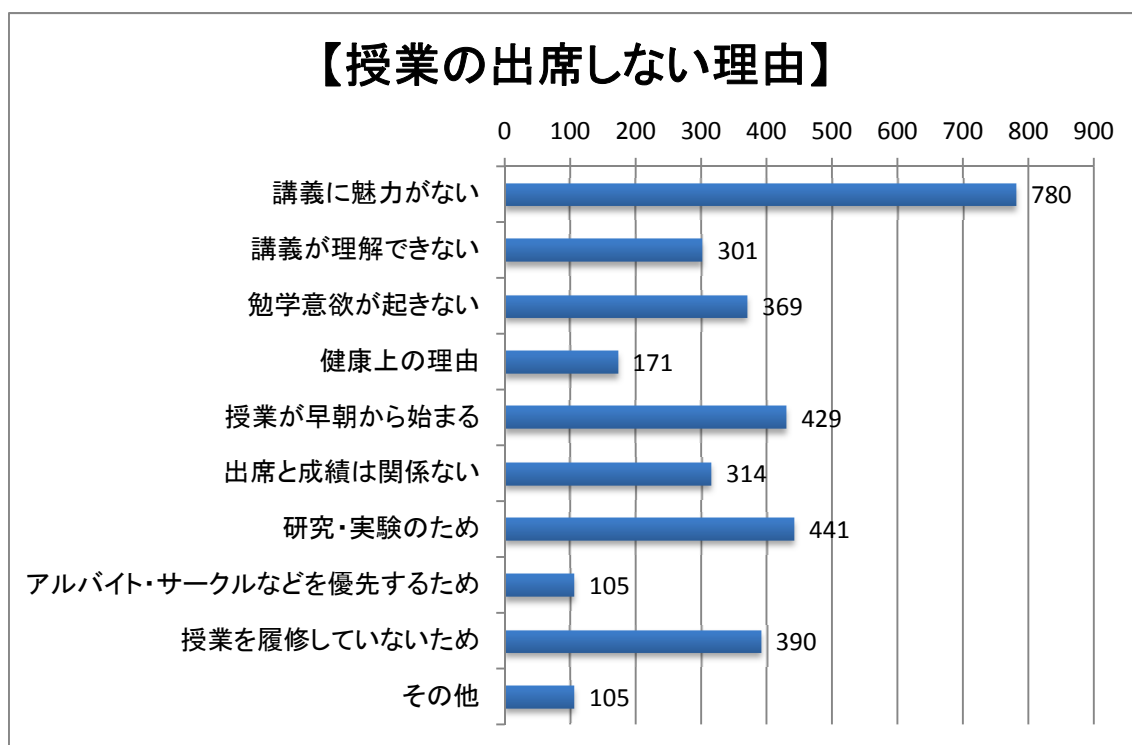
(4) 現在在籍している類、研究科、専攻等に満足していますか。



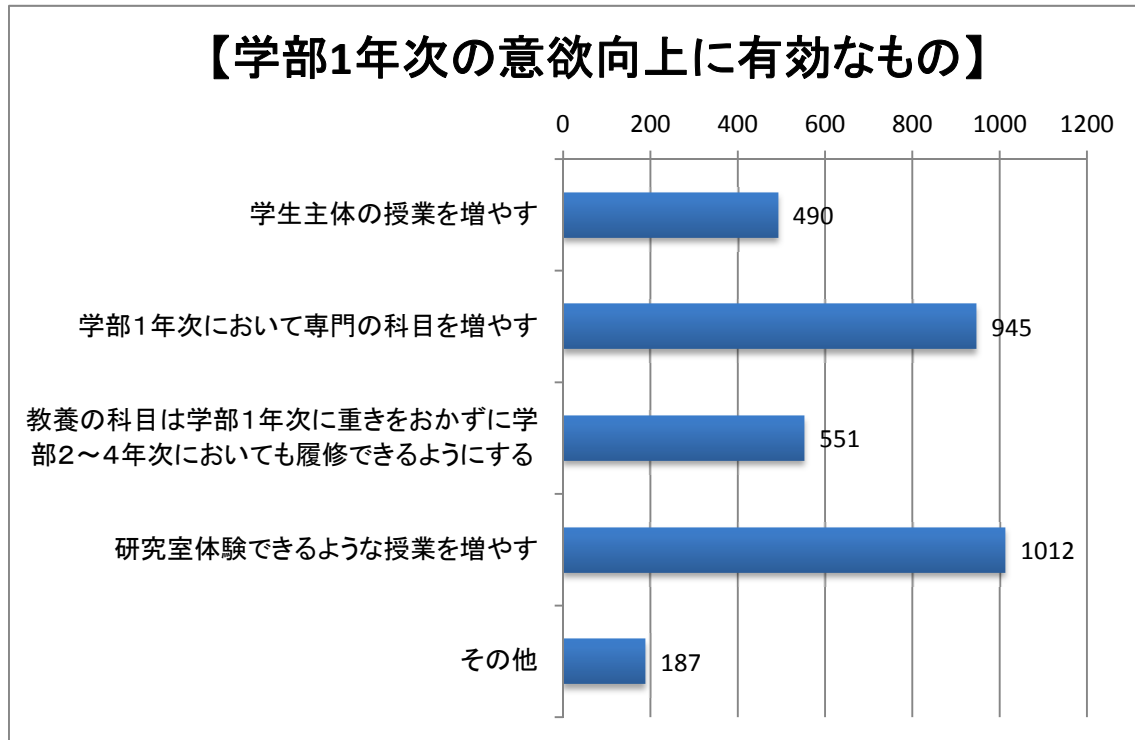
(5)授業の出席状況はどうですか。



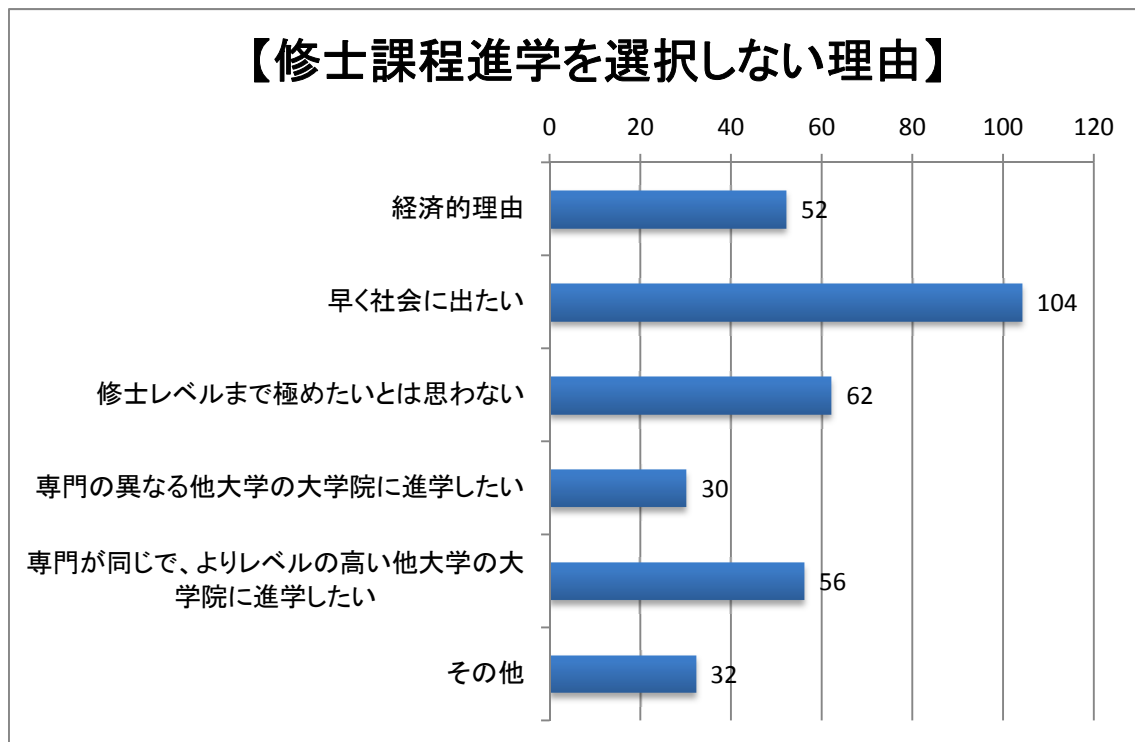
(6)履修申告をした授業に出ない主な理由は何ですか。該当するものにマークして下さい。
(複数回答可)



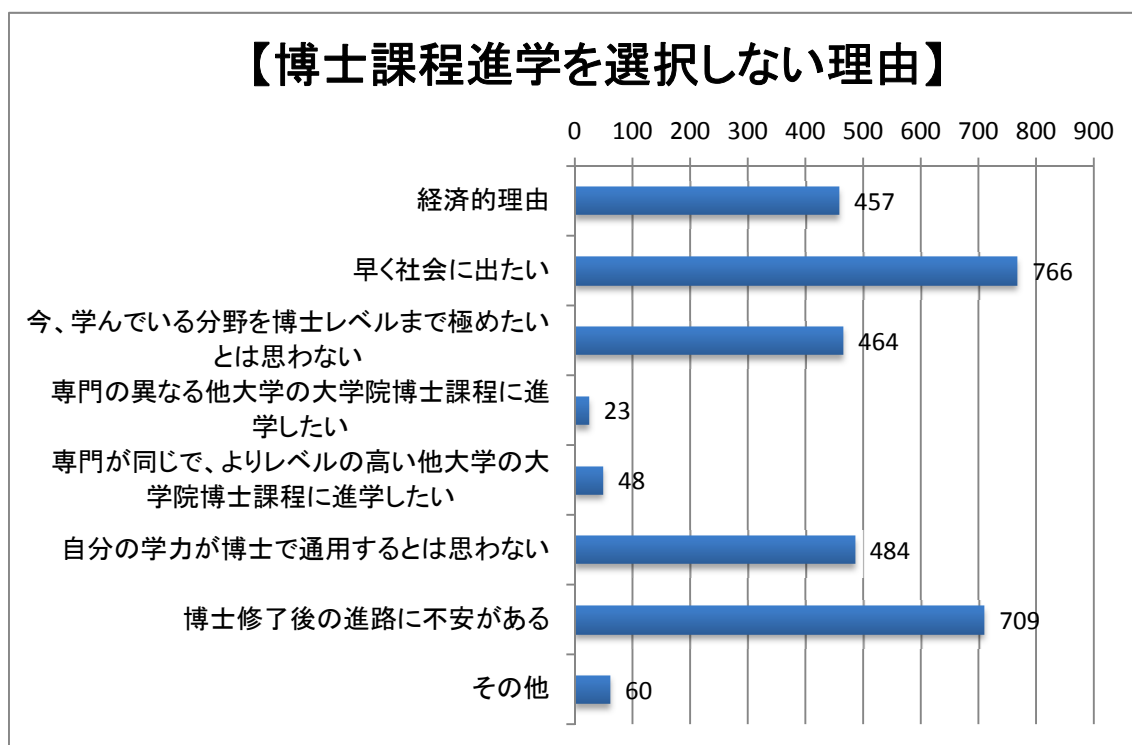
(8)次の項目の中から学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるものにマークして下さい。(複数回答可)



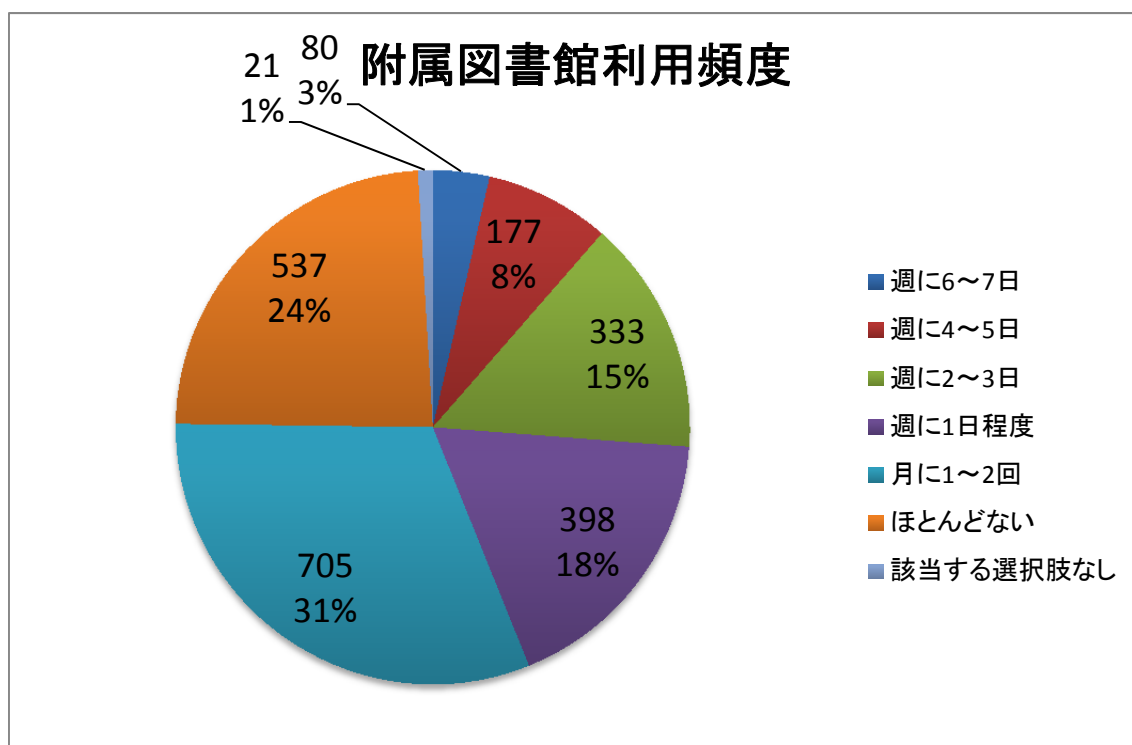
(9)学部生で本学の修士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数回答可)



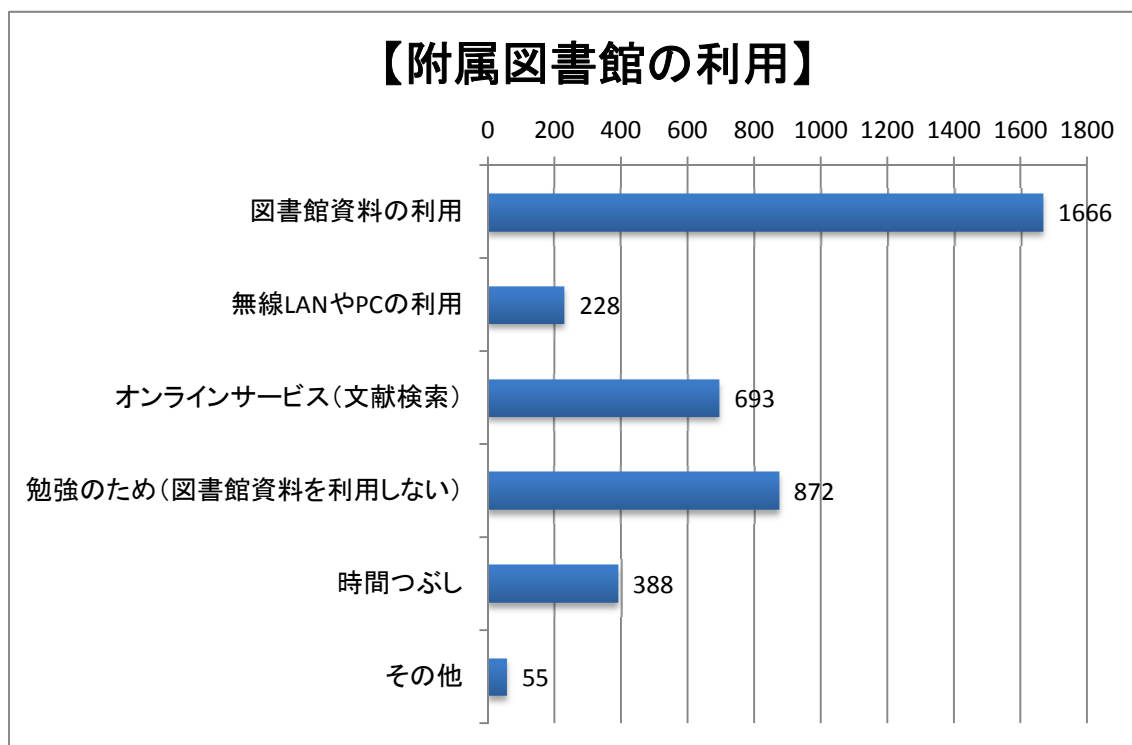
(10)学部生・大学院修士課程学生で本学の博士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。（複数選択可）



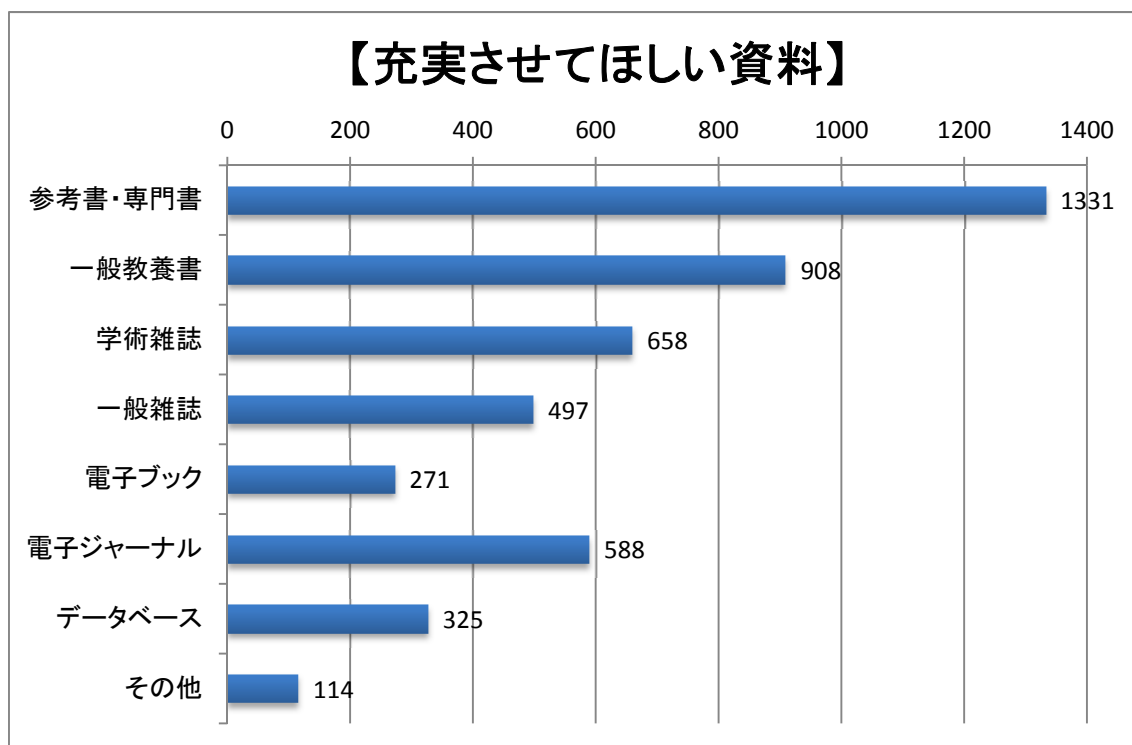
(11) 附属図書館(オンラインサービスを含む)をどの程度利用していますか。



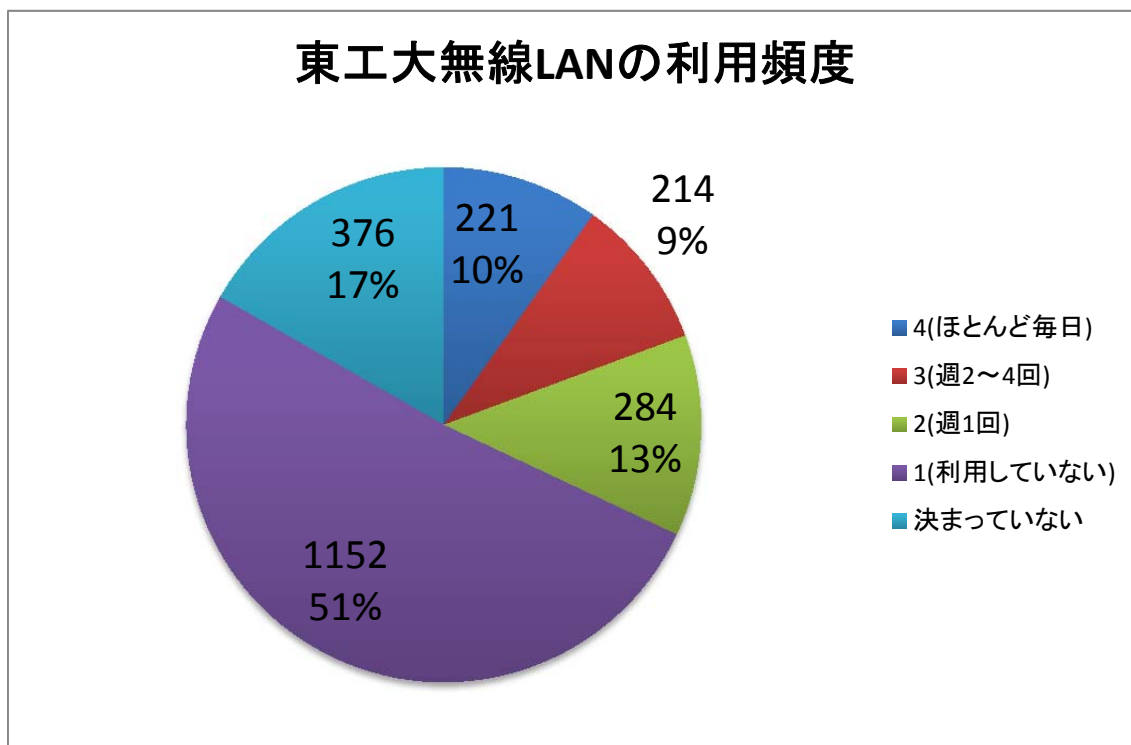
(12)附属図書館の利用の主なものにマークして下さい。(複数回答可)



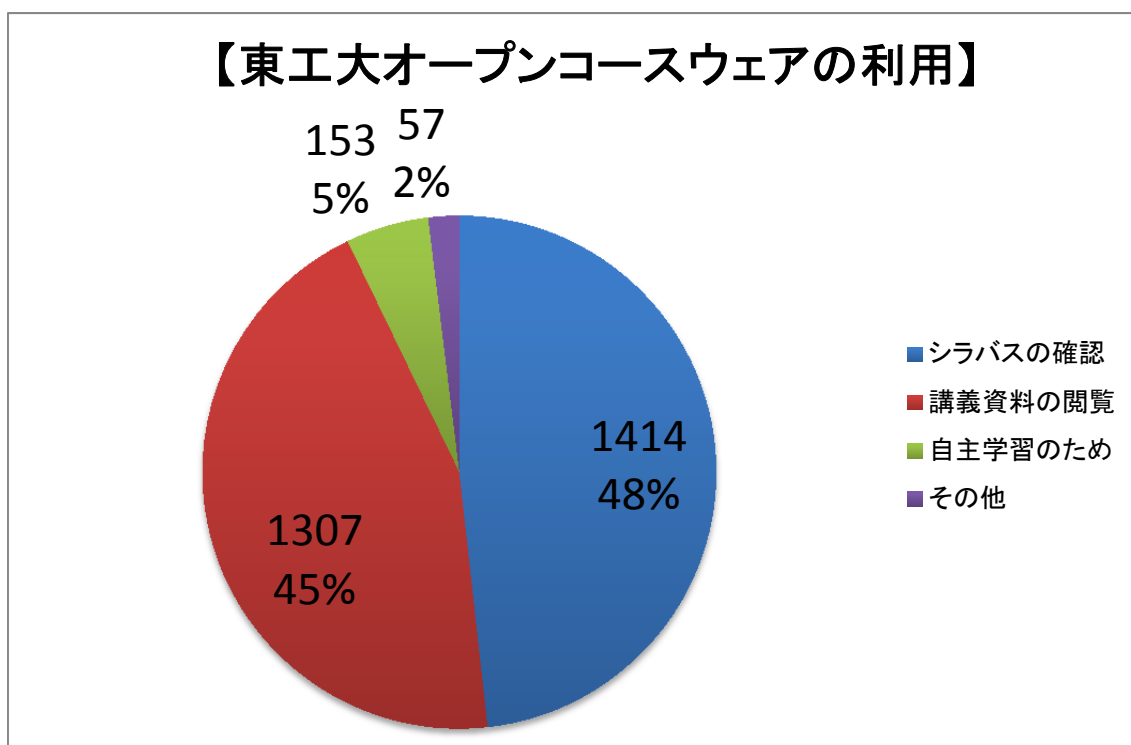
(13)附属図書館に充実させてほしい資料はどのようなものですか。(複数回答可)



(15)現在，講義室、附属図書館、食堂等に無線 LAN が設置されています。東工大の無線 LAN(Titech-Pubnet)をどのくらい利用していますか。



(16)東京工業大学オープンコースウェア(TOKYOTECH OCW/OCW-i)を利用していますか。



(17)授業を受けにくい講義室がある場合、一番受けにくい講義室を教えてください。

(17-a)建物ごと

	教室の 形状	空調	机	椅子	視聴覚器	その他	総数
B	1	1	0	0	0	1	2
B2	15	2	6	4	5	11	25
CIC	5	0	5	6	1	5	13
G1	1	0	3	4	0	0	4
G2	1	0	2	2	0	1	3
G3	2	1	2	3	1	1	4
G5	1	0	1	3	0	0	3
I	0	0	0	0	0	1	1
I3	3	0	0	0	0	3	4
I4	0	0	0	0	1	1	1
J2	1	3	4	14	1	6	21
M1	2	2	6	12	1	6	18
S	2	2	2	2	0	6	9
S0	4	2	6	6	0	6	13
S1	2	0	1	1	0	1	2
S2	2	2	1	4	1	9	14
S3	15	3	9	11	0	5	22
S4	3	0	3	5	0	2	9
S5	11	8	17	13	4	8	26
S6	94	6	38	37	5	15	124
S8	1	0	0	0	0	2	2
VBL	0	0	0	0	0	2	3
W1	0	0	0	0	1	0	1
W2	9	1	9	21	5	6	35
W3	4	0	7	9	2	4	15
W4	0	0	1	1	0	1	2
W5	3	5	10	9	2	1	17
W6	8	0	7	7	0	4	18
W8	6	0	2	2	1	3	9
W9	14	1	4	5	2	5	23
大岡山	1	0	0	0	0	1	2
本館	27	9	17	16	1	17	59
緑が丘講義棟	0	2	0	1	0	1	4
石川台1号館	0	0	0	0	0	0	0
石川台2号館	0	1	0	0	0	3	3
石川台3号館	1	0	0	1	0	1	2
石川台	0	0	0	0	0	1	1
その他	0	1	1	1	0	4	8

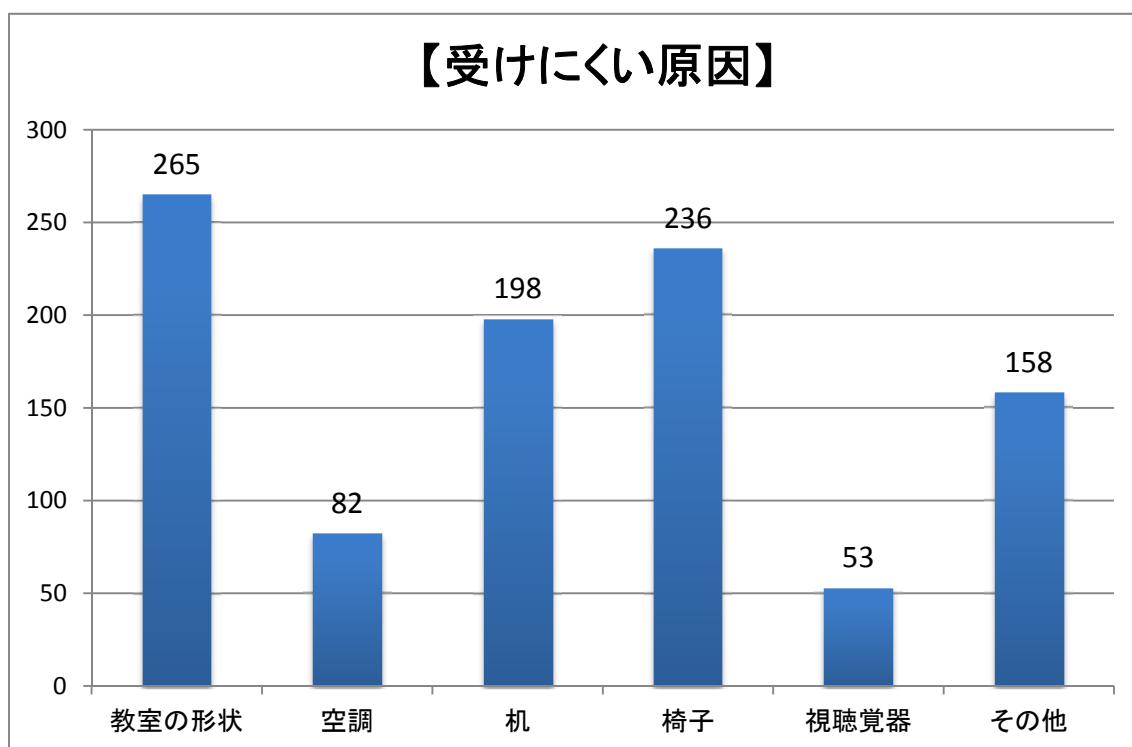


(17-b)講義室ごと

1ラボ	1	J2	3	S622	5	W8	1
2ラボ	2	J22	2	S63	2	W831	2
4ラボ	3	J221	12	S631	11	W832	2
B2	2	J23	1	S632	2	W833	3
B221	1	J231	1	S633	6	W834	1
B223	2	J233	2	S634	4	W836	1
B226	4	J234	1	S635	9	W8の10Fの講義室	1
C711	1	M	1	S636	2	W8のラボ	1
C912	1	M011	4	S637	1	W9	3
C913	2	M1	1	S638	5	W922	1
CIC711	3	M111	5	S8-210	1	W926	1
CIC913	4	M112	2	S8-623	1	W931	2
G1	1	M113	3	VBL	4	W9-311	1
G115	3	M114	5	VLSI設計室	1	W933	11
G2	1	S	4	W124	1	W935	2
G223	2	S001	2	W2	2	W9-626	1
G3	2	S011	16	W241	26	W9-631	1
G323	2	S1	2	W242	2	B	1
G5	1	S201	0	W3	1	W4	1
G511	2	S202	2	W321	6	黒板が少ない教室全般	1
H101	14	S222	10	W322	2	情報工学科実験室	1
H111	2	S3	2	W331	1	情報実験室	1
H112	1	S321	3	W332	2	図書館	1
H113	2	S322	8	W334	1	石2-318	2
H114	13	S323	9	W421	1	石川台1号館	1
H115	1	S33	1	W5	3	石川台2-315	1
H116	5	S4	0	W503	1	石川台3号館304号室	1
H121	9	S421	8	W521	5	石川台3号館のPC室	1
H135	13	S422	1	W522	1	石川台地区	1
H137	3	S5	4	W531	9	大岡山全般	1
H611	1	S511	8	W533	1	大教室	1
H622	1	S512	14	W541	4	CIC806	2
I	1	S5-155	1	W6	3	電子工学実験室(南2号館)	1
I121	13	S521	1	W611	2	北2号館5階輪講室	1
I122	5	S543	1	W621	3	本館	1
I123	2	S6	49	W622	1	緑が丘	2
I124	1	S611	5	W631	2	緑が丘1号館 1階会議室	1
I311	3	S612	10	W632	2	緑が丘1号館2階製図室	1
I321	1	S615	1	W633	1	緑が丘一号館	1
I4-B04	1	S62	1	W635	1	緑ヶ丘1階会議室	1
I4-B05	1	S621	16	W641	2	その他	2

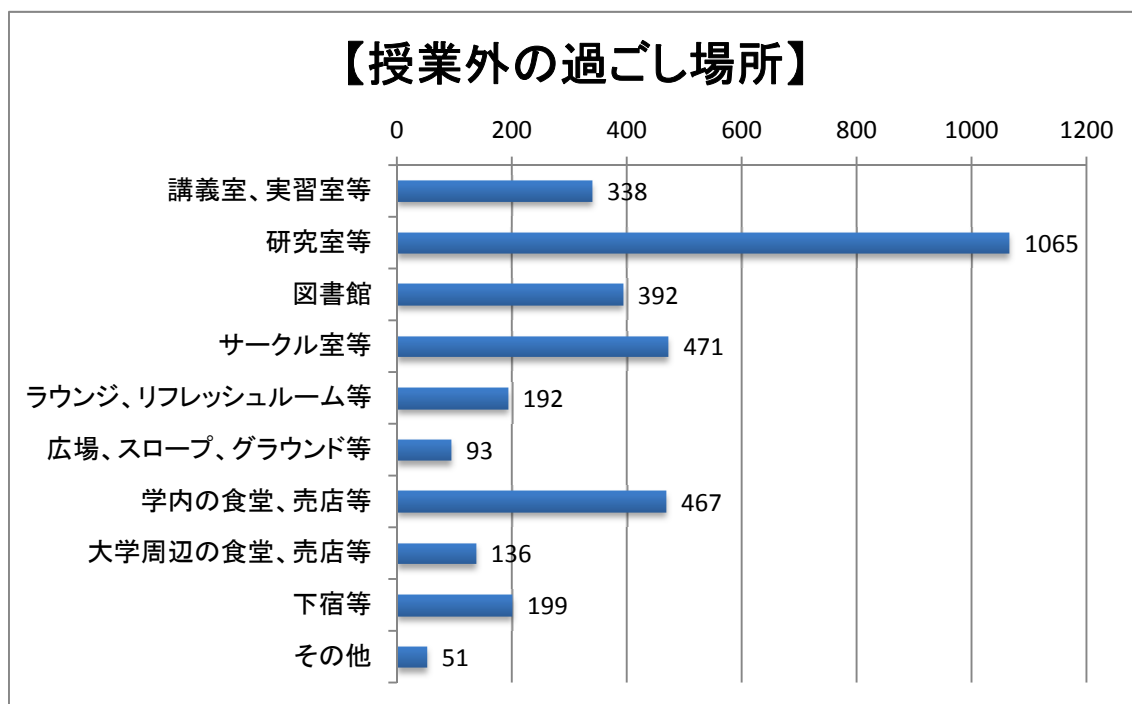


(17-c)受けにくい原因一覧

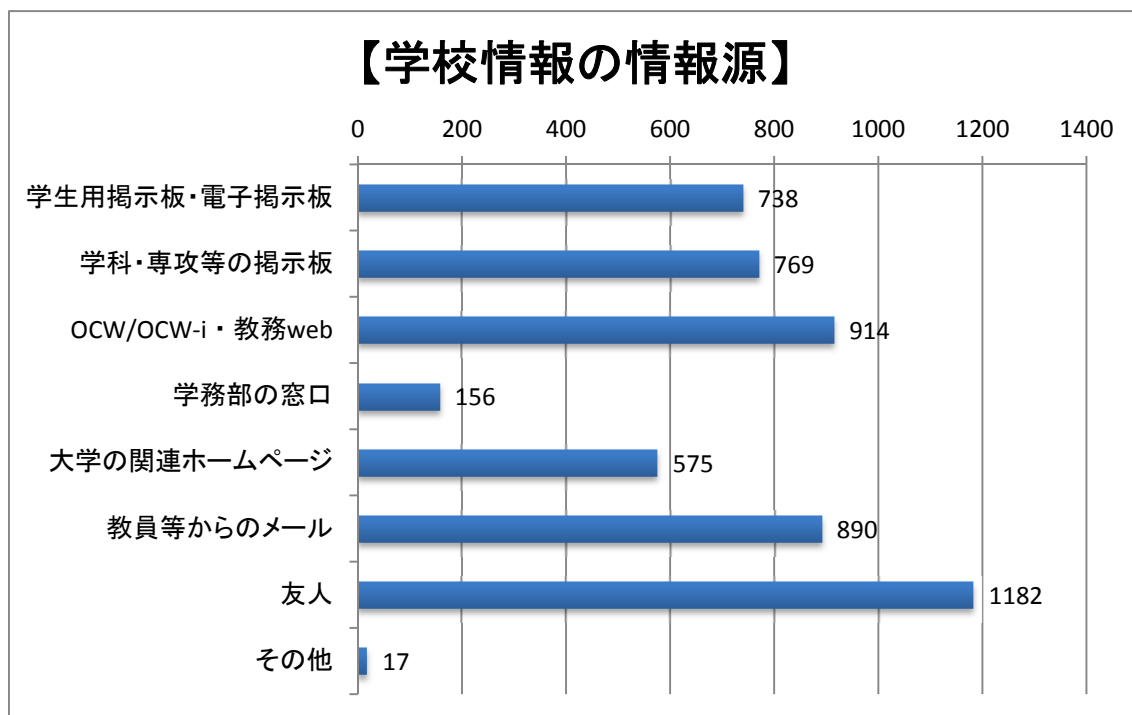


3. キャンパスライフについて

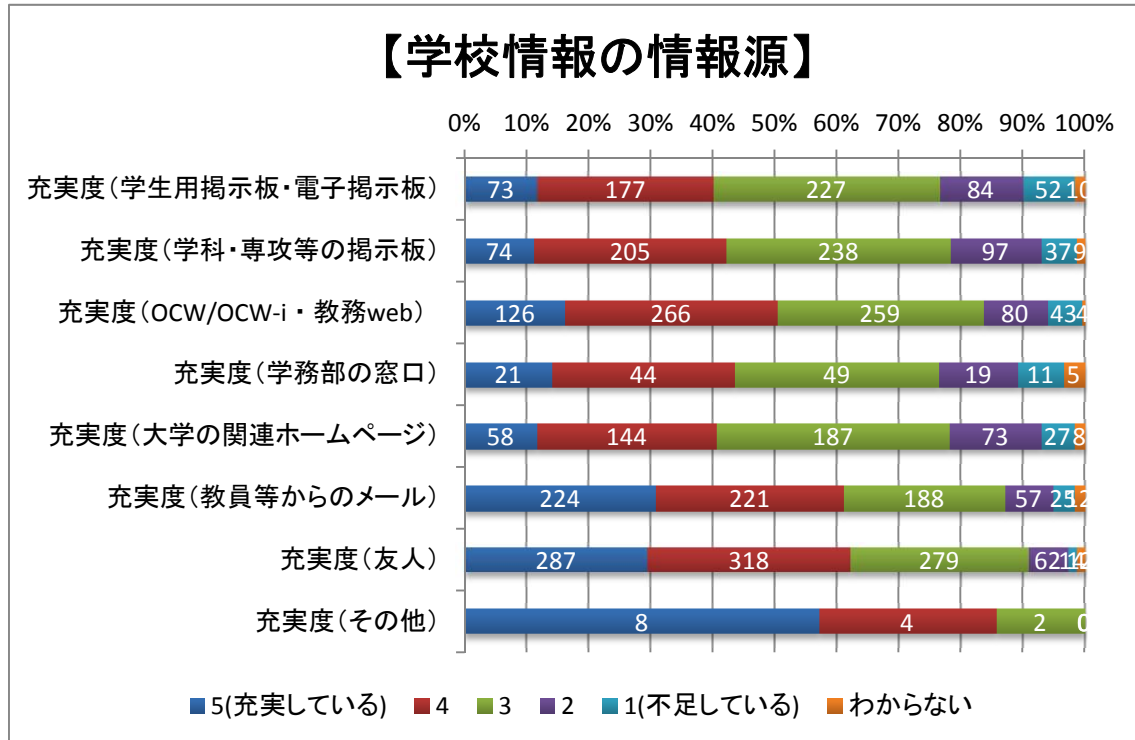
(1)授業の合間や終了後等は主にどこで過ごしていますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)



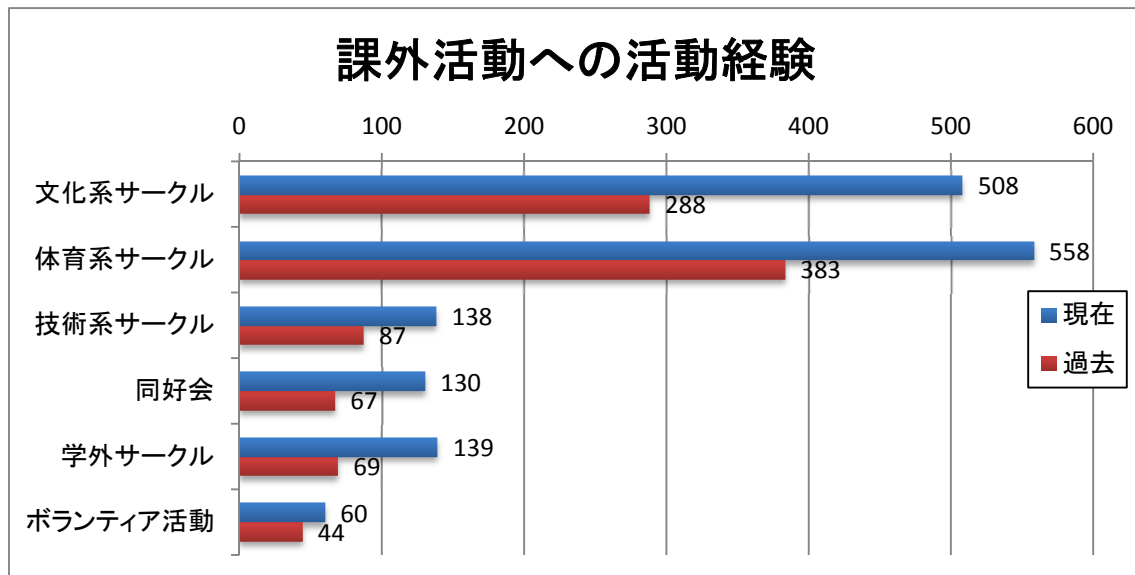
(2)授業や学内行事などの情報について、主な情報源は何ですか。該当するものがあれば3つまでマークして下さい。



(3)(2)で該当した情報源についての充実度はいかがですか？

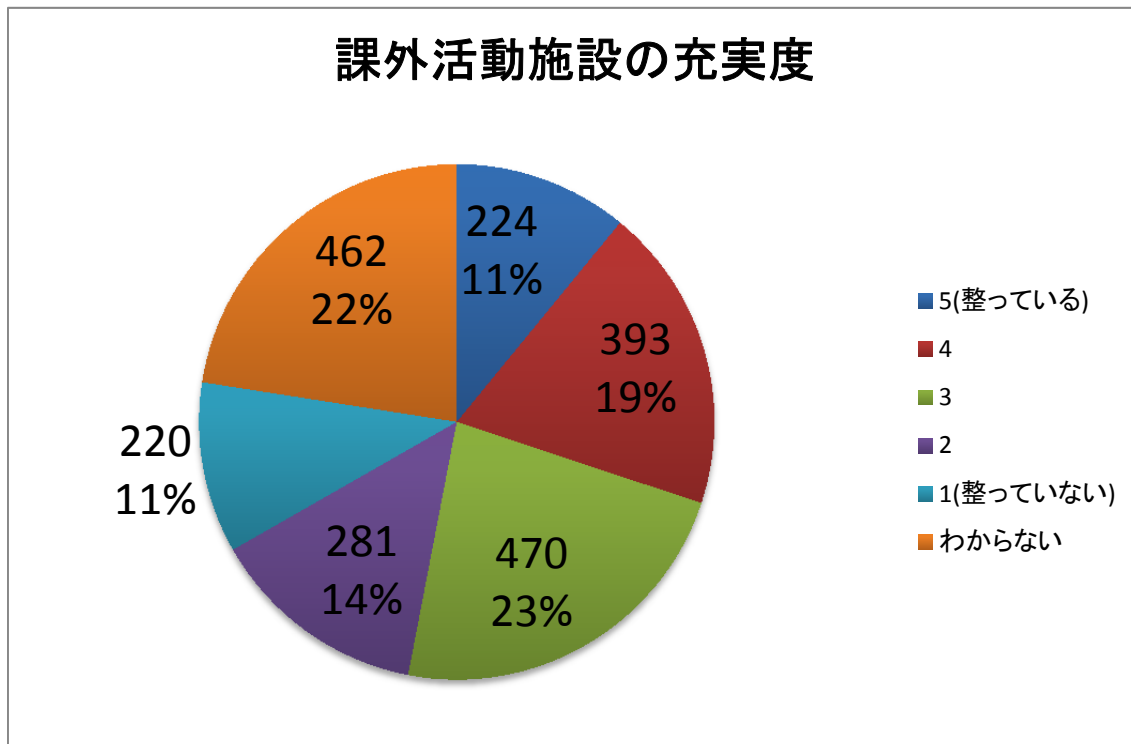


(4)サークル(公認サークル)、同好会(非公認のサークルや同好会)あるいはボランティア等の「現在」および「過去」の活動経験について、該当するところをマークし、現在活動している場合、週あたりの活動日数を記入して下さい。

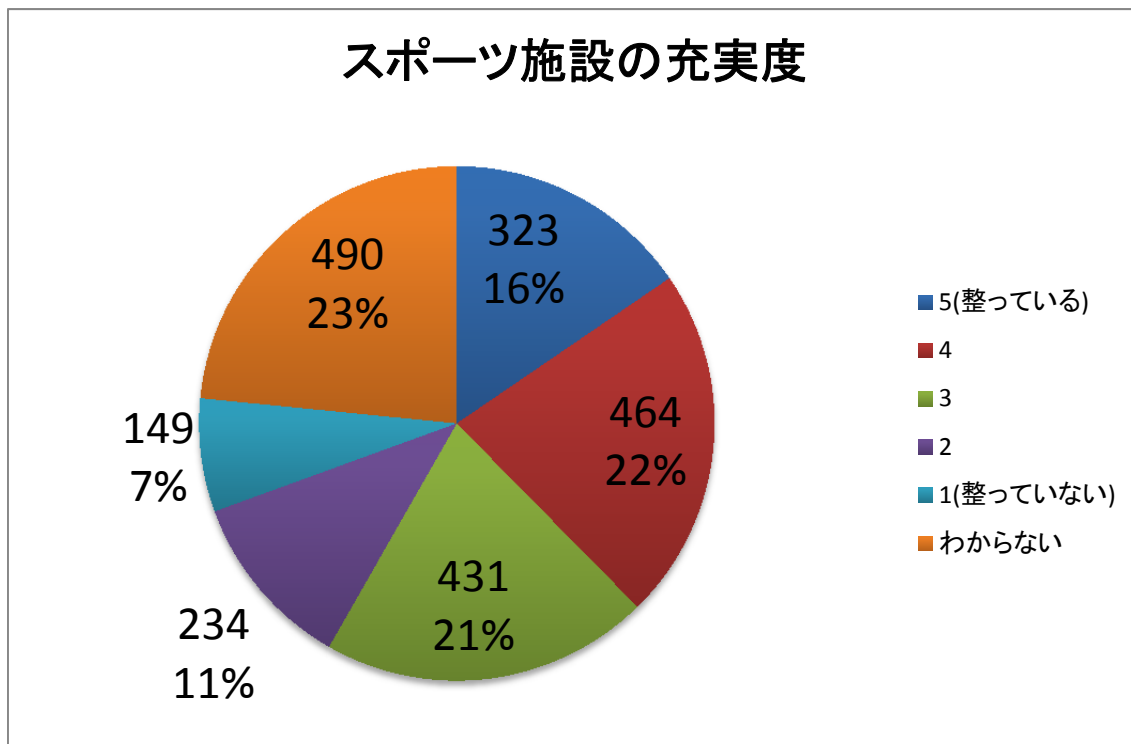


(5)大学の施設についてお聞きします。

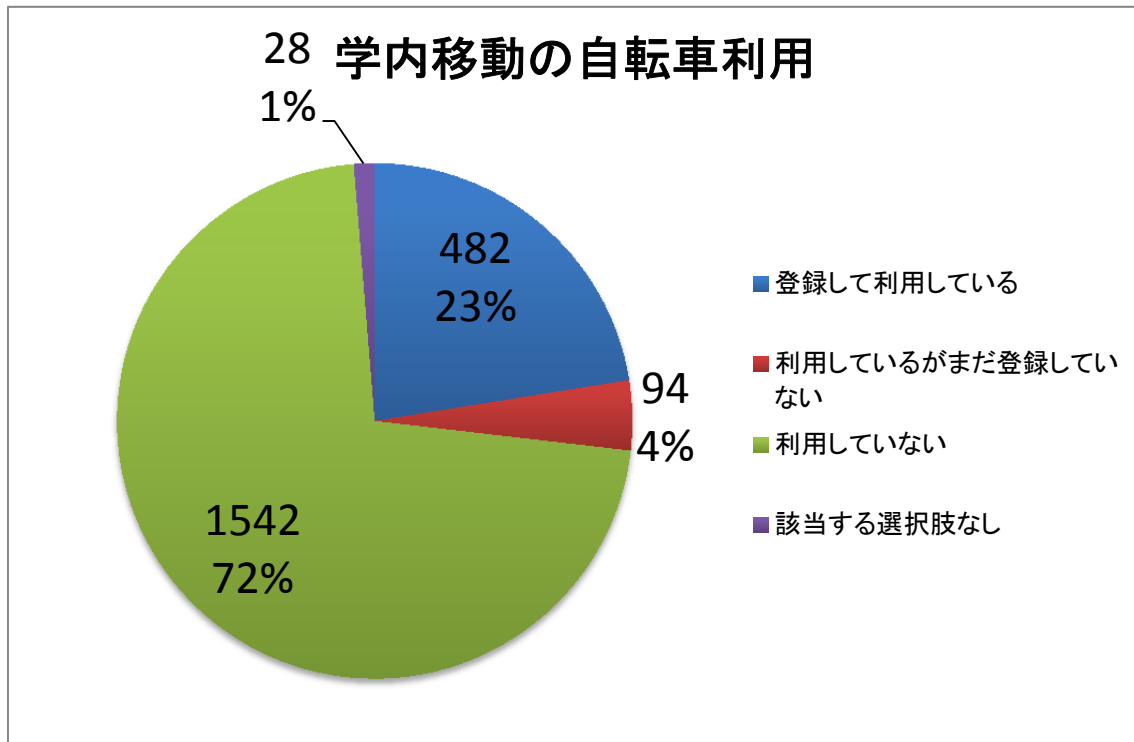
(5-a)サークル棟、大学会館(すずかけホール)等、課外活動施設についての充実度はいかがですか。



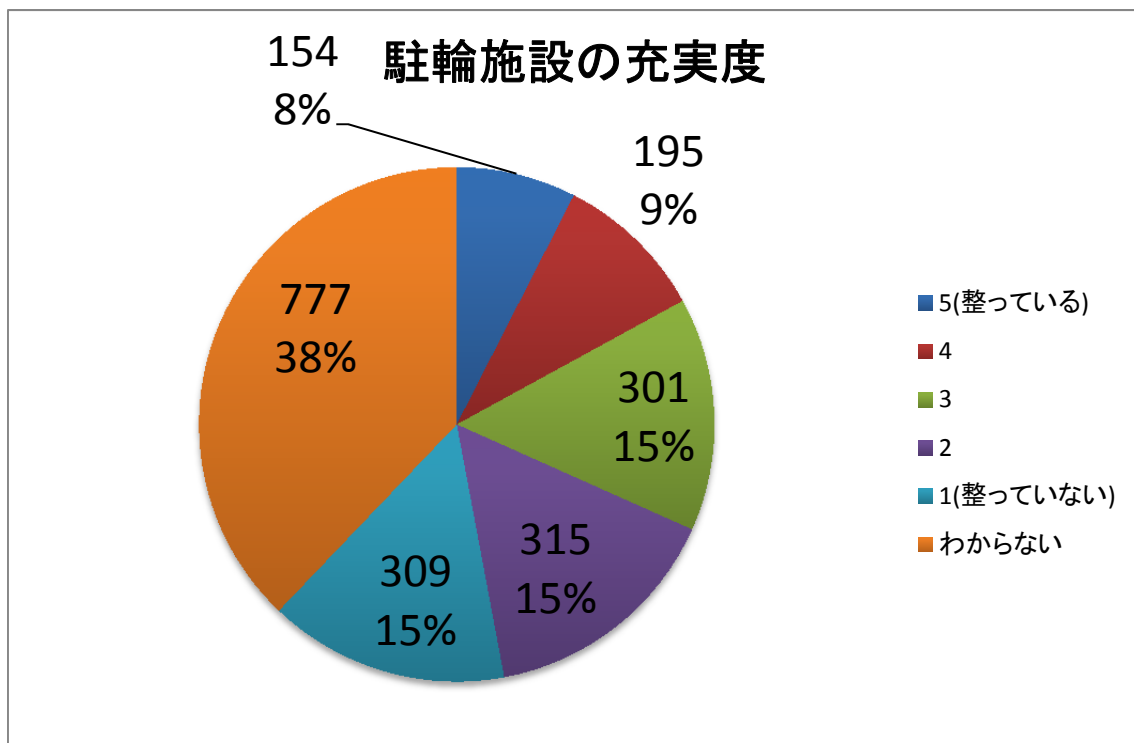
(5-b) スポーツ施設について充実度はいかがですか。



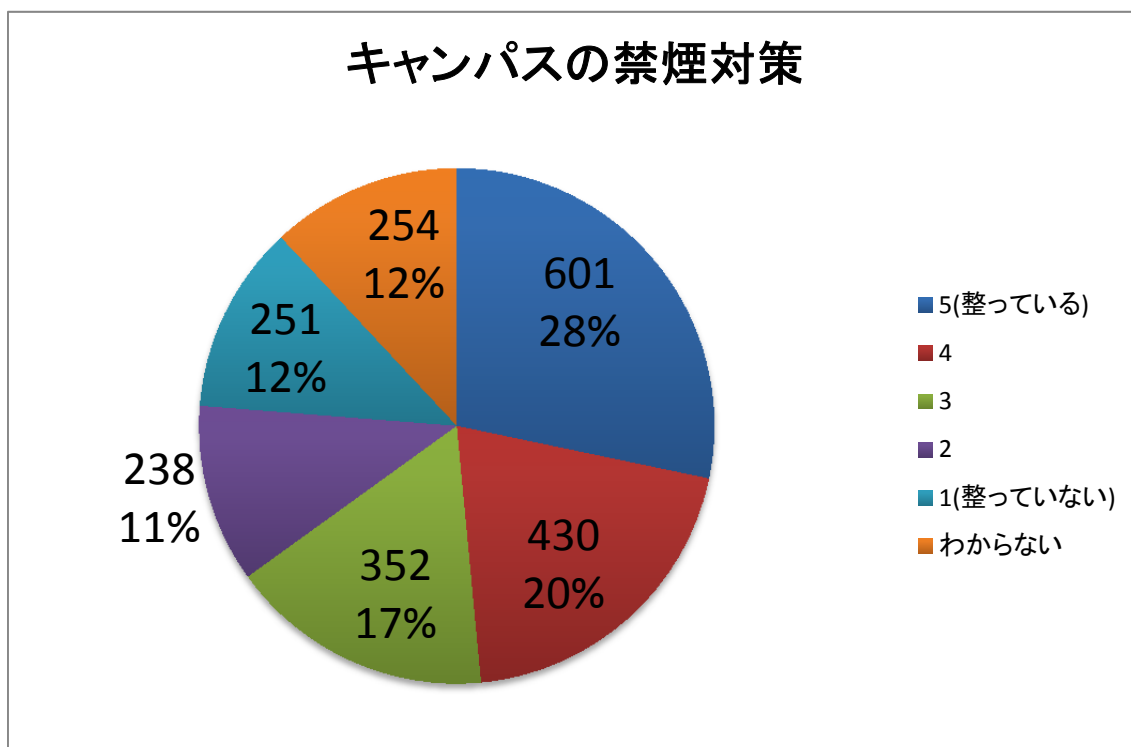
(5-c)学内移動に自転車を利用していますか。



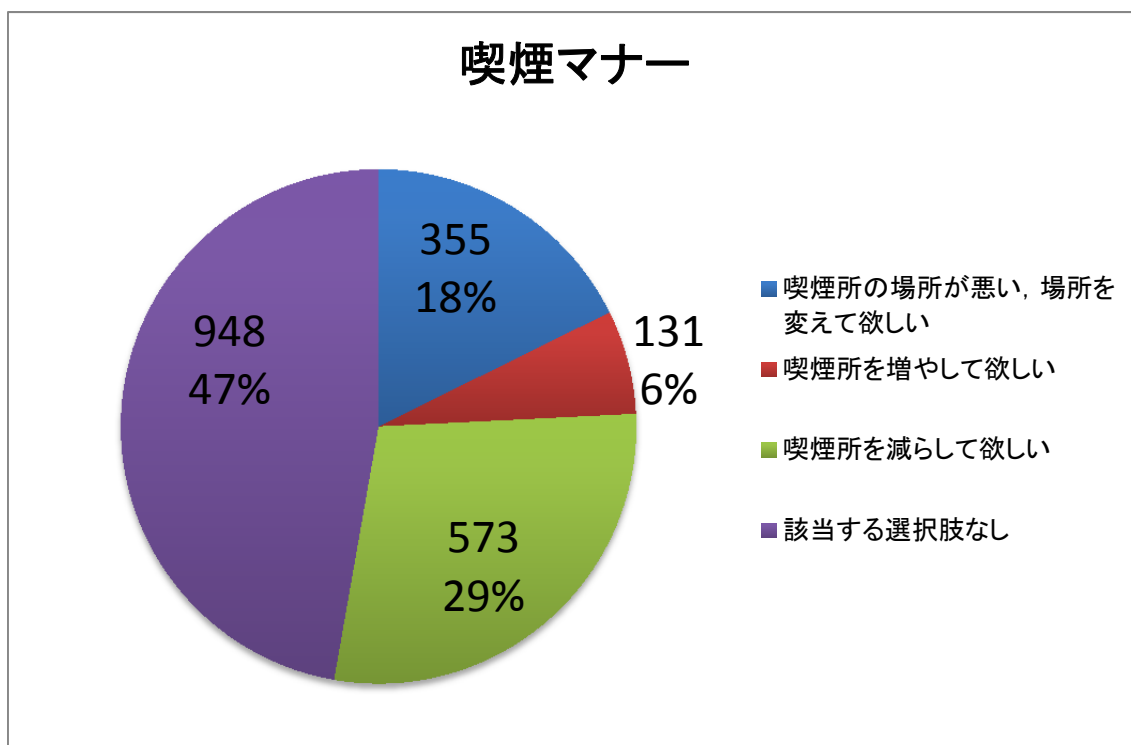
(5-d)駐輪施設の充実度はいかがですか。



(5-e-1) 本学のキャンパス内の禁煙対策について

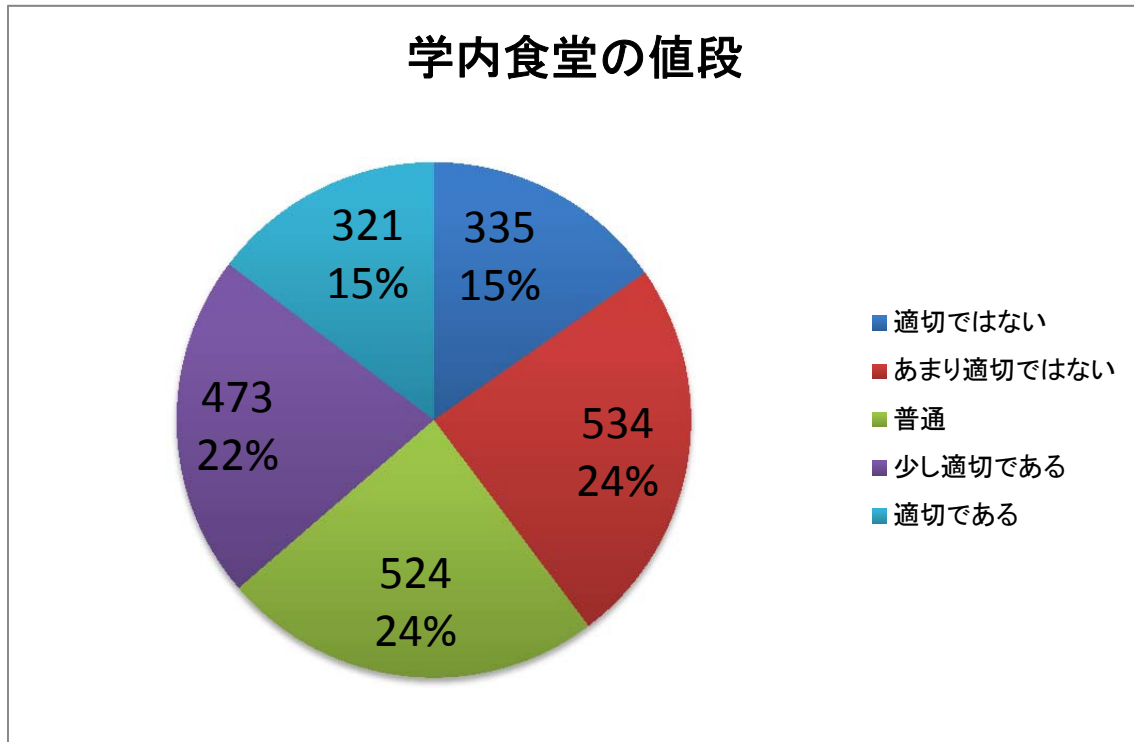


(5-e-2) キャンパス内の喫煙所の配置についてどう思われますか。

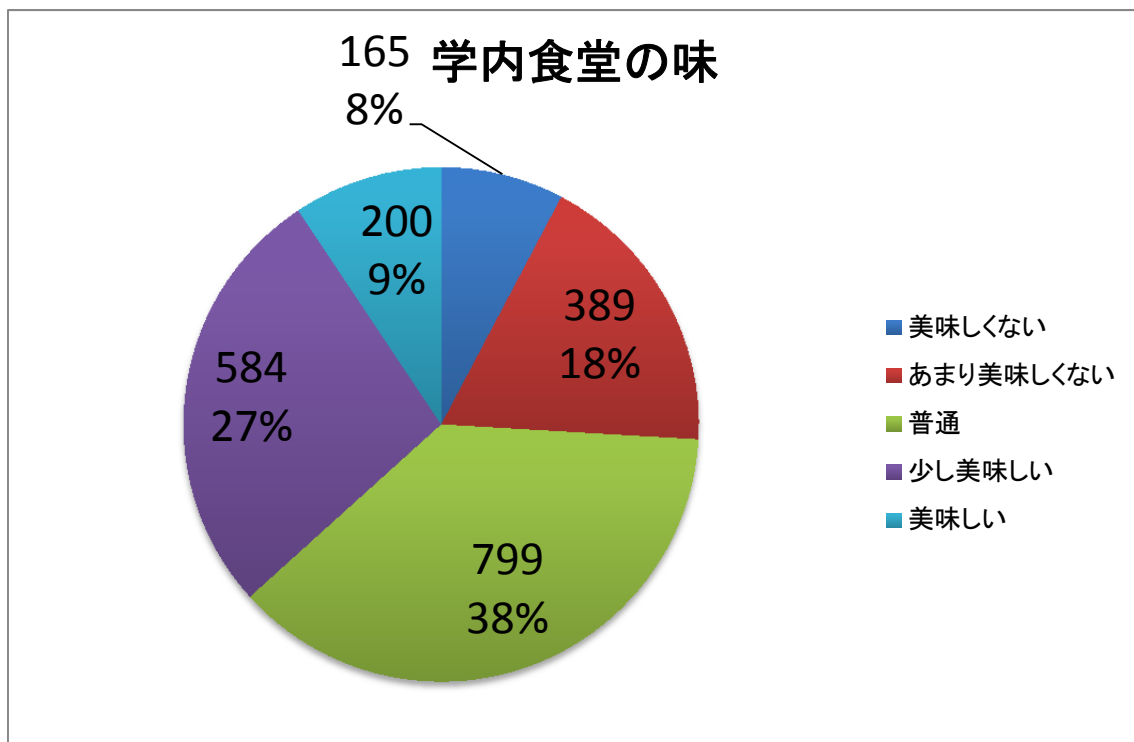


(6)学内の食堂についてお聞きします。

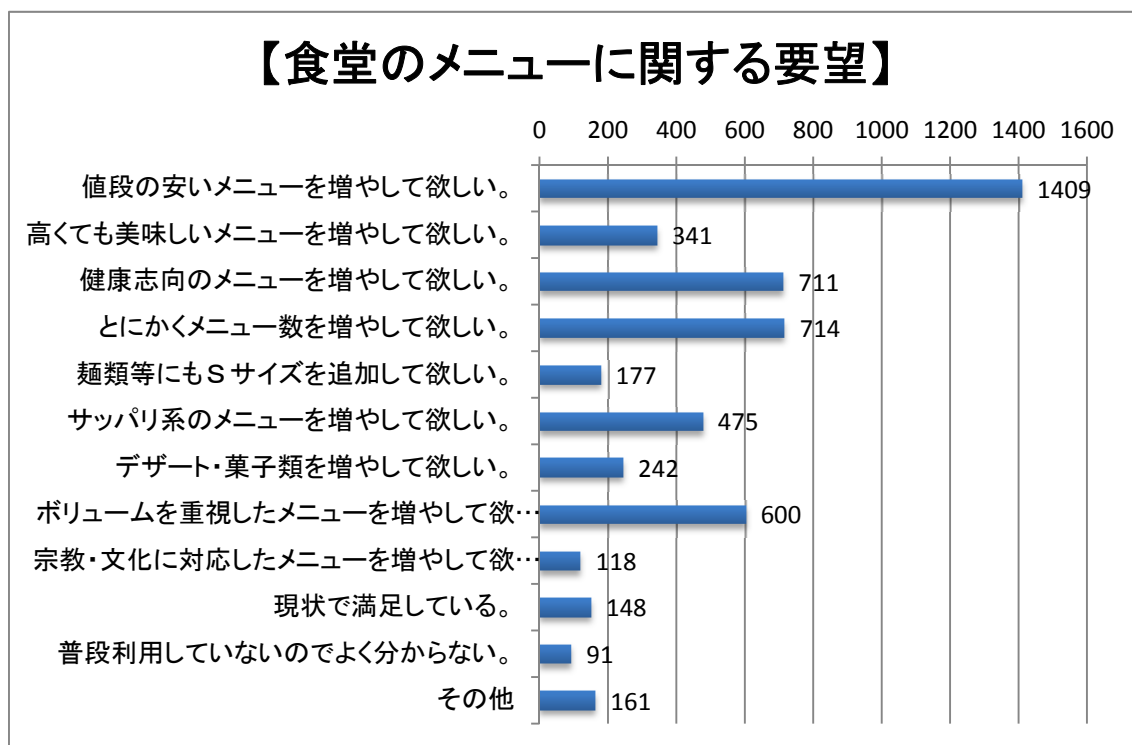
(6-a)値段はいかがですか。



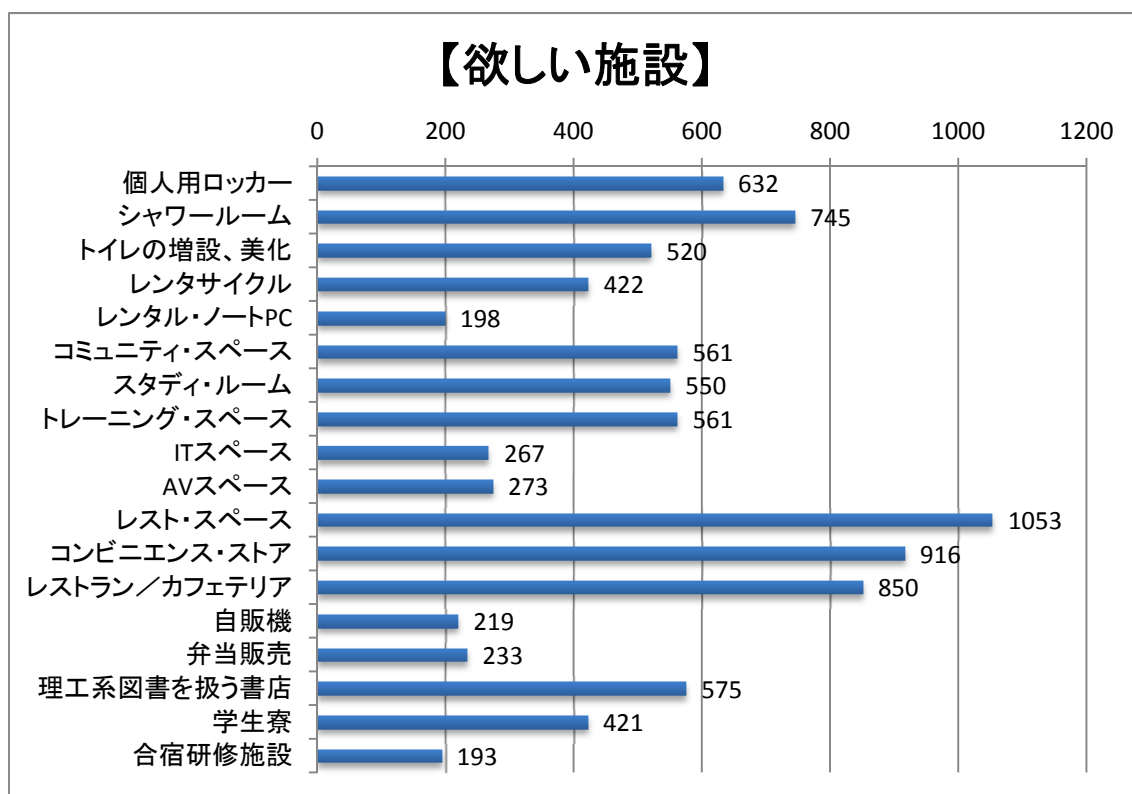
(6-b)味についてはいかがですか。



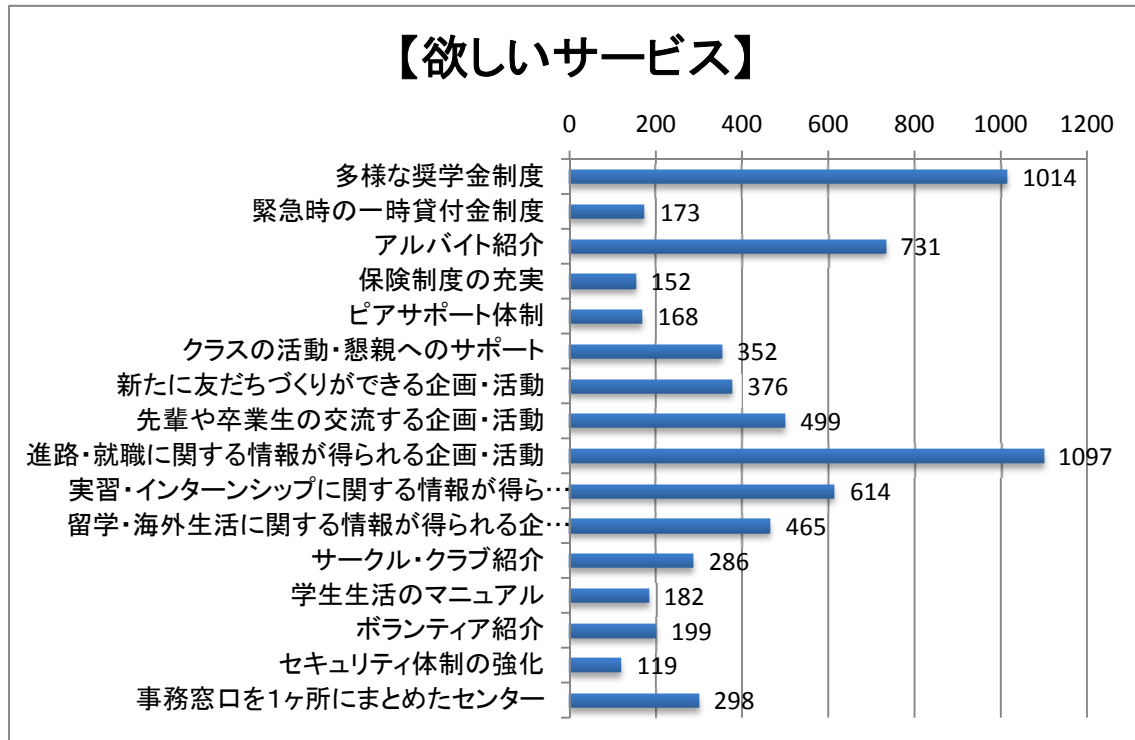
(6-c)メニューについてどう思いますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)



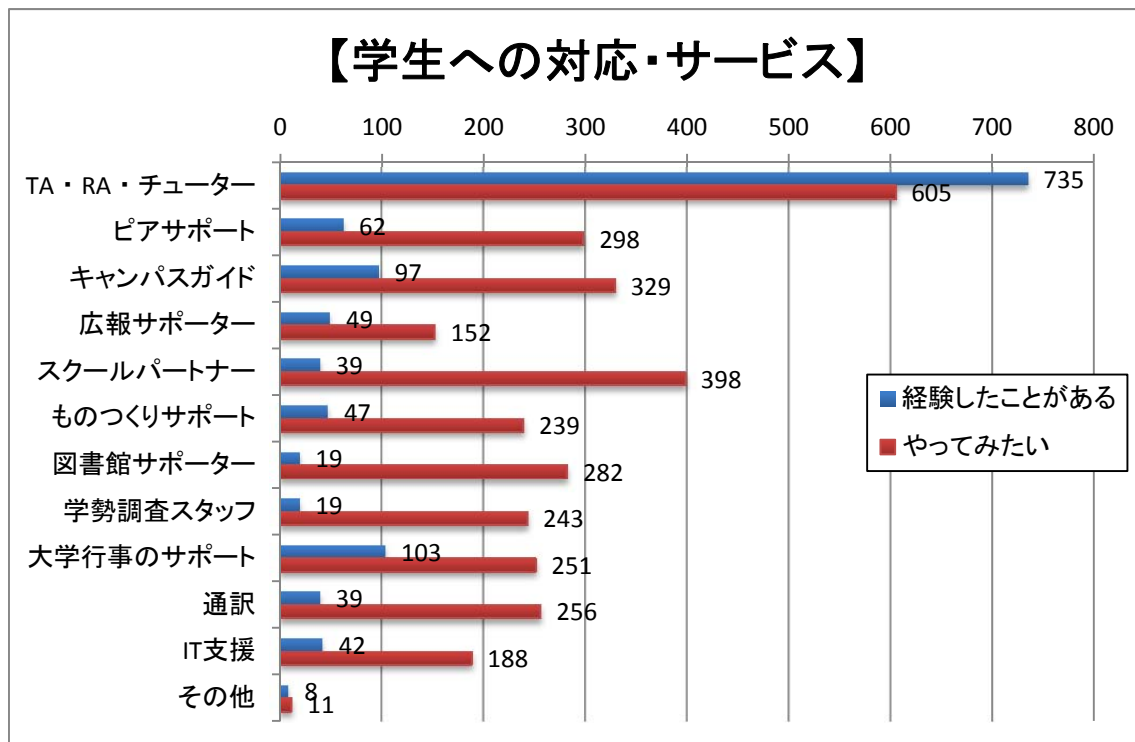
(7)施設・設備について、設置または充実して欲しいものは何ですか。3つまでマークして下さい。



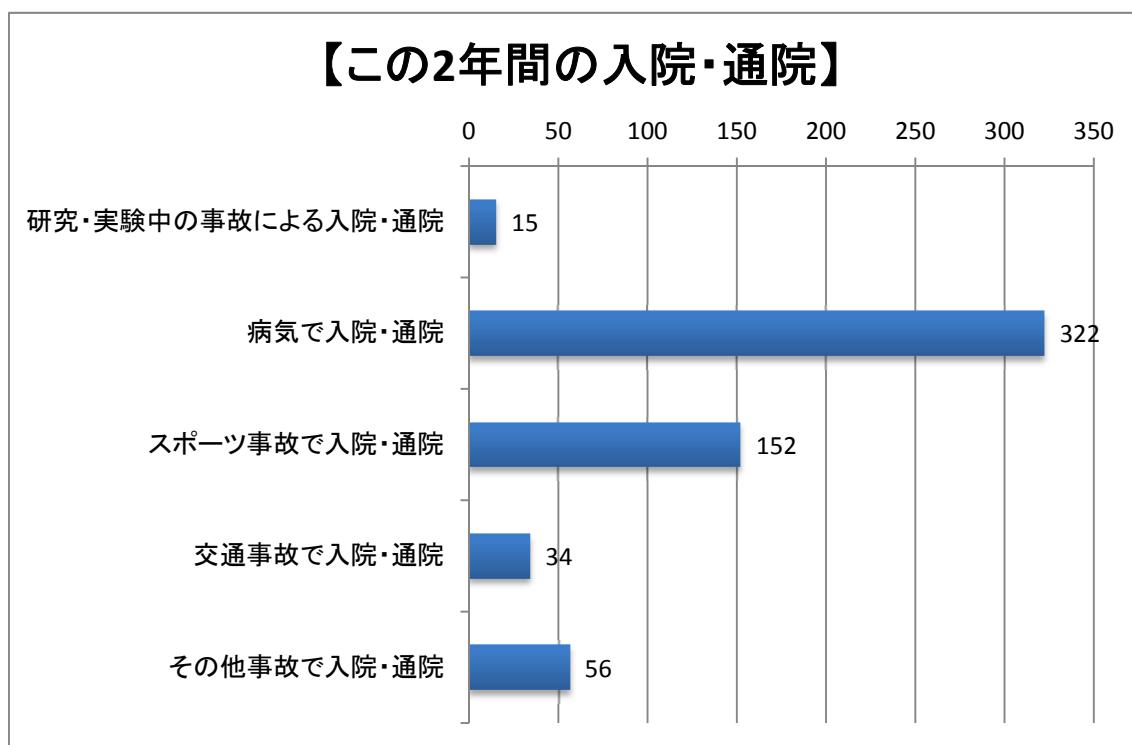
(8) 学生生活サービスについて、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものは何ですか。3 つまでマークしてください。



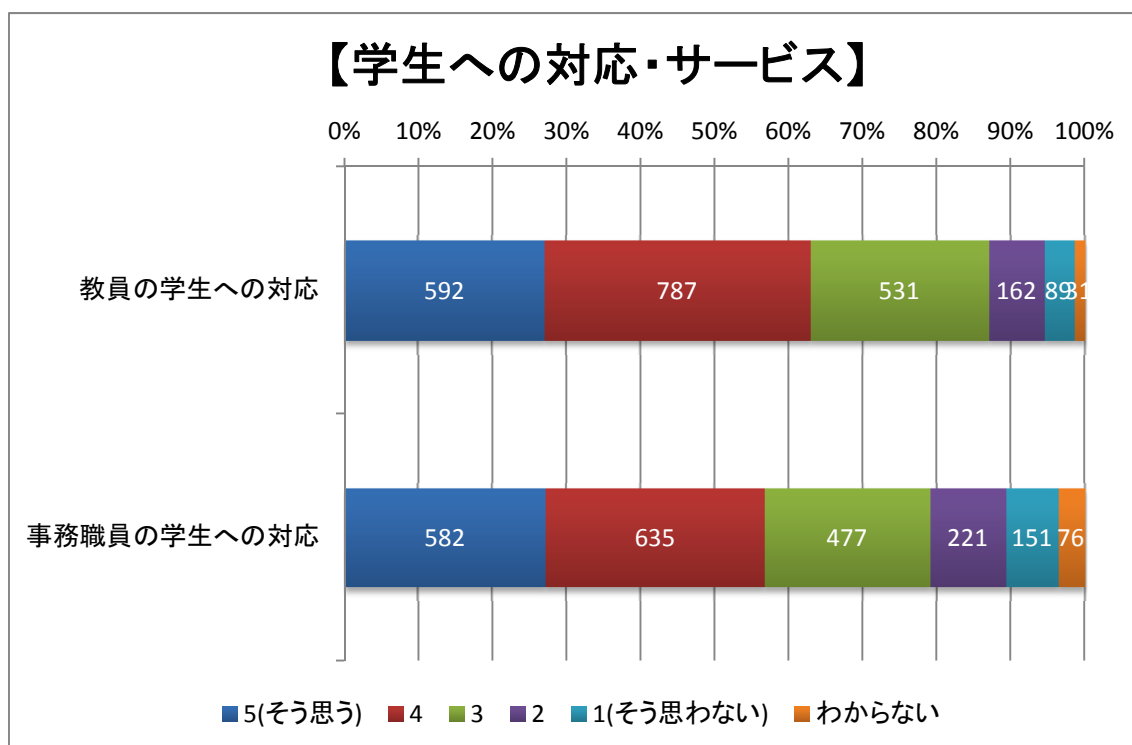
(9) あなたがこれまで経験したことがある、あるいは、興味がありやってみたいと思うものがあればマークしてください。(複数回答可)



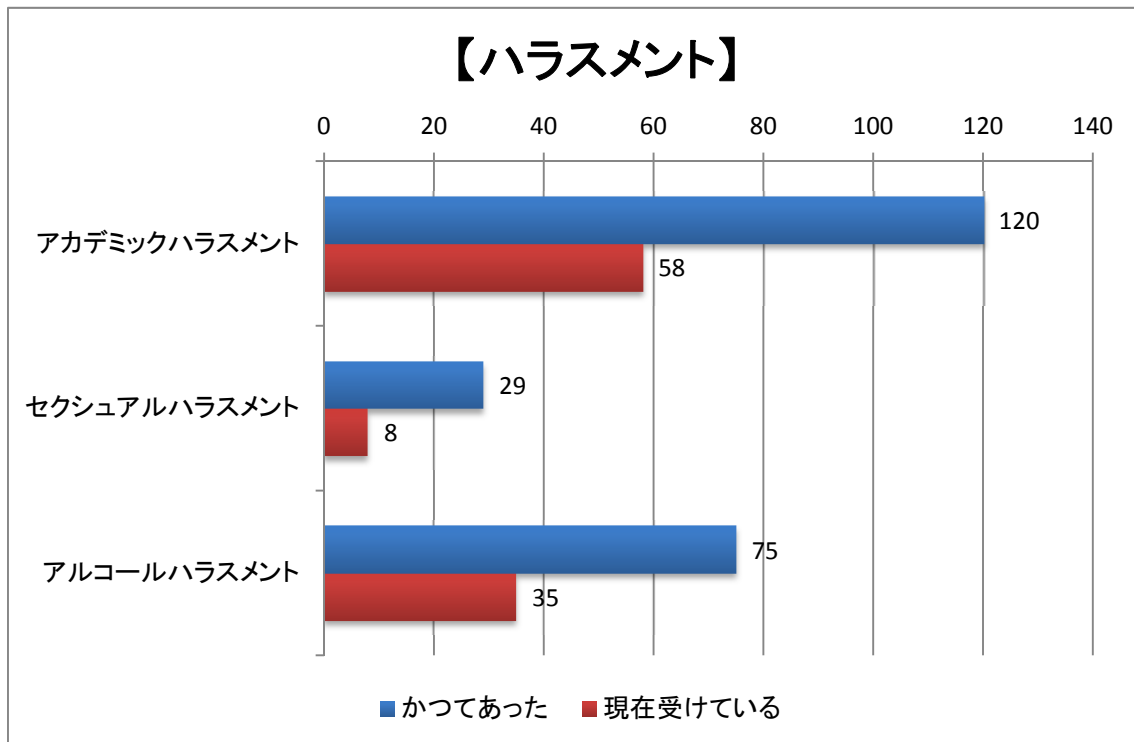
(10)大学生活で、この2年間に入院・通院した経験があればマークしてください。(複数回答可)



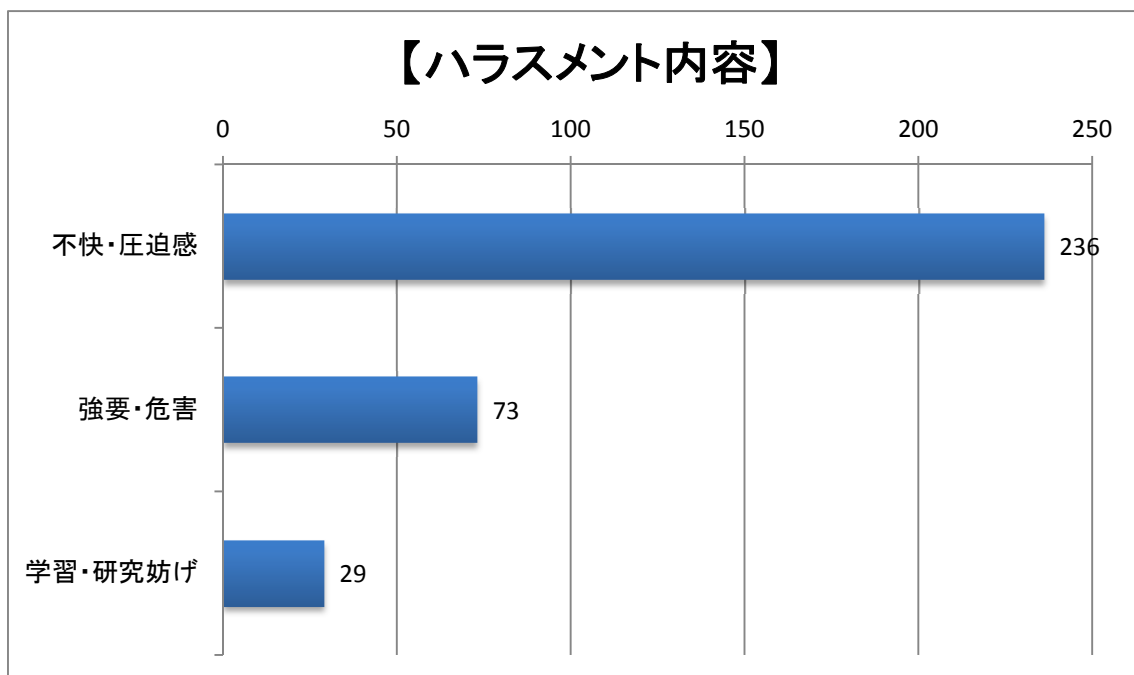
(11)教職員の学生への対応・サービスについてお聞きします。

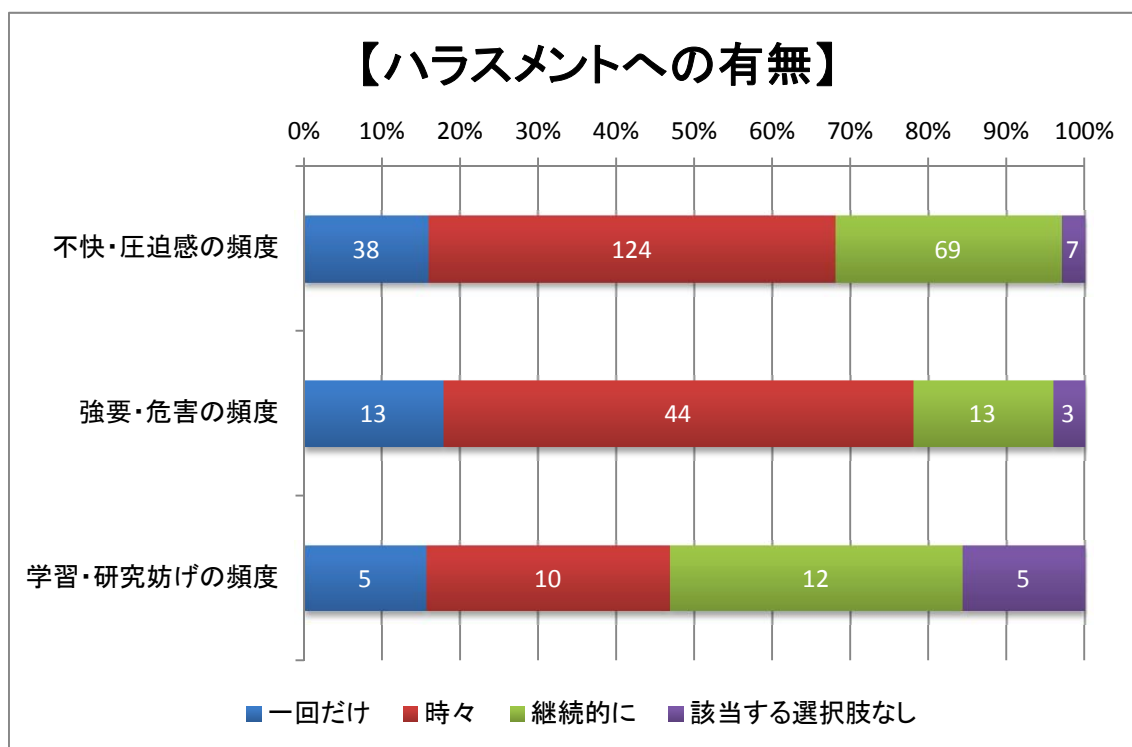


(12)あなたは大学生活においてハラスメント(立場を利用した深刻な嫌がらせ)を受けた(受けたと感じた)ことがありますか。

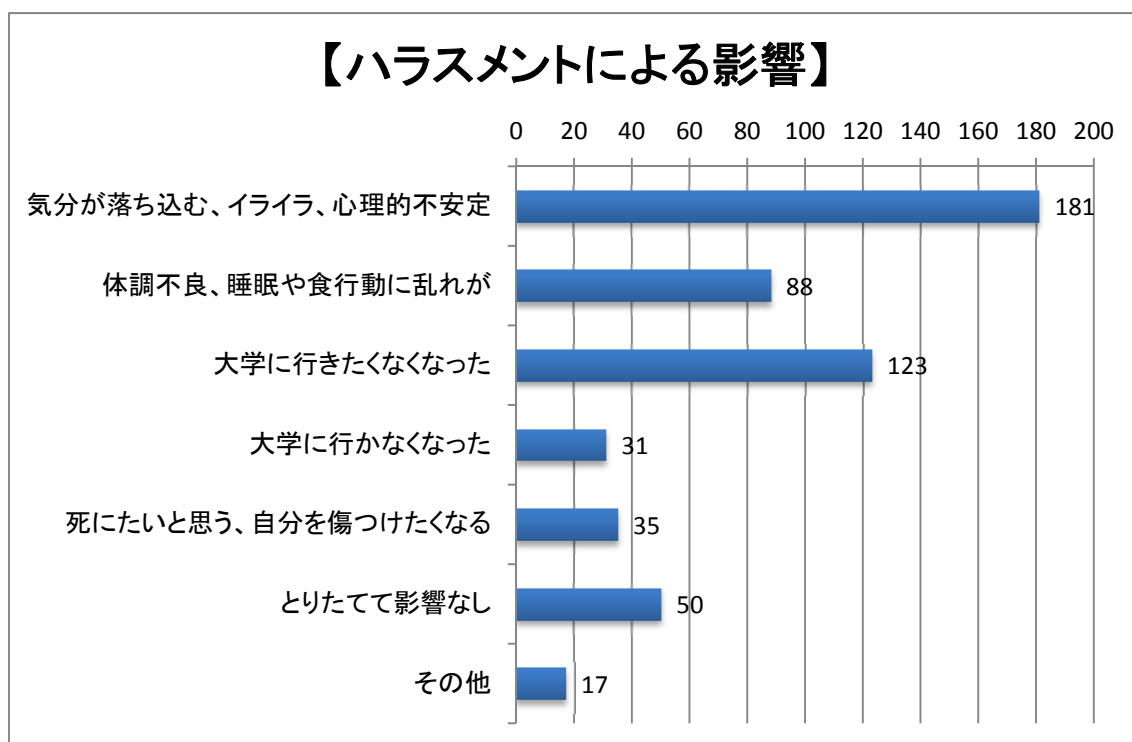


(13)(12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントの内容・程度、および頻度はどのようなものだったでしょうか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)

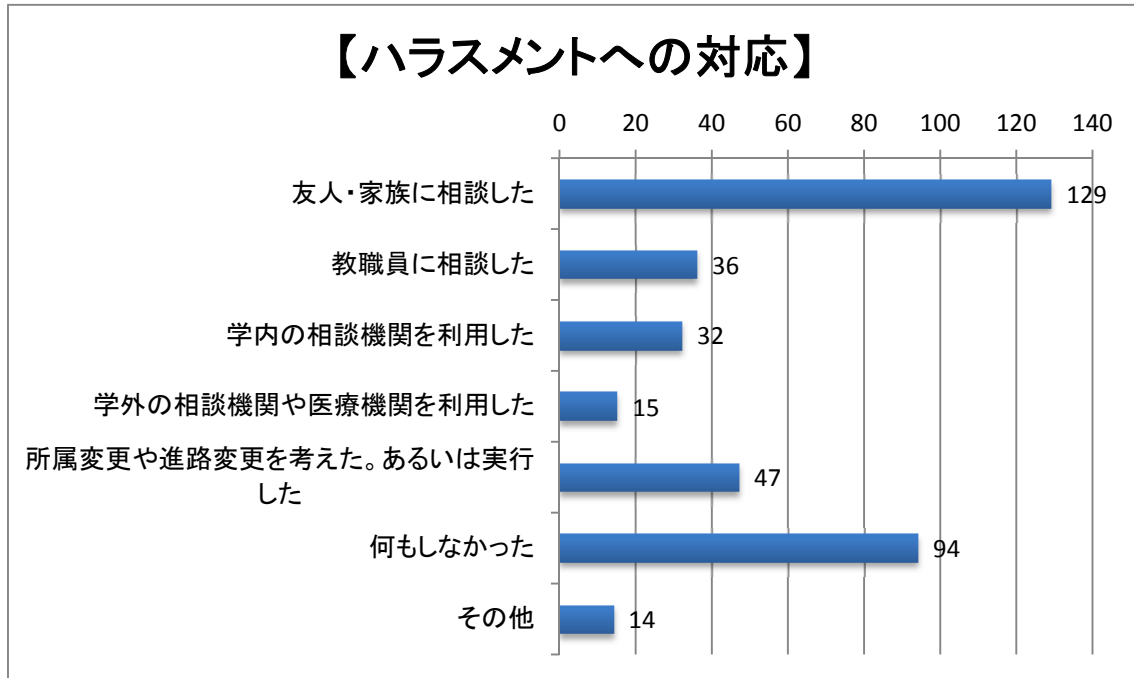




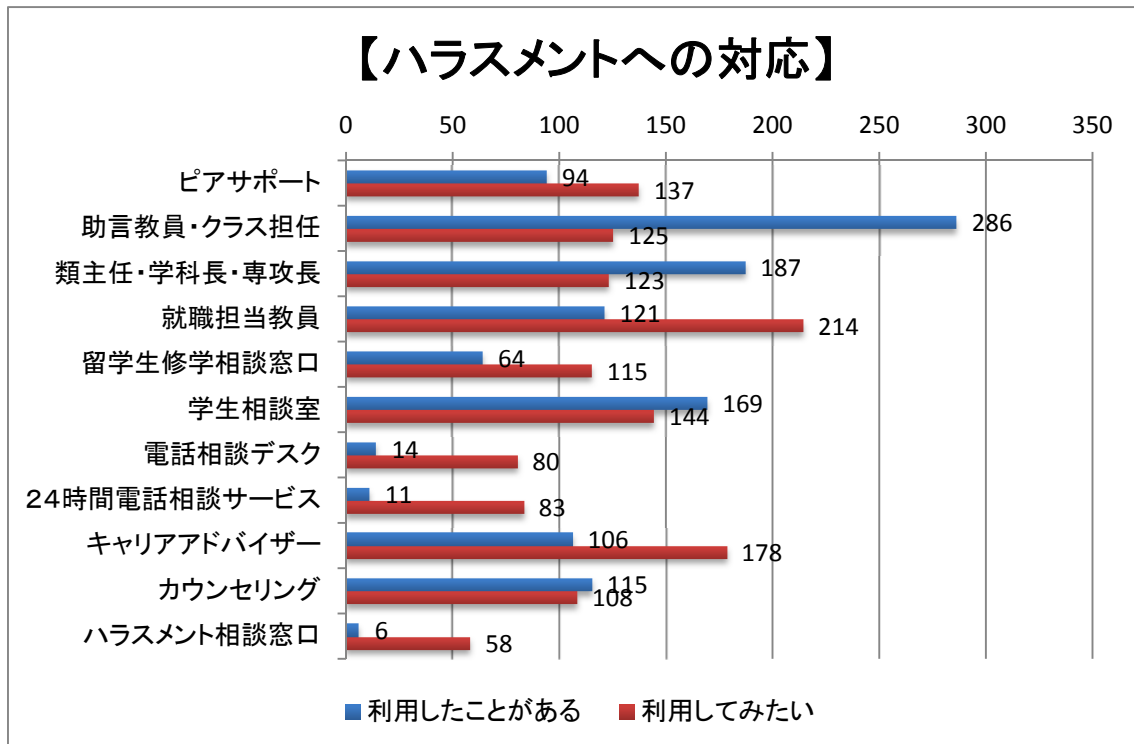
(14)(12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことでどのような影響があったでしょうか。該当するものがあればマークして下さい。(複数回答可)



(15)(12)の a. b.で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことにどう対応したでしょうか。該当するものがあればマークしてください。(複数回答可)



(17) 本学には様々な相談窓口があります。これまでに利用したことがあるもの、あるいは、利用してみたいものがあればマークしてください。(複数回答可)



2010 年度学勢調査設問一覧

基本情報(必須項目)

あなたはどこでこのアンケートに回答していますか？

☐ 学内 ☐ 学外

学部／大学院

☐ 学部学生 ☐ 大学院修士課程 ☐ 大学院博士課程

現課程への入学年

☐ 2010 ☐ 2009 ☐ 2008
☐ 2007 ☐ 2006 ☐ 2005 以前

他大学、または高専に在籍していた方はチェックを入れてください。

☐

性別

☐ 男 ☐ 女

出身

☐ 日本 ☐ 外国

所属(類、学科または専攻名)

☐ 類 : ☐ 学科 : ☐ 専攻 :

類

☐ 1 類 ☐ 2 類 ☐ 3 類 ☐ 4 類
☐ 5 類 ☐ 6 類 ☐ 7 類 ☐ 該当する選択肢なし

学科

☐ 数学科	☐ 物理学科
☐ 化学科	☐ 情報科学科
☐ 地球惑星科学科	☐ 金属工学科
☐ 有機材料工学科	☐ 無機材料工学科
☐ 化学工学コース	☐ 応用化学コース
☐ 高分子工学科	☐ 機械科学科
☐ 機械知能システム学科	☐ 機械宇宙学科
☐ 国際開発工学科(開発システム工学科)	☐ 制御システム工学科
☐ 経営システム工学科	☐ 電気電子工学科
☐ 情報工学科	☐ 土木・環境工学科(土木工学科)
☐ 建築学科	☐ 社会工学科
☐ 生命科学科	☐ 生命工学科
☐ 該当する選択肢なし	

専攻

☐ 数学専攻	☐ 基礎物理学専攻
☐ 物性物理学専攻	☐ 化学専攻
☐ 地球惑星科学専攻	☐ 物質科学専攻
☐ 材料工学専攻	☐ 有機・高分子物質専攻
☐ 応用化学専攻	☐ 化学工学専攻
☐ 機械物理学専攻	☐ 機械制御システム専攻
☐ 機械宇宙システム専攻	☐ 電気電子工学専攻
☐ 電子物理学専攻	☐ 集積システム専攻
☐ 土木工学専攻	☐ 建築学専攻
☐ 国際開発工学専攻	☐ 原子核工学専攻
☐ 分子生命科学専攻	☐ 生体システム専攻



- ☐ 生命情報専攻
- ☐ 生体分子機能工学専攻
- ☐ 物質電子化学専攻
- ☐ 環境理工学創造専攻
- ☐ 創造エネルギー専攻
- ☐ 物理電子システム創造専攻
- ☐ 知能システム科学専攻
- ☐ 数理・計算科学専攻
- ☐ 情報環境学専攻
- ☐ 価値システム専攻
- ☐ 社会工学専攻
- ☐ イノベーション専攻

- ☐ 生物プロセス専攻
- ☐ 物質科学創造専攻
- ☐ 材料物理科学専攻
- ☐ 人間環境システム専攻
- ☐ 化学環境学専攻
- ☐ メカノマイクロ工学専攻
- ☐ 物理情報システム専攻
- ☐ 計算工学専攻
- ☐ 人間行動システム専攻
- ☐ 経営工学専攻
- ☐ 技術経営専攻
- ☐ 該当する選択肢なし

キャンパス内の主な活動場所はどこですか？

- ☐ 大岡山地区 ☐ 石川台地区 ☐ 緑が丘地区 ☐ すずかけ台 ☐ 田町

過去に実施した学勢調査に回答しましたか。

- ☐ 答えた ☐ 答えていない ☐ 忘れた

1. 生活基盤について

(1) 片道の通学時間はどのくらいですか。

- ☐ 15 分未満 ☐ 15～30 分未満 ☐ 30～60 分未満
☐ 60～90 分未満 ☐ 90～120 分未満 ☐ 120 分以上
☐ 決まっていない

(2) 主な通学手段は何ですか。

- ☐ 徒歩 ☐ 自転車 ☐ バイク
☐ 公共交通機関(電車、バスなど) ☐ その他 ()

(3) 現在の住まいは以下のどれにあたりますか。

- ☐ 自宅 ☐ 親戚・知人の家 ☐ 下宿(アパート・マンション)
☐ 寮 ☐ 該当する選択肢なし

(4) (3) で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の家賃はどのくらいですか。

- ☐ 0～2 万円未満 ☐ 2～4 万円未満 ☐ 4～6 万円未満
☐ 6～8 万円未満 ☐ 8～10 万円未満 ☐ 10 万円以上
☐ 決まっていない

(5) (3) で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。

- ☐ 選択してください ☐ もらっていない ☐ 2 万円未満
☐ 2～4 万円未満 ☐ 4～6 万円未満 ☐ 6～8 万円未満
☐ 8～10 万円未満 ☐ 10～12 万円未満 ☐ 12～14 万円未満
☐ 14 万以上 ☐ 決まっていない

(6) パソコンが自宅にありますか。

- ☐ デスクトップ型の PC がある(自分専用) ☐ デスクトップ型の PC がある(家族と共用)
☐ ノート型の PC がある(自分専用) ☐ ノート型の PC がある(家族と共用)
☐ デスクトップ型・ノート型の PC が両方ある(自分専用)
☐ ない ☐ 該当する選択肢なし

(7) 1 週間に何回くらい学内の食堂(学食)を利用しますか。

- ☐ 0 回 ☐ 1～2 回 ☐ 3～5 回
☐ 6 回～10 回 ☐ 11 回以上 ☐ 決まっていない

(8) 学食を利用しない時は主にどうやって食事をとりますか。

- ☐ 弁当を持参 ☐ 生協販売のパンや弁当を購入
☐ 外部の弁当屋で弁当を購入 ☐ 内部のコンビニのパンや弁当を購入



10. 調査資料集

- ☐ 外部のコンビニのパンや弁当を購入 ☐ 外食
☐ 食事のために家に帰る ☐ その他 ()

(9) 普段、自炊、もしくは家庭や寮で調理された食事をどのくらいとっていますか。

- ☐ (ほとんど自炊) 80%以上 ☐ 60～80%
☐ 40～60% ☐ 20～40%
☐ 20%以下 ☐ 決まっていない

(10) 平日の平均的な時間の使い方を教えてください

10a 睡眠

- ☐ 0 時間 ☐ 0～2 時間未満 ☐ 2～4 時間未満
☐ 4～5 時間未満 ☐ 5～6 時間未満 ☐ 6～7 時間未満
☐ 7～8 時間未満 ☐ 8 時間以上 ☐ 決まっていない

10b 勉強もしくは研究-大学にいる時間を含む

- ☐ 0 時間 ☐ 0～2 時間未満 ☐ 2～4 時間未満
☐ 4～5 時間未満 ☐ 5～6 時間未満 ☐ 6～7 時間未満
☐ 7～8 時間未満 ☐ 8 時間以上 ☐ 決まっていない

10c 娯楽

- ☐ 0 時間 ☐ 0～2 時間未満 ☐ 2～4 時間未満
☐ 4～5 時間未満 ☐ 5～6 時間未満 ☐ 6～7 時間未満
☐ 7～8 時間未満 ☐ 8 時間以上 ☐ 決まっていない

10d 仕事もしくはアルバイト

- ☐ 0 時間 ☐ 0～2 時間未満 ☐ 2～4 時間未満
☐ 4～5 時間未満 ☐ 5～6 時間未満 ☐ 6～7 時間未満
☐ 7～8 時間未満 ☐ 8 時間以上 ☐ 決まっていない

(11) あなたは課題や研究で忙しいときに、家に帰れないことが週何回程度ありますか。

- ☐ 0 日 ☐ 1 日 ☐ 2 日 ☐ 3 日 ☐ 4 日
☐ 5 日 ☐ 6 日 ☐ 7 日 ☐ 決まっていない

(12) あなたはアルバイトをしていますか。

- ☐ 選択してください ☐ 学期中にのみしている ☐ 長期休暇のみしている
☐ 1 年を通じてしている ☐ 単発的にしている ☐ していない
☐ 該当する選択肢なし

(13) (12) でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。

- ☐ 家庭教師・塾講師
☐ TA・RA・チューター・東工大のアルバイト
☐ 接客(ファーストフード, カフェ, 居酒屋, コンビニ, スーパー, 販売など)
☐ 派遣・単発的なアルバイト
☐ 専門技術(プログラミング, HP 作成など, 翻訳・通訳など)
☐ その他: ()

(14) (12) でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。

14a 週のアルバイト日数

- ☐ 1 日 ☐ 2 日 ☐ 3 日 ☐ 4 日
☐ 5 日 ☐ 6 日 ☐ 7 日 ☐ 決まっていない

14b1 回あたりのアルバイト時間

- ☐ 0 時間 ☐ 0～2 時間未満 ☐ 2～4 時間未満
☐ 4～6 時間未満 ☐ 6～8 時間未満 ☐ 8 時間以上
☐ 決まっていない

14c アルバイトの時間帯

- ☐ 朝 ☐ 昼間 ☐ 夕方から夜 ☐ 深夜にかけて
☐ 一日中 ☐ 特に決まっていない ☐ 該当する選択肢なし



14d アルバイトの月収

- ☐ 2 万円未満 ☐ 2～4 万円未満 ☐ 4～6 万円未満
☐ 6～8 万円未満 ☐ 8～10 万円未満 ☐ 10 万円以上
☐ 決まっていない

2. 学習状況について

(1) 大学にプライドをもっていますか。

- ☐ 4(そう思う) ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(そう思わない) ☐ わからない

(2) 本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。

- ☐ 4(そう思う) ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(そう思わない) ☐ わからない

(3) 本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。

- ☐ 4(そう思う) ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(そう思わない) ☐ わからない

(4) 現在在籍している類、研究科、専攻等に満足していますか。

- ☐ 5(満足している) ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(不満である) ☐ わからない

(5) 授業の出席状況はどうですか。

- ☐ ほとんど出席する
☐ 一部を除いて大部分の授業に出席する
☐ どの授業も出たり出なかったり
☐ 一部を除いて大部分の授業にあまり出席しない
☐ ほとんど出席しない
☐ 授業をとる必要がない
☐ 該当する選択肢なし

(6) 履修申告をした授業に出ない主な理由は何ですか。

- ☐ 講義に魅力がない
☐ 講義が理解できない
☐ 勉学意欲が起きない
☐ 健康上の理由
☐ 授業が早朝から始まる
☐ 出席と成績は関係ない
☐ 研究・実験のため
☐ アルバイト・サークルなどを優先するため
☐ 授業の履修を取りやめたため
☐ その他：()

(7) 本学の学習カリキュラムについて、ご意見がある場合は記入してください。

(自由記述)

(8) 次の項目の中から学部 1 年次の学習意欲向上に有効と思われるものにマークして下さい。

(複数回答可)

- ☐ 学生主体の授業を増やす
☐ 専門の科目を増やす
☐ 教養の科目は学部 1 年次に重きをおかずに学部 2～4 年次においても履修できるようにする
☐ 研究室体験できるような授業を増やす
☐ その他：()

(9) 学部生で本学の修士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数回答可)

- ☐ 経済的理由
☐ 早く社会に出たいから
☐ 今、学んでいる分野を修士レベルまで極めたいとは思わないから
☐ 専門の異なる他大学の大学院に進学したいから



10. 調査資料集

☐専門が同じで、よりレベルの高い他大学の大学院に進学したいから

☐その他：()

(10) 学部生・大学院修士課程学生で本学の博士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

☐経済的理由

☐早く社会に出たいから

☐今、学んでいる分野を博士レベルまで極めたいとは思わないから

☐専門の異なる他大学の大学院博士課程に進学したいから

☐専門が同じで、よりレベルの高い他大学の大学院博士課程に進学したいから

☐自分の学力が博士で通用するとは思わないから

☐博士修了後の進路に不安があるから

☐その他：()

(11) 附属図書館(オンラインサービスを含む)をどの程度利用していますか。

☐週に6~7日

☐週に4~5日

☐週に2~3日

☐週に1日程度

☐月に1~2回

☐ほとんどない

☐該当する選択肢なし

(12) 附属図書館の利用の主なものにマークして下さい。(複数回答可)

☐図書館資料の利用

☐無線 LAN や PC の利用

☐オンラインサービス(文献検索)

☐勉強のため(図書館資料を利用しない)

☐時間つぶし

☐その他：()

(13) 附属図書館に充実させてほしい資料はどのようなものですか。

☐参考書・専門書

☐一般教養書

☐学術雑誌

☐一般雑誌

☐電子ブック

☐電子ジャーナル

☐データベース

☐その他：()

(14) 附属図書館に対する要望を自由に記入してください。

(自由記述)

(15) 現在、講義室、附属図書館、食堂等に無線 LAN が設置されています。東工大の無線 LAN(Titech-Pubnet)をどのくらい利用していますか。

☐4(ほとんど毎日)

☐3(週2~4回)

☐2(週1回)

☐1(利用していない)

☐決まっていない

(16) 東京工業大学オープンコースウェア(TOKYOTECHOCW/OCW-i)を利用していますか。シラバスの確認

☐シラバスの確認

☐講義資料の閲覧

☐自主学習のため

☐その他：()

(17) 授業を受けにくい講義室がある場合、一番受けにくい講義室を教えてください。
講義室名称(H101等の名称で記載)

(自由記述)

講義を受けにくい理由

☐教室の形状

☐空調

☐机

☐椅子

☐視聴覚機器

☐その他：()

3. キャンパスライフについて

(1) 授業の合間や終了後等は主にどこで過ごしていますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)

☐講義室、実習室等(授業用の部屋)

☐研究室等

☐附属図書館

☐サークル室等(課外活動用の部屋)



- ☐ ラウンジ、リフレッシュルーム等(建物内の共有スペース)
☐ 広場、スロープ、グラウンド等(屋外) ☐ 学内の食堂、売店等
☐ 大学周辺の食堂、売店等 ☐ 下宿等
☐ その他：()

(2) 授業や学内行事などの情報について、主な情報源は何ですか。該当するものがあれば3つまでマークして下さい。

- ☐ 学生用掲示板・電子掲示板(プラズマディスプレイ)
☐ 学科・専攻等の掲示板
☐ OCW/OCW-i・教務 web
☐ 学務部(教務課、学生支援課)の窓口
☐ 大学の関連ホームページ
☐ 教員等からのメール
☐ 友人
☐ その他：()

(3) (2) で該当した情報源についての充実度はいかがですか？

- ☐ 5(充実している) ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(不足している)
☐ わからない

(4) サークル(公認サークル)、同好会(非公認のサークルや同好会)あるいはボランティア等の「現在」および「過去」の活動経験について、該当するところをマークし、現在活動している場合、週あたりの活動日数を記入して下さい。

- | | | |
|----------|--|------------------------------------|
| 文化系サークル | ☐ 活動回数(現在)：() 日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 体育系サークル | ☐ 活動回数(現在)：() 日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 技術系サークル | ☐ 活動回数(現在)：() 日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 同好会 | ☐ 活動回数(現在)：() 日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 学外のサークル | ☐ 活動回数(現在)：() 日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| ボランティア活動 | ☐ 活動回数(現在)：() 日/週 | ☐ 過去に所属していた |

(5) 大学の施設についてお聞きします。

a. サークル棟、大学会館(すずかけホール)等、課外活動施設についての充実度はいかがですか。

- ☐ 5(整っている) ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(整っていない)
☐ わからない

b. スポーツ施設について充実度はいかがですか。

- ☐ 5(整っている) ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(整っていない)
☐ わからない

c. 学内移動に自転車を利用していますか。

- ☐ 登録して利用している ☐ 利用しているがまだ登録していない
☐ 利用していない ☐ 該当する選択肢なし

d. 駐輪施設の充実度はいかがですか。

- ☐ 5(整っている) ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(整っていない)
☐ わからない

e-1. 本学のキャンパス内の禁煙対策について

- ☐ 5(整っている) ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1(整っていない)
☐ わからない

e-2. キャンパス内の喫煙所の配置についてどう思われますか。

- ☐ 喫煙所の場所が悪い、場所を変えて欲しい ☐ 喫煙所を増やして欲しい
☐ 喫煙所を減らして欲しい ☐ 該当する選択肢なし

e-3. 喫煙・喫煙マナーなどについてご意見があればお書きください。



10. 調査資料集

(自由記述)

f. 施設に関してご意見があればお書きください。

(自由記述)

(6) 学内の食堂についてお聞きします。

a. 値段はいかがですか。

☐5(適切である) ☐4 ☐3 ☐2 ☐1(適切ではない)

☐わからない

b. 味についてはいかがですか。

☐5(美味しい) ☐4 ☐3 ☐2 ☐1(美味しくない) ☐わからない

c. メニューについてどう思いますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)

☐値段の安いメニューを増やして欲しい。

☐高くても美味しいメニューを増やして欲しい。

☐健康志向のメニューを増やして欲しい。

☐とにかくメニュー数を増やして欲しい。

☐麺類等にもSサイズを追加して欲しい。

☐サッパリ系のメニューを増やして欲しい。

☐デザート・菓子類を増やして欲しい。

☐ボリュームを重視したメニューを増やして欲しい。

☐宗教・文化に対応したメニューを増やして欲しい。

☐現状で満足している。

☐普段利用していないのでよく分からない。

☐その他：()

(7) 施設・設備について、設置または充実して欲しいものは何ですか。3 つまでマークしてください。

a<個別利用スペース／備品>

☐個人用ロッカー

☐シャワールーム

☐トイレの増設、美化

☐学内移動用の無料レンタルサイクル

☐レンタル・ノート PC

b<共同利用スペース>

☐コミュニティ・スペース(友人と談笑できる空間)

☐スタディ・ルーム(静かに勉強できる自習室)

☐トレーニング・スペース(トレーニング・ルーム、プール、体育館、フットサル場)

☐IT スペース(インターネットが自由に接続可能な場)

☐AV スペース(音楽や映画が鑑賞できる空間)

☐レスト・スペース(安心して仮眠が取れる場)

c<店舗関係>

☐コンビニエンス・ストア

☐レストラン／カフェテリア

☐自販機

☐弁当販売

☐理工系図書を扱う書店

d<学外施設>

☐学生寮

☐合宿研修施設

e<キャンパス内の施設・設備についてご意見があればお書きください。>

(自由記述)



(8) 学生生活サービスについて、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものは何ですか。3つまでマークしてください。

a<経済的サポート>

- ☐ 多様な奨学金制度
- ☐ 緊急時の一時貸付金制度
- ☐ アルバイト紹介
- ☐ 保険制度の充実(学内外を問わず 24 時間をカバー)

b<交流サポート>

- ☐ ピアサポート体制(先輩等に身近な問題を気軽に相談できる)
- ☐ クラス(類・学科・専攻等)の活動・懇親へのサポート
- ☐ 新たに友だちづくりができる企画・活動
- ☐ 先輩や卒業生と交流する企画・活動

c<キャリアサポート>

- ☐ 進路・就職に関する情報が得られる企画・活動
- ☐ 実習・インターンシップに関する情報が得られる企画・活動
- ☐ 留学・海外生活に関する情報が得られる企画・活動

d<その他>

- ☐ サークル・クラブ紹介
- ☐ 学生生活のマニュアル(冊子・レクチャー等)
- ☐ ボランティア紹介
- ☐ セキュリティ体制の強化(防犯上の心配を除去するために)
- ☐ 事務窓口の一元化(教務課、学務課、学生支援課、入試課を 1 カ所にまとめる)

e<学生生活サービスについてご意見があればお書きください。>

(自由記述)

(9) あなたがこれまで経験したことがある、あるいは、興味がありやってみたいと思うものがあればマークしてください。(複数回答可)

TA・RA・チューター

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

ピアサポート(後輩への学生生活上の相談)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

キャンパスガイド(見学希望の高校生、保護者等に)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

広報サポーター(広報誌『てくてく』や Web などを通じて本学の特徴を学外へ発信)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

スクールパートナー(近隣の小中学校にて学習・実験等のサポート)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

ものづくりサポート(ものづくり教育研究支援センター等での製作・技術指導)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

図書館サポーター(資料の配架や整理, 広報, 展示等の企画, 学習相談, 館内見学の対応など)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

学勢調査スタッフ(この調査の作成・集計・解析、提言書作成)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

大学行事(オリエンテーション、入学式、卒業式等)のサポート

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

通訳(イベント開催時、海外からの来客)

(☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい)

IT 支援(ネットワーク管理、ホームページ作成等)



(☐非選択 ☐経験したことがある ☐やってみたい)

その他：()

(☐非選択 ☐経験したことがある ☐やってみたい)

(10) 大学生生活で、この2年間に入院・通院した経験があればマークしてください。(複数回答可) 研究・実験中の事故による入院・通院

☐研究・実験中の事故による入院・通院

☐病気で入院・通院

☐スポーツ事故で入院・通院

☐交通事故で入院・通院

☐その他事故で入院・通院

(11) 教職員の学生への対応・サービスについてお聞きします。

a. 教員の学生への対応は適切ですか。

☐5(そう思う) ☐4 ☐3 ☐2 ☐1(そう思わない) ☐わからない

b. 事務職員の学生への対応は適切ですか。

☐5(そう思う) ☐4 ☐3 ☐2 ☐1(そう思わない) ☐わからない

c. 学生への対応・サービスについて思うところがあれば自由にご記入下さい。

(自由記述)

(12) あなたは大学生活においてハラスメント(立場を利用した深刻な嫌がらせ)を受けた(受けたと感じた)ことがありますか。

a. アカデミックハラスメント(権力関係にもとづく教職員等の不適切な言動により圧迫を受け、不利益を被ること)

☐かつてあった ☐現在受けている ☐ない ☐該当する選択肢なし

b. セクシュアルハラスメント(望まない性的な言動により不快感を抱いたり、不利益を被ること)

☐かつてあった ☐現在受けている ☐ない ☐該当する選択肢なし

c. アルコールハラスメント(飲酒の強要)

☐かつてあった ☐現在受けている ☐ない ☐該当する選択肢なし

(13) (12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントの内容・程度、および頻度はどのようなものだったでしょうか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)

☐言葉、態度や雰囲気によって不快・圧迫を感じた。

頻度：☐一回だけ ☐時々 ☐継続的に ☐該当する選択肢なし

☐望まないことを強要されたり、身体に危害を加えられたり、加えられそうになった。

頻度：☐一回だけ ☐時々 ☐継続的に ☐該当する選択肢なし

☐装置使用や研究室入室の制限、あるいは捺印の拒否など、学習／研究を続けることを妨げられた。

頻度：☐一回だけ ☐時々 ☐継続的に ☐該当する選択肢なし

(14) (12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことでどのような影響があったでしょうか。該当するものがあればマークして下さい。(複数回答可)

☐気分が落ち込んだり、イライラしたり、心理的に不安定になった。

☐体調不良となったり、睡眠や食行動に乱れが生じたりした。

☐大学に行きたくなくなった。

☐大学に行かなくなった。

☐死にたいと思ったり、自分を傷つけたくなったりした。

☐とりたてて影響はなかった。

☐その他：()

(15) (12)の(a)(b)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハ



ラスメントを受けたことにどう対応したでしょうか。該当するものがあればマークしてください。(複数回答可)

- ☐友人・家族に相談した。
☐教職員に相談した。
☐学内の相談機関を利用した。
☐学外の相談機関や医療機関を利用した。
☐所属変更(研究室等)や進路変更(就職、休退学等)を考えた。あるいは実行した。
☐何もしなかった。
☐その他：()

(16) ハラスメントの防止策について、ご意見があればお書きください。

(自由記述)

(17) 本学には様々な相談窓口があります。これまでに利用したことがあるもの、あるいは、利用してみたいものがあればマークしてください。(複数回答可)

a. <先輩>

ピアサポート(学生支援課)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

b. <教職員>

助言教員・クラス担任

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

類主任・学科長・専攻長

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

就職担当教員(各学科・専攻)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

留学生修学相談窓口(留学生センター)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

学生相談室(学生支援センター)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

c. <専門スタッフ等>

電話相談デスク(学生支援センター)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

24 時間電話相談サービス(学外委託)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

キャリアアドバイザー(学生支援センター)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

カウンセリング(保健管理センター)

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

ハラスメント相談窓口

- ☐非選択 ☐利用したことがある ☐利用してみたい

4. その他

(1) あなたが本学に特に要望する事項があれば、どんなことでも自由にご記入ください。

(自由記述)

(2) 今回の学勢調査についての意見があれば、ご自由にご記入下さい。(これまで行われた大学の対応はこちら)

(自由記述)



謝辞

本提言書作成に際して、下記の方々に厚く御礼申し上げます。

学勢調査 2010 に回答して頂いた、2343 名

総務部 評価・広報課 御中
国際部 留学生交流課 御中
国際部 国際事業課 御中
留学生センター 御中
学務部 教務課 御中
学務部 学生支援課 御中
研究推進部 研究企画課 御中
研究推進部 情報図書館課 御中
研究推進部 情報基盤課 御中
施設運営部 施設安全企画課 御中
すずかけ台地区事務部 総務課 御中
すずかけ台地区事務部 学務課 御中
東京工業大学生生活協同組合 御中

学勢調査 2010 スタッフ

代表	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	修士 1 年	水谷	友保
副代表	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	博士 2 年	竹内	彩乃

リーダー班

班長	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	修士 1 年	水谷	友保
	理学部	情報科学科	学部 4 年	桂	悠哉
	理工学研究科	機械制御システム専攻	修士 1 年	五十嵐	暁仁
	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	博士 2 年	竹内	彩乃

生活班	工学部	3 類	学部 1 年	村田	裕太
	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	修士 1 年	渡部	一人

学習班

班長	生命理工学研究科	生体システム専攻	博士 3 年	田代	賢祐
副班長	総合理工学研究科	創造エネルギー専攻	博士 1 年	川口	卓志
	工学部	機械宇宙学科	学部 3 年	末永	一啓
	工学部	機械宇宙学科	学部 3 年	早川	和樹
	理工学研究科	地球惑星科学専攻	修士 1 年	鈴木	和恵

施設班

班長	理工学研究科	集積システム専攻	修士 2 年	上村	理
	工学部	4 類	学部 1 年	中嶋	渉
	工学部	6 類	学部 1 年	三好	拓真
	工学部	電気電子工学科	学部 2 年	佐藤	拓也
	社会理工学研究科	人間行動システム専攻	修士 1 年	丹羽	五紀
	総合理工学研究科	物理電子システム創造専攻	修士 2 年	恵畑	亮

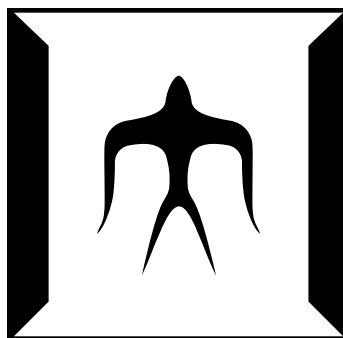
サービス班

班長	理工学研究科	数学専攻	修士 1 年	三田	信輔
	工学部	制御システム工学科	学部 2 年	西村	至人
	工学部	制御システム工学科	学部 3 年	竹内	広一
	理工学研究科	化学工学専攻	修士 1 年	金	東一
	理工学研究科	応用化学専攻	修士 1 年	小林	誠

情報理工学研究科 情報環境学専攻			修士 1 年	福田	和貴
生協班					
班長	工学部	2 類	学部 1 年	勝目	翔太
	工学部	2 類	学部 1 年	横山	広大
	工学部	社会工学科	学部 2 年	田代	このみ
	理学部	情報科学科	学部 4 年	桂	悠哉
図書館班					
班長	工学部	建築学科	学部 4 年	今飯田	佳代子
	理学部	1 類	学部 1 年	高岸	広季
	理学部	1 類	学部 1 年	鏡味	沙耶
	生命理工学部	7 類	学部 1 年	徳増	沙耶
	理学部	化学科	学部 4 年	小林	輝樹
その他班					
班長	工学部	機械科学科	学部 4 年	高橋	直也
	工学部	2 類	学部 1 年	津之浦	徹
	生命理工学研究科	生体システム専攻	修士 1 年	松井	彩
表紙デザイン					
総合理工学研究科 環境理工学創造専攻			博士 2 年	竹内	彩乃

学勢調査 WG 教職員スタッフ

総合理工学研究科	創造エネルギー専攻	教授	岡村	哲至（主査）
保健管理センター	教授		齋藤	憲司
理工学研究科	材料工学専攻	教授	篠崎	和夫
教育工学開発センター	教授		西原	明法
留学生センター	准教授		野原	佳代子
学生支援センター	特任准教授		山田	恵美子
学生支援課長			草薙	久男
学生支援 GP	事務		川村	香緒理



学勢調査 2010 提言書

2011 年 3 月

学勢調査スタッフ一同

表紙デザイン：総合理工学研究科 環境理工学創造専攻 博士 2 年 竹内 彩乃